

青木遺跡

(中近世編)

国道431号道路改築事業(東林木バイパス)
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 1



2004年3月

島根県教育委員会

青木遺跡（中近世編）

国道431号道路改築事業（東林木バイパス）
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 1

2004年3月

島根県教育委員会

序

本書は、島根県教育委員会が島根県土木部から委託を受けて、平成13年度と平成14年度の2か年で実施した国道431号道路東林木バイパス建設予定地内に所在する青木遺跡（I区、II区）の発掘調査の成果を記録したものです。

青木遺跡は山雲市東林木町に位置し、北山山系南麓に展開する扇状地に立地しています。近くには出雲地方で最古級の前方後円墳である大寺古墳、『出雲国風土記』に烽として記載されている旅伏山、戦国時代の尼子・毛利の合戦において重要な位置を占めた鷲ヶ巣城などがあり、出雲平野の歴史を物語る遺跡や景観が多く残されています。

この調査では、弥生時代から中世にかけての様々な遺構、遺物を検出しており、今回は古代末から中世にかけての資料をまとめました。なかでも中世の掘立柱建物など多くの遺構や、陶磁器類をはじめとする多種多様の遺物を検出しており、当時の出雲西部の歴史を解明し、広域的な流通などを考えていくうえでも貴重な資料となりました。さらに本書が地域の歴史と文化に対する理解と関心を高めるための一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査と報告書の作成にあたり御協力いただきました地元の皆様や、山雲市ならびに島根県土木部をはじめとする関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成16年3月

島根県教育委員会

教育長 広沢 卓嗣

例　　言

1. 本書は、島根県教育委員会が平成13年度、平成14年度に実施した国道431号道路改築事業（東林木バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査・青木遺跡（中近世編）の報告書である。なお、弥生時代から古代の発掘調査の報告については平成16年度以降報告予定である。

2. 発掘調査地は下記のとおりである。

　　青木遺跡　　島根県出雲市東林木町400-1ほか

3. 調査組織は下記のとおりである。

　　調査主体　　島根県教育委員会

　　平成13年度　現地調査

　　〔事務局〕　穴道正年（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、松本岩雄（調査第1課長）、内田　融（総務課長）、広江耕史（調査第1係長）

　　〔調査員〕　伊藤　智（調査第1係主事）、東森　晋（調査第1係主事）

　　〔踏査団〕　石橋弥生（同臨時職員）、岩橋康子（同）、梶谷泰子（同）、松山智弘（同）、守山博義（同）

　　平成14年度　現地調査

　　〔事務局〕　穴道正年（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、卜部吉博（副所長）、内田　融（総務課長）、今岡一三（調査第1係長）

　　〔調査員〕　伊藤　智（調査第1係文化財保護主事）

　　〔踏査団〕　石橋弥生（同臨時職員）、岩橋康子（同）、柴崎晶子（同）

　　平成15年度　報告書作成

　　〔事務局〕　穴道正年（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、卜部吉博（副所長）、永島静司（総務課長）、西尾克己（調査第1課長）、今岡一三（調査第1係長）、柳浦俊一（調査第2係長）

　　〔調査員〕　伊藤　智（調査第1係文化財保護主事）、東森　晋（調査第2係主事）

　　〔踏査団〕　石橋弥生（同臨時職員）、岩橋康子（同）

4. 本報告書にかかる現地調査、及び報告書の作成にあたり、下記の方々から御指導・御助言・御協力をいただいた。

（敬称略、五十音順）

　　井上貴央（鳥取大学医学部教授）、小野正敏（国立歴史民俗博物館助教授）、景山真二（大社町教育委員会）、北野信彦（くらしき作陽大学助教授）、朽津信明（東京文化財研究所主任研究員）、佐藤　信（東京大学教授）、白石　純（岡山理科大学自然科学研究所主任技術員）、榎原博英（浜田市教育委員会）、中村唯史（三瓶フィールドミュージアム財付）、山本信夫（日本考古研究所所長）、吉岡康暢（国立歴史民俗博物館名誉教授）、出雲市文化企画部文化財室

5. 挿図で使用した方位は、測量法による第3座標系X軸方向を指し、平面直角座標系X Y座標は日本測地系による。また、レベル高は海拔高を示す。

6. 本書で使用した図のうち、第2図は国土地理院発行のものを使用した。

7. 本書に掲載した木製品の保存処理、樹種同定は株式会社京都科学に委託した。
8. 本書に掲載した遺物の実測および図版の作成は柳浦、伊藤、東森、石橋、岩橋、梶谷、守山ほかが行った。
9. 本書に掲載した遺物の写真撮影は調査担当者が行った。
10. 本書の執筆は伊藤、東森、岩橋が行い、第5章は白石 純氏（岡山理科大学自然科学研究所）、株式会社京都科学・伊藤隆夫氏（京都大学木質科学研究所）、朽津信明氏（東京文化財研究所）・北野信彦（くらしき作陽大学）にそれぞれ依頼した。
11. 本書掲載の遺跡出土資料及び実測図、写真などの資料は鳥取県教育局埋蔵文化財調査センター（松江市打田町33）で保管している。

凡　　例

1. 遺物実測図のうち、須恵器は断面黒塗りにし、陶器は断面網掛け（第3章第1節のみ）にしている。金属器と石器は断面に斜線を入れ、それ以外は白抜きにした。また、木製品のうち、木目を認識できたものは断面内に表現している。
2. 本文中、図版中、写真図版中の遺物番号は一致する。

本文目次

第1章 調査に至る経緯（伊藤）	1
第2章 遺跡の位置と環境（岩橋）	1
第3章 I区の調査	
第1節 IA・IB・IC区（東森）	
（1）調査の経過	11
（2）弥生時代の遺物	13
（3）古墳時代の遺物	19
（4）奈良時代～平安時代前半の遺構と遺物	25
（5）平安時代後半～鎌倉時代の遺構と遺物	43
（6）室町時代以降の遺構と遺物	85
（7）その他の遺構と遺物	106
第2節 ID区の調査（伊藤）	
（1）調査の経過	149
（2）第2遺構面の遺構と遺物	151
（3）第1遺構面の遺構と遺物	178
（4）柱穴出土の遺物	189
（5）包含層の遺物	190
（6）小結	208
第4章 II区の調査（伊藤）	
第1節	
（1）調査の経過	209
（2）第2遺構面の遺構と遺物	211
（3）第1遺構面の遺構と遺物	216
（4）柱穴出土の遺物	259
（5）包含層の遺物	264
（6）小結	312
第5章 理化学分析	
（1）青木遺跡出土中世須恵器の胎土分析	白石 純 317
（2）青木遺跡出土木製品の樹種	株式会社 京都科学・伊東隆大 327
（3）青木遺跡出土の鉄製品に観察された「鏽」について	朽津信明・北野信彦 335
第6章 まとめ（伊藤）	343

挿図目次

第1図	青木遺跡と周辺の遺跡 (S=1/25,000)	4
第2図	青木遺跡の位置	6
第3図	青木遺跡調査区位置図 (S=1/5,000)	7
第4図	青木遺跡 I 区・II 区全体図 (S=1/300)	9・10
第5図	I A～I C 区南壁土層断面 (S=1/300)	12
第6図	I 区 弥生時代の遺物出土状況 (S=1/600)	13
第7図	I 区 弥生土器① (S=1/4)	14
第8図	I 区 弥生土器② (S=1/4)	15
第9図	I 区 弥生土器③・石器 (S=1/4)	16
第10図	I 区 古墳時代の土師器出土状況 (S=1/600)	19
第11図	I 区 上器器① (S=1/4)	20
第12図	I 区 須恵器① (S=1/4)	21
第13図	I 区 須恵器② (S=1/4)	22
第14図	I 区 古墳時代の須恵器出土状況 (S=1/600)	23
第15図	I 区 奈良・平安時代前半の遺構 (S=1/600)	25
第16図	I 区 集石 2 (S=1/60、遺物は S=1/4)	27
第17図	I 区 土器溜 2 (S=1/30)	29
第18図	I 区 土器溜 2 出土遺物① (S=1/4)	30
第19図	I 区 土器溜 2 出土遺物② (S=1/4)	31
第20図	I 区 河道出土遺物 (S=1/4)	33
第21図	I 区 奈良・平安時代前半の遺物出土状況 (S=1/600)	38
第22図	I 区 須恵器③ (S=1/4)	39
第23図	I 区 須恵器④・灰陶陶器 (S=1/4)	40
第24図	I 区 土師器② (S=1/4)	41
第25図	I 区 土師器③・土製品・石器 (S=1/4)	42
第26図	I 区 平安時代後半～鎌倉時代の遺構 (S=1/600)	43
第27図	I 区 建物 20・21、柱列 15 (S=1/60)	45
第28図	I 区 建物 5 (S=1/60)	47
第29図	I 区 建物 6、柱列 11 (S=1/60)	49
第30図	I 区 建物 10 (S=1/60)	50
第31図	I 区 建物 22、柱列 13・14 (S=1/60)	52
第32図	I 区 建物 9周辺の遺構 (S=1/120)	54
第33図	I 区 建物 9、柱列 8～10 (S=1/60)	55
第34図	I 区 柱列 5～7 (S=1/60)、建物 9、柱列 5 出土遺物 (S=1/4)	56
第35図	I 区 土坑 6 山上遺物 (S=1/4)	57
第36図	I 区 土坑 6 (S=1/30)	58
第37図	I 区 土坑 9 (S=1/30)	59
第38図	I 区 土坑 10・11 (S=1/30)	61
第39図	I 区 土坑 12 (S=1/30)	62
第40図	I 区 溝 9 (S=1/80)	63
第41図	I 区 溝 9 出土遺物 (S=1/4)	64
第42図	I 区 溝 5 (S=1/60)	65
第43図	I 区 溝 7 (S=1/80)	66
第44図	I 区 溝 7 集石 (S=1/30)、出土遺物 (S=1/4)	67
第45図	I 区 土器溜 1 の位置 (S=1/150)	69
第46図	I 区 上器溜 1 (S=1/30)	70
第47図	I 区 上器溜 1 山上遺物 (S=1/4)	71

第48図	I 区 上器窓 3 (S = 1/30)	72
第49図	I A区 平安時代後半～鎌倉時代の遺物 (S = 1/4)	78
第50図	I B区 平安時代後半～鎌倉時代の遺物出土状況 (S = 1/300)	79
第51図	I B区 平安時代後半～鎌倉時代の遺物① (S = 1/4)	80
第52図	I B区 平安時代後半～鎌倉時代の遺物② (S = 1/4)	81
第53図	I C区 平安時代後半～鎌倉時代の遺物① (S = 1/4)	82
第54図	I C区 平安時代後半～鎌倉時代の遺物② (S = 1/4)	83
第55図	I C区 平安時代後半～鎌倉時代の遺物出土状況 (S = 1/300)	84
第56図	I 区 室町時代以降の遺構 (S = 1/600)	85
第57図	I 区 建物 1・19、柱列 3 (S = 1/60)	87
第58図	I 区 建物 2 (S = 1/60)	89
第59図	I 区 建物 3 (S = 1/60)	90
第60図	I 区 柱列 12 (S = 1/60)	91
第61図	I 区 土坑 1 (S = 1/30)	92
第62図	I 区 土坑 13・14 (S = 1/30)	93
第63図	I 区 土坑 7・8 (S = 1/60)	94
第64図	I 区 溝 7 (S = 1/60)	96
第65図	I 区 溝 1・集石 1 (S = 1/120)	97
第66図	I 区 溝 1・集石 1上層断面 (S = 1/120)	98
第67図	I 区 伊佐波神社跡① (S = 1/80)	100
第68図	I 区 伊佐波神社跡② (S = 1/80)	101
第69図	I B区 室町時代以降の遺物① (S = 1/4、586～589は1/1)	103
第70図	I B区 室町時代以降の遺物② (S = 1/6)	104
第71図	I 区 室町時代以降の遺物出土状況 (S = 1/600)	105
第72図	I 区 時期不明の遺構 (S = 1/600)	106
第73図	I 区 建物 4 (S = 1/60)	108
第74図	I 区 建物 4 柱根 (S = 1/30)	109
第75図	I 区 建物 7 (S = 1/60)	110
第76図	I 区 建物 7 柱根 (S = 1/30)	111
第77図	I 区 建物 8 (S = 1/60)	112
第78図	I 区 建物 11 (S = 1/60)	113
第79図	I 区 建物 12 (S = 1/60)	114
第80図	I 区 建物 13～15 (S = 1/60)	116
第81図	I 区 建物 16 (S = 1/60)	118
第82図	I 区 柱列 1 (S = 1/60)	118
第83図	I 区 柱列 2、溝 10 (S = 1/60)	118
第84図	I 区 柱穴配置図 (S = 1/600)	120
第85図	I 区 柱穴配置図①・② (S = 1/80)	121
第86図	I 区 柱穴配置図③ (S = 1/80)	122
第87図	I 区 柱穴配置図④ (S = 1/80)	123
第88図	I 区 柱穴配置図⑤ (S = 1/80)	124
第89図	I 区 柱穴配置図⑥・⑦ (S = 1/80)	125
第90図	I 区 柱穴配置図⑧ (S = 1/80)	126
第91図	I 区 柱穴配置図⑨ (S = 1/80)	127
第92図	I 区 柱穴配置図⑩ (S = 1/80)	128
第93図	I 区 柱穴配置図⑪ (S = 1/80)	129
第94図	I 区 その他の柱穴① (S = 1/30)	130
第95図	I 区 その他の柱穴② (S = 1/30)	131
第96図	I 区 その他の柱穴③ (S = 1/30)、出土遺物 (S = 1/4、柱根は1/6)	132
第97図	I 区 上坑 15・16 (S = 1/30)	141
第98図	I 区 集石 3 (S = 1/60)	141
第99図	I 区 石器 (S = 1/2)	142

第100図	I 区 木製品① (S = 1/4)	143
第101図	I 区 木製品② (S = 1/4、632は1/3)	144
第102図	I 区 金属器 (S = 1/2、647・648は1/1)	145
第103図	I D区遺構配置図 (S = 1/400)	149
第104図	I D区土層図 (S = 1/60)	151
第105図	I D区柱列16・建物23 (S = 1/60)	151
第106図	I D区柱列17 (S = 1/60)	152
第107図	I D区建物24 (S = 1/60)	154
第108図	I D区柱列18 (S = 1/60)	155
第109図	I D区柱列19 (S = 1/60)	156
第110図	I D区柱列20・建物25 (S = 1/60)	157
第111図	I D区柱列21 (S = 1/60)	159
第112図	I D区建物26 (S = 1/60)	160
第113図	I D区建物27 (S = 1/60)	161
第114図	I D区建物28 (S = 1/60)	163
第115図	I D区土坑17 (S = 1/30)	164
第116図	I D区上坑17出土遺物 (S = 1/3、660はS = 1/2、661・662はS = 1/4)	165
第117図	I D区上坑18 (S = 1/30)	166
第118図	I D区土坑18出土遺物① (S = 1/3、680～684はS = 1/4)	167
第119図	I D区土坑18出土遺物② (S = 1/4)	168
第120図	I D区土坑19 (S = 1/3)	169
第121図	I D区土坑19出土遺物 (S = 1/3)	170
第122図	I D区上坑20 (S = 1/30)	170
第123図	I D区土坑20出土遺物① (692・693はS = 1/3、694・695はS = 1/4)	171
第124図	I D区土坑20出土遺物② (S = 1/6)	172
第125図	I D区土坑20山上遺物③ (729～33はS = 1/3、706～712・716・717・720はS = 1/6、 その他はS = 1/4)	173
第126図	I D区上坑21 (S = 1/30)	175
第127図	I D区土坑21出土遺物 (S = 1/3)	175
第128図	I D区土坑22 (S = 1/30)	175
第129図	I D区土坑23 (S = 1/30)	175
第130図	I D区土坑24 (S = 1/30)	176
第131図	I D区上坑24出土遺物 (S = 1/3)	176
第132図	I D区土坑25 (S = 1/30)	176
第133図	I D区土坑25山上遺物 (S = 1/3)	176
第134図	I D区自然河道 1 (S = 1/60)	177
第135図	I D区自然河道 1 山上遺物 (S = 1/3)	177
第136図	I D区掘立柱建物29 (S = 1/60)	178
第137図	I D区集石 1 ① (S = 1/40)	179
第138図	I D区集石 1 ② (S = 1/20)	180
第139図	I D区集石 1 出土遺物 (S = 1/3)	181
第140図	I D区井戸 1 (S = 1/30)	183
第141図	I D区井戸 1 出土遺物 (S = 1/3)	183
第142図	I D区土坑26① (S = 1/40)	184
第143図	I D区上坑26② (S = 1/40)	185
第144図	I D区上坑26出土遺物 (S = 1/3)	185
第145図	I D区集石 2 (S = 1/30)	186
第146図	I D区溝状遺構11 (S = 1/60)	187
第147図	I D区柱穴出土遺物 (S = 1/3、802・803はS = 1/4)	188
第148図	I D区第 6 層以下出土遺物 (S = 1/3)	191
第149図	I D区土師質土器 (S = 1/3)	192
第150図	I D区中世須恵器① (S = 1/3)	193

第151図	I D区中世須恵器② (S=1/3)	194
第152図	I D区白磁・青磁 (S=1/3)	195
第153図	I D区中世陶器 (S=1/3、912~914はS=1/6)	196
第154図	I D区中世陶磁器 (S=1/3)	196
第155図	I D区金属器 (S=1/2)	198
第156図	I D区占銭 (S=1/1)	199
第157図	I D区木製品 (S=1/4)	200
第158図	I D区石製品 (S=1/3)	201
第159図	II区遺構配置図 (S=1/500)	209
第160図	II区土層図 (S=1/60)	210
第161図	II区建物1 (S=1/60)	211
第162図	II区建物2 (S=1/60)	213
第163図	II区建物3 (S=1/60)	214
第164図	II区建物4 (S=1/60)	215
第165図	II区建物5 (S=1/60)	216
第166図	II区建物6 (S=1/60)	217
第167図	II区建物7 (S=1/60)	218
第168図	II区建物8 (S=1/60)	219
第169図	II区建物9 (S=1/60)	220
第170図	II区建物10 (S=1/60)	221
第171図	II区建物11 (S=1/60)	222
第172図	II区建物12 (S=1/60)	223
第173図	II区建物13 (S=1/60)	224
第174図	II区建物14 (S=1/60)	225
第175図	II区建物15 (S=1/60)	226
第176図	II区建物16 (S=1/60)	227
第177図	II区建物17 (S=1/60)	228
第178図	II区建物18 (S=1/60)	229
第179図	II区建物19 (S=1/60)	230
第180図	II区建物20 (S=1/60)	231
第181図	II区建物21 (S=1/60)	232
第182図	II区建物22 (S=1/60)	233
第183図	II区建物23 (S=1/60)	234
第184図	II区土坑1 (S=1/30)	235
第185図	II区土坑1 出土遺物 (S=1/3、992・993はS=1/4)	236
第186図	II区土坑2 (S=1/30)	237
第187図	II区上坑2 山土遺物 (S=1/3、997はS=1/4)	237
第188図	II区上坑3 (S=1/30)	239
第189図	II区上坑3 出土遺物 (998はS=1/3、999はS=1/4)	239
第190図	II区土坑4 (S=1/30)	240
第191図	II区土坑4 出土遺物 (S=1/3、1010はS=1/2、1011~1015はS=1/4)	241
第192図	II区上坑5 (S=1/30)	252
第193図	II区土坑5 出土遺物 (S=1/3)	243
第194図	II区土坑6 (S=1/30)	244
第195図	II区土坑6 出土遺物 (S=1/3)	244
第196図	II区不明遺構1 (S=1/10)	245
第197図	II区不明遺構1 出土遺物 (1037はS=1/4、1038はS=1/3)	246
第198図	II区不明遺構2 (S=1/10)	247
第199図	II区不明遺構2 出土遺物 (S=1/4)	247
第200図	II区不明遺構3 (S=1/30)	248
第201図	II区不明遺構3 出土遺物 (S=1/3、1042はS=1/1)	248
第202図	II区不明遺構4 出土遺物 (S=1/3)	248

第203図	II区自然河道1 (S=1/60)	249
第204図	II区自然河道1出土遺物 (S=1/3)	250
第205図	II区土坑7 (S=1/60)	251
第206図	II区土坑7出土遺物① (S=1/3、1088はS=1/2、1089~1092はS=1/4、1093~1095はS=1/1)	252
第207図	II区七坑7出土遺物② (1096はS=1/8、1097はS=1/2)	253
第208図	II区十坑7出土遺物③ (S=1/8)	254
第209図	II区土坑7出土遺物④ (S=1/8)	255
第210図	II区土坑7出土遺物⑤ (S=1/8)	256
第211図	II区溝状遺構1、2・右列1 (S=1/60)	257
第212図	II区右列2 (S=1/30)	258
第213図	II区溝状遺構1出土遺物 (S=1/3、1104はS=1/1)	259
第214図	II区溝状遺構2出土遺物 (S=1/3)	259
第215図	II区石列1山上遺物 (S=1/3)	259
第216図	II区柱穴出土遺物① (S=1/3)	260
第217図	II区柱穴出土遺物② (S=1/3、1161~1164はS=1/2、1165~1167はS=1/4、1168~1171はS=1/1)	261
第218図	II区弥生上器① (S=1/3)	265
第219図	II区弥生下器② (S=1/3)	266
第220図	II区土師器① (S=1/3)	267
第221図	II区土師器② (S=1/3)	268
第222図	II区須恵器① (S=1/3)	269
第223図	II区須恵器② (S=1/3)	270
第224図	II区須恵器③ (S=1/3)	271
第225図	II区須恵器④ (S=1/3)	272
第226図	II区須恵器⑤ (S=1/3)	273
第227図	II区製塙土器 (S=1/3)	274
第228図	II区土師質上器① (S=1/3)	275
第229図	II区土師質下器② (S=1/3)	276
第230図	II区上師質土器③ (S=1/3)	277
第231図	II区上師質土器④ (S=1/3)	278
第232図	II区中世須恵器① (S=1/3)	279
第233図	II区中世須恵器② (S=1/3)	280
第234図	II区中世須恵器③ (S=1/3)	281
第235図	II区白磁 (S=1/3)	282
第236図	II区青磁 (S=1/3)	283
第237図	II区中世陶器① (1492~1496はS=1/6、1497~1502はS=1/3)	284
第238図	II区中世陶器② (S=1/3)	285
第239図	II区中世陶器③ (S=1/3)	286
第240図	II区中世陶磁器 (S=1/3)	287
第241図	II区金属器① (S=1/2)	288
第242図	II区金属器② (S=1/2)	289
第243図	II区金属器③ (S=1/2)	290
第244図	II区金属器④ (S=1/2)	291
第245図	II区古錢① (S=1/1)	292
第246図	II区古錢② (S=1/1)	293
第247図	II区木簡・墨書き土器 (S=1/3)	294
第248図	II区木製品① (S=1/4)	295
第249図	II区木製品② (S=1/4)	296
第250図	II区石製品 (1692~1696はS=1/1、1697~1703はS=1/3)	297
第251図	I D区全体図 (S=1/200)	313・314
第252図	II区全体図 (S=1/200)	315・316

図版目次

1 青木遺跡 I 区・II 区全景 (上空真上から)	27 上 I 区 河道 2 (南東から)
2 青木遺跡周辺 (上空南東から)	下 同上 (北西から)
3 青木遺跡 I ・ II 区 (上空南から)	28 上 I 区 河道 2 北壁土層断面 (南東から)
4 上 青木遺跡 I ・ II 区 (上空北東から)	中 同上 中央土層断面 (南西から)
下 青木遺跡 I ・ II 区 (上空北西から)	下 同上 南側土層断面 (南西から)
5 II 区 自然河道 1 完成状況 (南から)	29 上 I 区 建物 6 (東から)
6 I 区 建物 1 ~ 3 (北から)	下左 同上 (西から)
7 上 I 区 建物 7 調査風景 (南東から)	下右 同上 P 674 土師器出土状況 (西から)
下 I 区 伊佐波神社跡石敷 (北から)	30 上 I 区 建物 9 P 782 と P 790 の自然木 (南から)
8 上 I 区 上坑 1 土層断面 (北西から)	下左 I 区 建物 22 P 304 土師器出土状況
F I 区 上坑 1 赤色物質検出状況	下右 I 区 上坑 5 検出時 (西から)
I A 区 (上空真上から)	31 上 I 区 上坑 6 (北から)
I B 区 (上空真上から)	下 同上 ドングリ出土状況 (西から)
I C 区西 (上空真上から)	32 上 I 区 上坑 9 遺物出土状況 (北から)
I C 区東 (上空真上から)	中 同上 拡大 (北から)
I D 区 南壁土層断面 (北から)	下 I 区 上坑 10 遺物出土状況 (北東から)
下 同上 西壁土層断面 (東から)	33 上 I 区 上坑 11 (北から)
I E 区 I B 区 調査前 (西から)	下 同上 土層断面 (南から)
下 同上 第 1 遺構面 (南東から)	34 上 I 区 上坑 12 (北東から)
I F 区 第 2 遺構面 (南西から)	下 同上 (南西から)
下 同上 第 3 遺構面 (南西から)	35 上 I 区 清 7 検出状況 (南から)
I G 区 南壁土層断面 (北西から)	中 I 区 清 7 集石 1 (西から)
下 同上 東壁上層断面 (南西から)	下 I 区 清 7 集石 2 (西から)
I H 区 調査前 (南から)	36 上 I 区 土器溜 I (H10 グリッド) 土師器出土状況 (南東から)
I I 区 東側第 1 遺構面調査風景 (南西から)	下 同上 拡大 (南東から)
I J 区 第 2 遺構面 (南西から)	37 上 I 区 上器溜 1 (I 10 グリッド) 土師器出土状況 (東から)
I K 区 東側南壁土層断面 (北東から)	下 I 区 H 9 グリッド 411 出土状況 (西から)
下 同上 東壁上層断面 (南西から)	38 上 I 区 清 9 + 上器溜 3 (南から)
I L 区 西側全景 (東から)	下 同上 (北東から)
下 同上 南壁土層断面 (西から)	39 上 I 区 建物 1 ~ 3 (北から)
I M 区 西側南壁土層断面拡大 (北西から)	下 同上 調査風景 (北から)
下 同上 河道部分 (西から)	40 上 I 区 建物 1 ~ 3 (北東から)
I N 区 集石 2 (北西から)	下 I 区 建物 2 P 50 + 上坑 13 (南東から)
下 同上 (南から)	41 上 I 区 建物 3 P 55 (南から)
I O 区 集石 2 北側遺物出土状況 (北から)	中 I 区 建物 3 P 80 (南から)
下 同上 南側遺物出土状況 (北から)	下 I 区 柱列 12 P 22 (南から)
I P 区 土器溜 2 遺物出土状況 (南から)	42 上 I 区 上坑 1 土層断面 (北西から)
下 同上 (西から)	下 同上 西側下層の石 (北東から)
I Q 区 河道 1 (南から)	43 上 I 区 上坑 1 西側下層の石 (北西から)
下 同上 (北西から)	下 同上 西側集石の根石
I R 区 河道 1 北側土層断面 (南から)	44 上 I 区 上坑 1 537 + 水輪 (591) 出土状況 (北西から)
中 同上 南側上層断面 (南から)	下 同上 536 出土状況
下 同上 調査風景 (南から)	

45	上左	I区	土坑2検出状況（南から）		下	I区	P621柱根下の土器器（東から）
	上右	I区	土坑3（西北から）	64	上	I区	土坑16（東から）
	下	I区	土坑3土層断面（北から）		下左	I区	溝3検出状況（南東から）
46	上	I区	土坑13土層断面（南東から）		下右	I区	溝3（北東から）
	中	I区	土坑14土層断面（南から）	65	上	I区	溝4検出状況（北から）
	下	I区	土坑7・8検出状況（南東から）		下	I区	集石3（南から）
47	上	I区	溝2西壁上層断面（北東から）	66		I区出土	弥生土器
	下	I区	溝2・550出土状況（南西から）	67		I区出土	弥生土器
48	上	I区	溝2土層断面F-F'ライン (北東から)	68		I区出土	弥生土器・石器
	中	同上	土層断面E-E'ライン（北東から）	69		I区出土	土師器
	下	同上	土層断面C-C'ライン（北東から）	70		I区出土	土器器・須恵器
49	上	I区	溝1（南から）	71		I区出土	須恵器
	下	同上	B-B'ライン上層断面（南から）	72		I区出土	須恵器
50	上左	I区	溝1北側検出状況（南から）	73		I区出土	集石2出土遺物
	上右	I区	溝1北側（南から）	74	上	I区	上器窓2出土遺物
	下	I区	溝1調査風景（南から）		下	I区	土器窓2出土遺物
51	上	I区	土坑1・溝1・集石1（南から）	75		I区	土器窓2出土遺物
	下	I区	集石1（北東から）	76	上	I区	土器窓2出土遺物
52	上	I区	集石1（北西から）	77		I区	上器窓2出土遺物
	下	I区	集石1・溝1・土層断面（北西から）	78		I区	河道1出土遺物
53	上	I区	石組（北東から）		上	I区	河道2出土遺物
	下左	同上	（東から）	79		I区出土	須恵器
	下右		火箸645出土状況	80		I区出土	須恵器
54	上	I区	伊佐波神社跡石列検出状況 (南西から)	81	上	I区出土	須恵器
	下	同上	石敷検出状況（南西から）		下		同上
55	上	I区	伊佐波神社跡石敷（北から）	82	I区出土	上師器	
	下	同上	石敷下層の遺構（南西から）	83	I区出土	上師器・石製品	
56	上	I区	伊佐波神社跡東西ベルト東側上層断面（南から）	84	I区出土	土師器	
	中	同上	西側上層断面（南から）	85	I区出土	土師器・土製品・石製品	
	下	I区	伊佐波神社跡調査風景（北から）	86	I区	建物5・6・10・20・22、柱列5・14 出土遺物	
57	上	I区	伊佐波神社跡石敷下層の遺構 (北から)	87	I区	土坑9・11・12出土遺物	
	下	同上	（北西から）	88	上	I区	土坑6・10・12 出土遺物
58	上	I区	建物7（南東から）	89	下	I区	溝7・9 出土遺物
	下	同上	（南西から）		上	I区	溝5・7 出土遺物
59	上左	I区	建物7 P720（南から）	90	下	I区	同上
	上右	I区	建物7 P730（西から）		I区	土器窓1 出土遺物	
	下	I区	建物7 P727	91	I区	上器窓1 出土遺物	
60	上左	I区	建物7 P732（西から）		下		同上
	上右	I区	建物7 P737	92	I区	上器窓1 出土遺物	
	下	I区	建物7 P733（南から）	93	I区	土器窓3 出土遺物	
61	上	I区	建物8（南から）		下		同上
	下	同上	調査風景（南東から）	94	I A・B区	土器窓3 出土遺物	
62	上左	I区	P300土師器出土状況	95	I B区	出土 上師器・須恵器・陶器	
	上右	I区	P511土師器出土状況	96	I B区	出土 上師器・須恵器・陶器	
	下	I区	P594	97	上 I B区	出土 土師器・須恵器・陶器	
63	上	I区	P621		下 I B区	出土 貿易陶磁	

98	上	I C 区	出土	陶器陶器罐鉢	下	I D 区	土坑19完掘(南から)
	下	I C 区	出土	土師器	127	I D 区	土坑20遺物出土状況(東から)
99	I C 区	出土	土師器・須恵器	中	I D 区	土坑20上層(東から)	
100	I C 区	出土	土師器・須恵器	下	I D 区	土坑20完掘状況(東から)	
101	上	I C 区	出土	貿易陶磁	128	I D 区	土坑21検出状況(南から)
	下	同上		中	I D 区	土坑21土層(東から)	
102	I C 区	出土土師器・I 区建物 2 、柱列12、 土坑14出土遺物		下	I D 区	土坑21完掘(南から)	
103	上	I 区	土坑 1	出土遺物	129	I D 区	土坑22上層(北から)
	下	I 区	土坑14	出土遺物	下	I D 区	土坑22完掘(北から)
104	上	I 区	土坑 7・8	出土遺物	130	I D 区	土坑24完掘(南から)
	下	I 区	溝 2 、集石 1	出土遺物	下	I D 区	土坑25上層(西から)
105	I 区	溝 1	出土遺物	131	I D 区	土坑25完掘(南から)	
106	上	I 区	伊佐波神社跡出土遺物		F	I D 区	自然河道 1 上層(南東から)
	下	同上		132	I D 区	第 1 遺構而検出状況(西から)	
107	上	I 区	伊佐波神社跡出土遺物		下	I D 区	掘立柱建物29(東から)
	下	I 区出土	土師器・陶磁器	133	I D 区	集石 1 検出(北から)	
108	I 区出土	陶器・古鏡・石製品		下	I D 区	集石 1 検出(南から)	
109	表探石製品。I 区 柱穴内出土遺物			134	I D 区	集石 1 土層(南から)	
110	I 区 P511出土土師器・集石 3 出土遺物、 I 区出土石器・木製品			D	I D 区	集石 1 遺物出土状況	
111	上	I 区出土	木製品	135	I D 区	井戸 1 (南から)	
	下	同上		中	I D 区	井戸 1 土層(南から)	
112	I 区出土	木製品		下	I D 区	土坑26検出状況(南から)	
113	I 区出土	金属製品		136	I D 区	土坑26上層(東から)	
114	I 区	柱根		中	I D 区	土坑26第 1 回右組み検出状況 (南から)	
115	I 区	柱根		下	I D 区	土坑26第 2 回右組み検出状況 (南から)	
116	I 区	柱根		137	I D 区	土坑26完掘(南から)	
117	I 区	柱根		F	I D 区	集石 2 (東から)	
118	上	I 区	上坑13出土木製品	138	I D 区	溝状遺構(東から)	
	下左	I 区	遺構外出土種実		下	I D 区	全景(上空北から)
	下右	I 区	溝 9 出土種実	139	I D 区	土坑17出土遺物	
119	I 区	土坑 6 出土種実			下	I D 区	土坑18出土遺物(1)
120	上左	I 区	遺構出土種実	140	I D 区	土坑18出土遺物(2)	
	上右	I 区	溝 7 出土種実	141	I D 区	土坑18出土遺物(3)	
	下	I 区出土	獸骨	下	I D 区	土坑18出土遺物(4)	
121	上	I 区	全景(上空から)	142	I D 区	土坑19・土坑20出土遺物(1)	
	下	I 区調査前風景(東から)		下	I D 区	土坑20出土遺物(2)	
122	上	I D 区	第 2 遺構面検出状況(調査区東側: 南西から)	143	I D 区	土坑20出土遺物(3)	
	F	I D 区	第 2 遺構面検出状況(調査区中央: 南から)	下	I D 区	土坑20出土遺物(4)	
123	上	I D 区	土坑17石組み(東から)	144	I D 区	土坑20出土遺物(5)	
	中	I D 区	土坑17土層(南から)	145	I D 区	土坑21・土坑21・自然河道 1 出土 遺物	
	下	I D 区	土坑17完掘(北から)	146	I D 区	集石 1 出土遺物(1)	
124	上	I D 区	土坑18上層(東から)	147	I D 区	井戸 1 ・土坑26出土遺物	
	下	I D 区	土坑18遺物出土状況(南西から)	148	I D 区	柱穴出土遺物(1)	
125	上	I D 区	土坑18出土下駄(東から)		F	I D 区	柱穴出土遺物(2)
	F	I D 区	土坑18完掘(南から)	149	I D 区	柱穴出土遺物(3)	
126	上	I D 区	土坑19土層(西から)		F	I D 区	柱穴出土遺物(4)

150	I D区 柱穴出土遺物 (5)	173	上 II区 石列 1 檜山状況 (北から)
151	上 I D区 第6層以下出土遺物 (1)	中 II区 石列 1 遺物出土状況 (西から)	
中 I D区 第6層以下出土遺物 (2)	下 II区 溝状造構 2 土層 (北から)		
F I D区 第6層以下出土遺物 (3)	174 上 II区 石列 2 檜山状況 (西から)		
152	I D区出土 土師質土器 (1)	中 II区 加工段土層 (南から)	
153	I D区山上 土師質土器 (2)	下 II B区 (南東から)	
154	I D区出土 中世須恵器 (1)	175 背木遺跡 (上空東から)	
155	I D区出土 中世須恵器 (2)	176 II区 上坑 1 出土遺物	
156	上 I D区出土 中世須恵器 (3)	177 上 II区 十坑 2 出土遺物	
中 I D区出土 金属器	中 II区 土坑 3 出土遺物		
下 I D区 磚石 1 出土遺物 (2)	下 II区 土坑 4 出土遺物 (1)		
157	上 I D区出土 古鏡	178 II区 土坑 4 (2)・土坑 5 (1) 出土遺物	
下 I D区出土 石製品	179 上 II区 十坑 5 出土遺物 (2)		
158	上 I D区出土 木製品 (1)	下 II区 土坑 5 出土遺物 (3)	
中 I D区出土 木製品 (2)	180 上 II区 土坑 6 出土遺物		
下 I D区出土 木製品 (3)	中 II区 不明造構 3 出土遺物		
159	II区全景 (上空から)	下 II区 自然河道 1 出土遺物 (1)	
160	上 II区 第2造構面検出状況 (西から)	181 上 II区 自然河道 1 出土遺物 (2)	
下 II区 第2造構面検出状況 (南から)	下 II区 自然河道 1 山土遺物 (3)		
161	上 II区 柱根出土状況 (P223)	182 上 II区 不明造構 1 出土遺物	
中 II区 柱根出土状況 (P237)	下 II区 不明造構 2 出土遺物		
下 II区 柱根出土状況 (R033)	183 II区 上坑 7 出土遺物 (1)		
162	上 II区 上坑 1 土層 (東から)	184 II区 上坑 7 出土遺物 (2)	
下 II区 上坑 2 土層 (西から)	185 II区 溝状造構 1・溝状造構 2・石列 1 出		
163	上 II区 土坑 2 石組み検出状況 (南から)	土遺物	
下 II区 土坑 2 完掘 (南から)	186 II区 柱穴出土遺物 (1)		
164	上 II区 土坑 3 土層 (西側:南から)	187 上 II区 柱穴出土遺物 (2)	
中 II区 上坑 3 十層 (東側:北から)	下 II区 柱穴出土遺物 (3)		
F II区 上坑 3 完掘	188 II区 柱穴出土遺物 (4)		
165	上 II区 土坑 4 土層 (東側:北から)	189 II区 柱穴出土遺物 (5)	
中 II区 土坑 4 土層 (西側:南から)	190 上 II区出土 弥生土器 (1)		
下 II区 土坑 4 完掘	下 II区出土 弥生土器 (2)		
166	上 II区 土坑 5 上層 (南東から)	191 II区出土 弥生土器 (3)	
下 II区 上坑 6 完掘 (西から)	192 II区山上 弥生土器 (4)・土師器 (1)		
167	上 II区 不明造構 1 土層 (南から)	193 II区出土 土師器 (2)	
下 II区 不明造構 2 土層 (西から)	194 II区出土 須恵器 (1)		
168	上 II区 不明造構 3 上層 (東から)	195 II区出土 須恵器 (2)	
中 II区 不明造構 3 遺物出土状況 (東から)	196 II区出土 須恵器 (3)		
下 II区 不明造構 3 完掘 (東から)	197 II区出土 須恵器 (4)		
169	上 II区 自然河道 1 (南から)	198 II区出土 須恵器 (5)	
下 II区 自然河道 1 土層 (南から)	199 II区出土 須恵器 (6)		
170	上 II区 上坑 7 檜山状況 (南西から)	200 II区出土 製塗土器	
中 II区 上坑 7 土層 (南西から)	201 II区出土 土師質土器 (1)		
F II区 上坑 7 石組み検出状況 (南から)	202 II区出土 土師質土器 (2)		
171	上 II区 土坑 7 板材検出状況 (南から)	203 II区出土 土師質土器 (3)	
中 II区 土坑 7 板材検出状況 (南から)	204 II区出土 土師質土器 (4)		
下 II区 上坑 7 完掘 (南から)	205 II区出土 土師質土器 (5)		
172	上 II区 溝状造構 1 檜山状況 (南から)	206 II区出土 土師質土器 (6)	
中 II区 溝状造構 1 完掘 (南から)	207 II区出土 中世須恵器 (1)		
下 II区 石列 1・土坑 7 檜山状況 (北から)	208 II区出土 中世須恵器 (2)		

209	II区出土 中世須恵器 (3)	下	I D区出土 中世陶器 (2)
210	II区出土 中世須恵器 (4)	222	I D区出土 白磁 (3)・青白磁
211	II区出土 金属器 (1)	223	上 I D区出土 中世陶器 (3)
212	上 II区出土 金属器 (2)	下	I D区出土 中世陶磁器
	下 II区出土 古錢 (1)	224	II区出土 白磁 (1)
213	上 II区出土 古錢 (2)	225	上 II区出土 白磁 (2)
	下 II区出土 木簡	下	II区出土 青磁 (1)
214	上 II区出土 墨書き土器	226	II区出土 青磁 (2)
	下 II区出土 木製品 (1)	227	II区出土 中世陶器 (1)
215	II区出土 木製品 (2)	228	II区出土 中世陶器 (2)
216	II区出土 木製品 (3)	229	II区出土 中世陶器 (3)
217	上 II区出土 木製品 (4)	230	II区出土 中世陶器 (4)
	下 II区出土 石製品 (1)	231	II区出土 中世陶磁器 (1)
218	II区出土 石製品 (2)	232	II区出土 中世陶磁器 (2)
219	I D区出土 青磁	233	中世須恵器 (分析) (1)
220	上 I D区出土 白磁 (1)	234	中世須恵器 (分析) (2)
	下 I D区出土 白磁 (2)	235	中世須恵器 (分析) (3)
221	上 I D区出土 中世陶器 (1)	236	中世須恵器 (分析) (4)

第1章 調査に至る経緯

一般国道431号は、出雲市を起点として、平田市から松江市・境港市を経て米子市に至る総延長95.8kmの道路である。この道路は、出雲平野部の宍道湖・中海をはさみ南側の国道9号線と共に北側を結ぶ大動脈である。一般国道431号東林木バイパスは将来出雲地域から松江市を経て境港市を連絡する地域高規格道路「境港出雲道路」の一部を構成するとともに、現道の線形不良及び交通混雑の解消を目的とし、山陰市矢尾町から出雲市東林木町に至る延長4.2kmの4車線計画で、平成10年12月地域高規格道路の整備計画に組み込まれた道路である。

島根県教育委員会は、平成11年度に出雲上木建築事務所から遺跡有無の照会と分布調査の依頼を受けて、事業予定地内の分布調査を行い、青木遺跡・馬渡り遺跡・山持遺跡・里方本郷遺跡・下澤遺跡の計5か所の遺跡を確認した。続く平成12年度には青木遺跡と馬渡り遺跡において確認調査を行った。これに基づき平成13年度から発掘調査を開始することとなった。

青木遺跡は平成12年度の確認調査で中世の遺物包含層と遺構を確認したため、平成13年度から本格的な発掘調査を開始し、中世初めにかけての集落跡であることが確認された。平成14年度は引き続き中世の遺構・遺物の調査を実施していたところ、中世遺構面の下層に、弥生時代から古代にかけての遺物包含層が存在していることが判明した。調査の結果、古代（8世紀後半から9世紀初め）の遺構面と弥生時代の遺構面を検出した。古代の遺構面では礎石建物、掘立柱建物、大量の墨書き器等を、弥生時代の遺構面では四隅突山型埴丘墓と土塙墓を検出し、またこの土塙墓からは近畿式銅鐸の飾り耳が出土した。銅鐸片が墓域内から検出されたのは全国で初めての例である。

なお、今回の報告書は平成13年度から平成14年度に行った中世初めまでの遺構面の調査を中心とし、弥生時代から古代の調査内容については平成16年度以降報告する予定である。

第2章 遺跡の位置と環境

出雲平野は、かつて平野を西流していた斐伊川と神戸川により形成された沖積平野である。青木遺跡は出雲平野北東部の北山山麓の扇状地上に位置している。現在では東流している斐伊川が、最も北山に接近する地点であり、遺跡は川沿いに東西に広がっている。遺跡の北側には山裾がせまり、山中から斐伊川に向かって湯屋谷川が流れている。この川の流れにのって運ばれた土砂により扇状地が生成されている。

出雲平野の縄文時代の遺跡は、早期の菱根遺跡、前期の上長浜遺跡、後・晩期では出雲大社境内遺跡、三田谷I遺跡、矢野遺跡などが知られているが、青木遺跡近辺では現在までのところ確認されていない。

出雲平野に集落が増加するのは弥生時代中期頃からである。山持遺跡（10）では、弥生時代後期の上器が大量に出土しており、遺構は堅穴住居、掘立柱建物、土坑、上器溝まりが確認されている。後期後半に集落が急速に広がり、短期間に廃絶したことが窺える。また、荻原II遺跡（10）では後期から終末期にかけての土器が採集されている。青木遺跡の南西2.0kmに位置する中野美保遺跡（12）では、中期中葉～後期の溝や井戸などの生活空間とともに、墓域が確認されている。辺

が14m程の四隅突出型墳丘墓1基が検出されたが、後世の削平を受けており、墳丘の高さは立石底面から20cmに満たない状態であった。出土土器の様相から後期後半の築造と考えられる。墳丘墓に隣接して数基の集石遺構も確認されている。また、四隅突出型墳丘墓下層からは中期中葉の土器を伴う方形貼石墓1基も検出されている。

古墳時代前期の集落は弥生時代から続くものが多いが、低地部に営まれた集落の多くは前期から中期にかけて衰退している。荻原II遺跡(40)では遺構は確認されていないものの、古墳時代中期の土器が採集されており、集落跡の可能性が有る。後期には低地にも再び集落が営まれ、北山山麓には古墳や横穴墓が築かれる。

北山から南に伸びる尾根上に位置する大寺1号墳(2)は、墳長52mの二段築成で葺石を持つ前方後円墳である。全長4mあまりの竪穴式石室を土室部とするほか、前方部の形状から前期末の築造と考えられる。石室から鉄製鍬先や鉄斧が出土しているほか、近年の墳丘の調査で、土師器や碧玉製勾玉が確認されている。1号墳東側の2号墳は、墳形は不明であるが小規模な横穴式石室を有し、後期末の築造と考えられている。このほか東林木町内には未調査ながらも数多くの古墳・横穴が知られている。大寺古墳西方の門前谷の低丘陵上には、筋襷山古墳群(5)・平林寺山古墳群(4)が位置している。近年、両古墳群で13基が確認されているが、開墾などにより消滅した古墳も少なくはないようである。主に小型の方墳・円墳で構成される古墳群であり、一部で横穴式石室や箱式石棺が露出している。これら古墳群の南には傘屋背後横穴墓群(7、消滅)、古前西北崖上横穴墓(8)、古前背後横穴墓群(6)などがみられる。

奈良時代頃には、斐伊川によって形成された自然堤防上に集落が數多く営まれる。天平5(733)年に編纂された「山岳風土記」によれば、出雲平野は出雲郡と神門郡に分割され、青木遺跡の地は出雲郡伊努郷に編成された。また風土記には、遺跡北東の旅伏山に烽がつくられたことも記されている。平安時代末期には九条家の莊園として「林木莊」が成立していたことが、同家の文献にみえる。遺跡北側の萬福寺には、平安時代前期に建立された薬師如来像、日光・月光菩薩像、聖観音立像、四天王像など9体の仏像が祀られている。これらはかつて存在した大寺に安置されていたと考えられている。青木遺跡ではこれらの仏像が製作された頃とほぼ同時期の遺物も多数出土しており興味深い。近隣では、現在までのところ大きな集落は確認されていないが、その存在を想定させるような遺物の出土が数箇所で見受けられる。里方八石原遺跡(13)では遺構は確認されなかったものの、奈良時代の須恵器・土師器がみられ、水晶と洋片が入った土師器壺が出土している。これと一連の遺跡と考えられる高浜II遺跡(14)では、奈良～平安時代初期の遺物が多量に出土しており、赤彩が施された土師器や、漆が付着した須恵器、ミニチュア土器などもみられる。青木遺跡北側の大寺三藏遺跡(3)では、谷の中央付近で奈良時代から中世にかけての土師質土器や須恵器がまとまって出土している。中野美保遺跡では、井戸を中心に配された掘立柱建物群が確認されている。

林木莊は鎌倉期には神門郡に、戦国末期には出東郡に属したとされている。九条家との関わりは14世紀初頭までは文献に登場するが、それ以降の莊園の実権は在地勢力に移り、戦国期には莊内は杵築人蔵、鷹淵寺、日御崎神社等の所領に分かれていったようである。近隣の遺跡ではこの時期の居住空間はあまり確認されていない。中野美保遺跡では中世の水田遺構が調査されており、畦畔・水口・足跡・置石などが確認されている。二条並列して構築された畦畔もあり、畦畔の結節点からは

置石が出土している。荻杵古墓（41）では、瓷器系陶器の大型壺・龍泉窯産の青磁碗・青磁皿・骨片・蓋石・碟が出土している。蓋石が載せられた壺が方形土坑内に据えられ、粘土や礫で埋め戻されていた。壺と共に五輪塔や宝幢印塔の残欠が出土しており、地上に石塔が建てられていたと考えられる。壺の内部には青磁碗・皿・骨片が納められていた。

戦国時代になると守護代として富田城に入った尼子氏が、守護京極氏を追い出して勢力を拡大し、最盛期の16世紀初めには11ヵ国にまで支配が及んだ。しかし安芸に進出した際、毛利方に大敗し、富田城を巡って出雲において攻防戦が繰り広げられた。鳴が堀城（9）は毛利元就が尼子征伐のために出雲国に侵入して最初に設けた軍事拠点である。放射状連郭式の山城で、山頂曲輪群は永禄5（1562）年ごろの築城と推定されている。鳴が堀城の東方には、元就の三男小早川隆景の養父、小早川正平の靈を慰めるために建立された興源寺が位置する。この地は小早川正平が自刃した場所とされており、付近には墓塔と伝えられる宝幢印塔（62）が祀られている。

近藤 正「出雲・荻杵発見の骨蔵器」考古学雑誌 第54巻 第3号 1969年

『出雲・上塩治地域を中心とする埋蔵文化財調査報告書』島根県教育委員会1980年

『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第1集』出雲市教育委員会 1988年

『山陰市埋蔵文化財調査報告書 第2集』出雲市教育委員会 1989年

『角川日本本地名辞典 島根県』角川書店 1991年

『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第3集』出雲市教育委員会 1992年

『島根県の地名』平凡社 1996年

『山持川川岸遺跡』出雲市教育委員会 1996年

『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第8集』山陰市教育委員会 1998年

『高浜II遺跡』出雲市教育委員会 1999年

『山陰市埋蔵文化財発掘調査報告書 第10集』出雲市教育委員会 2000年

『高岡遺跡』出雲市教育委員会 2000年

『出雲市埋蔵文化財発掘調査報告書 第11集』出雲市教育委員会 2001年

『島根県教育厅埋蔵文化財調査センター年報 X』島根県教育厅埋蔵文化財調査センター 2002年

『増補改訂 島根県遺跡地図 I (山雲・隱岐編)』島根県教育委員会 2003年

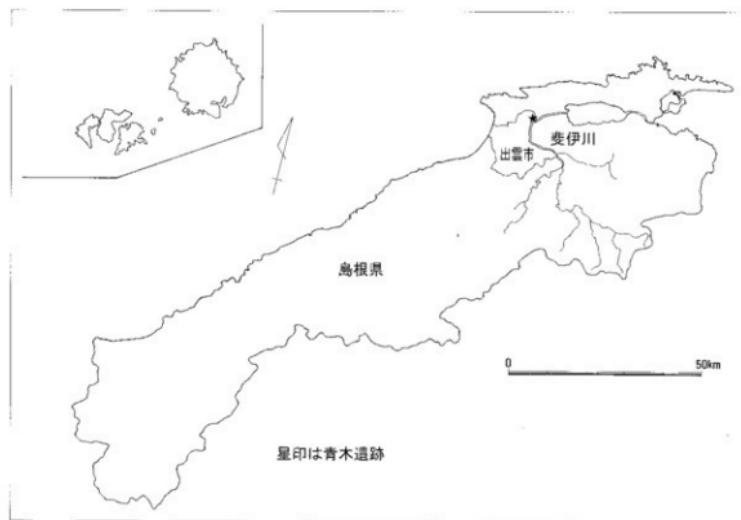
『島根県教育厅埋蔵文化財調査センター年報 XI』島根県教育厅埋蔵文化財調査センター 2003年

大寺古墳群現地説明会資料 島根県教育委員会 2003年

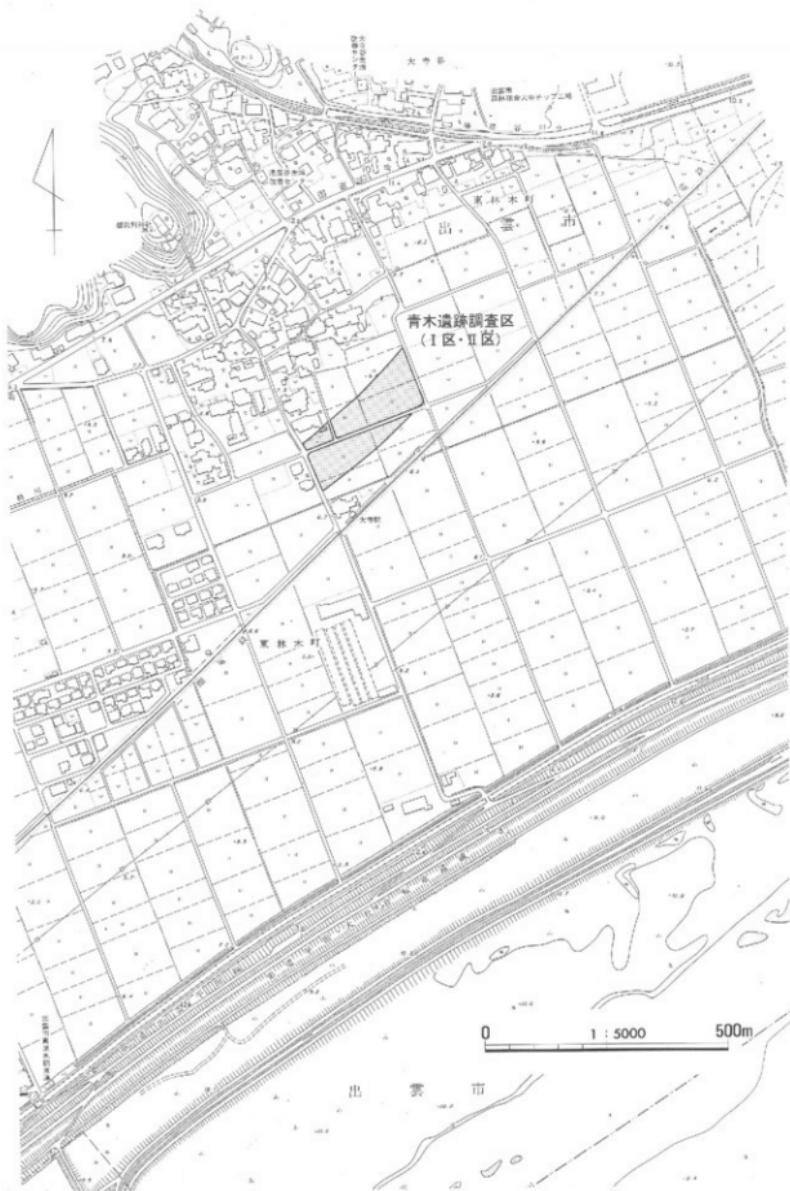
第1図 青木遺跡と周辺の遺跡 ($S = 1/25,000$)



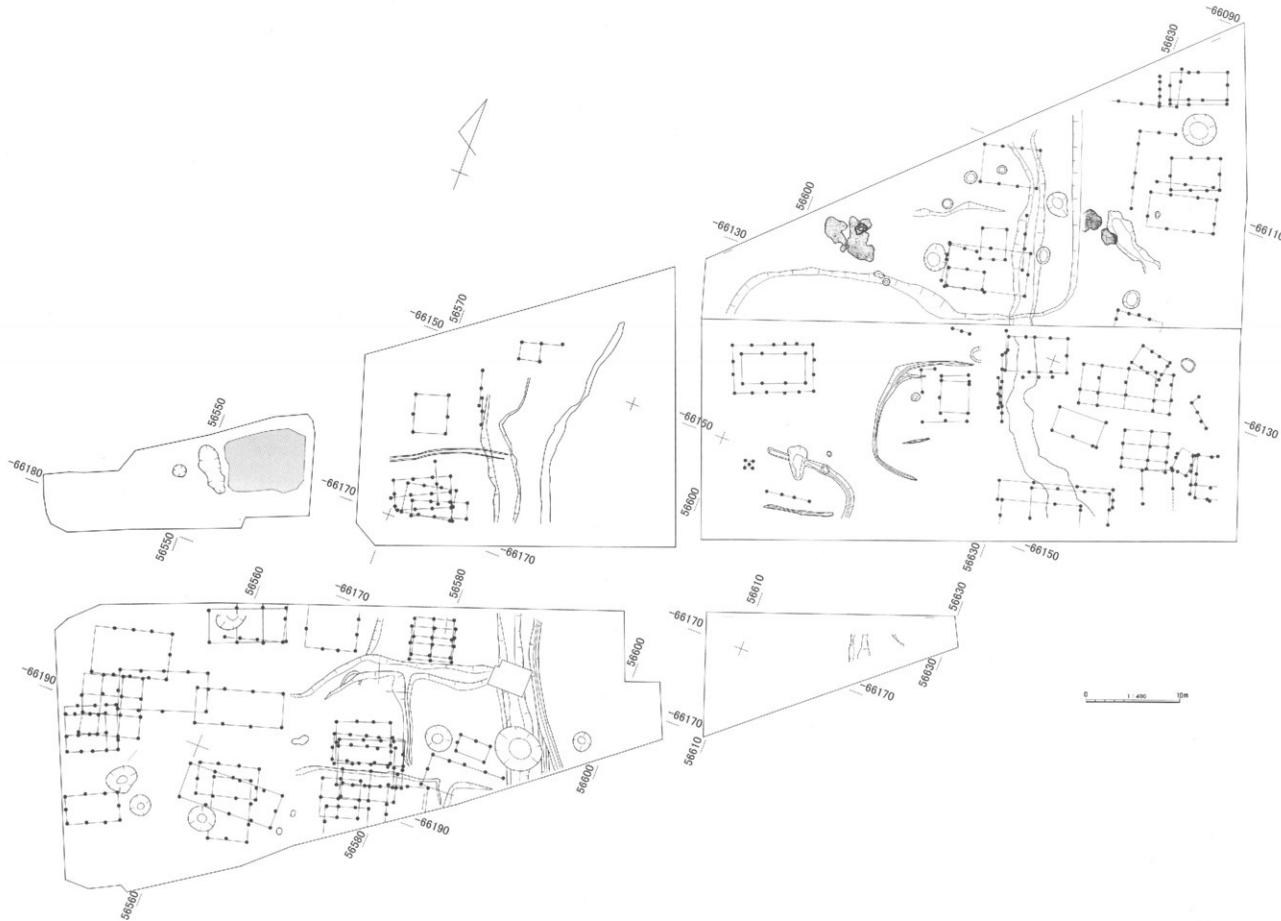
- | | | |
|-------------|---------------------------|------------|
| 1 青木遺跡 | 2 人寺1号古墳 | 3 大寺三藏遺跡 |
| 4 平林寺山古墳群 | 5 膳棚山古墳群 | 6 古前背後横穴墓群 |
| 7 奈屋背後横穴墓群 | 8 古前西北崖上横穴 | 9 鶯が巣城 |
| 10 山持遺跡 | 11 山持川川岸遺跡 | 12 別所里方遺跡 |
| 13 里方八石原遺跡 | 14 高浜Ⅱ遺跡 | 15 妙根遺跡 |
| 16 真名井銅戈出土地 | 17 山雲大社境内遺跡 | 18 五反配遺跡 |
| 19 原山遺跡 | 20 鹿藏山遺跡 | 21 上長浜貝塚 |
| 22 知井宮多聞院遺跡 | 23 宝塚古墳 | 24 下古志遺跡 |
| 25 大梶古墳 | 26 妙蓮寺古墳 | 27 淨土寺山城跡 |
| 28 放れ山古墳 | 29 古志木郷遺跡 | 30 井原遺跡 |
| 31 矢野遺跡 | 32 白枝荒神遺跡 | 33 小山遺跡 |
| 34 渡橋沖遺跡 | 35 蔵小路西遺跡 | 36 姫原西遺跡 |
| 37 壱丁田遺跡 | 38 天神遺跡 | 39 海上遺跡 |
| 40 萩杼Ⅱ遺跡 | 41 萩杼古墓 | 42 中野美保遺跡 |
| 43 中野清水遺跡 | 44 今市大念寺古墳 | 45 神門寺境内遺跡 |
| 46 上塙谷築山古墳 | 47 地藏山古墳 | 48 半分城跡 |
| 49 三田谷Ⅰ遺跡 | 50 光明寺3号墓 | 51 上塙谷横穴墓群 |
| 52 菅沢古墓 | 53 長者原庵寺 | 54 西谷墳墓群 |
| 55 権現山城跡 | 56 長剣遺跡・権現山古墳・
権現山横穴墓群 | 57 柴伊川鉄橋遺跡 |
| 58 後谷遺跡 | 59 天寺平廬寺 | 60 美談神社1号墳 |
| 61 美談神社2号墳 | 62 興源寺 | 63 荒木古墳群 |
| 64 旅伏山 | | |



第2図 青木遺跡の位置



第3図 青木遺跡調査区位置図 (S=1/5,000)



第4図 青木遺跡I区・II区全体図 (S=1/300)

第3章 I区の調査

第1節 IA～IC区の調査

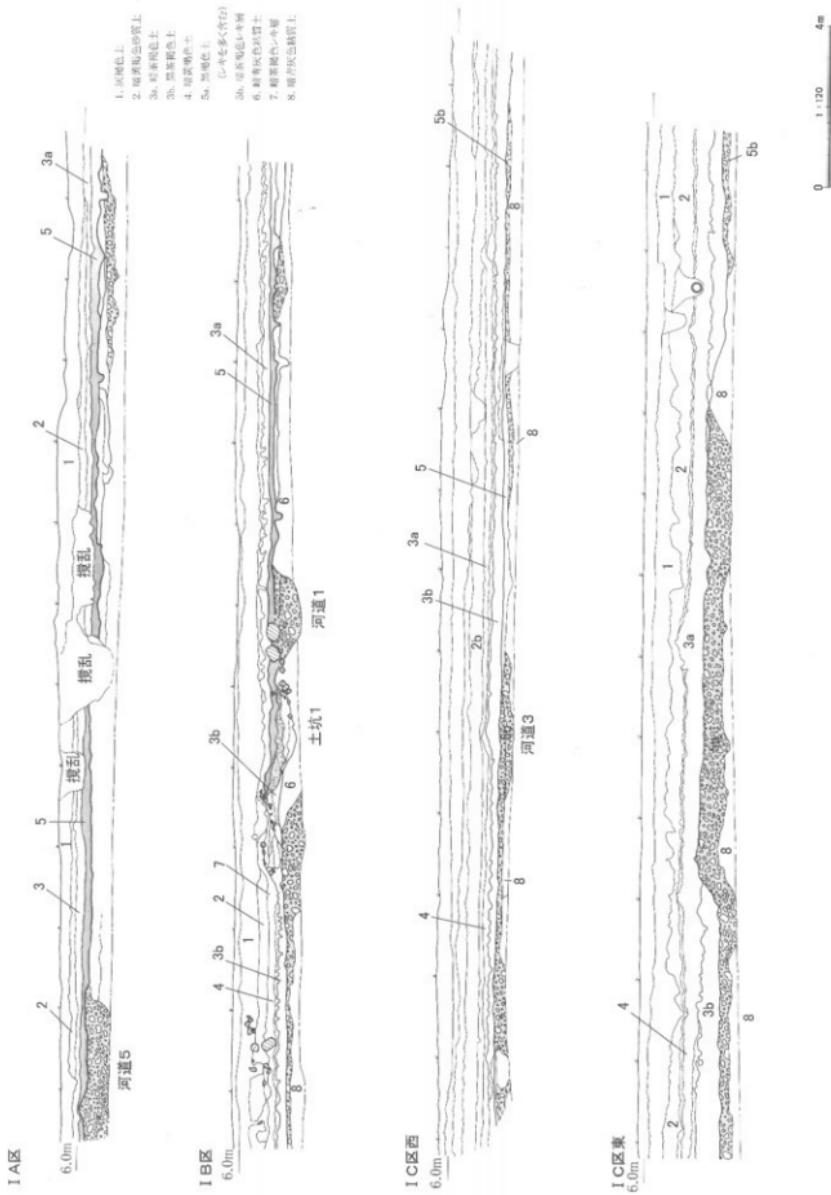
(1) 調査の経過と概要

IA～IC区の発掘調査は平成13年に行った。調査はIB区から始め、7月11日から重機を使用して近世以降の耕作土である1・2層を掘削した。その後8月6日から室町時代～近世初頭の遺物包含層である3a層を人力で掘削し、5a層を検出した。5a層は拳大前後の礫を大量に含み柱穴の検出が困難だったので、地形測量後に5cm程度削ってから精査を行った。その結果、多数の柱穴が検出され柱根も出土した。5a層を掘削すると石を含まない6層が堆積しており、上面で柱穴と自然流路が検出された。IB区の東側には別の疊層（7層）が堆積し、その下には石を含まない8層が堆積していたが、ここでは柱穴は検出されなかった。9月27日にはラジコンヘリにより1回目の空撮を行った。IB区下層の調査と平行しながら10月30日からIC区東の調査を行った。遺跡の旧地形が東側に傾斜しているのでIB区に比べて遺構面の標高が低く、最も低い南東側では現地表から約2m下で遺構面の疊層（5b層）が検出された。5b層上面では多数の柱根が検出され、柱根も多く残存していた。12月8日にはIB区とIIA区の現地説明会を開催し、多数の参加を得た。その後12月4日に2回目の空撮を行ってIC区東の調査を終え、IC区西から東への調査排土の転地換えを行った。その間に山持遺跡と馬渡り遺跡の試掘調査と平行しながらIA区の調査を行った。IA区の東側では、事前の聞き取り調査で伊佐波神社の旧境内地とされた部分で石敷きと石列を検出した。12月5日からIC区西の遺構精査を行い、12月20日には3回目の空撮を行った。12月26日に遺構の実測を終え現地調査を完了した。



現地説明会風景

第1節 IA～IC区の調査



第5図 IA～IC区南壁土層断面 (S=1/300)

(2) 弥生時代の遺物

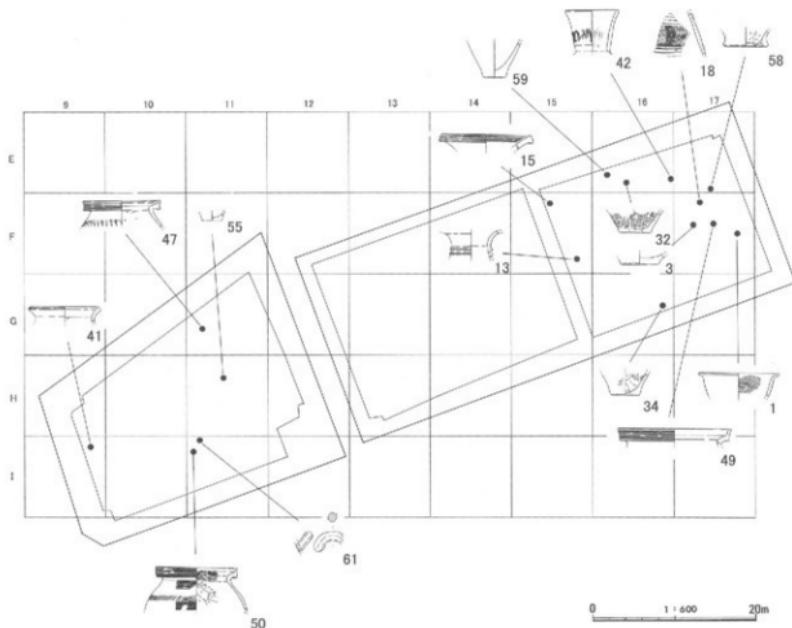
I B～I C区では3a層以下のほとんどの層で弥生土器が出土した。全体の数量は多くないが、その中でI B区7層とI C区東の5b層で比較的まとまって出土した。I B区は後期（V様式）の土器が主で、I C区東は前期から後期まで各時期の土器が出土している。

前期の土器（1～5）は数が少なくほとんどが小片で、1と底部以外は図化できなかった。中期の土器（6～39）は、前期に比べ出土数が多く壺・甕のほか、鉢や高杯も見られる。後期の土器（40～67）はほとんどが甕だった。直口壺42は口縁部外面に波状文が施される。出雲平野部ではあまり例を見ない。62は高杯・器台等の脚部と見られるが、内面に厚く炭化物が付着しているので、蓋として使用したと考えられる。68は錘と考えられる石製品で、球形の石の中央に窪みを残させている。形状から弥生時代のものと判断した。

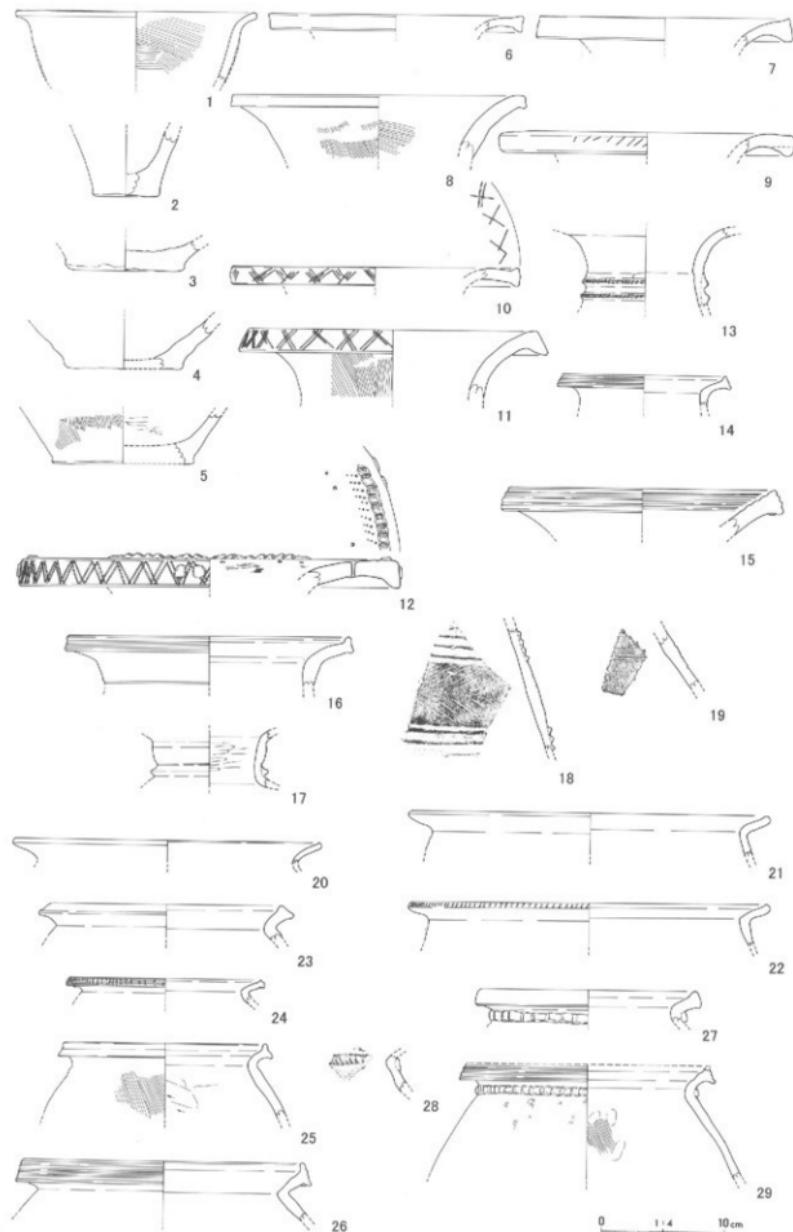
これらの土器は、調査区北側から流れ込んだ隙層内で後の時代の遺物に混じって出土している。このため、調査区北側に弥生時代の集落等が存在する可能性が考えられる。

参考文献

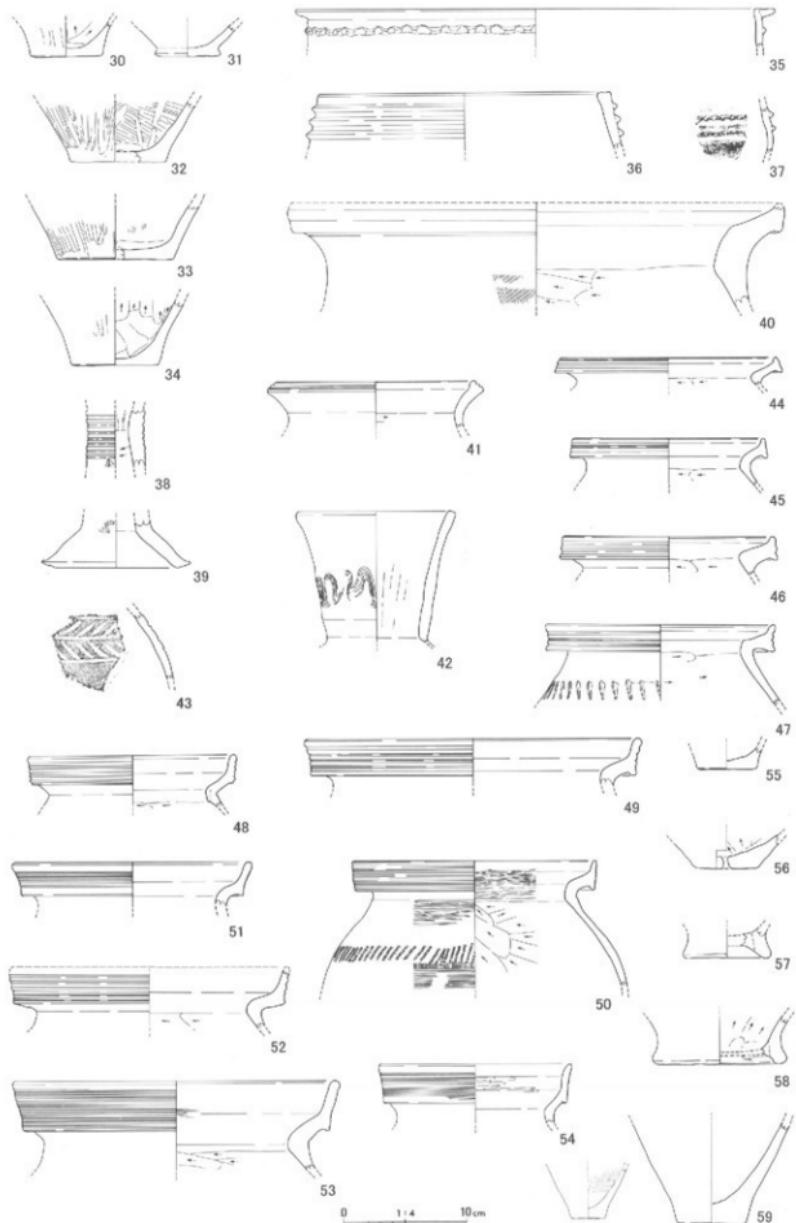
- 1 松本岩雄 「山雲尾岐地域」『弥生土器の様式と編年 一山陽・山陰編』 木耳社 1992
- 2 大山スイス村埋蔵文化財発掘調査団・大山町教育委員会 『妻木晩田遺跡発掘調査報告』 2000



第6図 1区 弥生時代の遺物出土状況 (S=1/600)

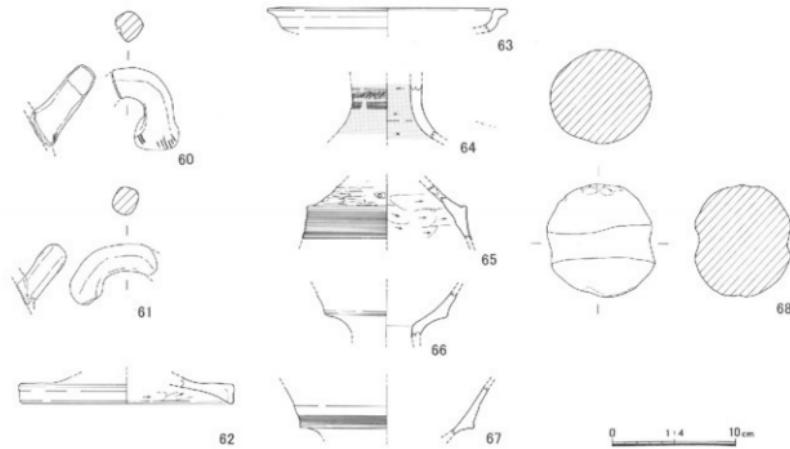


第7図 I区 亜生土器① ($S=1/4$)



第8図 I区 弥生土器② (S = 1/4)

第1節 IA~IC区の調査



第9図 IA区 弥生土器③・石器 (S=1/4)

第1表 IA区弥生土器観察表①

遺物 番号	測定 番号	形名 番号	種別	器種	出土地點 (G7遺跡)	部位	寸 法 (cm) □横 ■縦	形態・文様の特徴	断面	胎土	色調	備考
1	7	68	弥生 土器	甕	F-17	5	(9.7)	口縁部に面を持つ	内: ラミナリス 外: ティア	径2~3cmの砂 粒多量	内: 灰褐色(3YR5/2) 外: 黄褐色(3Y5/4)	I様式
2	7	69	弥生 土器	甕	E-19	5	(6.4)		内: 不規 外: 不規	径3~3.5cmの砂 粒多量	内: 淡灰褐色(3Y5/2/2) 外: 淡褐色(3Y5/2/2)	I様式
3	7	66	弥生 土器	罐	F-17	5	9.7		内: 不規 外: ティア	径2~2.5cmの砂 粒多量	淡褐色~灰褐色	I様式
4	7	65	弥生 土器	甕	G-17	5	(9.0)		内: ティア 外: 不規	径2~3cmの砂 粒多量	内: 淡灰褐色(3Y5/2/3) 外: 淡褐色(3Y5/2/3) ～褐色(3Y5/2/3)	I様式
5	7	66	弥生 土器	甕	P-16	5	(11.8)		内: ティア 外: ティアハシメ ドア	径2~2.5cmの砂 粒多量	内: 淡灰褐色(3Y5/2/3) 外: 淡褐色(3Y5/2/3)	I様式
6	7	66	弥生 土器	甕	E-16	5	(20.0)	口縁部を上下に拡張 する。	内: ティア	径5cmの砂 粒多量	内: 淡灰褐色(3Y5/2/4) 外: 淡褐色(3Y5/2/4)	II様式
7	7	66	弥生 土器	甕	P-16	5	(20.4)	口縁部は下垂し平坦 である。	内: ティア 外: ティア	径1mの砂 粒多量	内: 淡褐色(3Y5/2/2) 外: 淡褐色(3Y5/2/2)	III様式
8	7	66	弥生 土器	甕	H-13	6	(28.8)	口縁部に面を持つ	内: ティア 外: ティアハシメ ドア、タッカム	径1mの砂 粒多量	内: 淡褐色(3Y5/2/2) 外: 淡褐色(3Y5/2/2)	III様式
9	7	66	弥生 土器	甕	E-16	6	(34.2)	口縁下部に粘土片を付 け、半倒立して実質 的な壁がある。	内: ティア 外: ティア	径1.5mの砂 粒多量	内: 淡褐色(3Y5/2/3) 外: 淡褐色(3Y5/2/3)	III様式
10	7	66	弥生 土器	甕	J-10	6	(25.7)	口縁部は下に膨張 する。内側と外側に三脚 の支撑脚を有する。	内: ティア 外: ティア	径1.5m前後の 砂粒多量	内: 淡褐色(3Y5/2/3) 外: 淡褐色(3Y5/2/3)	III様式
11	7	66	弥生 土器	甕	H-13	7	(23.4)	口縁部は下垂し平坦 で底面は更に丸みをも つ。	内: ティア 外: ティア 内: ティア	径5~10cmの砂 粒多量	内: 淡灰褐色(3Y5/2/4) 外: 淡褐色(3Y5/2/4)	III様式
12	7	66	弥生 土器	広口 甕	F-16	5	(31.2)		内: ティア 外: ティア	径2~3mの砂 粒多量	時: 黄褐色	
13	7	66	弥生 土器	甕	G-17	5		底部に孔の痕跡をも つ。土台(1日目)を施す。	内: ティア 外: ティア	径1~2mの砂 粒多量	内: 淡褐色(3Y5/2/4) 外: 淡褐色(3Y5/2/4)	III様式
14	7	66	弥生 土器	甕	(H-12)			口縁部は下に膨張 する。内側と外側に三脚 の支撑脚を有する。	内: ティア 外: ティア	径1~2mの砂 粒多量	内: 淡褐色(3Y5/2/4) 外: 淡褐色(3Y5/2/4)	IV様式
15	7	66	弥生 土器	甕	E-17	5	(21.6)		内: 不規 外: 不規	径2~3cmの砂 粒多量	内: 淡褐色(3Y5/2/3) 外: 淡褐色(3Y5/2/3)	IV様式
16	7	66	弥生 土器	甕	E-16	5	(22.6)	口縁部は下に膨張 する。内側と外側に三脚 の支撑脚を有する。	内: ティア 外: ティア	径1~2mの砂 粒多量	内: 淡褐色(3Y5/2/3) 外: 淡褐色(3Y5/2/3)	中期
17	7	66	弥生 土器	甕	H-12	8		底部と両端に孔の痕 跡がある。	内: ティア 外: ティア	径1~2mの砂 粒多量	内: 淡褐色(3Y5/2/3) 外: 淡褐色(3Y5/2/3)	中期
18	7	66	弥生 土器	甕	F-17	5		底部と両端に孔の痕 跡がある。	内: ティア 外: 不規	径1~2mの砂 粒多量	内: 淡褐色(3Y5/2/3) 外: 淡褐色(3Y5/2/3)	中期
19	7	66	弥生 土器	甕	E-17	8		底部と両端に孔の痕 跡がある。	内: ティア 外: ティア	径1~2mの砂 粒多量	内: 淡褐色(3Y5/2/3) 外: 淡褐色(3Y5/2/3)	IV様式

第2表 I区弥生土器觀察表②

番号	種類	年代	地質	基準	寸法(cm)	断面	形態・文様の特徴	調査	貯土	飛出	参考
20	7	66	弥生土器	表	F-17	5 (25.0)	口縁部は内方に傾いており、直線的な外輪底部には細かい凹凸がある。	内：小切 外：ヨコナメ	直径約18cmの特徴 厚多量	内：青島褐色 (GYR8/3) 外：黄褐色 (GYR8/2)	Ⅲ様式
21	7	66	弥生土器	側	F-16	5 (29.6)	口縁部は内方に傾いており、直線的な外輪底部には細かい凹凸がある。	内：トヨナメ 外：ヨコナメ	直径35cmの特徴 厚多量	内：黄褐色 (GYR8/1) 外：灰褐色 (GYR8/2)	Ⅲ様式
22	7	66	弥生土器	裏	E-15	5 (28.5)	口縁部は内方に傾いており、直線的な外輪底部には細かい凹凸がある。	内：トヨナメ 外：ヨコナメ	直径32cmの特徴 厚多量	内：青褐色 (GYR8/3) 外：黄褐色 (GYR8/2)	Ⅲ様式
23	7	66	弥生土器	底	F-17	5 (18.6)	口縁部を上下に傾けており、直線的な外輪底部には細かい凹凸がある。	内：ヨコナメ 外：ヨコナメ	直径32cmの特徴 厚多量	内：灰褐色 (GYR8/1) 外：灰褐色 (GYR8/2)	Ⅲ様式
24	7	66	弥生土器	底	G-16	5 (15.6)	口縁部を上下に傾けており、直線的な外輪底部には細かい凹凸がある。	内：ヨコナメ 外：ヨコナメ	直径35cmの特徴 厚多量	内：灰褐色 (GYR8/1) 外：黄褐色 (GYR8/2)	Ⅳ様式
25	7	66	弥生土器	裏	H-11	7 (16.4)	口縁部は下に傾いており、直線的な外輪底部には細かい凹凸がある。	内：ヨコナメ 外：ヨコナメ	直径32cmの特徴 厚多量	内：青褐色 (GYR8/3) 外：黄褐色 (GYR8/2)	Ⅳ様式
26	7	66	弥生土器	裏	H-10	5 (22.7)	口縁部は下に傾いており、直線的な外輪底部には細かい凹凸がある。	内：ヨコナメ 外：ヨコナメ	直径35cmの特徴 厚多量	内：青褐色 (GYR8/3) 外：黄褐色 (GYR8/2)	Ⅳ様式
27	7	66	弥生土器	裏	I-10 東海ルート	7 (17.6)	口縁部を上にとげ付けており、直線的な外輪底部には細かい凹凸がある。	内：茶色 外：ヨコナメ	直径30cmの特徴 厚多量	内：灰褐色 (GYR8/1) 外：灰褐色 (GYR8/2)	Ⅲ様式
28	7	66	弥生土器	裏	F-17	5	口縁部を上にとげ付けており、直線的な外輪底部には細かい凹凸がある。	内：トヨナメ 外：ヨコナメ	直径32cmの特徴 厚多量	内：灰褐色 (GYR8/3) 外：灰褐色 (GYR8/2)	Ⅳ様式
29	7	66	弥生土器	裏	H-10	3 (19.6)	口縁部を上にとげ付けており、直線的な外輪底部には細かい凹凸がある。	内：ヨコナメ 外：ヨコナメ	直径35cmの特徴 厚多量	内：灰褐色 (GYR8/3) 外：灰褐色 (GYR8/2)	Ⅳ様式
30	8	67	弥生土器	裏	F-17	5 (5.8)	口縁部を上にとげ付けており、直線的な外輪底部には細かい凹凸がある。	内：ヘラナメ 外：ヨコナメ	直径30cmの特徴 厚少量	内：灰褐色 (GYR8/3) 外：灰褐色 (GYR8/2)	中期
31	8	67	弥生土器	底	F-16	5 (5.8)	口縁部を上にとげ付けており、直線的な外輪底部には細かい凹凸がある。	内：ナメ 外：ヨコナメ	直径35cmの特徴 厚少量	内：灰褐色 (GYR8/3) 外：灰褐色 (GYR8/2)	中期
32	8	67	弥生土器	裏	E-16	3 (5.2)	口縁部を上にとげ付けており、直線的な外輪底部には細かい凹凸がある。	内：ヘラナメ 外：ヨコナメ	直径35cmの特徴 厚少量	内：灰褐色 (GYR8/3) 外：灰褐色 (GYR8/2)	中期
33	8	67	弥生土器	裏	F-16	5 (9.4)	口縁部を上にとげ付けており、直線的な外輪底部には細かい凹凸がある。	内：ヨコナメ 外：ヘリナメ	直径35cmの特徴 厚少量	内：灰褐色 (GYR8/3) 外：灰褐色 (GYR8/2)	中期
34	8	67	弥生土器	裏	G-16	5 (7.0)	口縁部を上にとげ付けており、直線的な外輪底部には細かい凹凸がある。	内：ナメ 外：ヨコナメ	直径35cmの特徴 厚少量	内：灰褐色 (GYR8/3) 外：灰褐色 (GYR8/2)	中期
35	8	67	弥生土器	底	E-16	5 (39.2)	口縁部は丸みを帯びており、直線的な外輪底部には細かい凹凸がある。	内：ナメ 外：ヨコナメ	直径15cmの特徴 厚多量	内：灰褐色 (GYR8/3) 外：灰褐色 (GYR8/2)	中期
36	8	67	弥生土器	裏	F-17	5 (38.8)	口縁部は丸みを帯びており、直線的な外輪底部には細かい凹凸がある。	内：ナメ 外：ヨコナメ	直径35cmの特徴 厚多量	内：灰褐色 (GYR8/3) 外：灰褐色 (GYR8/2)	中期
37	8	67	弥生土器	裏	南・南西	-	口縁部の両端を打ち抜いており、ヨコナメである。	内：ヨコナメ	直径35cmの特徴 厚少量	内：灰褐色 (GYR8/3) 外：灰褐色 (GYR8/2)	Ⅱ-1様式
38	8	67	弥生土器	裏	F-16	5	口縁部の両端を打ち抜いており、ヨコナメである。	内：ヘラナメ	直径35cmの特徴 厚少量	内：灰褐色 (GYR8/3) 外：灰褐色 (GYR8/2)	中期
39	8	67	弥生土器	裏	F-17	5 (10.0)	口縁部を上にとげ付けており、直線的な外輪底部には細かい凹凸がある。	内：ヘラナメ 外：ヨコナメ	直径35cmの特徴 厚少量	内：灰褐色 (GYR8/3) 外：灰褐色 (GYR8/2)	中期
40	8	67	弥生土器	底	H-11	3 (49.0)	口縁部を下に傾けており、直線的な外輪底部には細かい凹凸がある。	内：ナメ 外：ヨコナメ	直径35cmの特徴 厚少量	内：灰褐色 (GYR8/3) 外：灰褐色 (GYR8/2)	V-1様式
41	8	67	弥生土器	裏	E-11	5 (18.2)	口縁部を下に傾けており、直線的な外輪底部には細かい凹凸がある。	内：ヨコナメ 外：ヨコナメ	直径35cmの特徴 厚少量	内：灰褐色 (GYR8/3) 外：灰褐色 (GYR8/2)	V-2様式
42	8	67	弥生土器	裏	F-16	5 (18.0)	口縁部は下に傾いており、直線的な外輪底部には細かい凹凸がある。	内：ヨコナメ 外：ヨコナメ	直径35cmの特徴 厚少量	内：灰褐色 (GYR8/3) 外：灰褐色 (GYR8/2)	V様式
43	8	67	弥生土器	裏	F-17	3	口縁部にナメの痕跡がある。	内：ヘラナメ 外：ヨコナメ	直径35cmの特徴 厚少量	内：灰褐色 (GYR8/3) 外：灰褐色 (GYR8/2)	V様式
44	8	67	弥生土器	裏	F-17	3 (15.6)	口縁部を下に傾けており、直線的な外輪底部には細かい凹凸がある。	内：ナメ 外：ヨコナメ	直径35cmの特徴 厚少量	内：灰褐色 (GYR8/3) 外：灰褐色 (GYR8/2)	V-1様式
45	8	67	弥生土器	裏	F-16	5 (14.6)	口縁部を下に傾けており、直線的な外輪底部には細かい凹凸がある。	内：ヨコナメ 外：ヨコナメ	直径35cmの特徴 厚少量	内：灰褐色 (GYR8/3) 外：灰褐色 (GYR8/2)	V-1様式
46	8	67	弥生土器	裏	F-16	5 (27.4)	口縁部を上にとげ付けており、直線的な外輪底部には細かい凹凸がある。	内：ヨコナメ 外：ヨコナメ	直径35cmの特徴 厚少量	内：灰褐色 (GYR8/3) 外：灰褐色 (GYR8/2)	V-1様式
47	8	67	弥生土器	裏	G-11	7 (18.6)	口縁部は上にとげ付けており、直線的な外輪底部には細かい凹凸がある。	内：ヨコナメ 外：ヨコナメ	直径35cmの特徴 厚少量	内：灰褐色 (GYR8/3) 外：灰褐色 (GYR8/2)	V-1様式
48	8	67	弥生土器	裏	H-16	5 (16.4)	口縁部を上にとげ付けており、直線的な外輪底部には細かい凹凸がある。	内：ヨコナメ 外：ヨコナメ	直径35cmの特徴 厚少量	内：灰褐色 (GYR8/3) 外：灰褐色 (GYR8/2)	V-2様式
49	8	67	弥生土器	裏	F-17	5 (27.2)	口縁部は上にとげ付けており、直線的な外輪底部には細かい凹凸がある。	内：ヨコナメ 外：ヨコナメ	直径35cmの特徴 厚少量	内：灰褐色 (GYR8/3) 外：灰褐色 (GYR8/2)	V-2様式

第3表 IA区弥生土器観察表③

通物 番号	種類 番号	年 代	種別	品種	出 土地 名	地 理	層位	寸 法 (cm)	形態・文様 の特徴	調整	胎土	色調	備考
								戸 径 幅 深 度 22.5					
50	8	67	弥生 土器	圓	I-11	7	(20.0)		口縁部は下に内側 を削り、直角の頭部をもつて 輪郭に切欠きを残す。	内：ヨコナギ、ヘ リヤガキ、ヘラカ ク、ヘタナギ、ヘ リヤガキ、ヘラカ ク、ヨコナギ	板状	内：淡青色(17VB/2) 外：淡い褐色(17YR1/3)	V-3様式
51	8	68	弥生 土器	圓	北側 削面	5	(19.5)		口縁部外側に沿うる直 線を残す。調査は丸 い。	内：ヨコナギ、ヘ リヤガキ、ヘラカ ク、ヨコナギ、ヘ リヤガキ、ヘラカ ク、ヨコナギ	直立状	内：灰青色(17VB/2) 外：淡い褐色(17YR1/3)	V-2様式
52	5	68	弥生 土器	圓	西側 削面?				口縁部外側に直線の頭部 を残す。	内：ヨコナギ、ヘ リヤガキ、ヘラカ ク、ヨコナギ、ヘ リヤガキ、ヘラカ ク、ヨコナギ	直立状	内：黄灰青(23VB/1) 外：灰(17YR/2)	V-2様式
53	8	68	弥生 土器	圓	H-10, 河港		(26.5)		内側表面に沿うる直 線を残す。直線部は丸 い。	内：ヨコナギ、ヘ リヤガキ、ヘラカ ク、ヨコナギ、ヘ リヤガキ、ヘラカ ク、ヨコナギ	直立状以下 部分	内：灰青色(17VB/2) 外：淡い褐色(17YR1/3)	V-3様式
54	8	68	弥生 土器	圓	F-11	5	(15.5)		口縁部外側に直線の頭部 を残す。直線部は丸 い。	内：ヨコナギ、ヘ リヤガキ、ヘラカ ク、ヨコナギ、ヘ リヤガキ、ヘラカ ク、ヨコナギ	直立状	内：淡青色(17VB/2) 外：灰(17YR/2)	V-3様式
55	8	68	弥生 土器	不規	H-11	7	4.9		内：ヘリヤガキ、ヘ リヤガキ、ヘラカ ク、ヨコナギ、ヘ リヤガキ、ヘラカ ク、ヨコナギ	直立状	内：淡青色(17VB/2) 外：灰(17YR/2)	V-3様式	
56	8	68	弥生 土器	圓	I-11		(5.0)	腹部中央部は直線(4cm)で を穿孔している。	内：ヨコナギ、ヘ リヤガキ、ヘラカ ク、ヨコナギ、ヘ リヤガキ、ヘラカ ク、ヨコナギ	直立状 部分	内：灰青色(17VB/2) 外：淡い褐色(17YR1/3)	V様式	
57	5	68	弥生 土器	山形 削面			(7.2)	底部を扁平状に当たる	内：ヨコナギ、ヘ リヤガキ、ヘラカ ク、ヨコナギ、ヘ リヤガキ、ヘラカ ク、ヨコナギ	直立状	内：灰青色(17VB/2) 外：淡い褐色(17YR1/3)	V様式	
58	8	68	弥生 土器	不規	E-17	5	(11.0)		内：ナギ、ヘリヤ ガキ、ヨコナギ、ヘ リヤガキ、ヘラカ ク、ヨコナギ	直立状	内：灰青色(17VB/2) 外：灰(17YR/2)	V様式	
59	8	68	弥生 土器	圓	E-16	5	(5.7)		内：ナギ、ヘリヤ ガキ、ヨコナギ、ヘ リヤガキ、ヘラカ ク、ヨコナギ	直立状	内：灰青色(17VB/2) 外：灰(17YR/2)	V様式	
60	9	68	弥生 土器	把手	F-14	5		平面は刃字形、新葉は 鉈形である。	内：ヘリヤガキ、 ヘラカク	直立状	内：灰青色(17VB/2) 外：灰(17YR/2)	V-3 様 式?付 土器の見 手ら。	
61	9	68	弥生 土器	把手	I-11	7		平面はU字形、新葉は 鉈形である。新葉文を複数。	内：ヘリヤガキ、 ヘラカク	直立状	内：灰(17YR/2) 外：灰(17YR/2)	V様式	
62	9	68	弥生 土器	圓	P-15	5	17.2	口縁部は外方に丸く 膨らむ。	内：ヨコナギ、ヘ リヤガキ、ヨコナギ、 ヘリヤガキ	直立状 部分	内：灰青色(17VB/2) 外：灰(17YR/2)	V様式	
63	9	68	弥生 土器	圓	T-10	5	(19.7)	口縁部は外方に丸く 膨らむ。	内：ヨコナギ、ヘ リヤガキ、ヨコナギ、 ヘリヤガキ	直立状	内：灰青色(17VB/2) 外：灰(17YR/2)	V-3様式	
64	9	68	弥生 土器	曲形 削面	P-15	5		扁平に上輪削りを施す。 平行状の頭部をもつて 輪郭に切欠きを残す。	内：ヨコナギ、 ヘリヤガキ、ヨコナギ、 ヘリヤガキ	直立状	内：灰青色(17VB/2) 外：灰(17YR/2)	V-3 様 式。青森	
65	9	68	弥生 土器	曲形 削面	P-15	5		平面は刃字形、新葉は 鉈形である。新葉文を複数。	内：ヨコナギ、 ヘリヤガキ、ヨコナギ、 ヘリヤガキ	直立状	内：灰青色(17VB/2) 外：灰(17YR/2)	V-3様式	
66	9	68	弥生 土器	把手	P-19	5		縫合穴なし。	内：ナギ、 ヘリヤガキ、 ヨコナギ	直立状	内：灰(17YR/2) 外：灰(17YR/2)	V-4様式	
67	9	68	弥生 土器	把手	E-17	5		二重被覆面にのみ新葉 を施した状態で残す。	内：ヨコナギ、ヘ リヤガキ、ヨコナギ、 ヘリヤガキ	直立状	内：灰(17YR/2) 外：灰(17YR/2)	V-4様式	

第4表 IA区弥生時代の石器観察表

通物 番号	種類 番号	年 代	種別	器種	大きさ及 び付属 物	質地	層位	寸 法 (mm)	形態・文様 の特徴	調整	胎土	色調	備考	
								反 対 幅 厚 度 22.5						
68	9	68	石器	石斧	E-15	3	6.9	6.4	6.4	363.14	石の中央に握りがいる			

(3) 古墳時代の遺物

古墳時代の土師器・須恵器はI B区とI C区で出土しているが、数量は少ない。弥生土器に比べ上師器は前期のものを中心に、灰白色等明るい色調のものが多くなる。

69は大型の複合口縁壺の口縁部で、古墳時代前期のものと判断した。

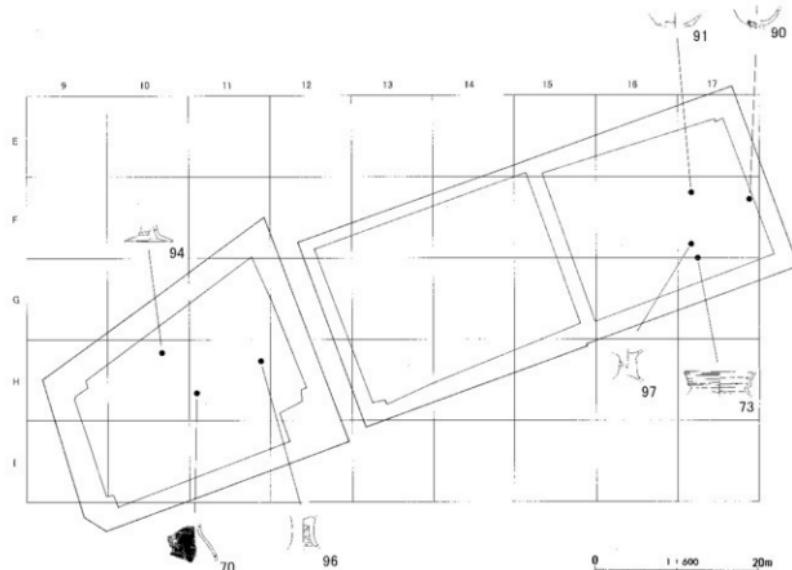
壺75は形状から古墳時代前期のものと判断したが、口縁外面と上面に細かい波状文を施しており、あまり例を見ないものである。87は壺の底部を意図的に円形に打ち欠いている。

須恵器の壺(113～128)は胴部の小片が多く時期の判断が困難だったので、図示したものの中に、古墳時代後期の壺のほか一部古代の壺がまじっている可能性がある。

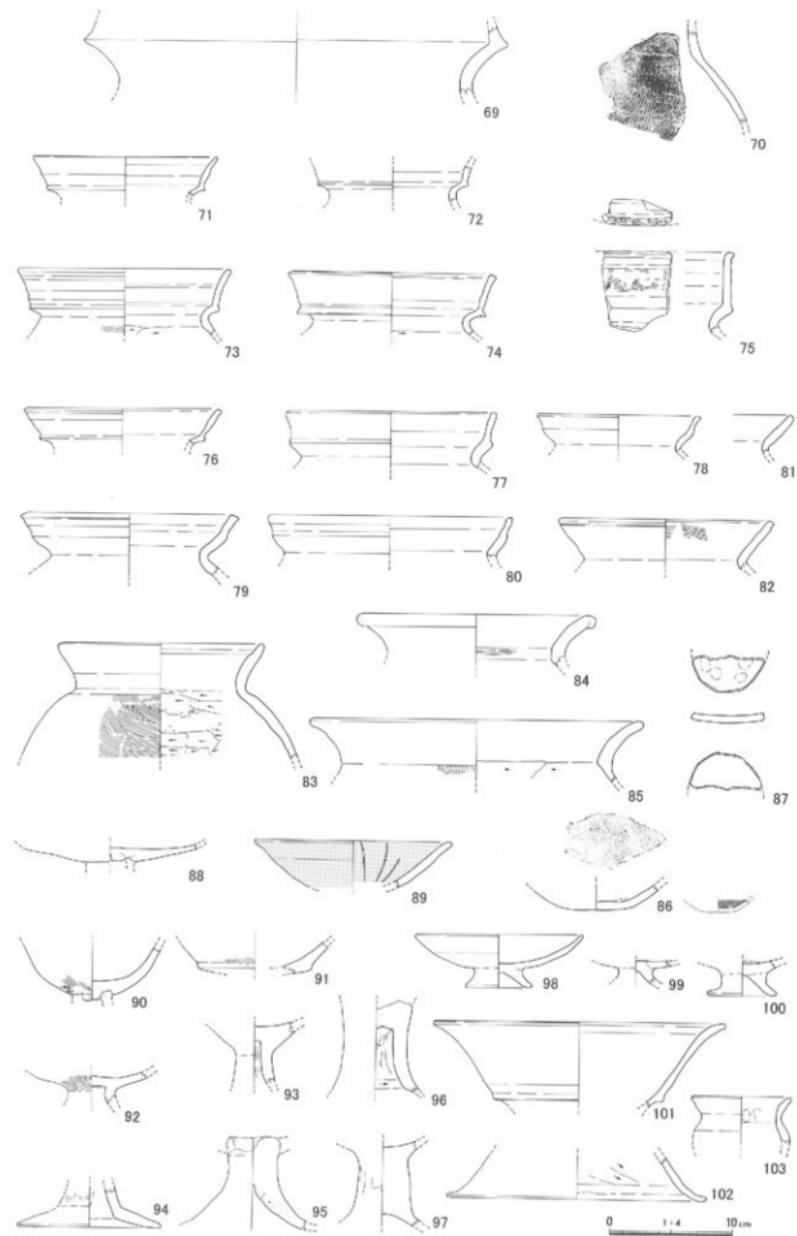
これらの土器は弥生土器同様ほとんどが小片で、全形のわかるものは少なかった。

参考文献

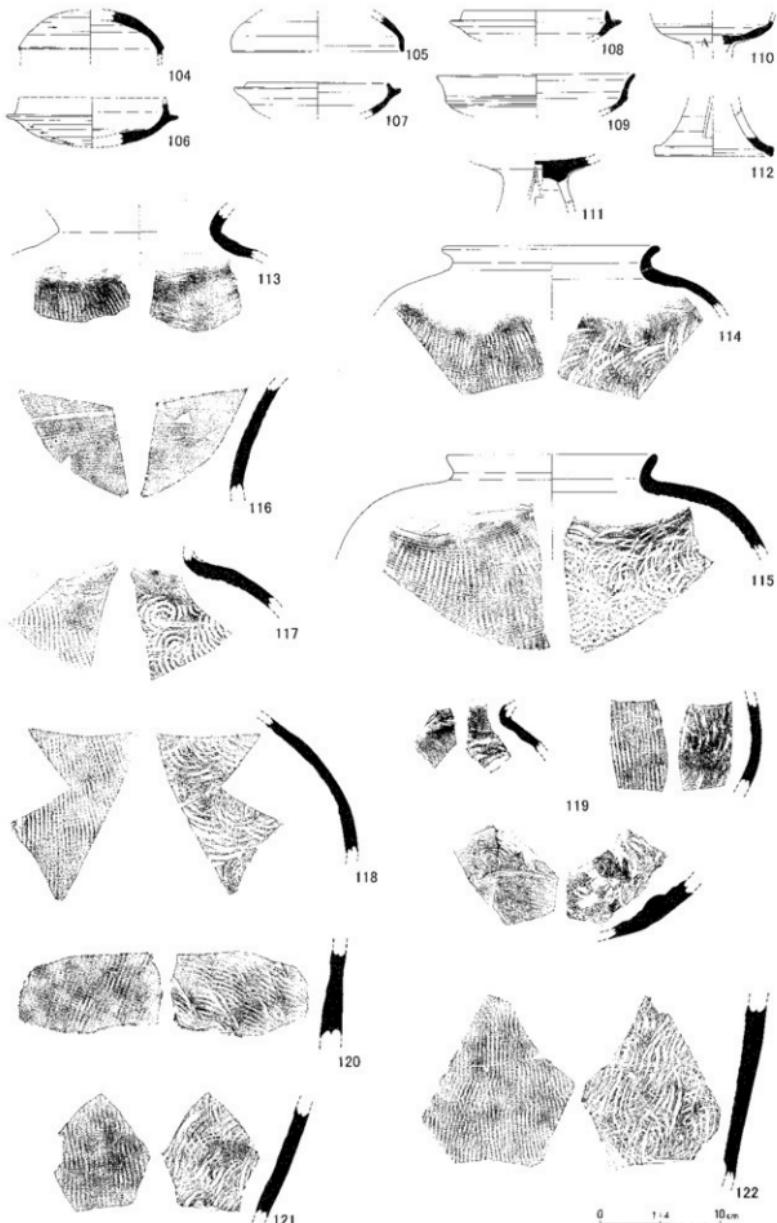
- 鹿島町教育委員会 『南講武草田遺跡』 1992
- 松山智弘 「出雲における古墳時代前半期の土器の様相 一大東式の再検討」 『鳥根考古学会誌』第8集 鳥根考古学会 1991
- 大谷見二 「山陰地域の須恵器の編年と地域色」 『鳥根考古学会誌』第11集 鳥根考古学会 1994



第10図 I区 古墳時代の土師器出土状況 (S 1/600)

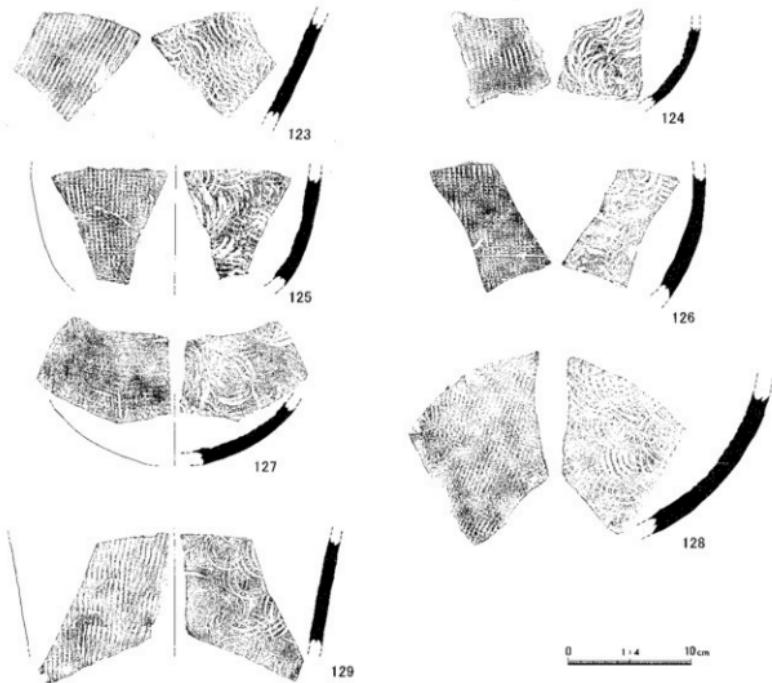


第11図 I区 土器器(①) (S=1/4)



第12図 I区 須恵器① ($S = 1/4$)

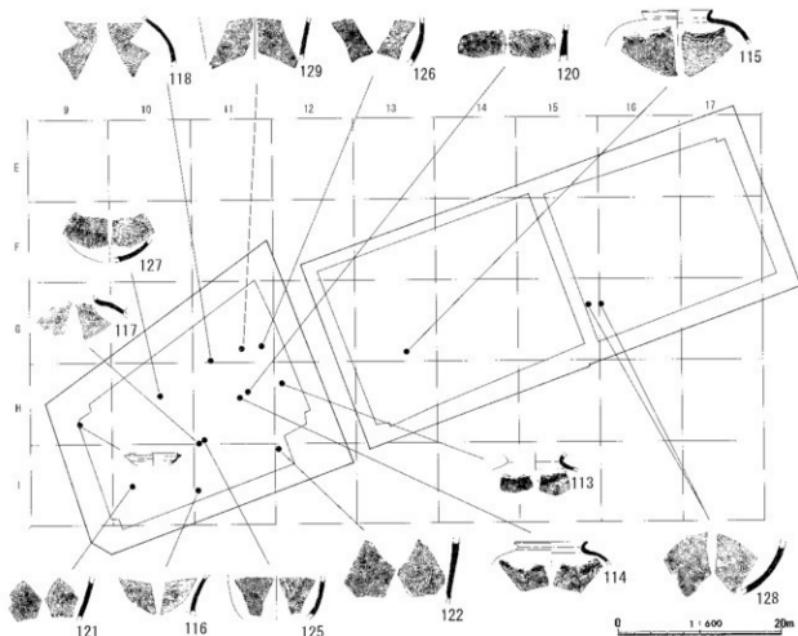
第1節 IA～IC区の調査



第13図 IA区 須恵器(2) (S-1/4)

第5表 IA区土器器観察表①

器物名	地番	年月	種別	器種	寸法	形態・文様の特徴	剖面	胎土	色調	備考
69	11	69	土器器	束 京阪便	8	口縁は内側に、腹部は水平面に張る。	内：不明 外：不明	厚3.5mmの砂 質多量	内：白褐色 (T5V9E/3) 外：浅褐色 (T5V10E/2)	
70	11	69	土器器	束 東坂善 H-11	7	横断面に羽状文を有する。	内：ナラテキヌギ サムヘラヌギ 内：コマヌギ、フ リヌギ	厚3.0mmの砂 質多量	内：黄褐色 (T5V10E/2) 外：黄褐色 (T5V10E/2)	
71	11	69	土器器	束 H-11	7	口縁部外側に縦溝を有する。また、口縁部にシニアヌギを有する。	内：不明 外：不明	厚1.5mmの砂 質多量	内：灰褐色 (S5V9E/2) 外：灰白色 (S5V10E/2)	
72	11	69	土器器	束 G-11	7	口縁部外側に縦溝を有する。	内：ヨウカク 外：ヨウカク	厚0.5mmの砂 質少量	内：浅褐色 (S5V10E/2) 外：浅灰色 (S5V10E/2)	
73	11	69	土器器	束 G-17	5 (17.4)	口縁部は縦向外側に、腹部は水平に張る。	内：ヨウカク、ヘ リヌギ、ナシヌギ	厚0.5mmの砂 質多量	内：灰白色 (S5V10E/2) 外：灰白色 (S5V10E/2)	
74	11	69	土器器	束 F-16, 南坂溝	5 (17.0)	口縁部は縦向外側に張る。 腹部は水平に張る。	内：ヨウカク 外：ヨウカク、ヘ リヌギ	厚0.5mmの砂 質多量	内：灰褐色 (T5V9E/2) 外：深褐色 (T5V10E/2)	
75	11	69	土器器	束 F-16	3	口縁部外側に縦溝を有する。	内：ヨウカク 外：ヨウカク	厚0.5mmの砂 質少量	内：灰褐色 (C5V9E/2) 外：浅褐色 (C5V10E/2)	
76	11	69	土器器	束 F-17	5 (16.2)	口縁内部は肥厚し、腹部は薄い。	内：ヨウカク 外：ヨウカク	厚0.5mmの砂 質多量	内：灰褐色 (G5V9E/2) 外：浅褐色 (G5V10E/2)	
77	11	69	土器器	束 G-14	5 (17.2)	口縁部外側の縦と西南 方向の横溝がある。	内：ヨウカク 外：ヨウカク、ヘ リヌギ	厚0.5mmの砂 質多量	内：深褐色 (C5V9E/2) 外：深褐色 (C5V10E/2)	
78	11	69	土器器	束 F-17	2 (18.4)	口縁部外側に縦と西南 方向の横溝がある。	内：ヨウカク 外：ヨウカク	厚3.5mmの砂 質多量	内：灰褐色 (T5V9E/2) 外：深褐色 (T5V10E/2)	
79	11	69	土器器	束 F-17	5 (17.6)	口縁部外側に縦と西南 方向の横溝がある。	内：ヨウカク 外：ヨウカク	厚3.0mmの砂 質多量	内：灰褐色 (T5V9E/2) 外：灰褐色 (T5V10E/2)	
80	11	69	土器器	束 F-14	5 (20.0)	口縁部外側に縦と西南 方向の横溝がある。	内：ヨウカク 外：ヨウカク	厚0.5mmの砂 質少量	内：灰褐色 (T5V9E/2) 外：灰褐色 (T5V10E/2)	



第14図 I区 古墳時代の須恵器出土状況 (S 1/600)

第6表 I区土器観察表(2)

番号	地名	性質	分類	形質	表面	G.I.度	G.I.度	断面	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	目 標・文様の特徴		刺繡	胎土	色調	備考
												口径	底径	底評	表面		
81	11	69	土器器	腹	北側溝	7						内:ヨコナメ 外:ヨコナメ	46.5mm	内:灰白色 外:灰褐色	(1/600)		
82	11	69	土器器	腹	F-17	5	(17.6)					内:ヨコナメ 外:ヨコナメ	56.4mm	内:灰褐色 外:灰褐色	(1/600)		
83	11	69	土器器	腹	土上							内:ヨコナメ 外:ヨコナメ	52.1mm	内:灰黑色 外:灰褐色	(1/600)		
84	11	69	土器器	腹	F-15	5	(19.6)					内:ヨコナメ 外:ヨコナメ	57.0mm	内:灰褐色 外:灰褐色	(1/600)		
85	11	69	土器器	腹	L-17	5	(27.3)					内:ヨコナメ 外:ヨコナメ	66.5mm	内:灰褐色 外:灰褐色	(1/600)		
86	11	69	土器器	腹	F-17	5	(5.6)					内:ヨコナメ 外:ヨコナメ	56.0mm	内:灰褐色 外:灰褐色	(1/600)		
												内:ヨコナメ 外:ヨコナメ	56.0mm	内:灰褐色 外:灰褐色	(1/600)		
87	11	69	土器器	腹	P-15	5						内:ヨコナメ 外:ヨコナメ	51.0mm	内:灰褐色 外:灰褐色	(1/600)		
88	11	69	土器器	腹	G-17							内:ヨコナメ 外:ヨコナメ	51.5mm	内:灰褐色 外:灰褐色	(1/600)		
89	11	69	土器器	高本	重層ト	7	(16.2)					内:ヨコナメ 外:ヨコナメ	55.0mm	内:灰褐色 外:灰褐色	(1/600)		
90	11	69	土器器	高本	丸環	F-17	5					内:ヨコナメ 外:ヨコナメ	66.0mm	内:灰褐色 外:灰褐色	(1/600)		
91	11	69	土器器	腹	G-17	5						内:ヨコナメ 外:ヨコナメ	56.0mm	内:灰褐色 外:灰褐色	(1/600)		
92	11	69	土器器	高本	重側溝							内:ヨコナメ 外:ヨコナメ	55.0mm	内:灰褐色 外:灰褐色	(1/600)		
93	11	70	土器器	高本	南側溝	9						内:ヨコナメ 外:ヨコナメ	55.0mm	内:灰褐色 外:灰褐色	(1/600)		
94	11	70	土器器	高本	H-10	5						内:ヨコナメ 外:ヨコナメ	55.0mm	内:灰褐色 外:灰褐色	(1/600)		
95	11	70	土器器	高本	7-16	5						内:ヨコナメ 外:ヨコナメ	55.0mm	内:灰褐色 外:灰褐色	(1/600)		
96	11	70	土器器	高本	H-12	7						内:ヨコナメ 外:ヨコナメ	55.0mm	内:灰褐色 外:灰褐色	(1/600)		

第7表 1区土師器觀察表③

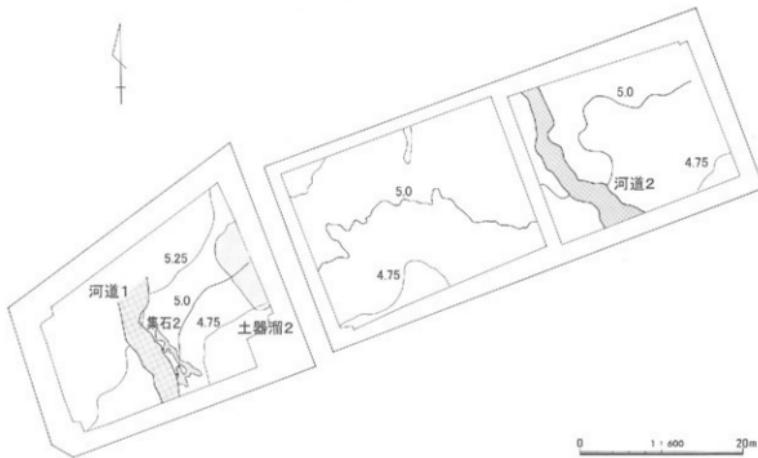
測定番号	測定箇所	種別	器具	土壌量 (g/3個)	寸法 (mm)	形態・支援の状態	調整	仕上	色調	備考	
										内・外	
97	11	70	土壌器	底杯	F-17	5				内・ナメル ナ・ナメル	從1.5mm以上 のものに付
98	11	70	土壌器	底杯	H-17	5 (3.7) (5.3)	4.4	底部は最も内側である		内・ヘリコリト ナ・エナメル、ナメル	福山式の 底杯と同様
99	11	70	土壌器	底杯	H-9	5				内・ナメル ナ・エナメル	内・ナメル
100	11	70	土壌器	底杯	F-17	5 (3.7)				内・ヘリコリト ナ・ヘリコリト	内・ナメル
101	11	70	土壌器	器台	H-13	5 (3.8)		器台部分に外側をもつ		内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
102	11	70	土壌器	器台	F-16	5 (3.5)				内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
103	11	70	土壌器	小型 器	F-10	5 (8.2)		口縁部は底く、外径ら る		内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
104	12	70	酒蒸器	底盤	G-11	7				内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
105	12	70	酒蒸器	底盤	G-11	7 (15.9)		蓋はあまり圓錐しない		内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
106	12	70	酒蒸器	杯	I-11	8 (11.0)		口縁部は底くに立ち 立		内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
107	12	70	酒蒸器	杯	H-10、 P141	7 (11.5)		口縁部は底くに立ち 立		内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
108	12	70	酒蒸器	身舟	G-11	5 (11.7)		口縁部は底くに立ち 立		内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
109	12	70	酒蒸器	身舟	G-11	8 (16.0)		口縁部は底くに立ち 立		内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
110	12	70	酒蒸器	身舟	G-11	7				内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
111	12	70	酒蒸器	身舟	O-11	8				内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
112	12	70	酒蒸器	身舟	H-11-1	7		側面部に方向に向く透 光部を設け		内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
113	12	70	酒蒸器	身舟	H-11-1	7		側面部に透光部をもつ る		内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
114	12	72	酒蒸器	瓶	H-12	7				内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
115	12	72	酒蒸器	瓶	G-18	5 (37.4)		口縁部は底くに立ち 立		内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
116	12	72	酒蒸器	瓶	I-11	7				内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
117	12	72	酒蒸器	瓶	H-11	7				内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
118	12	72	酒蒸器	瓶	G-11、 G-11、 G-11、 G-11、 G-11	7 (5.5) 7 (5.5) 7 (5.5) 7 (5.5) 7 (5.5)				内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
119	12	72	酒蒸器	瓶	G-II- I-11- H-11- H-11- H-11	5 (5.5) 7 (5.5)				内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
120	12	72	酒蒸器	瓶	H-11	7				内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
121	12	72	酒蒸器	瓶	I-10	5				内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
122	12	72	酒蒸器	瓶	I-12	7				内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
123	13	72	酒蒸器	瓶	南切舟	7				内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
124	13	72	酒蒸器	瓶	北削溝	7				内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
125	13	72	酒蒸器	瓶	I-11	7				内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
126	13	72	酒蒸器	瓶	G-11	5 (5.5) 7 (5.5)				内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
127	15	72	酒蒸器	瓶	H-10	8				内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
128	13	72	酒蒸器	瓶	G-15- G-15	7-5				内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル
129	13	72	酒蒸器	瓶	G-11	7				内・ナメル ナ・ナメル	内・ナメル

(4) 奈良・平安時代前半の遺構・遺物

奈良時代から平安時代前半の遺物は、それ以前の遺物に比べて出土数量が大幅に増加する。特にI B区の東側では7・8層で9世紀の須恵器・土師器がまとまって出土した。また、7層掘削後に9世紀の遺物が出土した集石2を検出し、同時期の自然流路と見られる河道1・2が青灰色粘質土を掘り込んでいるので、河道1よりも東側では8層の上面が9世紀以降の遺構面と考えられる。I C区では5b層掘削後に8層上面でいくつか柱穴を検出したが、上層で検出できなかった柱穴の可能性もあり建物を復元できなかった。遺物は須恵器・土師器の坏類が多く出土したほか、製塙土器がまとめて出土した点が注目される。

参考文献

- 4 島根県教育委員会 『高広遺跡発掘調査報告書』 1984
- 5 島根県教育委員会 『西川津遺跡VII』 2001
- 6 出雲市教育委員会 『上長浜貝塚』 1996



第15図 I区 奈良・平安時代前半の遺構 (S=1/600)

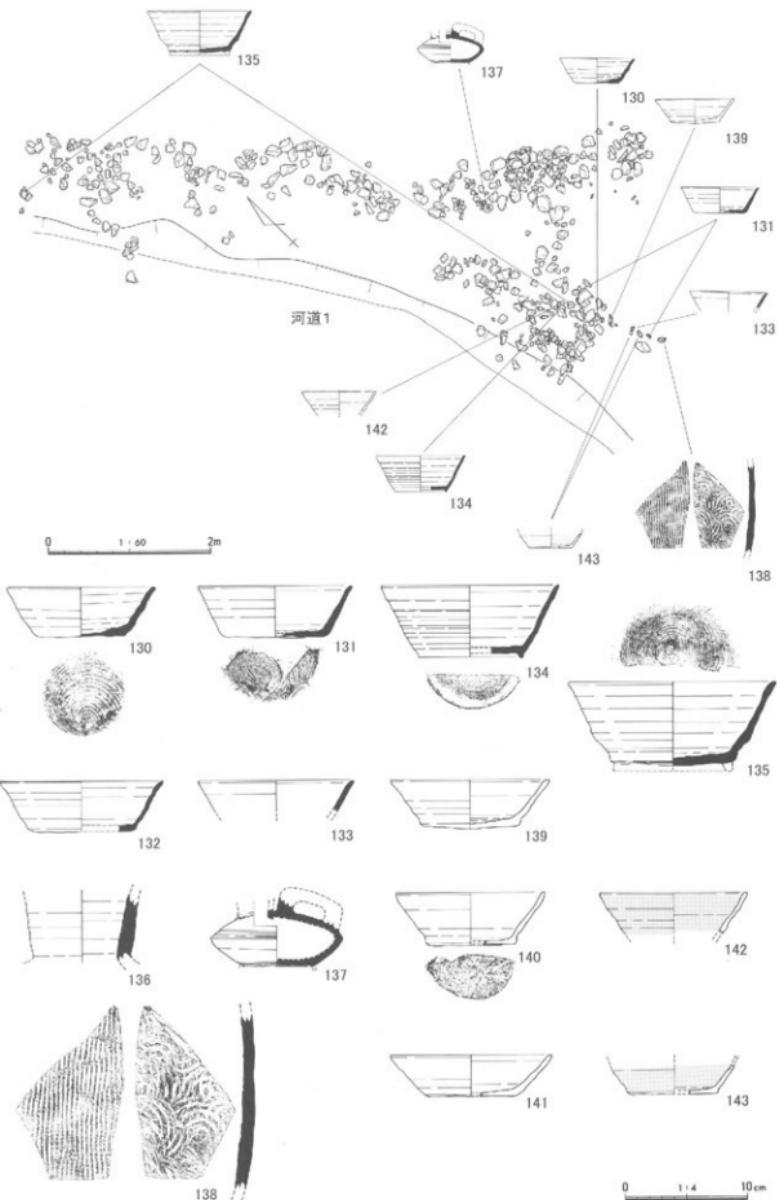
集石2(第16図、写真図版22・23)

IB区のH11~H11グリッドの6層上面で、長さ7.9m、幅0.6~0.8mの範囲で拳大から人頭大の石がまとまって出土した。明確な並びや振り方などは確認できなかったが、検出状況から人的に並べられた可能性が高い。石の間からは須恵器と土師器が出土している。須恵器の坏(130~135)は体部が直線的に伸び、口縁部は僅かに外反する。底部外縁に高台を貼り付ける134は他の須恵器に比べ焼成が良く、胎土も異なる。135は底部に高台が剥離した痕跡があり、切り離しは回転糸切りではなくヘラ切りである。内面の見込み部にはカキメの痕が明確に残る。土師器の坏(139~143)は須恵器の坏とほぼ同じ寸法で、内面にカキメの痕が残る。142・143は赤彩の痕が確認できる。

集石2の性格は、ほぼ同時期の自然流路と見られる河道1に隣接して検出した点から、護岸施設の可能性が考えられる。

第8表 IC区集石2出土遺物観察表

遺物番号	地図番号	基準番号	埋削	器種	GSI地質	層次	寸 高さ 厚さ 幅さ 深さ	形態・文様の特徴	表面	胎土	色調	備考
130	16	73	須恵器 环	集石2	下層	12.0	7.0	4.3	口縁部は僅く外反する 底部外縁に高台を貼り付ける	内：凹凸ナギ、テ クスチャナギ、凹 凸ナギ	灰褐色(7.5YR10/2) 灰白色(7.5YR10/1)～ 暗灰色(5.5V)	
131	16	73	須恵器 环	集石2	下層	(12.5)	8.0	4.2	口縁部は僅く外反する 底部外縁に高台を貼り付ける	内：凹凸ナギ、テ クスチャナギ、凹 凸ナギ	灰褐色(7.5YR10/2) 灰白色(7.5YR10/1)～ 暗灰色(5.5V)	
132	16	73	須恵器 环	集石2	下層	13.4	8.9	4.5	口縁部は僅く外反する 底部外縁に高台を貼り付ける	内：凹凸ナギ、テ クスチャナギ、凹 凸ナギ	灰褐色(7.5YR10/2) 灰白色(7.5YR10/1)～ 暗灰色(5.5V)	
133	16	73	須恵器 环	集石2	下層	(12.6)			内：凹凸ナギ 外：凹凸ナギ	灰褐色(7.5YR10/2) 灰白色(7.5YR10/1)～ 暗灰色(5.5V)		
134	16	73	須恵器 环	集石2	下層	(12.4)	8.5	4.9	底部外縁に高台を貼り付ける	内：凹凸ナギ、テ クスチャナギ、凹 凸ナギ	灰褐色(7.5YR10/2) 灰白色(7.5YR10/1)	
135	16	73	須恵器 环	集石2	下層	(12.4)	8.5	4.9	底部外縁に高台を貼り付ける	内：凹凸ナギ、テ クスチャナギ、凹 凸ナギ	灰褐色(7.5YR10/2) 灰白色(7.5YR10/1)	
136	16	73	須恵器 环	集石2	中	(15.6)			内：凹凸ナギ、テ クスチャナギ、凹 凸ナギ	灰褐色(7.5YR10/2) 灰白色(7.5YR10/1)	土師器と 同じく	
137	16	78	須恵器 半盤	集石2					内：凹凸ナギ、テ クスチャナギ、凹 凸ナギ	灰褐色(7.5YR10/2) 灰白色(7.5YR10/1)		
138	16	78	須恵器 環	集石2	下層				内：凹凸ナギ、テ クスチャナギ、凹 凸ナギ	灰褐色(7.5YR10/2) 灰白色(7.5YR10/1)		
139	16	78	土師器 环	集石2	下層	(13.0)	(7.4)	4.1	内：同心丸文ナギ 外：平行ナギ	灰褐色(7.5YR10/2) 灰白色(7.5YR10/1)		
140	16	73	土師器 环	集石2	下層	(12.0)	(9.0)	4.4	内：凹凸ナギ、テ クスチャナギ、凹 凸ナギ	灰褐色(7.5YR10/2) 灰白色(7.5YR10/1)		
141	16	73	土師器 环	集石2	下層				内：凹凸ナギ、テ クスチャナギ、凹 凸ナギ	灰褐色(7.5YR10/2) 灰白色(7.5YR10/1)		
142	16	73	土師器 环	集石2	下層	(11.9)			内：凹凸ナギ、テ クスチャナギ、凹 凸ナギ	灰褐色(7.5YR10/2) 灰白色(7.5YR10/1)	赤彩	
143	16	73	土師器 环	集石2	下層				内：凹凸ナギ、テ クスチャナギ、凹 凸ナギ	灰褐色(7.5YR10/2) 灰白色(7.5YR10/1)	赤彩	



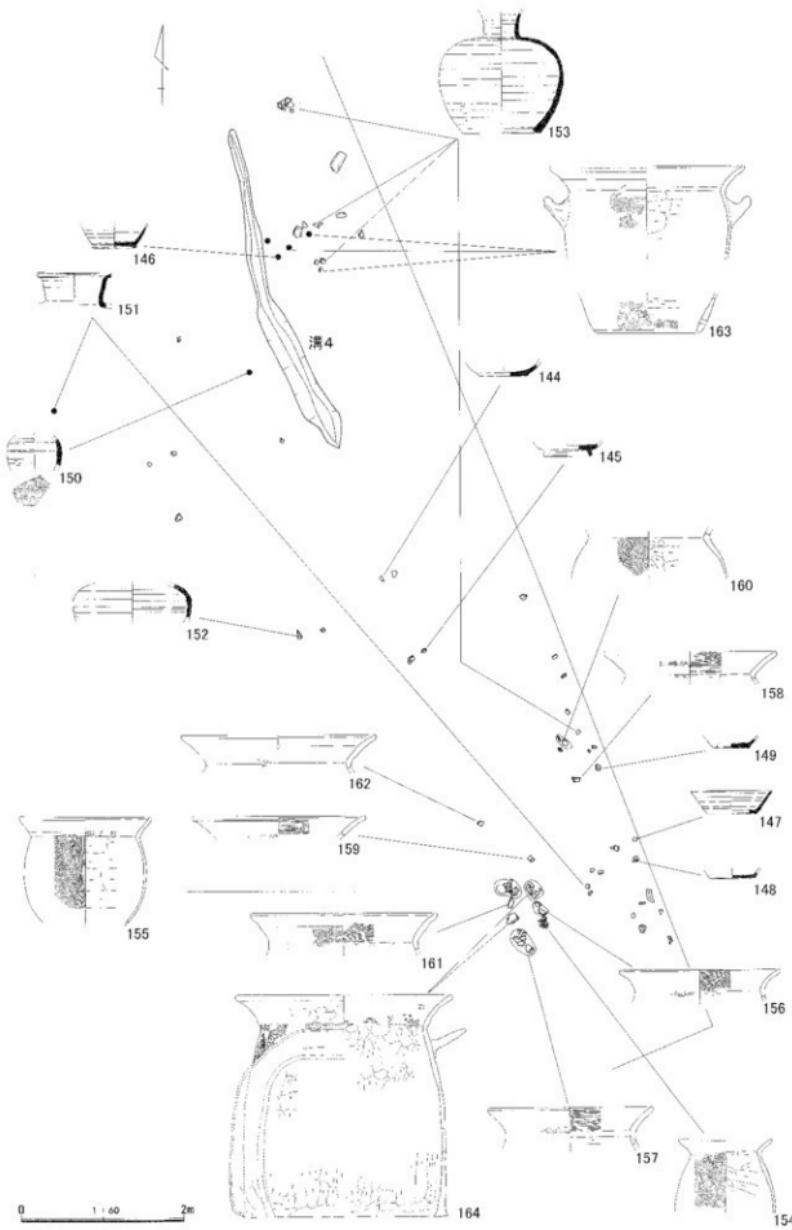
第16図 I区 集石2 (S=1/60、遺物は S=1/4)

土器漬2（第17～19図、写真図版24）

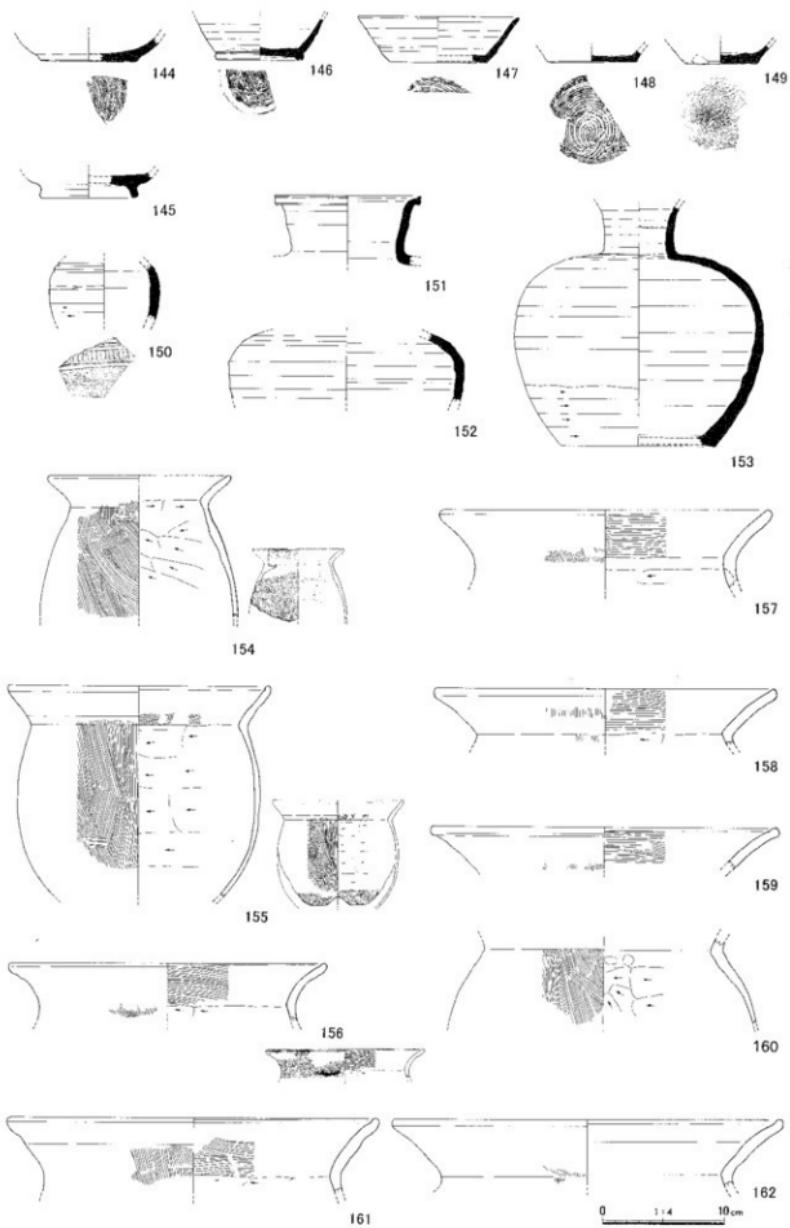
1B区のG12～H12グリッドでは、8層掘削時に他のグリッドに比べ土器がまとめて出土した。特に東壁付近でまとまりが見られたので土器漬2として取り上げた。これらの遺物は、一部他の時代の土器が混じるが8世紀後半から9世紀頃の土器が中心で、土師器の点炊き具（154～164）が多く見られた。土師器の口縁部は、甕・瓶・壺とともに端部が肥厚したり上方に僅かに屈曲し、非常に良く似た胎上・作りをしている。このため口縁部のみでは器種を判断しきれなかったので、口縁部のみのものは便宜上甕に分類した。163は盤で短く屈曲する把手が付き、胸部下位には4個以上的小孔が開けられる。壺164は小片になっており甕との区別が困難だったが、内面にのみシマ状に炭化物が付着することから甕と判断した。器壁の厚さが5～8mmと薄く、県内でもあまり例を見ない。

第9表 1区土器漬2出土遺物観察表

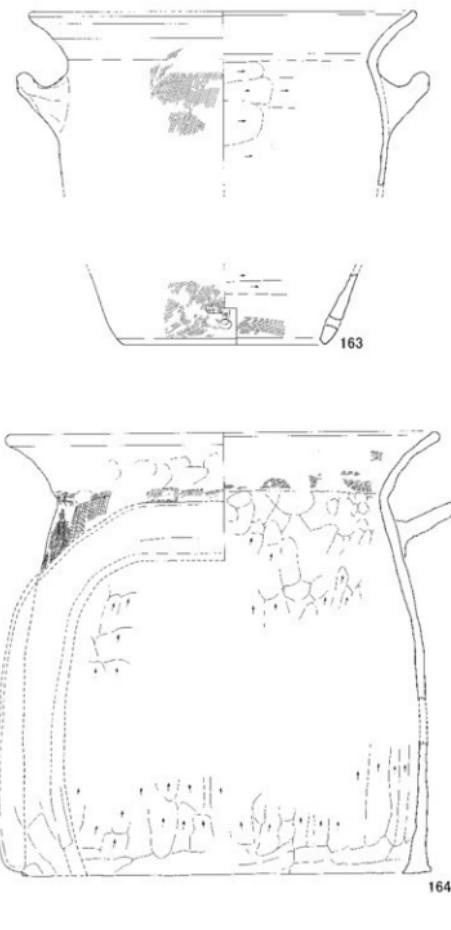
件番 番号	地名 番号	種別	透視	当社地名 (a)透視	層位	4. 法則(透視) 回転 直線 曲線	形態・文様の特徴	調査	出土	色調	四考
141	18	74	須德器	甕	H-12	8	(8.0)	内：縦肋ナメ、サクナメ、横肋ナメ、内：縦肋ナメ、サクナメ、横肋ナメ	17.25mmの甕、内：灰褐色、外：灰褐色、内：灰褐色		
145	18	74	須德器	瓶	H-12	8	(8.1)	内：縦肋ナメ、サクナメ、横肋ナメ	内：灰褐色、外：灰褐色、内：灰褐色		
146	19	74	須德器	瓶	G-11	8	(7.8)	肩舟部の微特徴あり	17.0mm以下 内：縦肋ナメ、サクナメ、横肋ナメ	内：灰褐色、外：灰褐色、内：灰褐色	
147	16	76	須德器	甕	H-12	8	(13.2) (7.8)	内：縦肋ナメ、サクナメ、横肋ナメ	内：灰褐色、外：灰褐色、内：灰褐色		
148	18	74	須德器	甕	H-12	8	7.5	内：縦肋ナメ、サクナメ、横肋ナメ	内：灰褐色、外：灰褐色、内：灰褐色		
149	18	74	須德器	甕	H-12	8	(5.9)	内：縦肋ナメ、サクナメ、横肋ナメ	内：灰褐色、外：灰褐色、内：灰褐色		
150	18	74	須德器	甕	G-11	8		甕底に3条の弦紋を有し、その間に斜引きの刻文を有す。	内：灰褐色、外：灰褐色、内：灰褐色		
151	18	74	須德器	甕	G-11 H-12 H-12 H-12 H-12 H-12	3 5 8	(12.1)	内：横肋ナメ、外：縦肋ナメ	内：灰褐色、外：灰褐色		
152	16	76	須德器	甕	H-11 H-12	6	6.8	内：縦肋ナメ、外：横肋ナメ	16.0mmの甕 内：灰褐色、外：灰褐色		
153	18	74	須德器	甕	G-11 H-10 H-12 H-12 H-12 H-12	3 9 5 7 8	(12.8)	口縁部は中央寄りなし、甕底は丸く張る。底部は凹形。	内：縦肋ナメ、横肋ナメ 内：縦肋ナメ、横肋ナメ 内：縦肋ナメ、横肋ナメ	内：灰褐色、外：灰褐色	
154	18	75	土師器	甕	H-12	8	(15.0)	口縁部は軽く立ち、肩部は丸く張る。	内：縦肋ナメ、横肋ナメ 内：縦肋ナメ、横肋ナメ	内：灰褐色、外：灰褐色	
155	18	74	土師器	甕	H-12 H-11	8	(21.4)	口縁部は軽く立ち、肩部は丸く張る。	内：縦肋ナメ、横肋ナメ 内：縦肋ナメ、横肋ナメ	内：灰褐色の甕 内：灰褐色	
156	18	75	土師器	甕	H-12	8	(20.2)	口縁部は軽く立ち、肩部は丸く張る。	内：縦肋ナメ、横肋ナメ 内：縦肋ナメ、横肋ナメ	内：灰褐色、外：灰褐色	
157	18	75	土師器	甕	H-12	8	(27.2)	口縁部は軽く立ち、肩部は丸く張る。	内：縦肋ナメ、横肋ナメ 内：縦肋ナメ、横肋ナメ	内：灰褐色、外：灰褐色	
158	18	73	土師器	甕	H-12	8	(28.2)	口縁部は軽く立ち、肩部は丸く張る。	内：縦肋ナメ、横肋ナメ 内：縦肋ナメ、横肋ナメ	内：灰褐色、外：灰褐色	
159	18	73	土師器	甕	H-12	8	(25.0)	内：縦肋ナメ、横肋ナメ 内：縦肋ナメ、横肋ナメ	内：灰褐色、外：灰褐色		
160	19	75	土師器	甕	H-12	8		内：縦肋ナメ、横肋ナメ 内：縦肋ナメ、横肋ナメ	内：灰褐色、外：灰褐色		
161	18	75	土師器	甕	H-11 H-12	8	(30.6)	口縁部は軽く立ち、肩部は丸く張る。	内：縦肋ナメ、横肋ナメ 内：縦肋ナメ、横肋ナメ	内：灰褐色、外：灰褐色	
162	18	75	土師器	甕	H-11 H-12	7 8	(31.8)	口縁部は軽く立ち、肩部は丸く張る。	内：縦肋ナメ、横肋ナメ 内：縦肋ナメ、横肋ナメ	内：灰褐色、外：灰褐色	
163	19	75	土師器	甕	G-11	8	(31.0)	口縁部は軽く立ち、肩部は丸く張る。	内：縦肋ナメ、横肋ナメ 内：縦肋ナメ、横肋ナメ	内：灰褐色、外：灰褐色	
164	19	76	土師器	甕	H-12	8	(35.2) (33.8)	口縁部は軽く立ち、肩部は丸く張る。	内：縦肋ナメ、横肋ナメ 内：縦肋ナメ、横肋ナメ	内：灰褐色、外：灰褐色	上作成



第17図 1区 土器満2 (S=1/30)



第18図 T区 土器窯2出土遺物① (S=1/4)



第19図 I区 土器窓2出土遺物② (S-1/4)

河道1・2 (第15・20図、写真図版5・25~28)

I A区～I C区では3a・3b層掘削後に、大小の礫を大量に含む5a・5b・7層を検出した。これらの礫層を掘削すると青灰色粘質土(6・8層)の面で溝状のプランが検出された。このようなプランは調査区内で5か所確認し、土層断面でのみ認識できる浅い溝を含めるとさらに多数存在したと考えられる。このうち1B区で検出した溝は河道1とし、形状や床面の傾斜から遺跡北側の谷間から南に向かって流れる自然流路と判断した。調査の結果遺構内からは弥生時代から平

第1節 I A～I C区の調査

安時代前半の遺物（165～183）が出上した。河道1の時期は床面と東側岸部分で9世紀頃の須恵器・土師器が出土したので、平安時代前半頃までと考えられ、この流路が氾濫して北山から大小の礫が運ばれた時期はそれ以降と推測される。

I C区東で検出した河道2は、調査区北壁と3か所に設定したトレンチの上層観察から河道1と同様の自然流路と判断し、調査はプランを検出するにとどめた。河道2の時期はトレンチ内で出土した土師器環188の特徴から河道1とはほぼ同じ頃と判断される。

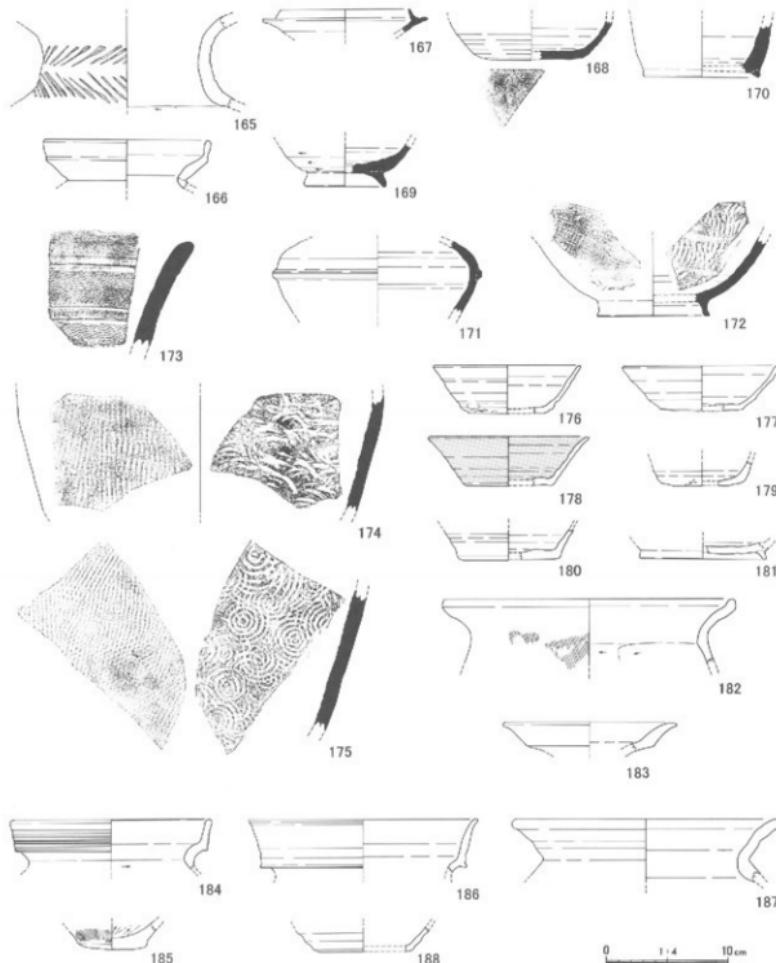
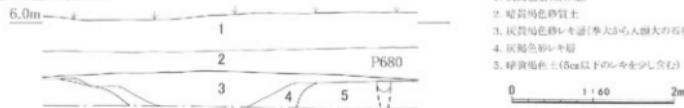
第10表 I 河道1出土遺物観察表

遺物番号	地図番号	河面高さ	傾斜	基盤	地土地名	位置	寸法(cm)	形態・文様の特徴	剖面	船土	色調	備考
165	20	77	土師器	壇	河道1			無記	内：コマクアツ模様、外：ヘラギズ、内：コマクアツ	壁1mの砂質 少量	内：黄褐色 G-EY87/0 外：灰褐色 G-EY87/0	
166	20	77	土師器	壇	河道1	(13.8)		口縁部に丸み、縁部に溝を作つ、底付 なし	内：コマクアツ 外：コマクアツ	壁3.5mの砂質 少量	内：深灰色 G-EY87/0 外：灰褐色 G-EY87/0	古墳時代 中期
167	20	77	須恵器	舟身	河道1	(19.6)		内側に高く外側に低く 内側に溝を作つ	内：コマクアツ 外：コマクアツ	壁0.5mの砂 質多量	内：黄褐色 G-EY87/0 外：灰褐色 G-EY87/0	
168	20	77	須恵器	舟身	II-10、 河道1	(8.3)		口縁部は後で内側に溝を作つ	内：コマクアツ 外：コマクアツ	壁0.5mの砂 質多量	内：深灰色 G-EY87/0 外：灰褐色 G-EY87/0	
169	20	77	土師器	壇	河道1	(8.8)		底面に溝を作り付け る	内：コマクアツ 外：コマクアツ、内：ヘラギズ	壁1mの砂質 少量	内：深灰色 G-EY87/0 外：灰褐色 G-EY87/0	
170	20	77	須恵器	壇	II-10、 河道1	(3.6)		底面に糞を落とされて る	内：コマクアツ 外：コマクアツ、内：ヘラギズ	壁0.5mの砂 質多量	内：深灰色 G-EY87/0 外：灰褐色 G-EY87/0	
171	20	77	須恵器	壇	II-10、 河道1			輪孔等大直径孔は表面 を削除せざりける	内：コマクアツ 外：コマクアツ	壁0.5mの砂 質少量	内：深灰色 G-EY87/0 外：灰褐色 G-EY87/0	半腹の可 能性有り
172	20	77	須恵器	舟身	II-10、 河道1			内：底面側溝を作つ 内：コマクアツ、外：ヘラギズ	壁3.5mの砂質 少量	内：灰褐色 G-EY87/0 外：灰褐色 G-EY87/0		
173	20	77	須恵器	壇	河道1			口縁部等に泥を付 けた跡がある	内：コマクアツ 外：コマクアツ	壁0.5mの砂 質多量	内：黄褐色 G-EY87/0 外：灰褐色 G-EY87/0	
174	20	77	須恵器	壇	河道1			内：底面側溝を作つ 内：コマクアツ	壁0.5mの砂 質少量	内：灰褐色 G-EY87/0 外：灰褐色 G-EY87/0		
175	20	77	須恵器	壇	II-10、 河道1			内：底面側溝を作つ 内：コマクアツ	壁0.5mの砂 質多量	内：灰褐色 G-EY87/0 外：灰褐色 G-EY87/0		
176	20	77	土師器	壇	II-10、 河道1	(11.9) (7.2) 4.0		内：コマクアツ 外：コマクアツ、内：ヘラギズ	壁0.5mの砂 質少量	内：灰褐色 G-EY87/0 外：灰褐色 G-EY87/0		
177	20	77	土師器	壇	II-10、 河道1	(12.0) (6.9) 3.7		内：コマクアツ 外：コマクアツ、内：ヘラギズ	壁0.5mの砂 質少量	内：灰褐色 G-EY87/0 外：灰褐色 G-EY87/0		
178	20	77	土師器	壇	II-10、 河道1	(18.2) (7.6)		内：コマクアツ 外：コマクアツ、内：ヘラギズ	壁0.5mの砂 質少量	内：灰褐色 G-EY87/0 外：灰褐色 G-EY87/0	西面	
179	20	77	土師器	壇	II-10、 河道1	(7.0)		内：コマクアツ 外：コマクアツ、内：ヘラギズ	壁3.5mの砂 質多量	内：灰褐色 G-EY87/0 外：灰褐色 G-EY87/0		
180	20	77	土師器	壇	II-10、 河道1	(8.1)		内：コマクアツ 外：コマクアツ、内：ヘラギズ	壁0.5mの砂 質少量	内：灰褐色 G-EY87/0 外：灰褐色 G-EY87/0		
181	20	77	土師器	壇	II-10、 河道1	(10.4)		内：コマクアツ 外：コマクアツ、内：ヘラギズ	壁3.5mの砂 質少量	内：灰褐色 G-EY87/0 外：灰褐色 G-EY87/0		
182	20	77	土師器	壇	II-10、 河道1	(25.0)		内：コマクアツ 外：コマクアツ	壁3.5mの砂 質多量	内：灰褐色 G-EY87/0 外：灰褐色 G-EY87/0	古代	
183	20	77	土師器	壇	II-10、 河道1	(14.2)		内：コマクアツ 外：コマクアツ	壁0.5mの砂 質多量	内：灰褐色 G-EY87/0 外：灰褐色 G-EY87/0		

第11表 I 河道2出土遺物観察表

遺物番号	地図番号	河面高さ	傾斜	基盤	地土地名	位置	寸法(cm)	形態・文様の特徴	剖面	船土	色調	備考
184	20	78	須恵器	壇	河20m 左岸	(16.5)		口縁部に溝の内側を削 除する	内：コマクアツ、外：コマクアツ	壁1mの砂質 少量	内：黄褐色 G-EY87/0 外：灰褐色 G-EY87/0	V-II様式
185	20	78	須恵器	不規	河20m 左岸		5.5	底面が削れる	内：コマクアツ、外：コマクアツ	壁3.5mの砂 質多量	内：灰褐色 G-EY87/0 外：灰褐色 G-EY87/0	V-I様式
186	20	78	須恵器	不規	河20m 左岸	(18.8)		口縁部は内側に、底は 一方に削り取る	内：コマクアツ、外：コマクアツ	壁3.5mの砂 質多量	内：灰褐色 G-EY87/0 外：灰褐色 G-EY87/0	V-IV様式
187	20	78	土師器	壇	河20m 中央 右岸	(7.8)		口縁部の埋め、舟の 底は削除的である	内：コマクアツ 外：コマクアツ	壁3.5mの砂 質多量	内：灰褐色 G-EY87/0 外：灰褐色 G-EY87/0	古墳時代 中期か？
188	20	78	土師器	壇	河20m 中央 左岸	(7.8)		口縁部の埋め、舟の 底は削除的である	内：コマクアツ 外：コマクアツ	壁3.5mの砂 質多量	内：灰褐色 G-EY87/0 外：灰褐色 G-EY87/0	

河道2北壁土層断面



第20図 I区 河道出土遺物 (S=1/4)

遺構に伴わない遺物（第22～25図）

奈良・平安時代前半の遺物は、8層まで掘削したIB区で最も多く出土した。須恵器の坏類（189～214）は蓋の点数が少なく、坏身は底部を回転糸切りし外縁に高台を貼り付けるものが多く出土している。197はIC区東の北側溝内で出土し、内面に「伊」の墨書きがある。回転ヘラケズリが施されており、8世紀の坏蓋の可能性もある。219は器形から碗としたもので、胎土・色調・調整が他のものと大きく異なる。壺類（220～230）は企形の分かる資料が無いが、胴部最大径部分に突帯を貼り付けるものが数点出土している。220は口縁部や把手の痕跡が無いので壺としたが半瓶の可能性もある。壺（231～236）は胴部の小片が多く、タタキの特徴で平安時代のものと判断した。灰釉陶器は碗（238）と壺類（239）が1点ずつ出土している。

上器師は坏・皿類（240～259）が多く出土した。中でも245～257のように体部と見込み部にカキメを施し底部はヘラ切り後ナテを施すタイプの坏が最も多く出土している。高台の付くものと無いものがあり、それぞれ赤彩するものもある。258・259は坏と同じ作りの皿で、確認した数は坏に比べて非常に少ない。壺（261～271）はいずれも小片で全形の分かることは無かった。製塩土器（274～285）はIB区の東側で特にまとまって出土した。非常に良く焼けており、外表面が須恵質に変化したものも見られる。286～291は器形が須恵器の坏に近いものや胎土に砂粒を多く含むもの、7層以下で出土したもので、11世紀以前のものと判断した。292はIC区西のF14グリッドで5b層掘削中に出土した石鈴で、外表面は非常に丁寧に磨かれている。

第12表 IA奈良時代・平安時代前半の遺物観察表①

番号	発見番号	刀印	目印	種別	器種	出土地点 G-C-4	層番	寸法(cm) H-W-L	寸法(cm) H-W-L	寸法(cm) H-W-L	形態	文様	胎土	色調	備考
189	22	79	-	須恵器	坏蓋	I-10	5	(15.5)	-	3.2	譽被つよみ。	内：回転ヘラケズリ 外：ヘラ切りナテ 底：内側にカスミが付いてる。	縦15cm×横12cm のち横10cm	内：灰青色 (35Y6/3) 外：灰褐色 (35Y6/1)	
190	22	79	-	須恵器	坏蓋	I-11	7	-	-	-	譽被つよみ口上部に直 角突起を持つ。	内：回転ヘラケズリ 外：ヘラ切りナテ 底：内側にカスミが付いてる。	縦15cm×横12cm のち横10cm	内：灰青色 (35Y6/3) 外：灰褐色 (35Y6/1)	
191	22	79	-	須恵器	坏蓋	G-15	8	(16.0)	-	-	口縁部内面に小孔があり 付ける。	内：回転ヘラケズリ 外：ヘラ切りナテ	縦15cm以下の 横幅約12cm	内：灰青色 (35Y6/3) 外：灰褐色 (35Y6/1)	
192	22	79	-	須恵器	坏蓋	I-7	7	-	-	-	口縁部は下方に凹む する。	内：回転ヘラケズリ 外：ヘラ切りナテ 底：ヘラ切りナテ	縦15cm×横 12cm	内：灰青色 (35Y6/3) 外：灰褐色 (35Y6/1) ~灰 褐色 (35Z6/1)	
193	22	79	-	須恵器	坏蓋	H-1	-	-	-	-	月曲に1箇所の直孔と ××状の吹き抜きを有す。	内：回転ヘラケズリ 外：ヘラ切りナテ 底：ヘラ切りナテ	縦15cm以下の 横幅約12cm	内：灰青色 (35Y6/3) 外：灰褐色 (35Y6/1)	
194	22	79	-	須恵器	坏蓋	G-11	8	(19.4)	-	-	口縁部をなした方につ ままだ。	内：回転ヘラケズリ 外：ヘラ切りナテ 底：ヘラ切りナテ	縦15cm×横12cm のち横10cm	内：灰青色 (35Y6/3) 外：灰褐色 (35Y6/1)	
195	22	79	-	須恵器	坏蓋	H-11	8	(17.9)	-	-	口縁部を保たつ2 点止め。	内：回転ヘラケズリ 外：ヘラ切りナテ	縦15cm以下の 横幅約12cm	内：灰青色 (35Y6/3) 外：灰褐色 (35Y6/1)	
196	22	79	-	須恵器	蓋	H-11	7	(18.0)	-	-	口縁部を保たつ2 点止め。	内：回転ヘラケズリ 外：ヘラ切りナテ 底：ヘラ切りナテ	縦15cm×横 12cm	内：灰青色 (35Y6/3) 外：灰褐色 (35Y6/1)	
197	22	79	-	須恵器	坏	E-17	-	-	-	-	口縁部を保たつ2 点止め。	内：回転ヘラケズリ 外：ヘラ切りナテ 底：ヘラ切りナテ	縦15cm×横 12cm	内：灰青色 (35Y6/3) 外：灰褐色 (35Y6/1)	内：灰 褐色 (35Y6/1) 外：灰褐色 (35Y6/1)
198	22	79	-	須恵器	坏	H-10	7	(14.0)	(8.6)	4.2	-	内：回転ヘラケズリ 外：ヘラ切りナテ 底：ヘラ切りナテ	縦15cm×横 12cm	内：灰青色 (35Y6/3) 外：灰褐色 (35Y6/1)	内：灰 褐色 (35Y6/1) 外：灰褐色 (35Y6/1)
199	22	79	-	須恵器	坏	H-10	7	-	-	-	口縁部を保たつ2 点止め。	内：回転ヘラケズリ 外：ヘラ切りナテ 底：ヘラ切りナテ	縦15cm×横 12cm	内：灰青色 (35Y6/3) 外：灰褐色 (35Y6/1)	
200	22	79	-	須恵器	蓋	G-11	6	-	(6.6)	-	-	内：回転ヘラケズリ 外：ヘラ切りナテ 底：ヘラ切りナテ	縦15cm×横 12cm	内：灰青色 (35Y6/3) 外：灰褐色 (35Y6/1)	
201	22	79	-	須恵器	蓋	G-11	6	-	(7.6)	-	-	内：回転ヘラケズリ 外：ヘラ切りナテ 底：ヘラ切りナテ	縦15cm×横 12cm	内：灰青色 (35Y6/3) 外：灰褐色 (35Y6/1)	
202	22	79	-	須恵器	蓋	G-13	5	H-13	-	(7.0)	底部外縁二箇所を切り 削げる。	内：回転ヘラケズリ 外：ヘラ切りナテ 底：ヘラ切りナテ	縦15cm×横 12cm	内：灰青色 (35Y6/3) 外：灰褐色 (35Y6/1)	

第13表 I区奈良時代・平安時代前半の遺物観察表②

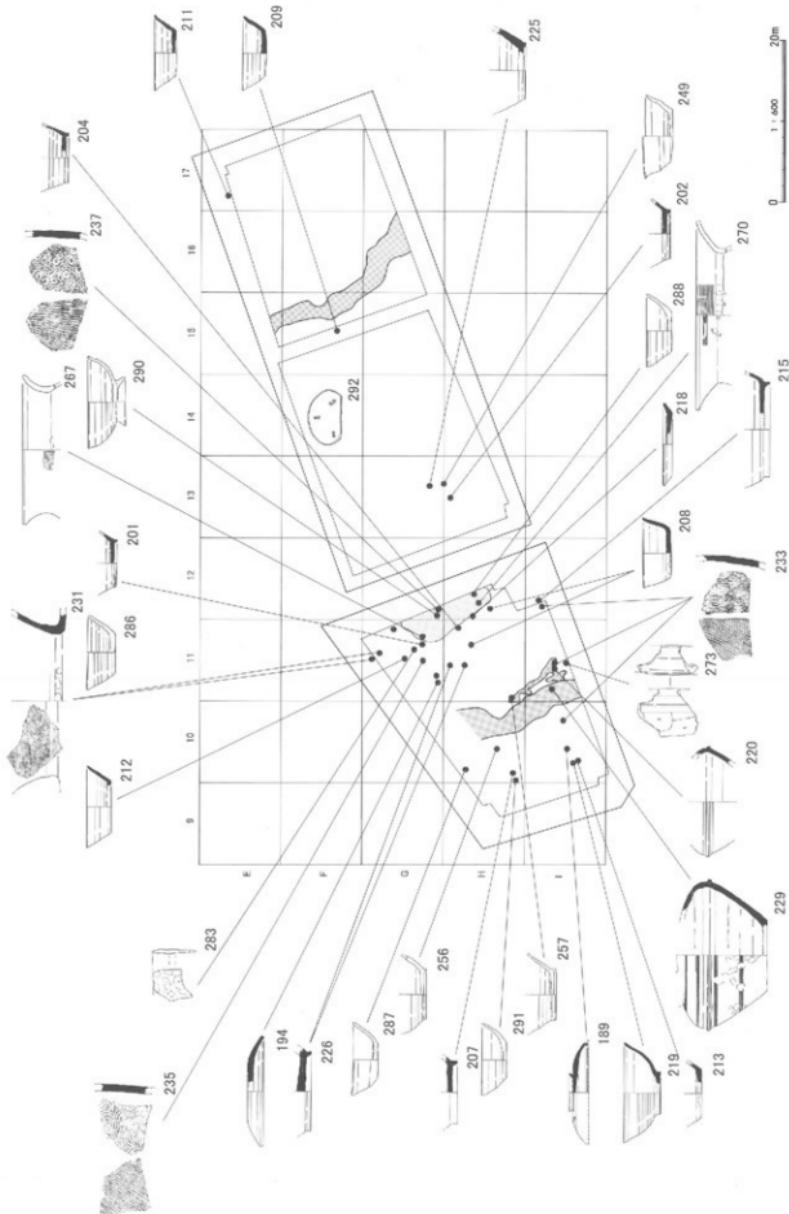
遺物 番号	開 拓 年	考古 学 名	種別	器種	瓦土色 (赤/白)	層位	法(cm)		形質・文様の特徴	調整	鉢土	四四	備考	
							口径	底径						
203	22	79	須恵器	両台 付环	H 30	3・5	(8.1)		西台部の底面が溝 及び凹凸がある。	内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	器底に斜下 の傾斜がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)		
204	22	79	須恵器	金た 付环	H-11	7	(6.2)			内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	器底に斜下 の傾斜がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)		
205	22	79	須恵器	両台 付环	H-11	7	(10.0)			内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	器底に斜下 の傾斜がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)		
206	22	79	須恵器	両台 付环	G 11	7	(9.5)		西台部の底面が溝 及び凹凸がある。	内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	器底に斜下 の傾斜がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)		
207	22	79	須恵器	両台 付环	H-13	5	(10.2)			内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	器底に斜下 の傾斜がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)		
208	22	78	須恵器	环	H-11・ 12・G- 11	7	(11.5) (8.4) 47			内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	器底に斜下 の傾斜がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)		
209	22	78	須恵器	环	F-15	6	(12.0)	7.7	3.9	口縁部は外反する。 内縁部は内反する。	内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	器底に斜下 の傾斜がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)	
210	22	79	須恵器	环	G 11	7	(11.1) (6.4)	4.5		内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	器底に斜下 の傾斜がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)		
211	22	78	須恵器	环	G-17		(12.0)	7.1	5.6	口縁部は外反する。	内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	器底に斜下 の傾斜がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)	
212	22	79	須恵器	环	G-11・ H-12		(13.4)	(8.6)	4.65		内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	器底に斜下 の傾斜がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)	
213	22	79	須恵器	环	I-10	5	(8.0)			内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	器底に斜下 の傾斜がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)		
214	22	79	須恵器	环	G-11	7	(9.0)			内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	器底に斜下 の傾斜がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)		
215	22	79	須恵器	环	I-12		(15.4)			底部に両台を有する。	内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	器底に斜下 の傾斜がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)	
216	22	80	須恵器	环	G-11		(13.2)	(8.2)	2.4		内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	器底に斜下 の傾斜がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)	
217	22	80	須恵器	环	唐物附 酒内		(15.5)	(8.0)	2.8		内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	器底に斜下 の傾斜がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)	
218	22	80	須恵器	环	H 15	7	(15.6) (10.2)	1.6			内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	器底に斜下 の傾斜がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)	
219	22	80	須恵器	环	I-10	5	(15.7)	(7.0)	6.3		内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	器底に斜下 の傾斜がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)	
220	23	80	須恵器	环	I-11	7				器底に斜下 の傾斜がある。	内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)	平底の可 能性有り	
221	23	80	須恵器	环	G-15・ H-10	3・5*	7・5*			器底に斜下 の傾斜がある。	内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)		
222	23	80	須恵器	両台 付环	博士(1)		(9.6)			底部に両台を有する。 両台部は斜面である。	内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	器底に斜下 の傾斜がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)	
223	23	80	須恵器	环	G 11	7	(5.8)			底部に両台を有する。	内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	器底に斜下 の傾斜がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)	
224	25	80	須恵器	环	L-10・ H-10	2.5	(10.2)			底部に両台を有する。	内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	器底に斜下 の傾斜がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)	
225	23	80	須恵器	环	G-15	5	(9.2)			底部に両台を有する。	内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	器底に斜下 の傾斜がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)	
226	23	80	須恵器	环	H-11・ I-11	7・16	(12.8)			底部に両台を有する。	内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	器底に斜下 の傾斜がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)	
227	23	80	須恵器	両台 付环	吳志 酒内		(16.0)				内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	器底に斜下 の傾斜がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)	
228	23	80	須恵器	环	1-11	8-16	(14.4)		千枚		内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	器底に斜下 の傾斜がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)	
229	23	80	須恵器	平底	I-9・1 II-10	3・5*	(11.6)			器底に斜下 の傾斜がある。	内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	器底に斜下 の傾斜がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)	
230	23	80	須恵器	平底	II-10	3・5*	11・G- 11	7		器底に斜下 の傾斜がある。	内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	器底に斜下 の傾斜がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)	
231	23	81	須恵器	环	G-11	7-16				内: 四角ナメ 外: 圓筒ナメ、斜 面の凹凸がある。	器底に斜下 の傾斜がある。	内: 黄色 (NA/3) 外: 灰色 (337/1)		

第14表 1区奈良時代・平安時代前半の遺物観察表③

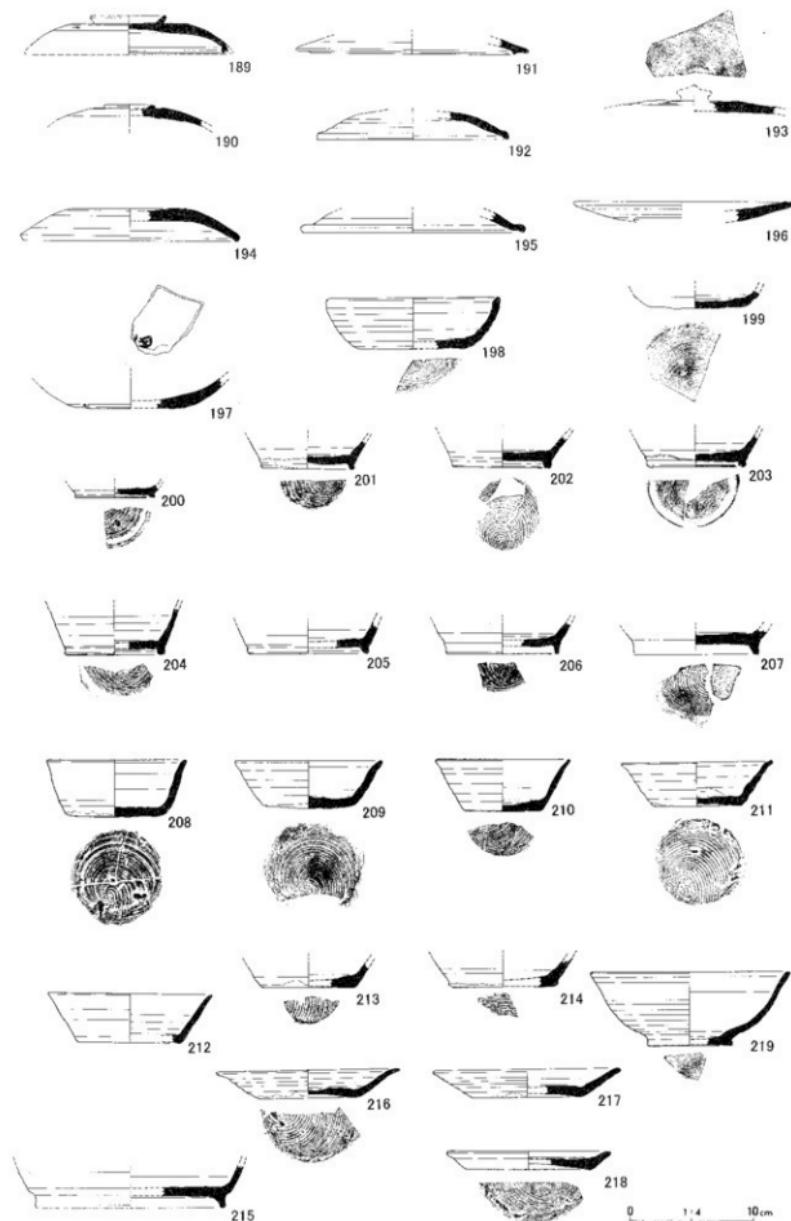
遺物 番号	種類 名	種別	器種	出土地 G/発見 場所	標位	寸法 (cm) 〔厚さ 底径 高さ〕	形態・文様の特徴	測量	鉛土	色調	備考
232 23 81	中世 漆器	蓋	G-1 1・13	7	(12.4)		内：漆地に朱色、 外：朱色、白子目 等、切妻形	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	黒成不良。 只漆時代？	
233 23 81	漆器	盤	I-10 b7-16				内：漆地に朱色、 外：朱色、白子目 等、切妻形	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	黒成時代	
234 23 81	漆器	瓶	G-11 II-12	5・7			内：朱色、白子目 等、切妻形	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	平安時代	
235 23 81	漆器	瓶	G-11a II-12	5・16			内：朱色、白子目 等、切妻形	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	平安時代	
236 23 81	漆器	瓶	I-9	5			内：朱色、白子目 等、切妻形	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	平安時代	
237 23 81	漆器	瓶	G-12	6			内：朱色、白子目 等、切妻形	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	平安時代	
238 23 81	漆器	瓶	I-10				内：漆地に朱色、 外：白子目	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	平安時代	
239 23 81	灰陶 陶瓶		K-17	5			表面に浅い凸凹に有 り当たる	内：漆地に朱色、 外：白子目	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	古くは「日本製」(3.5VR7/9) ホーリーバード(2.5VR7/9) ヨーロッパ(2.5VR7/9) 外：黄褐色(3.5VR7/9)～3.6 地緋色(3.5VR7/9)～3.6 4.0
240 24 82	土師器	环	H-11	7	(12.0)(7.0)	2.9	体部は短く内折れ る、口部は丸みを帯び る	内：朱色、白子目 等、切妻形	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	六角
241 24 82	土師器	皿	P44		(15.0)(10.0)	19	口部は短く内折れ るが底部は外折れする	内：朱色、白子目 等、切妻形	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	六角
242 24 82	土師器	皿	H-11	8	(15.0)(12.0)	2.1	口部は内折れする。	内：朱色、白子目 等、切妻形	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	六角
243 24 82	土師器	皿	H-11	8	(15.0)	(9.0)	口部は短く、外折れで ある。	内：朱色、白子目 等、切妻形	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	青系
244 24 82	土師器	皿	内台 付舟	G-11		(12.0)	舟型新規外方に張り 付ける	内：朱色、白子目 等、切妻形	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	青系
245 24 82	土師器	杯	G-11	7	(11.0)(7.0)	3.8	口部・底部は直線的に 狭く	内：朱色、白子目 等、切妻形	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	青系
246 24 83	中世 土師器	杯	G-11		(12.0)	6.9	体部は底く内折れし るが底部は浅い。	内：朱色、白子目 等、切妻形	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	青系
247 24 82	土師器	杯	北赤瀬		(12.0)			内：朱色、白子目 等、切妻形	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	青系
248 24 82	土師器	皿	G-11 H-11	7	(12.0)(8.0)	1.3	口部・底部は直線的に 狭く	内：朱色、白子目 等、切妻形	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	青系
249 24 83	土師器	杯	G-13	5	13.7	8.6	体部は内折れする。	内：朱色、白子目 等、切妻形	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	青系
250 24 82	中世 土師器	杯	P-16	5	(6.0)		底部は底部から東西側 方に向外する	内：朱色、白子目 等、切妻形	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	青系
251 24 82	土師器	杯	H-13	5	(7.0)			内：朱色、白子目 等、切妻形	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	青系
252 24 82	土師器	杯	可倒式			(7.0)		内：朱色、白子目 等、切妻形	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	青系
253 24 82	土師器	杯	P205			(8.0)		内：朱色、白子目 等、切妻形	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	青系
254 24 82	土師器	萬古 下-环	P158			(6.4)	器底が高く、器身は斜め に立ち	内：朱色、白子目 等、切妻形	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	青系
255 24 82	土師器	萬古 上-环	H-13	5	(9.0)		底部外縁に萬古を貼り 付ける	内：朱色、白子目 等、切妻形	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	青系
256 24 82	土師器	萬古 付木	H-10	8	(8.0)		底部外縁に萬古を貼り 付ける	内：朱色、白子目 等、切妻形	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	青系
257 24 82	土師器	萬古 付环	F-11	7	(8.0)		器底外縁に萬古を貼り 付ける	内：朱色、白子目 等、切妻形	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	青系
258 24 82	中世 土師器	皿	G-16		(11.0)	6.6	口部・底部は直線的に 狭く	内：朱色、白子目 等、切妻形	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	青系
259 24 82	土師器	皿	H-11	7	(12.0)(8.6)	1.25	体部は大きく開く	内：朱色、白子目 等、切妻形	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	青系
260 24 82	土師器	手付 土器	此州製		(6.8)	(9.0)	口部・底部は直線的に 狭く、底部は平らである	内：朱色、白子目 等、切妻形	直上口以下 の鉛土	内：灰青色(3.5VR7/9) 外：灰青色(3.5VR7/9)	青系

第15表 1区奈良時代・平安時代前半の遺物觀察表④

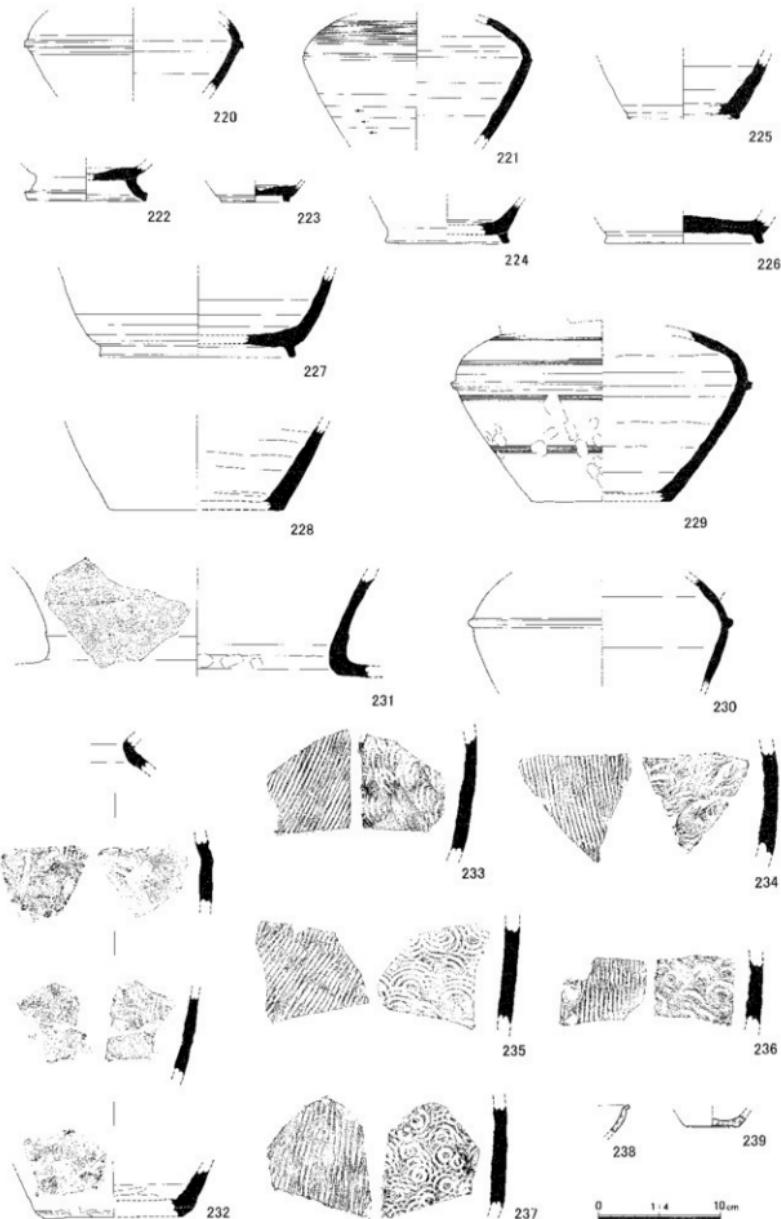
遺物名	通路番号	平面	種別	2次地	出土場所 G/H/F	層位	寸法 (cm)	形態・文様の状況	測定	鉢上	色調	備考
261	24	85	土師器	壺	F-17	5	(17.0)	内：ヨコナギ、ハラク 外：灰褐色、厚さ5mm	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) 外：灰褐色 (GY20/2) ~ 薄灰色 (GY21/2)		
262	24	82	土師器	壺	F-15, F-16 F-17	5	(18.0)	内：ヨコナギ、厚さ5mm	直2~3cmの移動量	内：青褐色 (GY19/3) 外：灰褐色 (GY20/3) ~ 薄灰色 (GY21/3)		
263	24	83	土師器	壺	H-10	7	(22.0)	内：ヨコナギ、ハラク 外：ヨリナガ	直3cm以下の移動量	内：灰褐色 (GY19/2) 外：灰褐色 (GY20/2)		
264	24	83	土師器	壺	H-10	5	(30.4)	内：ヨコナギ、ハラク 外：ヨリナガ	直2~3cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) ~ 灰褐色 (GY20/2) ~ 从青褐色 (GY21/2) ~ 薄灰色 (GY22/2)		
265	24	82	土師器	壺	G-15	5	(24.4)	内：ヨコナギ、ハラク 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) 外：灰褐色 (GY20/2) ~ 薄灰色 (GY21/2)		
266	24	82	土師器	壺	G-15	5	(24.4)	内：ヨコナギ、ハラク 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) ~ 灰褐色 (GY20/2) ~ 从青褐色 (GY21/2) ~ 薄灰色 (GY22/2)		
267	24	82	土師器	壺	G-11	8	(24.5)	内：ヨコナギ、ハラク 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) ~ 灰褐色 (GY20/2) ~ 从青褐色 (GY21/2) ~ 薄灰色 (GY22/2)		
268	25	85	土師器	壺	G-12	8	(29.7)	内：ヨコナギ 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) 外：灰褐色 (GY20/2) ~ 薄灰色 (GY21/2)		
269	25	85	土師器	壺	G-13	5	(39.0)	内：ヨコナギ、ハラク 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) 外：灰褐色 (GY20/2) ~ 薄灰色 (GY21/2)		
270	25	85	土師器	壺	H-12	8	(30.8)	内：ヨコナギ、ハラク 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) ~ 灰褐色 (GY20/2) ~ 从青褐色 (GY21/2)		
271	25	85	土師器	壺	H-11	7	(31.0)	内：ヨコナギ 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) 外：灰褐色 (GY20/2) ~ 从青褐色 (GY21/2)		
272	25	85	土師器	壺	G-11	7		内：ヨコナギ、ハラク 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) ~ 灰褐色 (GY20/2) ~ 从青褐色 (GY21/2)		
273	25	85	土師器	壺	H-11?	7		内：ヨコナギ、ハラク 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) ~ 灰褐色 (GY20/2) ~ 从青褐色 (GY21/2)		
274	25	85	土師器	壺	G-11	7		内：ヨコナギ、ハラク 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) ~ 灰褐色 (GY20/2) ~ 从青褐色 (GY21/2)		
275	25	85	土師器	壺	G-13 向	更端 土器	(7.0)	内：ヨコナギ、ハラク 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) ~ 灰褐色 (GY20/2) ~ 从青褐色 (GY21/2)		
276	25	85	土師器	壺	G-11 H-11	5	(8.0)	内：ヨコナギ、ハラク 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) ~ 灰褐色 (GY20/2) ~ 从青褐色 (GY21/2)		
277	25	85	土師器	壺	G-11	5	(8.0)	内：ヨコナギ、ハラク 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) ~ 灰褐色 (GY20/2) ~ 从青褐色 (GY21/2)		
278	25	85	土師器	壺	G-11	7	(8.0)	内：ヨコナギ、ハラク 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) ~ 灰褐色 (GY20/2) ~ 从青褐色 (GY21/2)		
279	25	85	土師器	壺	G-15 H-11	5	(10.1)	内：ヨコナギ、ハラク 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) ~ 灰褐色 (GY20/2) ~ 从青褐色 (GY21/2)		
280	25	85	土師器	壺	H-11	5	(12.2)	内：ヨコナギ 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) ~ 灰褐色 (GY20/2) ~ 从青褐色 (GY21/2)		
281	25	85	土師器	壺	G-11	5		内：ヨコナギ 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) ~ 灰褐色 (GY20/2) ~ 从青褐色 (GY21/2)		
282	25	85	土師器	壺	G-11	5		内：ヨコナギ 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) ~ 灰褐色 (GY20/2) ~ 从青褐色 (GY21/2)		
283	25	85	土師器	壺	G-11	7		内：ヨコナギ 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) ~ 灰褐色 (GY20/2) ~ 从青褐色 (GY21/2)		
284	25	85	土師器	壺	G-11	7		内：ヨコナギ 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) ~ 灰褐色 (GY20/2) ~ 从青褐色 (GY21/2)		
285	25	85	土師器	壺	G-11	7		内：ヨコナギ 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) ~ 灰褐色 (GY20/2) ~ 从青褐色 (GY21/2)		
286	25	85	土師器	壺	G-11	7	12.2	内：ヨコナギ 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) ~ 灰褐色 (GY20/2) ~ 从青褐色 (GY21/2)		
287	25	85	土師器	壺	H-10	5	15.1	内：ヨコナギ 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) ~ 灰褐色 (GY20/2) ~ 从青褐色 (GY21/2)		
288	25	85	土師器	壺	H-12	8	(12.0)	内：ヨコナギ 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) ~ 灰褐色 (GY20/2) ~ 从青褐色 (GY21/2)		
289	25	85	土師器	壺	H-13	6	(5.8)	内：ヨコナギ 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) ~ 灰褐色 (GY20/2) ~ 从青褐色 (GY21/2)		
290	25	84	土師器	壺	G-12	8	15.1	内：ヨコナギ 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) ~ 灰褐色 (GY20/2) ~ 从青褐色 (GY21/2)		
291	25	84	土師器	壺	G-11 H-11	7	(11.8)	内：ヨコナギ 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) ~ 灰褐色 (GY20/2) ~ 从青褐色 (GY21/2)		
292	25	85	土師器	壺	F-14	5	14.5	内：ヨコナギ 外：ヨリナガ	直1~2cmの移動量	内：灰褐色 (GY19/2) ~ 灰褐色 (GY20/2) ~ 从青褐色 (GY21/2)	重量：18.7g	



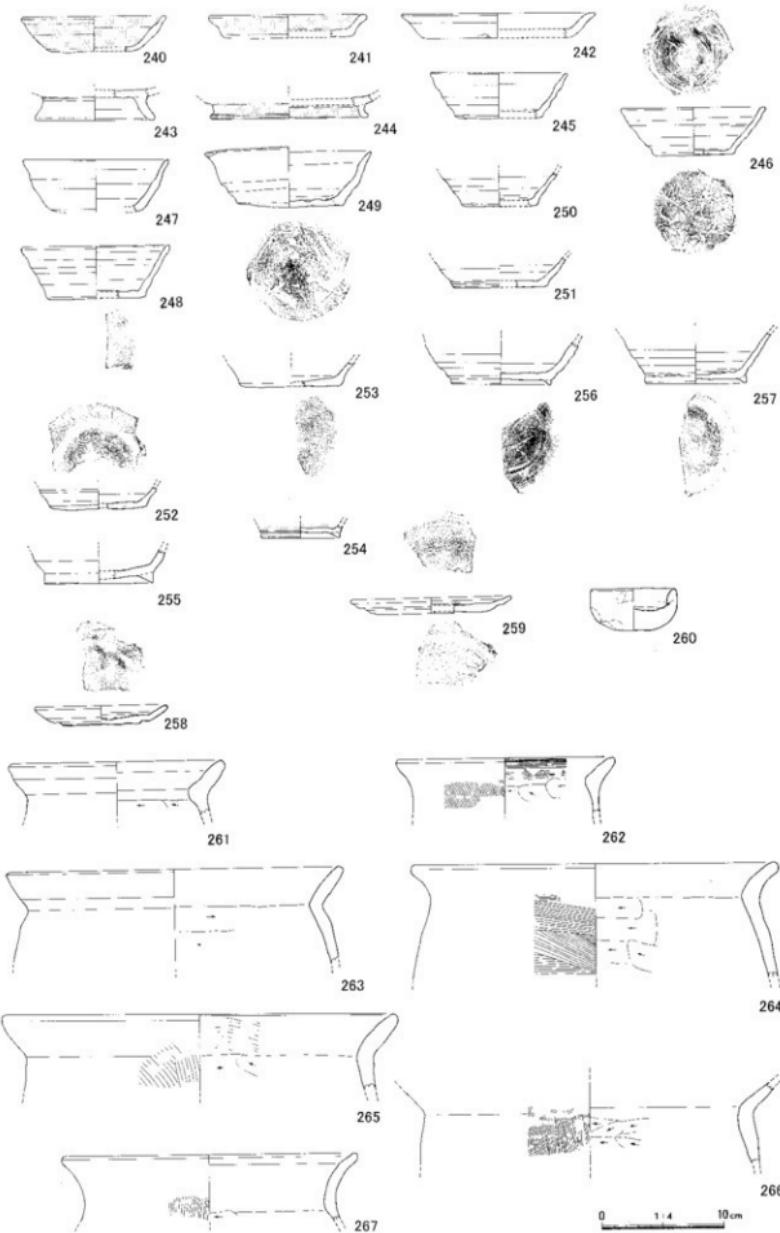
第21図 1区 奈良・平安時代前半の遺物出土状況 (S=1/600)



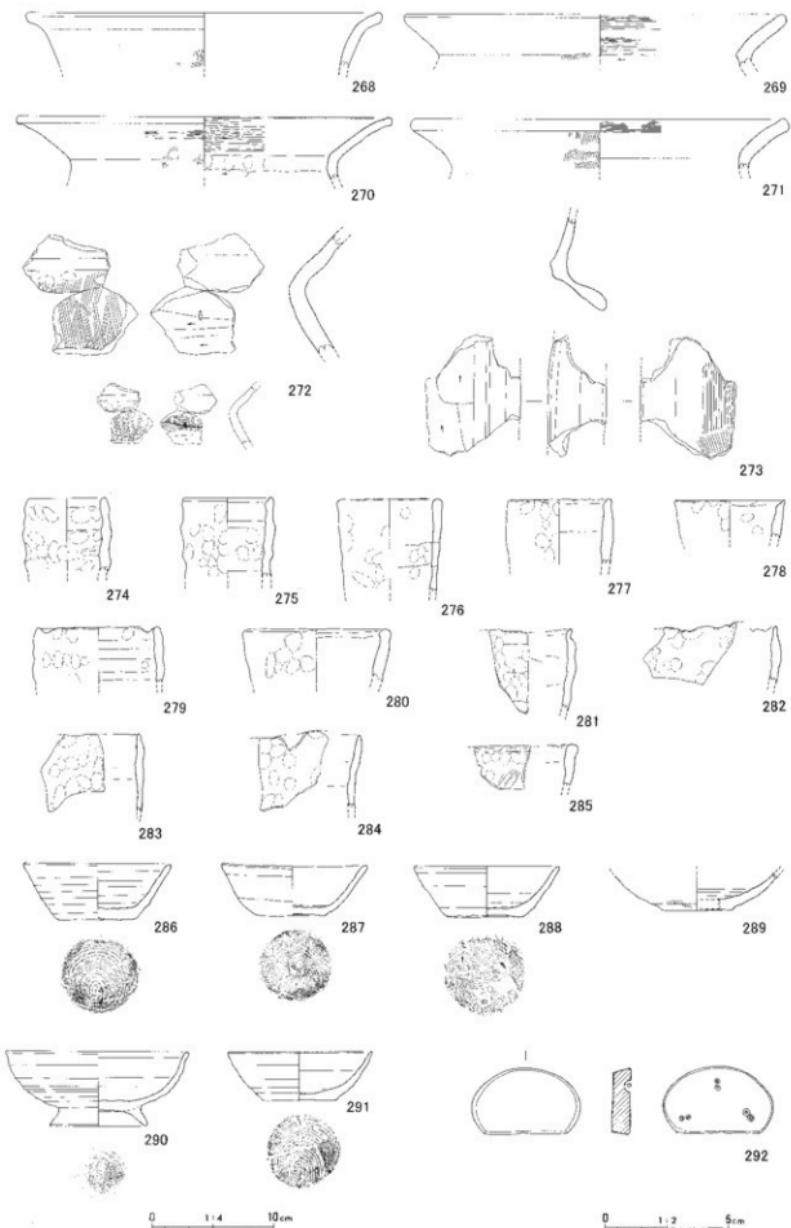
第22図 I区 須恵器③ (S - 1/4)



第23図 I区 須恵器④・灰釉陶器 ($S=1/4$)



第24図 1区 土師器② (S = 1/4)



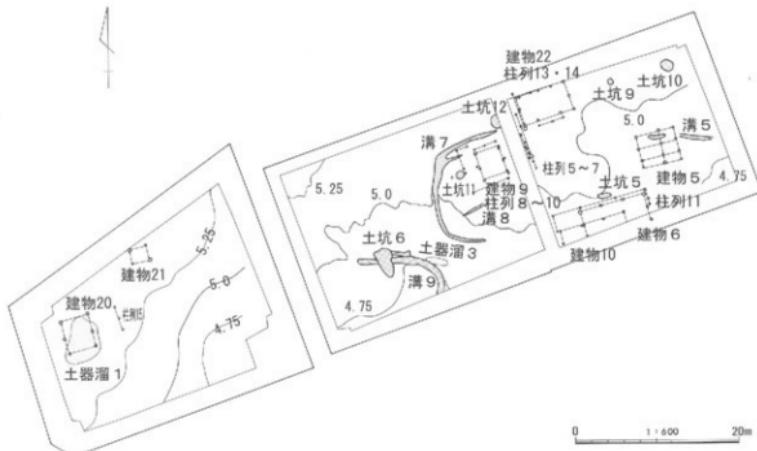
第25図 1区 土器③・土製品・石器 (S=1/4)

(5) 平安時代後半～鎌倉時代の遺構・遺物

I A～I C区の調査ではこの時期の遺構・遺物が最も多く、時期を特定できなかった遺構もこの時期のものが多いと推測される。遺構は掘立柱建物や柵列などの柱穴・溝・土坑で、建物の主軸は現在の区画に近い。また、柱穴内で様々な形状・樹種の柱根が多数出土しており、中世の建物を考える上で貴重な資料を得ることができた。遺物はほとんどのグリッドで出土し、各時期の中で最も出土量が多い。種別も上師器・須恵器に加え貿易陶磁・国産陶器・木製品など豊富である。

参考文献

- 7 烏根県教育委員会 「大屋敷遺跡」『北松江幹線・松江連絡新設工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』1987
- 8 烏根県教育委員会 「天満谷遺跡」 7に同じ
- 9 島根県教育委員会 「門生黒谷II遺跡」「門生黒谷I遺跡・門生黒谷II遺跡・門生黒谷III遺跡」 1998
- 10 島根県教育委員会 「馬場遺跡」 2001
- 11 松江市教育委員会 「の場遺跡」『松江北東部遺跡発掘調査報告書』 1999
- 12 浜田市教育委員会 「横路遺跡（上郡土地区）」 1998
- 13 浜田市教育委員会 「横路遺跡（原井ヶ市地区）」 1998
- 14 仁摩町教育委員会 「白石遺跡」「仁摩健康公園造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」 1989
- 15 仁摩町教育委員会 「清石遺跡外発掘調査報告書」 1998
- 16 山口県教育委員会 「船頭遺跡」山口県埋蔵文化財調査報告第172集 1994
- 17 大宰府市教育委員会 「大宰府条坊跡XV 陶磁器分類編一」 2000
- 18 安城市歴史博物館 「愛知の中世陶器－渥美・常滑・瀬戸－」 1996
- 19 広江耕史 「島根県における中世土器について」『松江考古』第8号 松江考古談話会 1992
- 20 山陰考古学研究集会 「山陰における中世前期の貿易陶磁」第25回 山陰考古学研究集会資料 1998



第26図 I区 平安時代後半～鎌倉時代の遺構 (S=1/600)

建物20・柱列15（第27図）

I B区の西側で検出した1間×2間の掘立柱建物である。北東に位置するP48内で12世紀後半頃の土師器皿が出土した。建物の約3.6m東で検出した柱列15は、位置関係から建物21に伴うものと判断した。

第16表 青木遺跡 建物20 計測表

規 模	実 行 き				桁 行 き				
	1 間				2 間				
	N 16° - W								
主 軸	番 号	P 48	P 230	P 168	P 192	P 193	P 67	P 237	P 156
六	平面規模 (cm)	31×30	33×26	27×25	23×22	30×22	34×30	21×14	33×25
	標高 (m)	上面	5.40	5.29	5.33	5.37	5.25	5.33	5.20
柱間距離(cm)	P48-P230	P230-P168	P148-P192	P230-P193	P168-P67	P192-P237	P193-P156		
	340	350	206	226	224	194	188		
	P192-P193	P193-P67	P237-P156						
	364	338	345						

第17表 I 区建物20出土遺物観察表

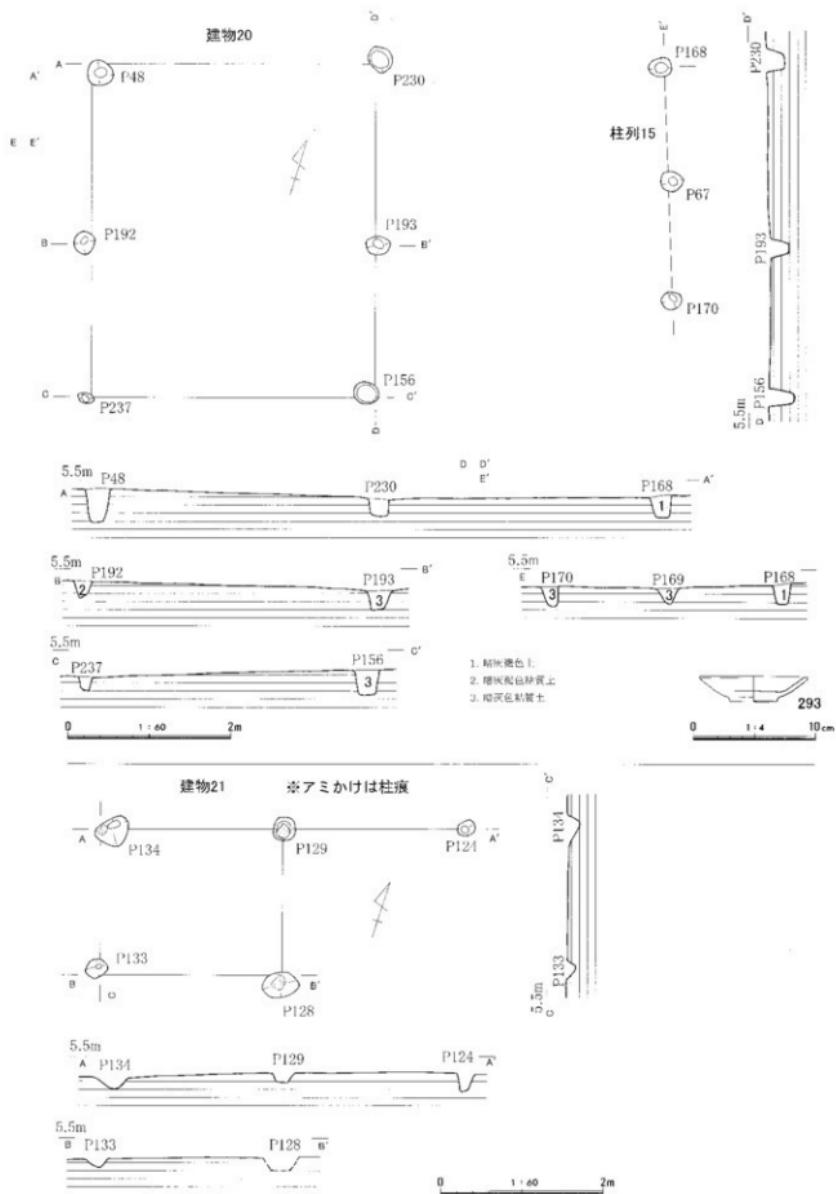
遺物番号	検出番号	対応番号	種類	深度	地盤	寸法(cm)	形質	文様	調査	出土	色調	備考
263	27	86	中 土師器	目	P 48	(8.6) (3.0)	体部と底部の数に縦が らく	内：凹凸ナメ 外：凹凸ナメ、目 粘土切り	181～200の砂 175～190の砂 粘土	内：A：14.1～14.2cm T：5.1～5.2cm T：5.1～5.2cm T：5.1～5.2cm		

建物21（第27図）

I B区の北側G10グリッドで検出した1間×1間の掘立柱建物である。P128・129・134では柱痕を確認した。建物20との位置関係や柱穴内の遺物から同時期の建物と判断した。P129・134の延長線上の同じ間隔でP124を検出したので、建物はさらに東に続いている可能性がある。

第18表 青木遺跡 建物21 計測表

規 模	実 行 き		桁 行 き		
	1 間		1 間		
	N - 18° - W				
主 軸	番 号	P 133	P 134	P 129	P 128
六	平面規模 (cm)	28×23	45×35	39×30	45×30
	標高 (m)	上面	5.26	5.25	5.30
柱間距離(cm)	P134-P129	P129-P128	P128-P133	P133-P134	
	210	200	220	180	



第27図 I区 建物20・21、柱列15 (S=1/60)

建物5（第28図）

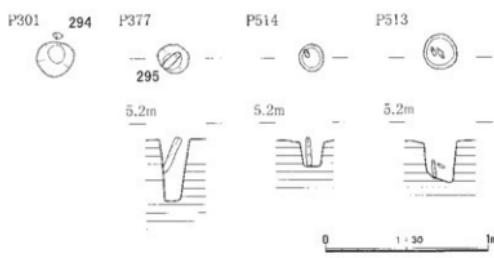
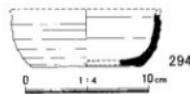
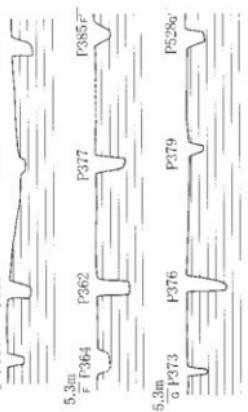
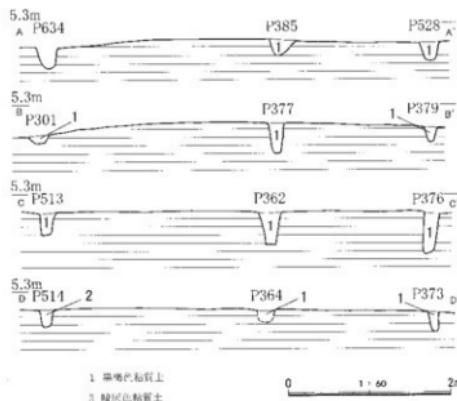
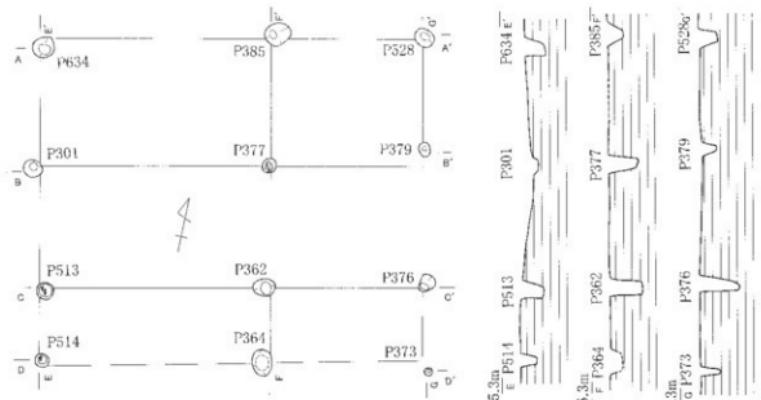
IC区東のF16～17グリッドで検出した2間×3間の掘立柱建物である。東側の柱の並びは、中央の並びと間隔が近く、他の並びと柱の位置がややずれている。建物の柱ではなく建物に伴う柵列等の可能性も考えられる。P513から12世紀後半頃の土器器坏が出土している。P377では呪符木簡が出土した。上部は丸く加工し下端を尖らせている。中央上より墨書の痕跡があるが判読できなかった。下よりには「□九八十」と読める墨書がある。この部分より下は表面の残りが良く、地中に埋められていたためと考えられる。

第19表 青木遺跡 建物5 計測表

規 模		梁 行 き 2 間		板 行 き 3 間		
主 柱		N-12° -W				
	番 号	P634	P385	P528	P301	P377
	平面規模 (cm)	30×28	32×25	25×23	25×23	19×17
穴	標高 (m)	上面 5.00	5.09	5.06	5.09	5.08
		下面 4.76	4.89	4.82	4.83	4.70
	番 号	P513	P362	P376	P514	P364
	平面規模 (cm)	35×24	30×22	22×19	18×18	33×19
穴	標高 (m)	上面 5.08	5.07	5.08	5.07	5.05
		下面 4.78	4.67	4.56	4.87	4.81
		P634-P385 280	P385-P528 188	P634-P301 148	P385-P377 166	P528-P379 149
		P377-P379 190	P301-P513 154	P377-P376 150	P379-P376 172	P513-P362 272
		P513-P514 82	P362-P364 92	P376-P373 104	P514-P364 276	P364-P375 204
柱	P No.	513	514			
柵	規格 (cm)	長				
		幅				

第20表 IA区建物5出土遺物観察表

遺物 番号	桿固 番号	写真 番号	種別	基軸 Gz/通量	蓋仕 11序 底径 深さ	寸 法 (cm)	赤堀・文様の特徴	調整	粘土	生菌	備考
294	28	85	漆器器	16	P301	(9.0)	赤堀は内側する	内：凹凸ナメ 外：凸凹ナメ、底 部斜め切り	素	内： 外：	
295	28	85	呪符 木簡			長：53.5 幅：4.4 厚：0.8	下端を尖らせる。「□九 八十」？の跡ある。				スギ



第28図 1区 建物5 (S=1/60)

建物6・柱列11(第29図、写真図版29)

IC区東のG16～17グリッドで検出した2間×3間の掘立柱建物である。桁行きの柱間は約9尺、梁行きは約11尺で中間に小規模な柱穴を検出している。P311・573では柱根が残存しており、P573と切り合うP674上層で土師器皿が出土した。柱穴内から12世紀後半頃の土師器壺が出土している。また、建物6の周囲で検出した柱列11は、建物6に伴うものと判断した。

第21表 青木遺跡 建物6 計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
		2 間				3 間			
主 基		N - 74° - E							
六	番 号	P311	P577	P306	P573	P625	P704	P662	P707
	平面規模 (cm)	40×37	27×23	36×35	35×35	22×22	27×19	15×13	
	標高 (m)	5.04 上面 4.67 下面	5.09 4.83	5.07 4.80	5.58 4.80	4.93 4.73	4.88 4.63	4.92 4.66	4.88 4.66
柱間距離(cm)	P707-P662	P662-P311	P311-P577	P577-P306	P306-P573	P573-P625	P625-P704		
	154	168	278	282	266	162	166		
	P №	311	573						
柱 痕	規 模 (cm)	樹皮のみ	樹皮のみ						
	長 幅								

第22表 I区建物6出土遺物観察表

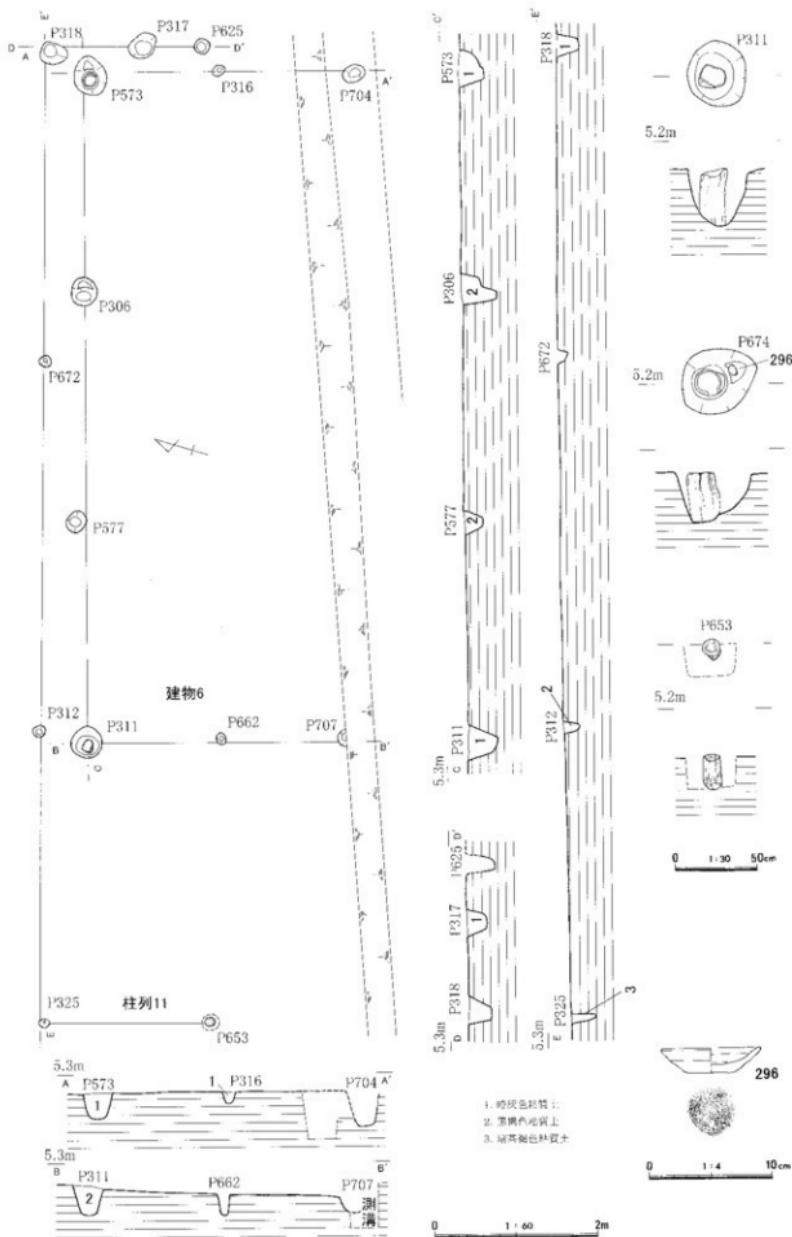
遺物 番号	種類 番号	写真 番号	種別	器種	遺物地點 G/G番号	基位	寸 法 (cm) 口徑 底径 高さ	形態・文様の特徴	調査	粘土	色調	備考
295	29	85	中 柱 上部 下部	埴	P674	8.2	3.5 2.1	体部は直角的に外傾する 内：白泥セナダ 外：白泥セナダ、模様あり	深さ～5cmの 埴多量	内：灰、薄茶色(GPT27/2) 外：黄、浅褐色(GPT27/3)		

第23表 青木遺跡 柱列11 計測表

規 模		2 間				3 間			
主 基		N - 75° - E							
六	番 号	P653	P325	P312	P672	P318	P317	P625	
	平面規模 (cm)	11×10	13×12	15×14	16×15	36×31	39×31	22×22	
	標高 (m)	4.88 上面 4.60 下面	5.01	5.08	5.01	5.08	5.10	4.93	
柱間距離(cm)	P653-P325	P325-P312	P312-P672	P672-P318	P318-P317	P317-P625			
	205	360	450	390	115	70			
	P №	653							
柱 痕	規 模 (cm)	20							
	長 幅	長10 幅9							

建物10(第30図)

建物6と一部重複する位置で検出した1間×3間以上の掘立柱建物である。P656・657・661は柱根のみ確認し、堀方は検出できなかった。建物6を南西側にずらした位置で検出し、ほぼ同じ規模・主軸であることから、前後関係は不明だが連続する時期の建物と考えられる。



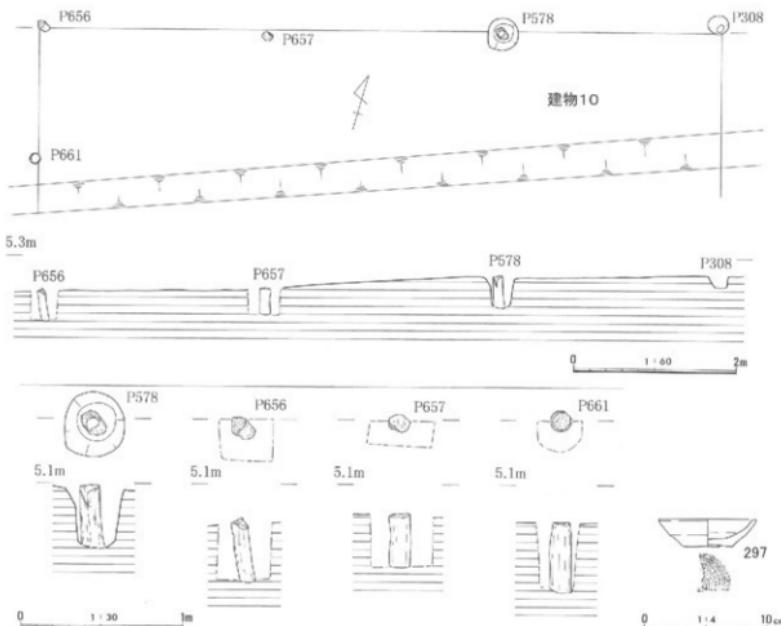
第29図 I区 建物6、柱列11 (S = 1/60)

第24表 青木遺跡 建物10 計測表

規 模		東 行 き		西 行 き	
主 軸		1 間		3 間	
		N-74° - E			
穴	番 号	P661	P656	P657	P578
	平面規模 (cm)	15×12	12×9	15×12	28×25
	標高 (m)	上面		4.90	5.07
柱	柱間距離(cm)	P661-P656 170	P656-P657 284	P657-P578 288	P578-P308 270
	P.N.	661	656	657	578
	規 模 (cm)	長 26 幅 長15幅12	37	30	長10幅10

第25表 I 区建物10出土遺物観察表

遺物 番号	種類 番号	写真 番号	種別	器種	出土地點 G/S番号	裏地	寸 寸(手) 直径 深さ	形態・文様の特徴	測定	粘土	色調	備考
297	30	95	中 土師漆	皿	P628 (建物10)	(7.8)	(4.2) 2.5	外側は漆付する 内側は漆無し 剥離有り	内:漆無し 外:漆付(2.87%)/ 剥離有り	内:灰白色 外:灰黑色(3.87%)/ 剥離有り		



第30図 I 区 建物10 (S=1/60)

建物22・柱列13・14（第31図、写真図版30）

I C区東のE15・16～F15・16グリッドで検出した2間×3間の掘立柱建物である。P304・699の上面で上師器の皿が天地逆の状態で出土した。また、建物範囲内の北東部分で浅い溝（P303）から器高の低い壺が出土している。これらの土師器から建物6の時期はおよそ12世紀後半～13世紀頃と考えられる。ほとんどの柱穴は5b層掘削後に検出されたが、柱穴の深さや柱穴に伴う遺物のレベルから、本来は5b層上に建てられた建物と考えられる。建物22の南側で検出した柱列13は、位置関係から建物22に関連するものと判断した。建物の西側で検出した柱列14は位置が近すぎるので、建物22の立て替えに関係するものかもしれない。

第26表 青木遺跡 建物22 計測表

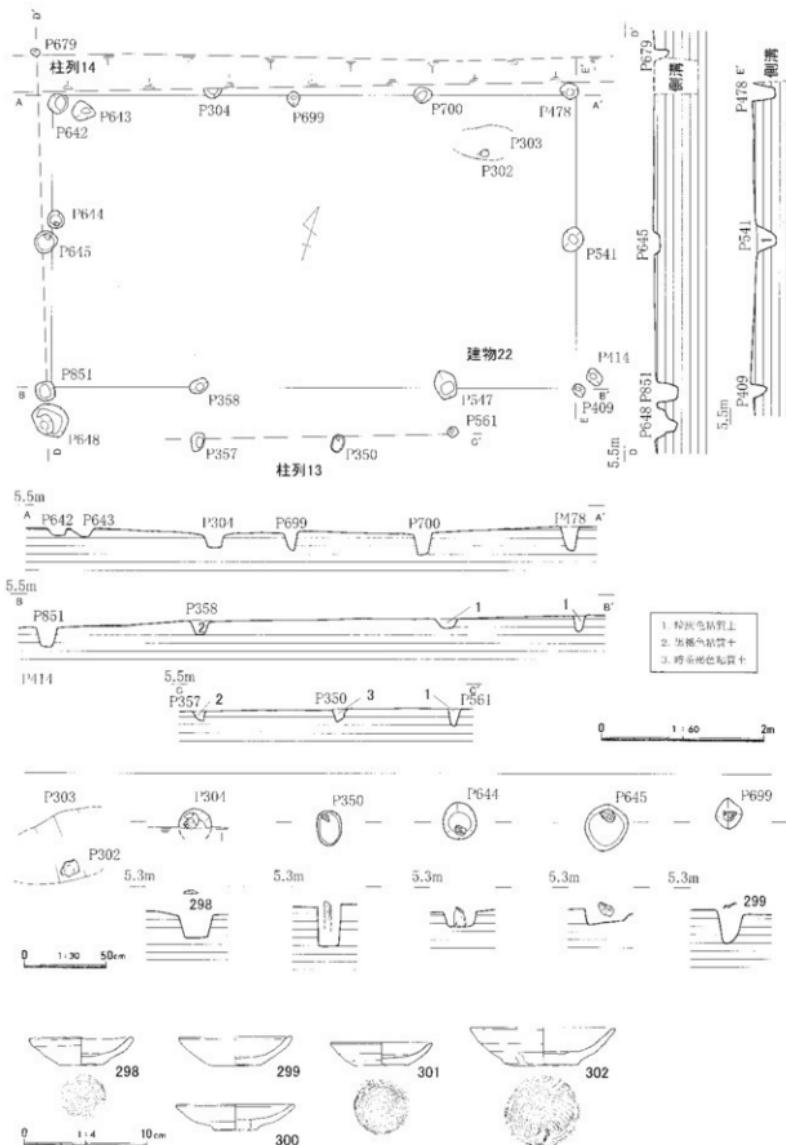
規 模	梁 行き					桁 行き				
	2 間					3 間				
主 軸	N - 73° - E									
	P642	P304	P700	P478	P541	P409	P547	P358	P851	P644
穴	平面規模 (cm)	27×24		24×22	22×22	30×25		36×25	23×20	
	標高 (m)	5.22		5.17	5.24	5.18	5.26	5.22	5.19	
柱間距離(cm)	上面	5.14		4.90	4.96	4.93	5.05	5.08	5.01	
	下面			190	260	184	180	185	160	300
柱 直 径 (cm)	P642-P304	P304-P700	P700-P478	P478-P541	P541-P409	P409-547	P547-P358	P358-P851	P851-P644	P644-P642
	長 さ (cm)	645								

第27表 青木遺跡 柱列13・14 計測表

規 模	2 間				2 間			
	N - 72° - E				N - 19° - W			
主 軸	P357	P350	P561	P679	P645	P851		
	平面規模 (cm)	24×20	17×16	15×12	12×8	10×8		
穴	標高 (m)	5.17	5.19	5.21	5.14			
	下面	5.05	4.99	4.99	4.96			
柱 間 距 離 (cm)	P357-P350	P350-P561		P679-P645	P645-P851			
	170	140		230	235			
柱 直 径 (cm)	P357	P350	P561		645			
	長 さ (cm)							

第28表 I区建物22出土遺物観察表

遺物 番号	研究 番号	写真 番号	種別	器種	出土地 G/S/遺構	調査 位置	寸法 [cm] 口径/直径/高さ	形態・文様の特徴	調査場	出土	色調	備考
298	31	85	中世 土師器	皿	P304		8.6 / 3.8 / 2.8		内：凹輪ナメ 外：凹輪ナメ、圓孔有り	直径8cmの新物 直口盤ナメ	内：深灰色 (2.5Y7/1) 外：灰白色 (2.5Y7/1) ~ 灰黑色 (3.0Y7/1)	
299	31	86	中世 土師器	皿	x P323 x P609	(3.0)	4.0 / 2.4	縁部は直線的に外側 へなる	内：凹輪ナメ 外：凹輪ナメ、圓孔有り	直径10cmの新物 直口盤ナメ	内・外：褐色 (2.5YR7/0) 内：灰白色 (3.0Y8/1)	
300	31	86	中世 土師器	皿	P309 (=320)	(2.7)	(3.6)	2.15	縁部は最も内側する	直径9.5cmの新物 直口盤ナメ	内・外：褐色 (2.5YR7/0) 内：灰白色 (3.0Y8/1)	
301	31	86	中世 土師器	皿	P458, P577 (=320)		8.4 / 4.4	1.9	縁部は内側する	内：凹輪ナメ 外：凹輪ナメ、圓孔有り	内：深海多量	
302	31	86	中世 土師器	皿	P400,	11.8	4.1	3.1	縁部は内側する	内：凹輪ナメ 外：凹輪ナメナメ 内：凹輪ナメ	内：青い青色 (2.5YR7/0) 外：青い青色 (2.5YR7/0)	



第31図 IA区 建物22、柱列13・14 (S=1/60)

建物9・柱列5~11 (第32~34図、写真図版30)

I C区西のF14~15グリッドで検出した1間×2間の掘立柱建物である。建物の周囲は柱列に囲まれ、西側に湧水のある土坑11があり、さらにその周りを溝7が廻っている。これら遺構は検出した位置や出土した遺物からほぼ同時期の遺物と考えられ、溝7・8と建物9東側の柱列で囲まれた範囲が1セットになっていると考えられる。建物北東の柱は位置的にはP801と考えられるが、柱の規模からするとP800の可能性もある。同様に南東のP786も建物9の柱となる可能性がある。P779では柱穴の上面で柱を固定するのに使用したと考えられる人頭大の石が出土している。建物9と周辺の柱穴からは多数の柱根が出土した。柱穴埋土は遺構面との区別が困難で、これらの柱根には掘り方を検出できなかったものもある。P786・789の柱根は下端近くに挟りを廻らせてている。また、P782の西側で自然木(P790)を検出した。建物9と位置が近すぎるので、建物9とは別時期のものと考えられる。

第29表 青木遺跡 建物9 計測表

規 模		梁 行 き			朽 行 き		
		1 間		N-19° - W 2 間			
主 軸	番 号	P779	P801	P789	P795	P782	P787
	平面規模(cm)	31×29	12×11	18×11	13×10	25×22	22×16
	標高(m)	5.02	5.05	5.01		4.98	5.00
	番 号	P769	P768	P784	P791	P804	P802
	平面規模(cm)	23×20	24×24	22×18	8×8	6×4	15×14
	標高(m)	4.95	4.98	5.02			5.07
	柱間距離(cm)	P779-P801 295	P779-P789 165	P789-P782 160	P782-P787 305	P801-P795 185	P795-P787 150
	P No.	789	795	287			
	長	25	18	38			
	幅	長11.6 幅11.4	長18 幅12	長12 幅10			

第30表 青木遺跡 柱列5・6 計測表

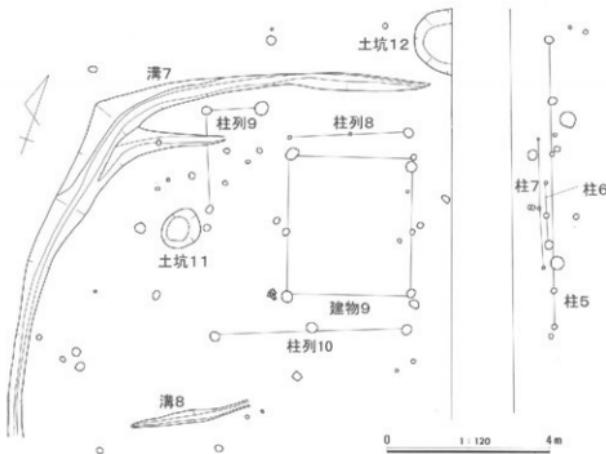
規 模		5 間						2 間		
		N-20° - W								
主 軸	番 号	P331	P332	P333	P650	P647	P646	P336	P337	P649
	平面規模(cm)	13×12	14×13	32×31	11×8	11×10	7×7	20×19	13×12	10×7
	標高(m)	5.19	5.17	5.19				5.18	5.16	
	上 面	4.94	4.92	5.05		4.95		4.90	4.92	
	下 面	95	65	267	130	150		75	80	
	P No.	650	646					649		
	長	19	10					25		
	幅	長12 幅12	長8 幅6					長9 幅9		

第31表 青木遺跡 柱列7・8 計測表

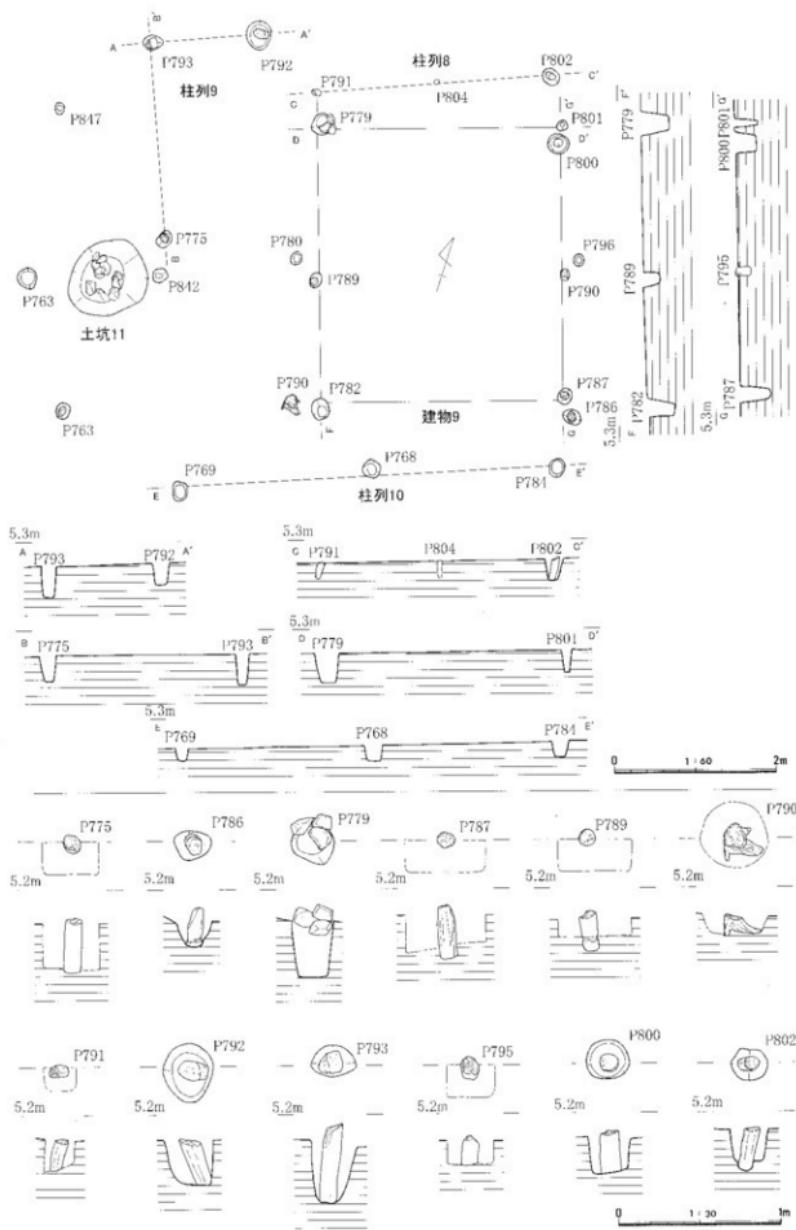
規 模		2 間			2 間		
主 勘		N-21° - W			N-67° - E		
穴	番 号	P334	P708	P651	P791	P804	P802
	平面規模 (cm)	7×5		6×4	5×8	6×4	15×14
	標高 (m)	上面 5.18	5.12				5.07
	下面	4.97					
	柱間距離(cm)	P334-P708 150	P708-P651 170		P791-P804 150	P804-P802 145	
柱	P No.	651			791	802	
	規格 (cm)	長 6			18	27	
軸	幅	長3 短3			長8 短8	長9 短8	

第32表 青木遺跡 柱列9・10 計測表

規 模		2 間			2 間		
主 勘		N-22° - W			N-69° - E		
穴	番 号	P792	P793	P775	P769	P768	P784
	平面規模 (cm)	13×12	20×16	23×17	25×20	24×24	22×18
	標高 (m)	上面 5.05	5.01	5.00	4.95	4.96	5.02
	下面						
	柱間距離(cm)	P792-P793 135	P793-P775 245		P769-P768 240	P768-P784 230	
柱	P No.	792	793	775			
	規格 (cm)	長 27	32	33			
軸	幅	長12 短9	長10 短9	長12 短11			

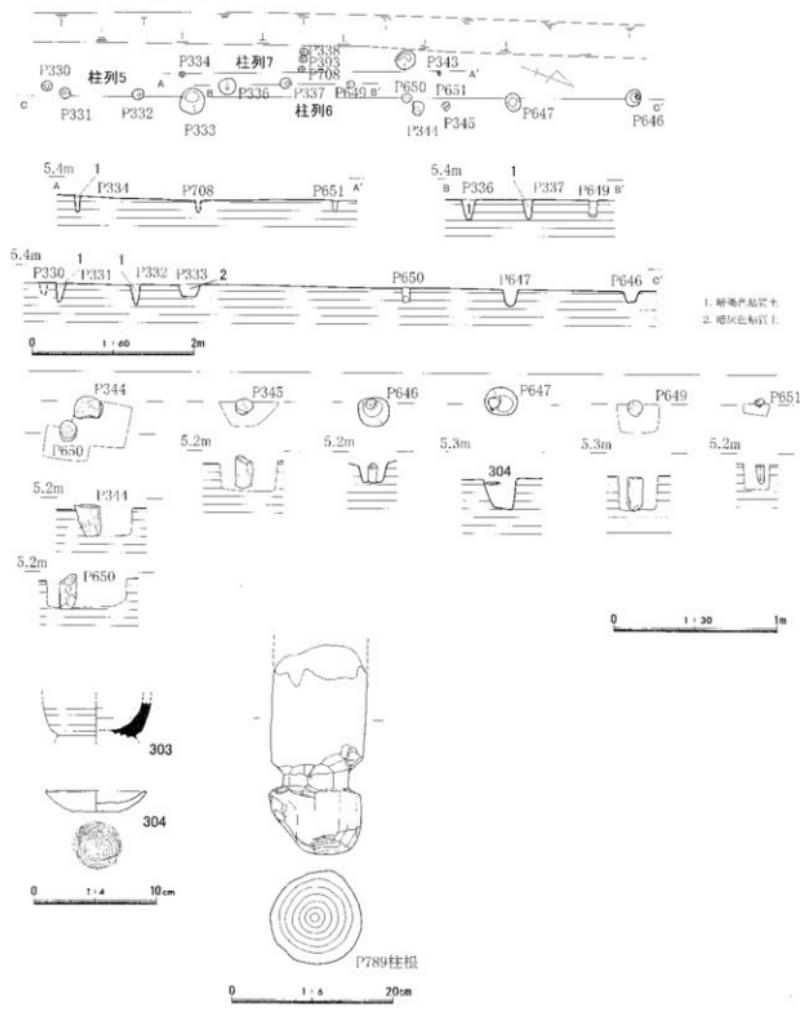


第32図 I 区 建物 9周辺の遺構 (S=1/120)



第33図 I区 建物9、柱列8～10 (S=1:60)

第1節 IA～IC区の遺古



第34図 IA区 柱列5～7 (S=1/60)、建物9、柱列5出土遺物 (S=1/4)

第33表 IA区柱列5出土遺物観察表

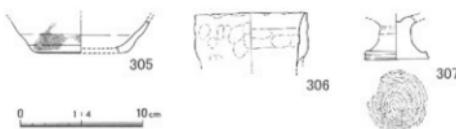
遺物 番号	件名	性質 番号	種別	目録 番号	出土地 点	寸 法 (cm)	形造・文様の特徴	調査	風土	文獻	備考
303 34 86	漆器蓋	漆器	小形 壺	P-15 P647			裏面に瓦状に斜く	内:漆にテナ 外:漆にアラフ	11-12cmの砂 粘多量	内:漆地 (N32) 外:漆地 (N31)	
304 34 86	中 上蓋	漆	壺	P647	(8.2) 4.0 1.7	体部は試し内側である	内:漆地テナ 外:漆地アラフ、内 縁丸アラフ	漆地	内:灰褐色地 (A377) 外:漆地 (A376)	底葉内面 上縁の内 側に埋められ	

土坑6（第35・36図、写真図版31）

I C区西のG16～H16グリッドで検出した。規模は検出面で3.7×2m、深さは約0.9mである。土坑上面では大小の石が検出され、上層には腐植層が堆積していた。下層には粘質土が堆積し、土坑内からは土師器や須恵器が出土した。また、土坑の南側は丸く南東に突出しており、この部分で約250点のドングリが出土し、その下には植物の繊維が堆積していた。土坑6の時期は高台坏皿（307）の時期からおよそ12世紀後半頃と考えられる。中世のドングリ貯蔵構造は現在のところ県内で報告されていないが、山口県豊浦町「船頭遺跡」に類例がある。

第34表 I区土坑6出土遺物観察表

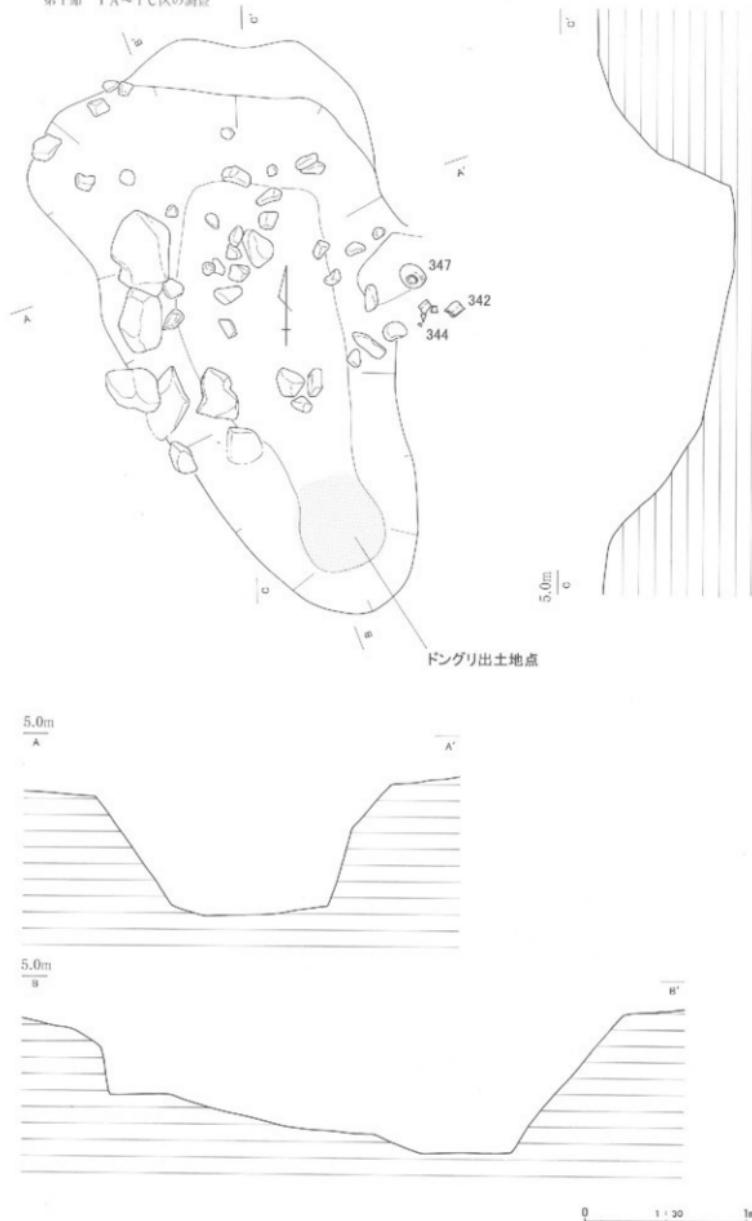
地番 番号	地名 番号	可商 性	種別	遺物	出土地G ridd	測位	寸法(cm) 口径 底径 高さ	形態・文様の特徴	調査	出土	色調	備考
305	35	88	土師器	环	土地B		(7.4)		内：陶化ナメ 外：陶化ナメ、ヘ リコロナメ	径15mmの移 動多量	内：暗褐色(3Y R7/4) 外：灰褐色(7.5Y R5/7)～ 黄褐色(3Y R2/1)	
306	35	88	製版 土器	七流6		(9.3)		口縁端部は一部剥 離	内：陶化ナメ、ニ オマサ、ヘリコ ロナメ	径23mmの移 動多量	内：暗褐色(3Y R7/4) 外：灰褐色(7.5Y R5/7)～ 黄褐色(3Y R2/1)	
307	35	88	中世 土器	柱状 凸台	土地C 下層		5.5	高台壞盤は外方に傾斜 する	内：陶化ナメ 外：陶化ナメ、高 台壞盤	径30mm以下 の移動多量	内：深褐色(3Y R6/3) 外：灰青褐色(3Y R6/3)	



第35図 I区 土坑6出土遺物 (S=1/4)



第1第 IA~IC区の測量



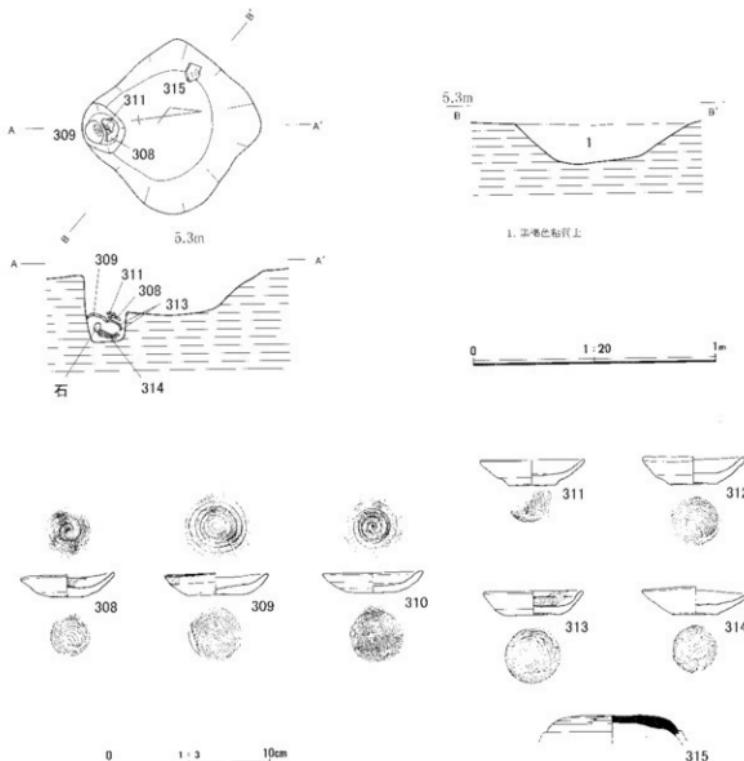
第36図 I区 土坑6 (S=1/30)

土坑9（第37図、写真図版32）

I C区東のE16グリッドで検出した。規模は検査面で61×59cm、深さ約20cmで、土坑の南側は一段深く、土師器皿が重ねて置かれていた。この部分は別の柱穴の可能性も考えられる。

第35表 I区土坑9出土遺物観察表

遺物 番号	齊名 番号	器種 類別	基盤 化土類 (g/m²)	層位 石碑 鉛錠	寸法(cm)		形態・文様の特徴	測定	出土	色調	備考	
					石碑	鉛錠						
308	37	87	中世 土師器	壁	土坑9	7.8	3.4	2.0	内面に瓦片とテラコッタの底が 残る	手掘り	青(3YR7/1) 灰(5YR7/1) 黒(10YR7/1) 白(10YR7/2)	青(3YR7/1) 灰(5YR7/1) 黒(10YR7/1) 白(10YR7/2)
309	37	87	中世 土師器	底	土坑9	8.6	4.5	1.8	内面に陶片の底が 残る	手掘り	青(3YR7/1) 灰(5YR7/1) 黒(10YR7/1)	青(3YR7/1) 灰(5YR7/1) 黒(10YR7/1)
310	37	87	中世 土師器	底	土坑9	8.2	4.1	1.7	内面に瓦片とテラコッタの底が 残る	手掘り	青(3YR7/1) 灰(5YR7/1) 黒(10YR7/1)	青(3YR7/1) 灰(5YR7/1) 黒(10YR7/1)
311	37	87	中世 土師器	底	土坑9	(8.6)	(4.0)	2.1	内面に瓦片とテラコッタの底が 残る	手掘り	青(3YR7/1) 灰(5YR7/1) 黒(10YR7/1)	青(3YR7/1) 灰(5YR7/1) 黒(10YR7/1)
312	37	87	中世 土師器	底	土坑9	8.4	3.9	2.3	内面に瓦片とテラコッタの底が 残る	手掘り	青(3YR7/1) 灰(5YR7/1) 黒(10YR7/1)	青(3YR7/1) 灰(5YR7/1) 黒(10YR7/1)
313	37	87	中世 土師器	底	土坑9	8.3	4.4	1.9	内面に瓦片とテラコッタの底が 残る	手掘り	青(3YR7/1) 灰(5YR7/1) 黒(10YR7/1)	青(3YR7/1) 灰(5YR7/1) 黒(10YR7/1)
314	37	87	中世 土師器	底	土坑9	8.8	3.8	2.3	内面に瓦片とテラコッタの底が 残る	手掘り	青(3YR7/1) 灰(5YR7/1) 黒(10YR7/1)	青(3YR7/1) 灰(5YR7/1) 黒(10YR7/1)
315	37	88	漆器漆 器	底	土坑9				内面に瓦片とテラコッタの底が 残る	手掘り	青(3YR7/1) 灰(5YR7/1) 黒(10YR7/1)	青(3YR7/1) 灰(5YR7/1) 黒(10YR7/1)



第37図 I区 土坑9 (S=1/30)

第1節 IA～IC区の調査

土坑10（第38図、写真図版32）

IC区東のE17グリッドで検出した。規模は検出面で約1.64×1.38m、深さ約45cmである。土坑の中央南東よりの床面で長さ約30cmの石が出土し、その周りで小型の石が出土している。327は1D区遺構外出土の破片と接合した。土坑10の時期はおよそ12世紀後半頃と考えられる。

第36表 IA区土坑10出土遺物観察表

遺物番号	地図番号	基盤番号	種別	基標	穴地番号	層位	寸法(cm)	形状	特徴	測定	地図番号	色調	備考
316	88	88	土師器	环	土坑10		(12.0) (7.0)	3.0		内：赤土色アラベスク模様アーチナット、ヘタケの枝模様	315の跡	白・和の風景(3SY7/12)の 外：青い花柄(3SY7/2)	
317	88	88	漆器	环	土坑10		(11.0) (7.0)	4.5	内：黒漆アラベスク模様アーチナット、頭形	316の跡	内：赤い花柄(3SY7/12)～ 外：黄緑色(3SY7/1)		
318	88	88	漆器	环	土坑10		(7.0)		内：黒漆アラベスク模様アーチナット、頭形	316の跡	内：白(3SY7/1) 外：黄緑色(3SY7/1)		
319	88	88	漆器	環	土坑10				内：黒漆アラベスク模様アーチナット、頭形	316の跡	内：赤(3SY7/1) 外：黄緑色(3SY7/1)		
320	88	88	漆器	环	土坑10				内：黒漆アラベスク模様アーチナット、頭形	316の跡	内：白(3SY7/1) 外：黄緑色(3SY7/1)		
321	88	88	土器	环	土坑10		(13.0) (8.0)	8.0	内：白粘土アラベスク模様アーチナット、頭形	316の跡	内：白(3SY7/1) 外：黄緑色(3SY7/1)	無記	
322	88	87	中型土器	漆	土坑10		(9.0) (4.0)	2.0	内：白粘土アラベスク模様アーチナット、頭形	316の跡	内：白(3SY7/1) 外：黄緑色(3SY7/1)		
323	88	87	中型土器	漆	土坑10		(9.0) (4.0)	1.9	内：白粘土アラベスク模様アーチナット、頭形	316の跡	内：白(3SY7/1) 外：黄緑色(3SY7/1)		
324	88	88	白磁	碗	土坑10				内：白粘土アラベスク模様アーチナット、頭形	316の跡	内：白(3SY7/1) 外：黄緑色(3SY7/1)	無記	
325	88	88	白磁	碗	土坑10				内：白粘土アラベスク模様アーチナット、頭形	316の跡	内：白(3SY7/1) 外：黄緑色(3SY7/1)	無記	
326	88	88	白磁	碗	土坑10		(5.0)		内：白粘土アラベスク模様アーチナット、頭形	316の跡	内：白(3SY7/1) 外：黄緑色(3SY7/1)	1-1b類	
327	88	88	白陶	碗	土坑10				内：白粘土アラベスク模様アーチナット、頭形	316の跡	内：白(3SY7/1) 外：黄緑色(3SY7/1)	V類	

土坑11（第38図、写真図版33）

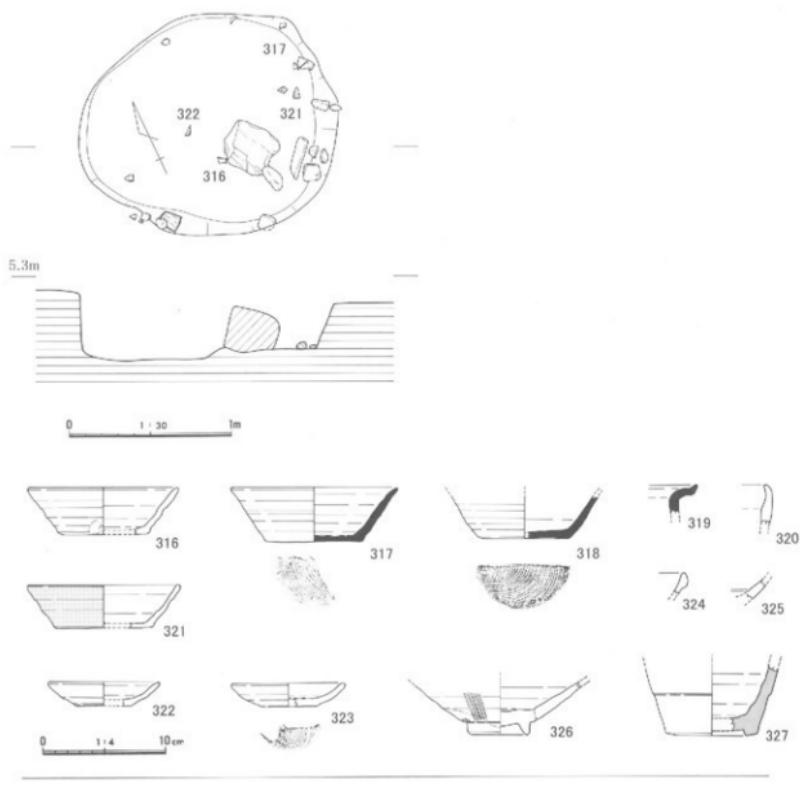
IC区西のF14グリッドで検出した。規模は検出面で約1.02×0.87m、深さ約37cmである。土坑下層には黒褐色粘土が堆積し、長さ20cm前後の石が出土した。また、土坑床面では湧水があった。時期は上層で出土した土師器皿から12世紀前後と考えられる。

第37表 IA区土坑11出土遺物観察表

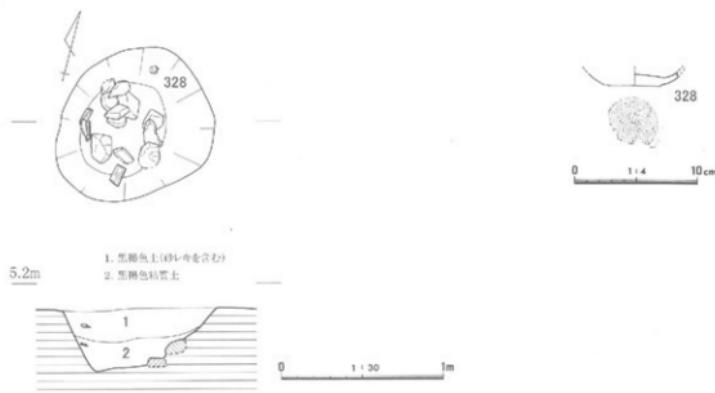
遺物番号	地図番号	基盤番号	種別	基標	穴地番号	層位	寸法(cm)	形状	特徴	測定	地図番号	色調	備考
328	88	87	中型土器	皿	土坑11		(4.0)		内：白粘土アラベスク模様アーチナット、頭形	316の跡	内：白(3SY7/1) 外：黄緑色(3SY7/1)		

土坑12（第39図、写真図版34）

IC区西のF15グリッドで検出した。規模は検出面で約1.72×1.7m以上、深さは約30cmである。土坑床面では大小の石が出土した。時期は12世紀後半～13世紀頃と考えられる。



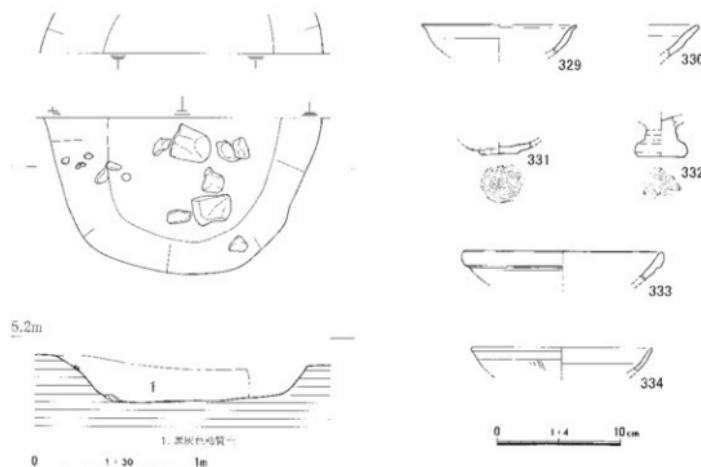
土坑11



第38図 I区 土坑10・11 (S-1/30)

第38表 I区土坑12出土遺物観察表

遺物 番号	埋 藏 場所	方 向 度 数	形 状	器種 G/遺物	層位 上坑底 七段 底盤	寸 法 (cm)	形態・文様の特徴	剖面	性質	柱 土	色 調	備考
329	33	88	中世 土器	II-A	上坑12	(12.6)	口縁内側は片仄する 内:白泥ナメ 外:陶粒ナメ	内:白泥ナメ 外:陶粒ナメ 粘多量	白3.5cmの砂 内:灰褐色(2.5Y3/2) 21-1灰色(2.5Y4/2)	柱 土	白 ・灰褐色(2.5Y3/2) 21-1灰色(2.5Y4/2)	
330	33	88	中世 土器	II-B	上坑12	-	-	内:白泥ナメ 外:陶粒ナメ	内:灰褐色(2.5Y3/2) 外:灰褐色(2.5Y4/2)	柱 土	灰褐色(2.5Y3/2) 外:灰褐色(2.5Y4/2)	
331	39	87	中世 土器	II-C	上坑12	(3.0)	侈張山内側する 内:陶粒ナメ 外:白泥ナメ、厚 粘多量	内:白泥ナメ 外:陶粒ナメ 粘多量	白3.5cmの砂 内:灰褐色(2.5Y3/2) 21-1灰色(2.5Y4/2)	柱 土	白 ・灰褐色(2.5Y3/2) 21-1灰色(2.5Y4/2)	
332	39	88	中世 土器	II-D	上坑12	(1.6)	侈張山内側する 内:陶粒ナメ 外:白泥ナメ、厚 粘多量	内:陶粒ナメ 外:白泥ナメ、厚 粘多量	白3.5cmの砂 内:灰褐色(2.5Y3/2) 21-1灰色(2.5Y4/2)	柱 土	白 ・灰褐色(2.5Y3/2) 21-1灰色(2.5Y4/2)	
333	39	88	口絶 器	II-E	上坑12	(16.2)	口部は平滑 内:白泥ナメ 外:陶粒ナメ	内:白泥ナメ 外:陶粒ナメ、厚 粘多量	白3.5cmの砂 内:灰褐色(2.5Y3/2) 21-1灰色(2.5Y4/2)	柱 土	白 ・灰褐色(2.5Y3/2) 21-1灰色(2.5Y4/2)	IV類
334	39	88	口絶 器	II-F	上坑12	(14.8)	流入部は縮められない	流入部は縮め られない	流入部は縮め られない	柱 土	内:(墨)オク・ソロ赤(17.6/3) 外:(墨)オク・ソロ赤(17.6/3)	I-1類



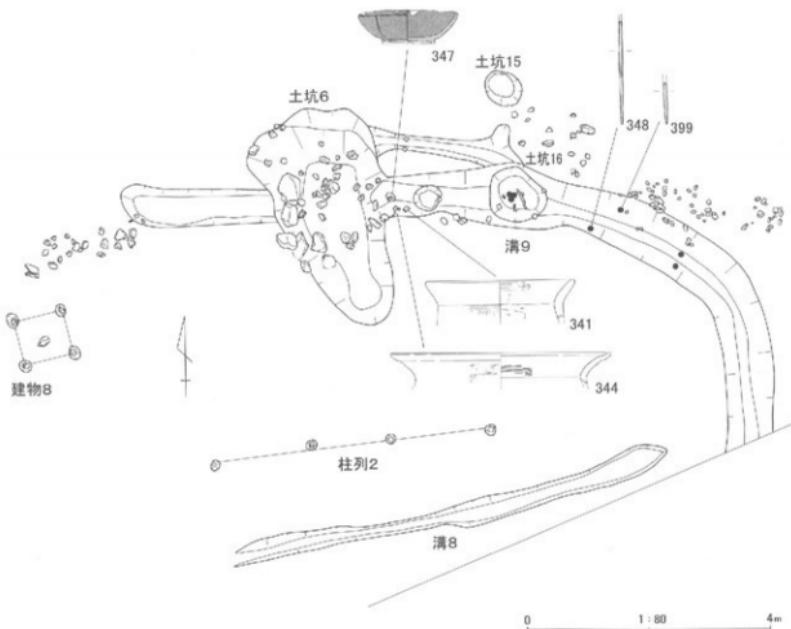
第39図 I区 土坑12 (S: 1/30)

溝9 (第40・41図、写真図版38)

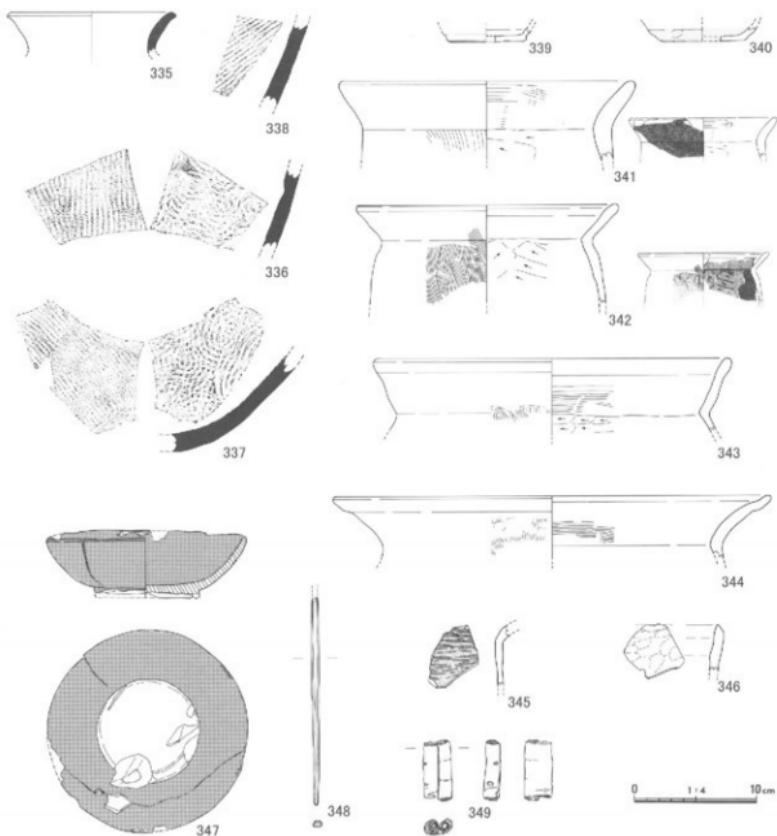
I C区西のG 13・14、II 13・14グリッドで検出した溝状遺構で、床面レベルは西側が高く東側で直角に近い角度で南に曲がっている。規模は幅60~90cm、長さは東西10.4m、南北は検出した範囲で2.8mでさらに調査区の南に続いている。土坑6・土坑16と切り合っているが埋土の区別が困難だったので、遺構の前後関係は判断できなかった。遺物は須恵器・土師器・木製品が出土している。甕345は内面を丁寧に磨き、炭素を吸着させている。木製の椀347は口径に対し器高が低く、体部と底部の境に段がつく。表面には底部以外に漆が塗られている。箸348は丁寧に角を取っており、出土地点が近いので土器窯3で出土した399とセットになる可能性がある。溝9内からは平安時代前半の遺物が多く出土し、遺構の軸も他の12世紀頃の遺構と異なり方位に近い。しかし、床面で出土した347の形状や、小片だが12世紀頃の土師器坏が出土していることから平安時代後半以降の遺構と考えられる。

第39表 I区溝9出土遺物観察表

通物番号	地元番号	写真番号	種類	基準	出土位置 Gr/層	層位	寸法(cm) H横×幅深	形態・文様等	特徴	鉢土	色調	備考
335	41	88	須恵器	壺	溝9		(14.0)	口縁端部に唇を持つ	内:凹輪ナメ 外:凸輪ナメ	径0.3mの鉢 底無	内:紅色(NA3) 外:褐色(NA4)	
336	41	88	須恵器	壺	溝9			内:同心円文オヤニ 外:青2カラム、平 行テクス	径1mの鉢 少量	内:紅色(NA3) 外:褐色(NA4)		
337	41	88	須恵器	壺	溝9			内:同心円文オヤニ 外:青2カラム、平 行テクス	径3.5~4mの 鉢 少量	内:紅色(NA3) 外:褐色(NA4)		
338	41	88	須恵器	壺	溝9			内:アマ 外:凸輪ナメ	径0.3mの鉢 少量	内:紅色(NA3) 外:褐色(NA4)		
339	41	88	土師器	壺	溝9	(8.4)		内:ツケナメナメ 外:凹輪ナメ、平 行テクス	径0.3mの鉢 少量	内:赤2~3輪輪包(NA7) 外:褐色(NA4)		
340	41	88	土師器	壺	溝9	(7.2)		内:ツケナメナメ 外:凹輪ナメ、平 行テクス	径0.3mの鉢 少量	内:赤2~3輪輪包(NA7) 外:褐色(NA4)		
341	41	88	土師器	壺	溝9	(24.4)		口縁部は僅く外傾し、 底部は斜らない	内:ツケナメナメ 外:凹輪ナメ、平 行テクス	径1~2mの鉢 少量	内:灰褐色(NA9) 外:黒(NA1)	
342	41	88	土師器	壺	溝9	(21.5)		口縁部は直角的に外傾し、 底部は外方に傾斜す る	内:ツケナメ、平 行テクス	径1~2mの鉢 少量	内:灰褐色(NA9) 外:灰褐色(NA9)	
343	41	88	土師器	壺	溝9	(29.4)		口縁部は僅く外傾し、 底部は斜らする	内:ツケナメ、平 行テクス	径1~2mの鉢 少量	内:灰褐色(NA9) 外:灰褐色(NA9)	
344	41	88	土師器	壺	溝9	(36.0)		口縁部は内側に稍傾 する	内:ツケナメ、平 行テクス	径1~2mの鉢 少量	内:灰褐色(NA9) 外:褐色(NA4)	
345	41	88	土師器	壺	溝9			内面に突出參頭がある る	内:ツケナメ 外:ツケナメ	径0.5mの鉢 少量	内:灰褐色(NA9) 外:褐色(NA4)	
346	41	88	瓦	壺	溝9			内:ツケナメ、アマ 外:ナメ	径0.3mの鉢 少量	内:紅色(NA3) 外:褐色(NA4)		
347	41	90	木製品	壺								ケヤキ
348	41	90	木製品	壺								杉
349	41	90	木製品	壺								



第40図 I区 溝9 (S=1/80)



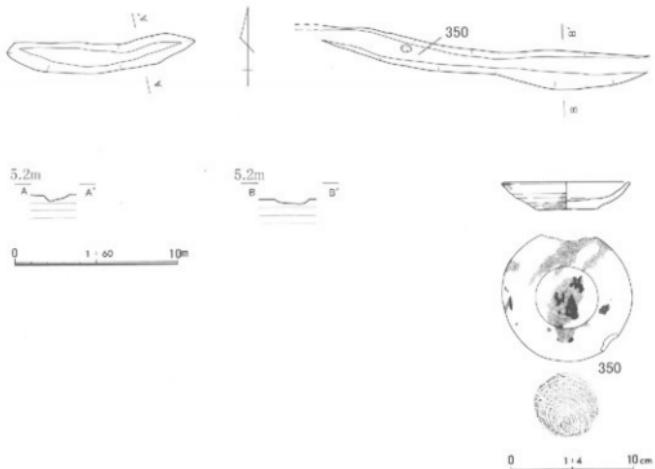
第41図 1区 溝9出土遺物 (S=1/4)

溝5(第42図)

1C区東のF17グリッドで検出した。東西に分かれて検出したが溝の方向や埋土の状況から本来は一連の溝と考えられる。溝の方向はほぼ東西軸で、規模は検出面で幅35~50cm、長さは東西合わせて約8mである。溝の中央東より土師器皿350が出土した。外面に炭化物が付着した部分があり、灯明皿に使用したものと考えられる。時期は12世紀後半頃と思われる。

第40表 1区溝5出土遺物観察表

遺物番号	測定番号	穿孔番号	種別	基準	出土場所 (G)地盤	実寸 (mm)	寸法 (cm) 幅×高さ	形態・文様の特徴	調査	植土	色調	備考
350	42	80	中 土師器	目	溝5	10.4	5.1 2.3	円筒形ナメ 有孔透空部、目 丸高脚	面付多脚	内：褐色古綠色(BY711/2) 外：褐色古綠色(BY711/4) 一辺直角(?)		



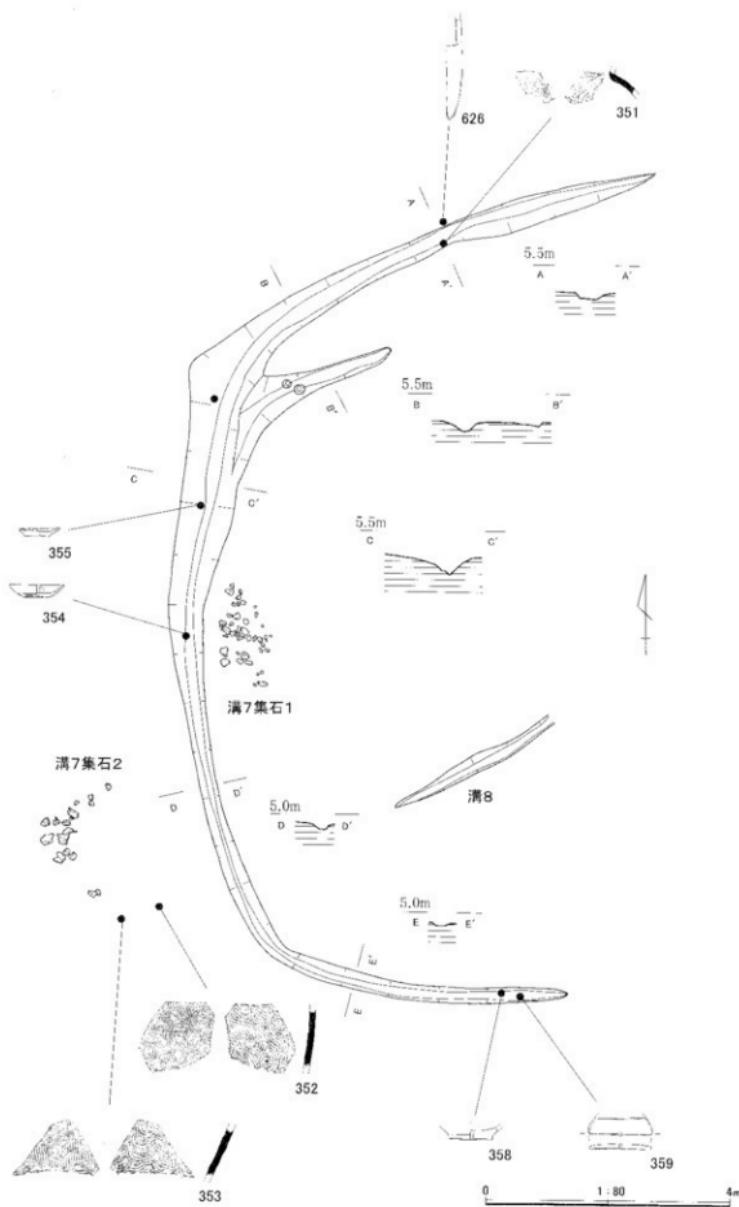
第42図 I区 溝5 (S=1/60)

溝7 (第43~44図、写真図版35)

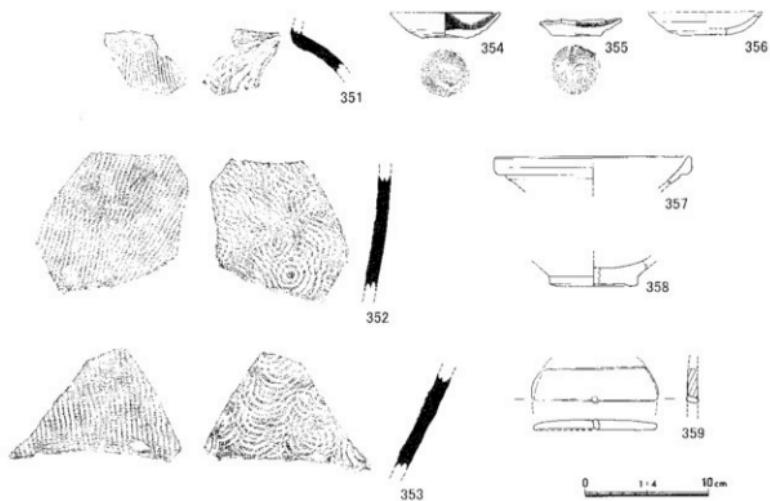
I C区西のF14・15~G14・15グリッドで検出した。建物9・柱列8~10、土坑11、溝8や他の柱穴など、I C区西の東側で検出したほとんどの遺構を囲んでいる。北側に溝が2重になる部分があり、内側の短い溝が一段高くなっているので北側に掘直したと考えられる。溝の中央の両側に拳大から人頭大の石の集まりがある。溝内や周辺で須恵器・土師器・陶磁器・木製品が出土している。溝9の時期は出土した遺物の年代や、溝の内側で検出した遺構の年代から12世紀頃と考えられる。

第41表 I区溝7出土遺物観察表

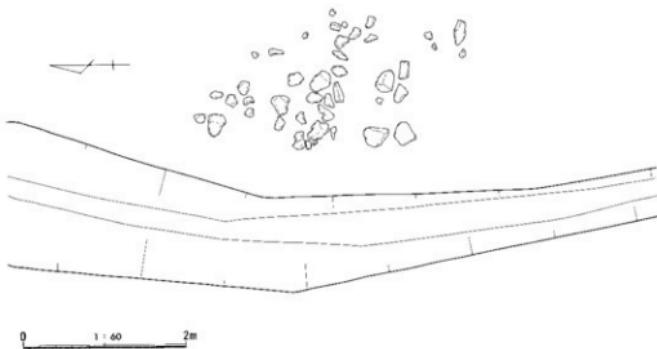
遺物 番号	基盤 番号	方西 番号	種別	基種	出土位置 Gr/地質	層位	寸法 (cm) 11壁 底傾 基面	形態・文様の特徴	調査	附注	色調	備考
351	44	89	須恵器	圓	溝?				青白引立、丸肩付 耳:斜切欠、腹:リム 有:リム付、腹:リム	往:3.5cmの後 縁部破損	外:米色 (NA/2) 内:灰白色 (GY5/3)	
352	44	89	須恵器	圓	G-14				片口斜弧文様 片口斜弧文様、腹:リム 有:リム付、腹:リム	往:3.5cmの後 縁部少破	内:灰白色 (LA4/2) 外:米色 (GY5/3)	
353	44	89	須恵器	圓	G-14				内:直口斜弧文様 内:直口斜弧文様 内:直口斜弧文様	往:3.5cmの後 縁部多孔	内:灰白色 (GY5/3) 外:米色 (NE6/1)	
354	44	89	中世 土師器	皿	溝7	(G.0)	3.8 2.1	体端に内側する	PP:斜切ナギ 内:斜切ナギ、腹 軸:斜切ナギ、腹 縁部少孔	往:3.5cmの後 縁部少孔	内:灰白色 (LA4/2) 外:米色 (GY5/3) 外:斜切ナギ (GY5/4/0)	
355	44	89	中世 土師器	皿	溝7		4.0	体端を打ち欠いて蓋面 を軽くしている	PP:斜切ナギ 内:斜切ナギ、腹 軸:斜切ナギ、腹 縁部少孔	往:3.5cmの後 縁部少孔	内:斜切ナギ (GY5/3) 外:斜切ナギ (GY5/4/0)	
356	44	89	中世 土師器	皿	溝7	(4.4)		体端は浅く内側する	PP:斜切ナギ 内:斜切ナギ、腹 軸:斜切ナギ、腹 縁部少孔	往:3.5cmの後 縁部少孔	内:青白 (LA4/2) 外:斜切ナギ (GY5/4/0)	
357	44	88	白磁	圓	溝7	(G.2)		口縁部は厚みのある三 輪	内:斜切ナギ 外:斜切ナギ	アラビア多角	内:青白 (GY5/4/0) 外:米色 (GY5/3)	IV類
358	44	88	白磁	圓	溝7 G-14		(7.2)	高台部は堅か広くなり、 全体を出し形成	内:斜切ナギ 外:斜切ナギ	小さな空洞あ る	内:青白 (GY5/4/0) 外:米色 (GY5/3)	IV類
359	44	88	木製品		溝7	径:10.4	厚:0.8	円筒状、中央に横穴の 跡がある				Eノキ



第43図 I区 溝7 ($S = 1/80$)



溝7集石1



溝7集石2



第44図 T区 溝7集石 ($S=1/30$)、出土遺物 ($S=1/4$)

土器窓1（第45～47図、写真図版36・37）

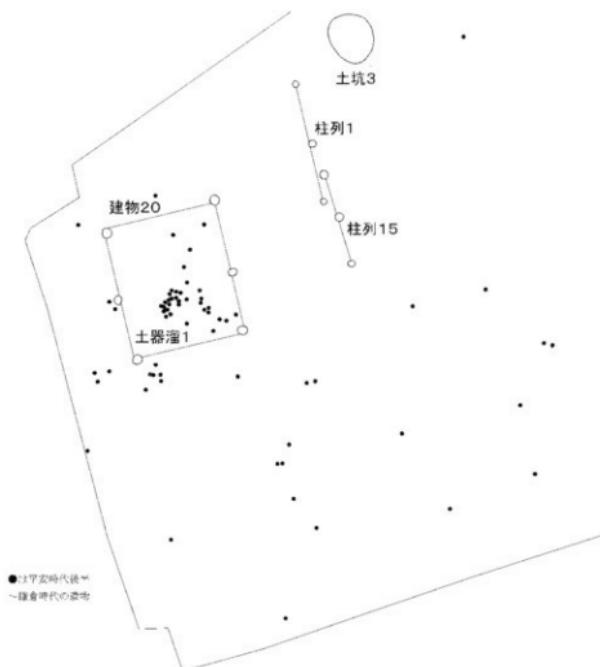
1B区のH 9・10～19・10グリッドで6層検出中に、土師器の壺・皿類がまとめて出土した。出土した土器は主に11世紀～12世紀の土師器だが、一部10世紀頃と思われるものや弥生土器が含まれており、壺・皿類も全て一時期のものではなくやや時期幅のある資料と思われる。しかし、第45図に示したようにこの部分だけ平安時代後半～鎌倉時代の遺物が密集して出土しているので、何らかの意味を持つまとまりと考えられる。

第42表 IC区土器窓1出土遺物観察表①

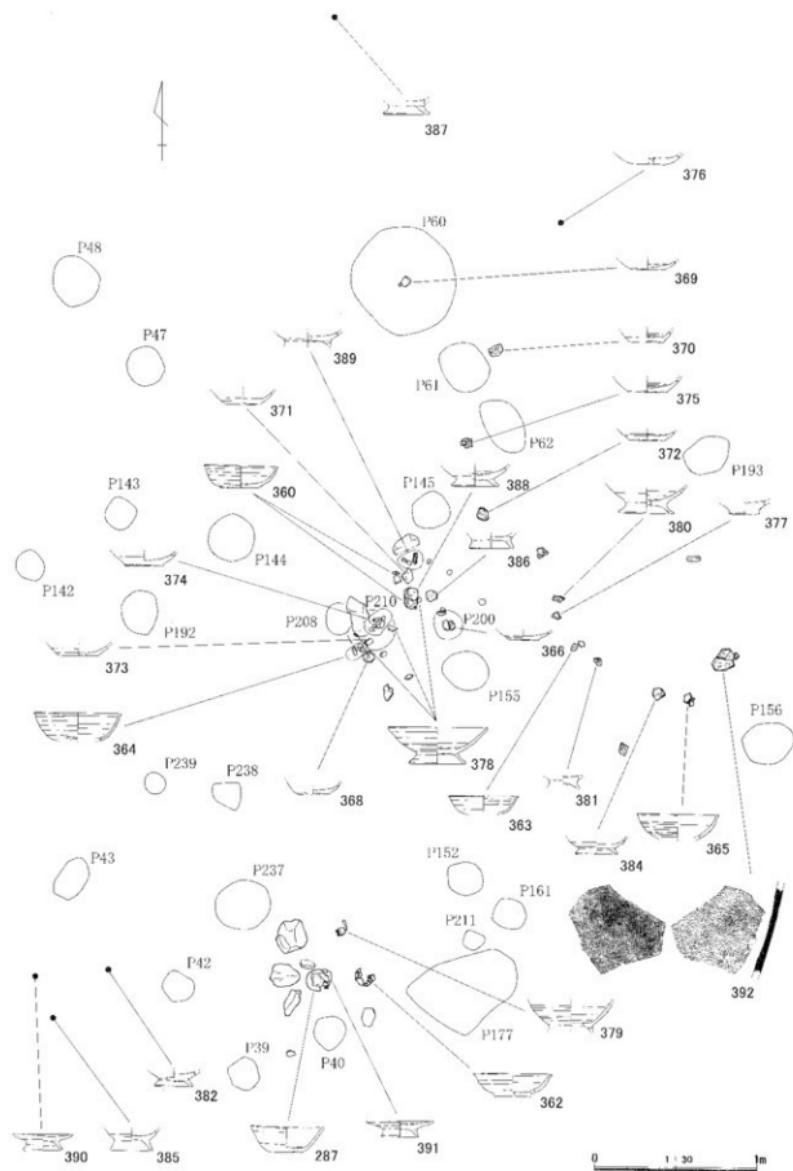
測量番号	測量年	測量番号	測量年	測量番号	測量年	測量番号	測量年	寸法 (cm)	寸法 (cm)	形態・文様の特徴	測定	貯土	色調	備考
								横幅	高さ					
360	47	98	中世 土師器	壺	H 10	5	12.1	6.0	3.8	内：凹面ナメ 外：凹面ナメ、手 縫合	内：凹面ナメ 外：凹面ナメ、手 縫合	白	灰褐色	
361	47	99	中世 土師器	壺	H 10	5	(12.3)	(6.2)	3.8	内：凹面ナメ 外：凹面ナメ、手 縫合	内：凹面ナメの 外：凹面ナメ	白	灰褐色 (7.5YR6/ 5.5G/5.5/2)	
362	47	93	中世 土師器	壺	H 10	5	(13.4)	(6.0)	(3.7)	内：凹面ナメ 外：凹面ナメ、手 縫合	内：凹面ナメの 外：凹面ナメ	白	灰褐色 (7.5YR7/C 5.5G/5.5/4)	
363	47	90	中世 土師器	壺	H 10	5	(11.4)			内：凹面ナメ 外：凹面ナメ	内：凹面ナメの 外：凹面ナメ	白	灰褐色 (7.5YR8/4) 外：灰褐色 (7.5YR8/4)	
364	47	90	中世 土師器	壺	H 10	5	(14.3)			内：凹面ナメ 外：凹面ナメ	内：凹面ナメの 外：凹面ナメ	白	灰褐色 (7.5YR7/D 5.5G/5.5/4)	
365	47	90	中世 土師器	壺	H 10	7	(13.7)			内：凹面ナメ 外：凹面ナメ	内：凹面ナメの 外：凹面ナメ	白	灰褐色 (7.5YR7/D 5.5G/5.5/4)	
366	47	91	中世 土師器	壺	H 10	7	5.9			内：凹面ナメ、手 縫合	内：凹面ナメの 外：凹面ナメ	白	灰褐色 (7.5YR7/4) 外：灰褐色 (7.5YR7/4)	
367	47	91	中世 土師器	壺	H 10			5.3		内：凹面ナメ 外：凹面ナメ、手 縫合	内：凹面ナメの 外：凹面ナメ	白	灰褐色 (7.5YR6/4) 外：灰褐色 (7.5YR6/4)	
368	47	91	中世 土師器	壺	H 10	5	3.4			内：凹面ナメ 外：凹面ナメ、手 縫合	内：凹面ナメの 外：凹面ナメ	白	灰褐色 (7.5YR7/2) 外：灰褐色 (7.5YR7/2)	
369	47	91	中世 土師器	壺	H 10	5	5.6			内：凹面ナメ 外：凹面ナメ、手 縫合	内：凹面ナメの 外：凹面ナメ	白	灰褐色 (7.5YR6/4) 外：灰褐色 (7.5YR6/4)	
370	47	91	中世 土師器	壺	H 10	5	b.6			内：凹面ナメ 外：凹面ナメ、手 縫合	内：凹面ナメの 外：凹面ナメ	白	灰褐色 (7.5YR6/6) 外：灰褐色 (7.5YR6/6)	
371	47	92	中世 土師器	壺	H 10	b		5.7		内：凹面ナメ 外：凹面ナメ、手 縫合	内：凹面ナメの 外：凹面ナメ	白	灰褐色 (7.5YR7/9) 外：灰褐色 (7.5YR7/9)	
372	47	91	中世 土師器	壺	H 10	5		5.8		内：凹面ナメ 外：凹面ナメ、手 縫合	内：凹面ナメの 外：凹面ナメ	白	灰褐色 (7.5YR6/6) 外：灰褐色 (7.5YR6/6)	
373	47	91	中世 土師器	壺	H 10	5		6.0		内：凹面ナメ 外：凹面ナメ、手 縫合	内：凹面ナメの 外：凹面ナメ	白	灰褐色 (7.5YR6/6) 外：灰褐色 (7.5YR6/6)	
374	47	91	中世 土師器	壺	H 10	5		(6.0)		内：凹面ナメ 外：凹面ナメ、手 縫合	内：凹面ナメの 外：凹面ナメ	白	灰褐色 (7.5YR6/6) 外：灰褐色 (7.5YR6/6)	
375	47	91	中世 土師器	壺	H 10	5		(6.1)		内：凹面ナメ 外：凹面ナメ、手 縫合	内：凹面ナメの 外：凹面ナメ	白	灰褐色 (7.5YR6/6) 外：灰褐色 (7.5YR6/6)	
376	47	90	中世 土師器	壺	H 10	5		(6.1)		内：不規 外：不規	内：不規の 外：不規	白	灰褐色 (7.5YR6/6) 外：灰褐色 (7.5YR6/6)	
377	47	91	中世 土師器	壺	H 10			(5.0)		内：凹面ナメ 外：凹面ナメ、手 縫合	内：凹面ナメの 外：凹面ナメ	白	灰褐色 (7.5YR6/6) 外：灰褐色 (7.5YR6/6)	
378	47	93	中世 土師器	両耳 付	H 10+ 20%	5.7	(16.3)	(9.0)	6.0	口沿・底盤は内側に 突起は外側する。底盤 は内側を付ける。	内：凹面ナメ 外：凹面ナメ、手 縫合	白	灰褐色 (7.5YR6/6) 外：灰褐色 (7.5YR6/6)	灰褐色
379	47	90	中世 土師器	両耳 付	H 9	5				底盤に落書きを付ける。	内：凹面ナメ 外：凹面ナメ	白	灰褐色 (7.5YR6/6) 外：灰褐色 (7.5YR6/6)	
380	47	90	中世 土師器	両耳 付	H 10	5		(9.0)		底盤に落書きを付ける。	内：凹面ナメ 外：凹面ナメ	白	灰褐色 (7.5YR6/6) 外：灰褐色 (7.5YR6/6)	

第43表 I区土器窯1出土物観察表②

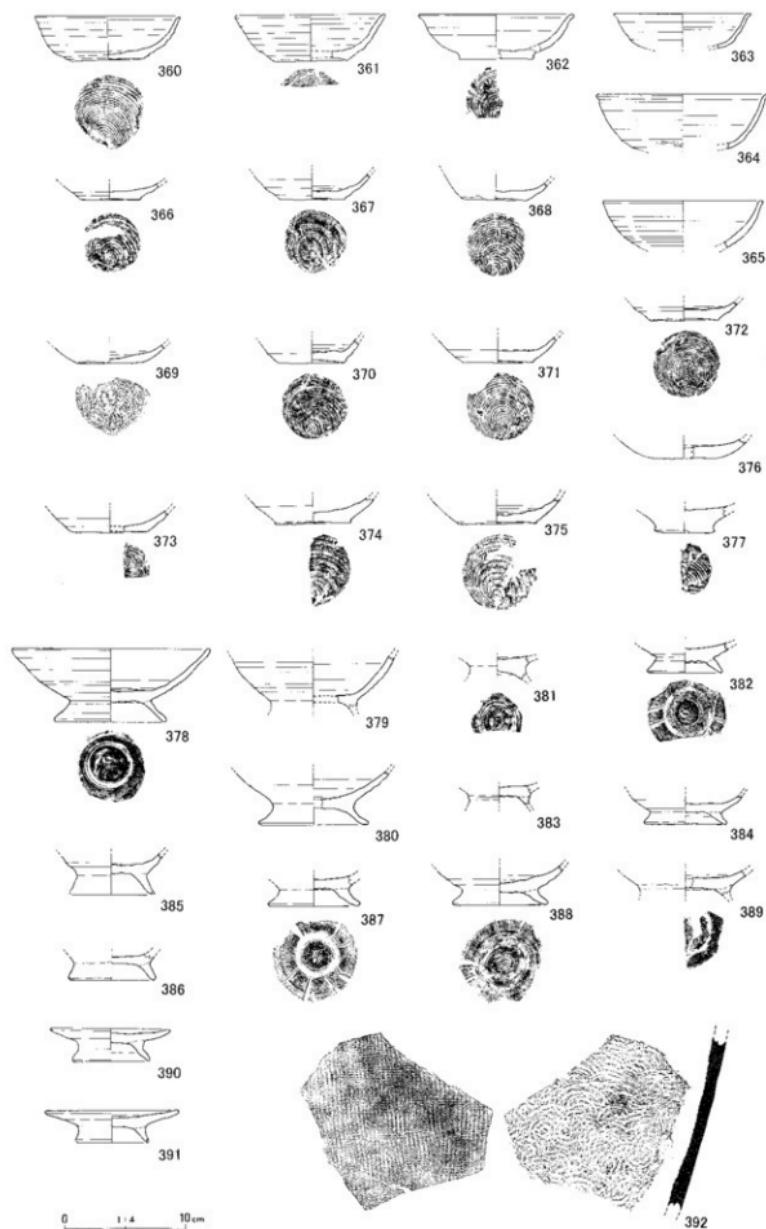
項目 番号	発掘 場所	埋蔵 位置	種類	鉢土器 (G)の 種類	部位	寸法 (cm)	状態 底(底) 表面	形態・文様の特徴	測定	断面	備考	
											内	外
381	47	90	中 世 土器窯	西台 付环	H-10	5		底部に高台を残り付ける 内: 頂部カット 外: 亂れナメ	直径30cmの金 内: 高い背高 (13.7cm)/4 外: 亂れナメ (3.0cm)			
382	47	90	中 世 土器窯	西台 付环	H-9	7	6.5	底部に高台を残り付ける 内: 頂部カット 外: 亂れナメ	直径30cmの金 内: 高い背高 (13.5cm)/2 外: 亂れナメ (3.5cm)			
383	47	90	中 世 土器窯	西台 付环	G-11	6		底部に高台を残り付ける 内: 頂部カット 外: 亂れナメ, 山形 系形	直径30cmの金 内: 高い背高 (13.5cm)/4 外: 亂れナメ (3.5cm)			
384	47	90	中 世 土器窯	西台 付环	H-10	5	6.8	底部に高台を残り付ける 内: 頂部カット 外: 亂れナメ, 山形 系形	直径30cmの金 内: 高い背高 (13.5cm)/3 外: 亂れナメ (3.5cm)			
385	47	90	中 世 土器窯	西台 付环	H-9	7	(7.0)	底部に高台を残り付ける 内: 頂部カット 外: 亂れナメ, 山形 系形	直径30cmの金 内: 高い背高 (13.5cm)/2 外: 亂れナメ (3.5cm)			
386	47	90	中 世 土器窯	西台 付环	H-10	6	7.2	底部に高台を残り付ける 内: 頂部カット 外: 亂れナメ, 山形 系形	直径30cmの金 内: 高い背高 (13.5cm)/2 外: 亂れナメ (3.5cm)			
387	47	90	中 世 土器窯	西台 付环	H-9	8	(7.0)	底部に高台を残り付ける 内: 頂部カット 外: 亂れナメ, 山形 系形	直径30cmの金 内: 高い背高 (13.5cm)/4 外: 亂れナメ (3.5cm)			
388	47	90	中 世 土器窯	高台 付环	H-10	5	(7.0)	底部に高台を残り付ける 内: 頂部カット 外: 亂れナメ, 山形 系形	直径30cmの金 内: 高い背高 (13.5cm)/4 外: 亂れナメ (3.5cm)			
389	47	90	中 世 土器窯	高台 付环	H-10	5		底部に高台を残り付ける 内: 頂部カット 外: 亂れナメ, 山形 系形	直径30cmの金 内: 高い背高 (13.5cm)/4 外: 亂れナメ (3.5cm)			
390	47	92	中 世 土器窯	台付 直	1.9	7	(10.0)	底部に高台を残り付ける 内: 頂部カット 外: 亂れナメ, 山形 系形	直径30cmの金 内: 高い背高 (13.5cm)/4 外: 亂れナメ (3.5cm)			
391	47	92	中 世 土器窯	台付 直	I-9	5	(11.0)	底部に高台を残り付ける 内: 頂部カット 外: 亂れナメ, 山形 系形	直径30cmの金 内: 高い背高 (13.5cm)/4 外: 亂れナメ (3.5cm)			
392	47	91	土器窯	直								



第45図 I区 土器窯1の位置 (S-1/150)



第46図 IA区 土器窓 1 (S=1/30)



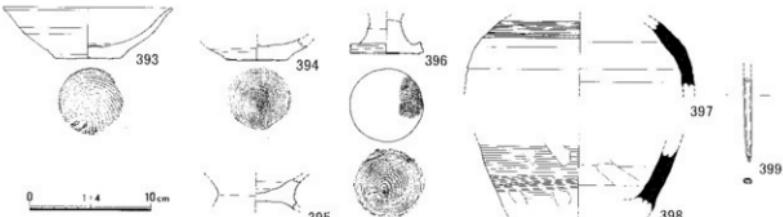
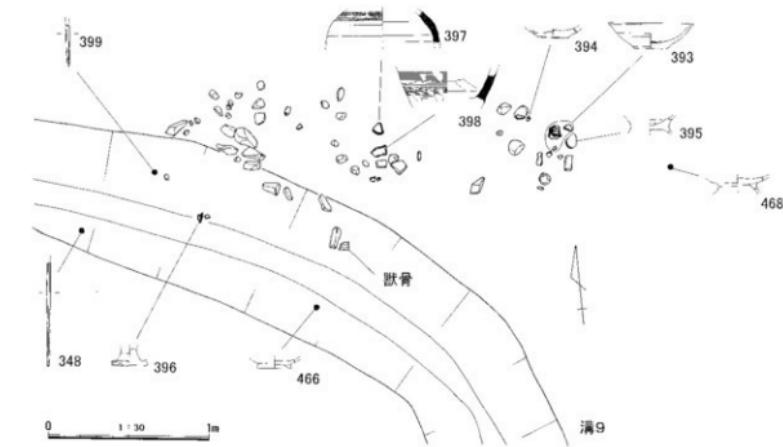
第47図 1区 土器窯1出土遺物 (S=1/4)

土器窪3（第48図、写真図版38）

IC区西のG14グリッドで土器窪・須恵器が多数の石と共にまとまって出土した。時期はおよそ12世紀ごろと考えられる。ほかに木製の箸399や獸骨、種実類も出土しており、周辺の同時期の建物から発掘されたものと考えられる。

第44表 I区土器窪3出土遺物観察表

遺物番号	埋蔵年	万代号	種別	器種	式別	部位	寸法 (cm)	形態・文様の特徴	種類	出土	内訳	備考
393	48	93	中世 土器窪	窪	G-14	口径、底径 高さ	(13.9) 4.2 2.8	口縁部破損 内面に底面を差異させ る	内：石縫 外：陶器、土器、石 縫切欠	内：底面下の 内縫、底面、縫 縫切欠	内：薄い青褐色(10YR 5/2) 外：薄い青褐色(10YR 5/2)	
394	48	10	中世 土器窪	窪	G-14				内：底面を差異させ る	内：底面下の 内縫、底面、縫 縫切欠	内：薄い青褐色(10YR 5/2) 外：薄い青褐色(10YR 5/2)	
395	48	35	中世 土器窪	窪	G-14			底面外縁を削り 付ける	内：底面下の 内縫、底面	内：底面下の 内縫、底面	内：薄い青褐色(10YR 5/2) 外：薄い青褐色(10YR 5/2)	
396	48	95	中世 須恵器	縦状 片状	G-14		6.0	底面外縁を外方に押さ せる	内：内縫	内：底面下の 内縫、底面	内：薄い青褐色(10YR 5/2) 外：薄い青褐色(10YR 5/2)	
397	48	85	中世 須恵器	縦	G-14			縫跡は丸くつくる	内：内縫	内：底面下の 内縫、底面	内：薄い青褐色(10YR 5/2) 外：薄い青褐色(10YR 5/2)	
398	48	85	中世 須恵器	縦	G-14				内：ナメ 外：カヌメ、ナメ	内：底面下の 内縫、底面	内：薄い青褐色(10YR 5/2) 外：薄い青褐色(10YR 5/2)	
399	48	10	木製品	箸	G-14							又



第48図 I区 土器窪3 (S = 1/30)

遺構に伴わない遺物（第49～55図）

I A区では6層上面で土師器の壺・皿類（400～404）が出土している。このうち401～403は色調・胎土が土器窓1の遺物と同様のものである。このほか伊佐波神社跡の礫面や造成土内、瓷器系陶器や貿易陶磁が若干出土した。

I B区では11世紀～13世紀頃と思われる遺物が比較的まとまって出土している。405～436は土師器の壺・皿類で、土器窓1のある調査区西側での出土量が多い。また、内面に炭素を吸着させた壺（432～435）は、I A区ではI B区西側のグリッドでのみ出土している。436は内面に漆の膜が付着していた。擂鉢・鍋などの調理具は小片が多く、鍋は図示できなかった。鉢類は十師浴・須恵器・瓷器系陶器のものが出土した。土師器の擂鉢（437・438）は内面にクシ描きの摺り目があり、鎌倉時代以降のものと思われる。須恵器の鉢（444～447）は内面ハケ調整のものが大半で、ナデ調整のものは小片が2点出土している。瓷器系陶器の鉢（450・451）は底部外縁に断面三角形の高台を貼り付け、体部外縁の下半には粗いケズリが施される。I D区・II A区で多数出土したものと同様の胎土・焼成で、同じ産地の製品と考えられる。451の内面上部には3条の平行沈線がある。壺・甕類も小片が多いが、須恵器（439～443）のほか瓷器系陶器（448・449）のもの出土している。441～443は外面に格子目タタキ、内面にハケ調整を施すことで焼成は軟質である。I B区では胴部のみ出土したが、II A区で全形の分かる資料が出土している。貿易陶磁は白磁碗（452～456）が青磁類（457～459）より多く出土した。また、陶器の壺（460・461）はII A区北側で出土した破片と同一固体の可能性もある。462は調整・胎土・焼成から中国陶器の壺類の底部と判断した。

I B区では上師器の壺・皿類が北よりのグリッドで多く出土するのに対し、壺・甕・擂鉢や陶磁器類は南よりのグリッドで多く出土している。I B区の南に隣接するII A区では、この時期の調理具や貯蔵具、陶磁器類が多数出土しているので、遺物の分布差は遺構の時期や性格の違いを反映していると考えられる。

I C区もI B区同様に12世紀頃の遺物が全出土遺物の中で最も多く出土している。上師器の壺・皿類（463～499）は基本的にI B区と類似するものが出土した。I B区と異なる点としては、柱状高台付きの壺・皿類（489～499）が遺構出土のものも含めると、I B区の13点に対し3倍以上の41点出土したことが挙げられる。調理具・貯蔵具はほとんど出土せず、鍋・釜類は確認できなかった。須恵器の鉢（505～508）はいずれもナデ調整が施されるもので、508にはクシ描きの摺り目がある。壺・甕類は須恵器の胴部（500～504）が小片で出土し、全形の分かる資料は無かった。瓷器系陶器のものはI D区と同一固体の小片が僅かに出土したのみである。貿易陶磁（509～530）は12世紀頃の白磁が最も多く出土し、陶器類は確認できなかった。

I C区は出土した遺物のほとんどが土師器・貿易陶磁の壺・皿類で、出土遺物で見ると他の調査区と異なる様相を示している。

第45表 I区出土平安時代後半～鎌倉時代の遺物観察表①

遺物番号	地図番号	丁目番号	種別	胎土	性質	寸法(cm)	部位	物語・文様の特徴	調整	出土	色調	備考	
400	49	94	中・上 土師器	壺	I A	(12.0)	(5.9)	4.9	内壁は暗く内凹する 内面にハケ調整	内面にハケ調整 内面にハケ調整	白：褐色(25YR6/4) 白：褐色(25YR6/4)	-	
401	49	94	中・上 土師器	壺	I A	6	(12.2)	5.2	4.8	内壁は浅く内凹する 内面にハケ調整	内面にハケ調整 内面にハケ調整	白：褐色(25YR6/4) 白：褐色(25YR6/4)	-
402	49	94	中・上 土師器	壺	I A	6	(12.0)	(5.6)	3.4	内壁は深く内凹する 内面にハケ調整	内面にハケ調整 内面にハケ調整	白：褐色(25YR6/4) 白：褐色(25YR6/4)	-

第46表 1区出土平安時代後半~鎌倉時代の遺物観察表②

遺物 番号	種別	基盤	中柱点 G/G点	層位	寸 法(cm) 底 厚 高 幅 深	測定 方法	測定・文様の特徴		割合	色調	備考
							底面	側面			
403	49 94 中世 土器類 灰陶 付木	IA	6				底面に凸凹が見受けられ、縁部に凹部がある。	内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ、縁 部有地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ、縁 部有地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)~ 灰: 灰色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
401	59 94 中世 土器類 灰	IA	5	(7.5) (3.8)	1.4		底面は内凹する。縁部 が高く、内側に凹部がある。	内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ、縁 部有地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ、縁 部有地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
405	51 94 中世 土器類 灰陶 付木	H-10	7	13.0	7.7		底面は内凹する。縁部 が高く、内側に凹部がある。	内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ、縁 部有地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
406	52 95~ 95 中世 土器類 灰陶 付木	I-10~ II-10	18		5.5		見込み部に「丁」の形 の溝がある。	内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ、縁 部有地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6)~ 灰: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
407	51 95~ 95 中世 土器類 灰	I-10~ II-10	b	(5.8)			底面は内凹する。	内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6)~ 灰: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
408	51 94 中世 土器類 灰陶 付木	I-10	5				底面は内凹する。縁部 が高く、内側に凹部がある。	内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ、縁 部有地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
409	51 97 中世 土器類 灰陶	I-10	5	(3.9)			底面は内凹する。	内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
410	51 97 中世 土器類 灰陶 付木	I-10	5				底面は内凹する。	内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
411	51 94 中世 土器類 灰陶 付木	H-9	5	14.0	5.8	7.7	内面は内凹する。外側に 縫合部を有する。	内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ、縫 合部有地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
412	51 94 中世 土器類 灰陶	II-9	16	(11.3)	(5.8)	3.2	内面は内凹する。	内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ、縫 合部有地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
413	51 95~ 95 中世 土器類 灰	G-11	6	(10.0)	(5.2)	2.45	内面・底面は内凹する。 縫合部を有する。	内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ、縫 合部有地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
414	51 95~ 95 中世 土器類 灰	H-8	5				内面は内凹する。	内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ、縫 合部有地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
415	51 95~ 95 中世 土器類 灰陶	H-10	16		(5.3)		底面は内凹する。	内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ、縫 合部有地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
416	51 95~ 95 中世 土器類 灰陶	H-10			(5.3)			内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ、縫 合部有地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
417	51 95~ 95 中世 土器類 灰	H-13~ H-13 灰陶 付木	II-13~ II-13 I-13		4.6			内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ、縫 合部有地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
418	51 97 中世 土器類 灰陶	I-9	5				底面は内凹する。	内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ、縫 合部有地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
419	51 94 中世 土器類 灰陶	G-11	5		(8.0)		底面は内凹する。	内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ、縫 合部有地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
420	51 97 中世 土器類 灰陶	I-9	5	(7.2)	(3.9)	5.1	内面・底面は内凹する。 縫合部を有する。	内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ、縫 合部有地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
421	51 95~ 95 中世 土器類 灰陶	I-10	16	(8.4)	(4.1)	1.5	内面は外反し、縫合部 を有する。	内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ、縫 合部有地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
422	51 97 中世 土器類 灰陶	I-10	5	(11.2)	(4.8)	1.35	内面・底面は内凹する。 縫合部を有する。	内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ、縫 合部有地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
423	51 97 中世 土器類 灰陶	H-10	7	(11.2)			内面・底面は大きくな く。	内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
424	51 97 中世 土器類 灰陶 付木	T-10 T-10 灰陶 付木	7	(12.0)			内面・底面は大きくな く。	内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
425	51 97 中世 土器類 灰陶	I-10	5					内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
426	51 95~ 95 中世 土器類 灰陶	H-11	5	(6.2)	(5.0)	1.05	内面・底面は内凹する。 縫合部を有する。	内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ、縫 合部有地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
427	51 95~ 95 中世 土器類 灰	H-9	5	(0.7)	(5.6)	1.85	内面・底面は内凹する。	内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ、縫 合部有地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
428	51 95~ 95 中世 土器類 灰陶	H-11	5	(7.0)	(3.6)	1.3	内面・底面は内凹する。	内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ、縫 合部有地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
429	51 95~ 95 中世 土器類 灰陶	G-11	5	(7.8)	(5.4)	1.5	内面・底面は内凹する。 縫合部を有する。	内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ、縫 合部有地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
430	51 95~ 95 中世 土器類 灰陶	I-11	a	(8.6)	(4.8)	1.35	内面・底面は内凹する。	内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ、縫 合部有地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)
431	51 95~ 95 中世 土器類 灰陶	I-11	3	7.8	3.8	1.6	内面・底面は内凹する。	内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ、縫 合部有地ナメ	底面の砂粒 内: 面無地ナメ 外: 面無地ナメ	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)	白: 濃黒色(3.3V6/6) 青: 淡黄色(3.5V7/6)

第47表 I区出土平安時代後半～鎌倉時代の遺物観察表③

遺物番号	種類	年代	性別	器種	G/C値	層位	寸法(cm)			志題・様式の特質	出所	地図	備考
							口幅	底径	高さ				
432	51	95-96	中世男 土器	不 青釉 付体	P145	(15.4)				内：土手ナ 外：白釉	尾上町の發 見多事	内：黒褐色(2.5YR/1) 外：灰褐色(1.5YR/2)	
433	51	95-96	中世 土器	青釉 付体		5				内：土手ナ 外：白釉	近江郡日下 の砂利路塗	内：白色(3.5YR/1) 外：黒褐色(1.5YR/2)	
434	51	95-96	中世 土器	高台 付体	H 9					内：土手ナ 外：白釉	近江郡日下 の砂利路塗	内：黑色(3.5YR/1) 外：灰褐色(1.5YR/2)	
435	51	95-96	中世 土器	灰陶 付体	I-10	10	7	(6.0)	内面に灰陶を施釉させ てある	内：土手ナ 外：白釉	近江郡日下 の砂利路塗	内：黑色(2.5YR/2) 外：灰褐色(3.5YR/1)	
436	51	95-96	中世 土器	不 灰陶	I-10	10	16	(6.4)		内：土手ナ 外：白釉	近江郡日下 の砂利路塗	内：黑色(2.5YR/2) 外：灰褐色(1.5YR/2)	
437	51	95-96	中世 土器	灰陶	I-9	5			内：土手ナ 外：白釉	近江郡の砂 利塗	内：灰褐色(3.5YR/1) 外：灰褐色(1.5YR/2)		
438	51	95-96	中世 土器	灰陶	G-11	3			内：土手ナ 外：白釉	近江郡の砂 利塗	内：灰褐色(3.5YR/2) 外：灰褐色(1.5YR/2)		
439	51	95-96	中世 土器	青釉 付体	I-10	5		(10.0)	内面に灰陶を施釉させ てある	内：土手ナ 外：白釉	近江郡の砂 利塗	内：黑色(3.5YR/1) 外：灰褐色(1.5YR/1)	赤堀
440	51	97	須恵器	青 灰陶	G-11 H-10 I-10 J-10	3.1 7.1 8.1 10.1		(14.3)	圓錐形基	内：土手ナ 外：白釉	近江郡日下 の砂利路塗	内：灰褐色(3.5YR/1) 外：灰褐色(1.5YR/1)	
441	51	95-96	口沿 須恵器	青 灰陶	I-10-10	5			内：土手ナ 外：白釉	近江郡日下 の砂利路塗	内：黑色(3.5YR/1) 外：灰褐色(1.5YR/1)		
442	51	95-96	中世 須恵器	青 灰陶	G-11	5			内：土手ナ 外：白釉	近江郡日下 の砂利路塗	内：灰褐色(3.5YR/1) 外：灰褐色(1.5YR/1)		
443	51	95-96	中世 須恵器	青 灰陶	H-11	7			内：土手ナ 外：白釉	近江郡日下 の砂利路塗	内：灰褐色(3.5YR/1) 外：灰褐色(1.5YR/1)		
444	52	95-9	中世 須恵器	青 灰陶	G-11	5			内：土手ナ 外：白釉	近江郡日下 の砂利路塗	内：灰褐色(3.5YR/1) 外：灰褐色(1.5YR/1)		
445	52	95-9	中世 須恵器	青 灰陶	I-11	3			内：土手ナ 外：白釉	近江郡日下 の砂利路塗	内：灰褐色(3.5YR/1) 外：灰褐色(1.5YR/1)		
446	52	95-9	中世 須恵器	青 灰陶	I-11	5			内：土手ナ 外：白釉	近江郡日下 の砂利路塗	内：灰褐色(3.5YR/1) 外：灰褐色(1.5YR/1)		
447	52	95-9	中世 須恵器	青 灰陶	I-10 I-10 I-10	10.1 11 11		5	内：土手ナ 外：白釉	近江郡日下 の砂利路塗	内：灰褐色(3.5YR/1) 外：灰褐色(1.5YR/1)		
448	52	95-9	中世 須恵器	青 灰陶	I-10 I-10 I-10	6.1 6.1 6.18			内：土手ナ 外：白釉	近江郡日下 の砂利路塗	内：灰褐色(3.5YR/1) 外：灰褐色(1.5YR/1)		
449	53	97	光器茶 器	青 灰陶	T-10 Pn-27 A-1	5.18 10.1 10.1			内：土手ナ 外：白釉	近江郡日下 の砂利路塗	内：灰褐色(3.5YR/1) 外：灰褐色(1.5YR/1)		
450	52	97	須恵器	青 灰陶	I-10 I-10 I-10	5.1 5.1 5.1		(9.6)	底部に断面が丸い底 身を残す	内：土手ナ 外：白釉	近江郡日下 の砂利路塗	内：灰褐色(3.5YR/1) 外：灰褐色(1.5YR/1)	
451	52	98	須恵器	青 灰陶	I-9.1 I-9.1 I-9.1 I-9.1 K-10	5.65 6.0 6.1 6.18 17.0			内：土手ナ 外：白釉	近江郡日下 の砂利路塗	内：灰褐色(3.5YR/1) 外：灰褐色(1.5YR/1)		
452	52	97	白磁	白 灰陶	I-10	3.16		(17.5)	内：土手ナ 外：白釉	近江郡日下 の砂利路塗	内：灰褐色(3.5YR/1) 外：灰褐色(1.5YR/1)	IV類	
453	52	97	白磁	白 灰陶	H 11 E R S X02	5.18		(18.2)	内：土手ナ 外：白釉	近江郡日下 の砂利路塗	内：灰褐色(3.5YR/1) 外：灰褐色(1.5YR/1)	IV類	
454	52	97	白磁	白 灰陶	H 10	3		(6.8)	内：土手ナ 外：白釉	近江郡日下 の砂利路塗	内：灰褐色(3.5YR/1) 外：灰褐色(1.5YR/1)	V-1類	
455	52	97	白磁	白 灰陶	解不可	5		(15.0)	内：土手ナ 外：白釉	近江郡日下 の砂利路塗	内：灰褐色(3.5YR/1) 外：灰褐色(1.5YR/1)	V-2類	
456	52	97	白磁	白 灰陶	I-10	3		(17.0)	内：土手ナ 外：白釉	近江郡日下 の砂利路塗	内：灰褐色(3.5YR/1) 外：灰褐色(1.5YR/1)	V-2類	
457	52	97	瓦窯 瓦	瓦 灰陶	I-11	3		(5.2)	瓦部外側の筋を残す	瓦部斜面	内：灰褐色(3.5YR/1) 外：灰褐色(1.5YR/1)	I-2b類	

第48表 I区出土平安時代後半～鎌倉時代の遺物観察表④

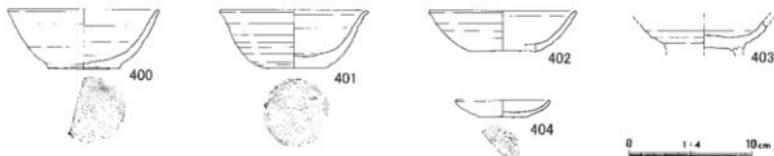
遺物 番号	種類 名及び 部品名	種類	年代 (年)	寸法 (mm)	寸法 (mm)	形態・文様の特徴	調査	出土	内因		参考
									内	外	
458	53 97 鶴の頭 金具	別	I-11	7	(5.0)				内：円筒カズリ 外：丸	鋸目は認め られない	当・外：輪郭線相当の W(1)～S(5)～E(1) 内：S(5)～E(1)
459	53 97 鶴の頭 金具	別	I-9	5					鋸目は認め られない		当・外：輪郭線相当の W(1)～S(5)～E(1)
460	53 97 鶴の頭 金具	別	I-10	16	(10.4)	白銀葉は東京に無地で ある。銀葉の光輝が強くなる。		内：圓筒カズリ 外：圓筒カズリ	鋸目は認め られない	V 耳	
461	52 97 七輪 脚	別	H-10	4	(2.9)	軽部外側に日暦がある	内：圓筒カズリ 外：圓筒カズリ	鋸目は認め られない	内・外：(脚底) 銀色(SYS 1/2)	II B 腹	
462	52 97 中国 脚	別	中 田 上脚			(7.0)		内：圓筒カズリ 外：圓筒カズリ	新物認定	西：从品种地 (SYB/2) 外：从品种地 (SYB/2)	
463	53 98 中 田 上脚	环	F-13	5	(15.6)	白銀葉は深く外反し、 馬蹄に複合内模する	内：圓筒カズリ 外：圓筒カズリ	鋸目は認め られない	内：0.5cm の移 動位置	内：高麗銀 (SYB/2) 外：丸形 (SYB/1) 外：直線 (SYB/1)	
464	55 98 中 世 土師器	环	天衝溝				内：圓筒カズリ、ヘ タリテ	鋸目は認め られない	内：成美銀 (SYB/2) 外：丸形 (SYB/2)		
465	53 95 中 田 上脚	环	F-17	5	4.6	鋸目に加し大きめの島 巻きを付ける	内：圓筒カズリ 外：圓筒カズリ	鋸目は認め られない	内：内側 (SYB/1) 外：伸び物 (SYB/4)		
466	53 98 中 世 土師器 付环	环	H-14	5		新物に既に落合を付 けている	内：圓筒カズリ 外：圓筒カズリ	鋸目は認め られない	内：内側 (SYB/4) 外：丸形 (SYB/4)		
467	53 98 中 世 土師器	环	高台 付环	G-16	5	此蓋内側に落合を付 けている	内：圓筒カズリ 外：圓筒カズリ、同 落合	鋸目は認め られない	内：伸び物 (SYB/2) 外：丸形 (SYB/2)		
468	56 95 中 田 上脚	环	G-14	5		西口部は深く外反する	内：圓筒カズリ 外：圓筒カズリ、同 落合	鋸目は認め られない	内：内側 (SYB/2) 外：伸び物 (SYB/2)		
469	53 98 中 世 土師器 付环	环	G-15	5		内側が銀色に変更	内：圓筒カズリ 外：圓筒カズリ	鋸目は認め られない	内：西高麗 (SYB/2) 外：丸形 (SYB/2)		
470	53 98 中 田 上脚	环	H-13	5	(9.4)	荷物箱は大きく開く	内：圓筒カズリ 外：圓筒カズリ	鋸目は認め られない	内：0.5cm の移 動位置	内：荷物箱 (SYB/2) 外：丸形 (SYB/2)	
471	53 98 中 世 土師器	环	G-7	5		荷物箱に左右を助け 付ける	内：圓筒カズリ 外：圓筒カズリ	鋸目は認め られない	内：0.5cm の移 動位置	内：成美銀 (SYB/2) 外：丸形 (SYB/2)	
472	53 99 中 世 土師器	环	G-36	7	3.5	蓋部の中心がやや低い	内：圓筒カズリ 外：圓筒カズリ、同 落合	鋸目は認め られない	内：成美銀 (SYB/2) 外：丸形 (SYB/2)		
473	53 99 中 田 上脚	环	G-14	5	(6.0)		内：圓筒カズリ 外：圓筒カズリ	鋸目は認め られない	内：伸び物 (SYB/2) 外：丸形 (SYB/2)		
474	53 99 100 中 世 土師器	环	G-14			蓋部が歪む	内：圓筒カズリ 外：圓筒カズリ、同 落合	鋸目は認め られない	内：伸び物 (SYB/2) 外：丸形 (SYB/2)		
475	53 99 100 中 世 土師器	环	G-16	5	(8.7)	内下部はより西口部 に変更され、内側は落 合している	内：圓筒カズリ 外：圓筒カズリ、同 落合	鋸目は認め られない	内：0.5cm の移 動位置	内：丸形 (SYB/2) 外：丸形 (SYB/2)	
476	53 99 100 中 世 土師器	环	F-10	5	3.9	此蓋内側より西口部 に変更され、内側は落 合している	内：圓筒カズリ 外：圓筒カズリ、同 落合	鋸目は認め られない	内：0.5cm の移 動位置	内：丸形 (SYB/2) 外：丸形 (SYB/2)	
477	53 99 100 中 世 土師器	环	G-14	5	6.1	蓋部内側に落合の付 け跡がある	内：圓筒カズリ 外：圓筒カズリ、同 落合	鋸目は認め られない	内：0.5cm の移 動位置	内：丸形 (SYB/2) 外：丸形 (SYB/2)	
478	53 99 100 中 世 土師器	环	H-7		(5.9)		内：圓筒カズリ 外：圓筒カズリ、同 落合	鋸目は認め られない	内：0.5cm の移 動位置	内：丸形 (SYB/2) 外：丸形 (SYB/2)	
479	53 99 100 中 世 土師器	环	H-15	5	(5.2)	体部は内凹する。底部 内縁に内凹付する。	内：圓筒カズリ 外：圓筒カズリ、同 落合	鋸目は認め られない	内：0.5cm の移 動位置	内：丸形 (SYB/2) 外：丸形 (SYB/2)	
480	53 99 100 中 世 土師器	环	P-15	5	(7.6)	内側に横筋が付する	内：圓筒カズリ 外：圓筒カズリ、同 落合	鋸目は認め られない	内：0.5cm の移 動位置	内：丸形 (SYB/2) 外：丸形 (SYB/2)	
481	53 99 100 中 世 土師器	环	G-12	5	(7.2)	体部に底から裏面 に内凹する	内：圓筒カズリ 外：圓筒カズリ、同 落合	鋸目は認め られない	内：0.5cm の移 動位置	内：成美銀 (SYB/2) 外：丸形 (SYB/2)	
482	53 99 100 中 世 土師器	环	F-16	a	8.1	3.3	内：底面に底筋の付 け跡	内：圓筒カズリ 外：圓筒カズリ、同 落合	鋸目は認め られない	内：成美銀 (SYB/2) 外：丸形 (SYB/2)	
483	53 99 100 中 世 土師器	环	G-14 15	5	(8.2)	(3.6)	蓋部が高く、底面が丸く なっている	内：圓筒カズリ 外：圓筒カズリ、同 落合	鋸目は認め られない	内：0.5cm の移 動位置	内：丸形 (SYB/2) 外：丸形 (SYB/2)
484	53 99 100 中 世 土師器	环	G-14	5		体部は底面に内凹する	内：圓筒カズリ 外：圓筒カズリ、同 落合	鋸目は認め られない	内：0.5cm の移 動位置	内：丸形 (SYB/2) 外：丸形 (SYB/2)	
485	53 99 100 中 世 土師器	环	H-13	5	(8.2)	蓋部と体部の境を丸く なす	内：圓筒カズリ 外：圓筒カズリ、同 落合	鋸目は認め られない	内：0.5cm の移 動位置	内：丸形 (SYB/2) 外：丸形 (SYB/2)	
486	51 99 100 中 世 土師器	环	E-16 F-16	5	(8.6)	2.2					内：丸形 (SYB/2) 外：丸形 (SYB/2)
487	53 99 100 中 世 土師器	环	H-18	5	(8.6)	3.8	体部は底面に内凹する。	内：圓筒カズリ 外：圓筒カズリ、同 落合	鋸目は認め られない	内：0.5cm の移 動位置	内：丸形 (SYB/2) 外：丸形 (SYB/2)
488	53 99 100 中 世 土師器	环	G-14	5	9.7	4.4	体部は底面に内凹する。 当落部に底筋が付する。	内：圓筒カズリ 外：圓筒カズリ、同 落合	鋸目は認め られない	内：0.5cm の移 動位置	内：丸形 (SYB/2) 外：丸形 (SYB/2)

第49表 I区出土平安時代後半～鎌倉時代の遺物観察表⑤

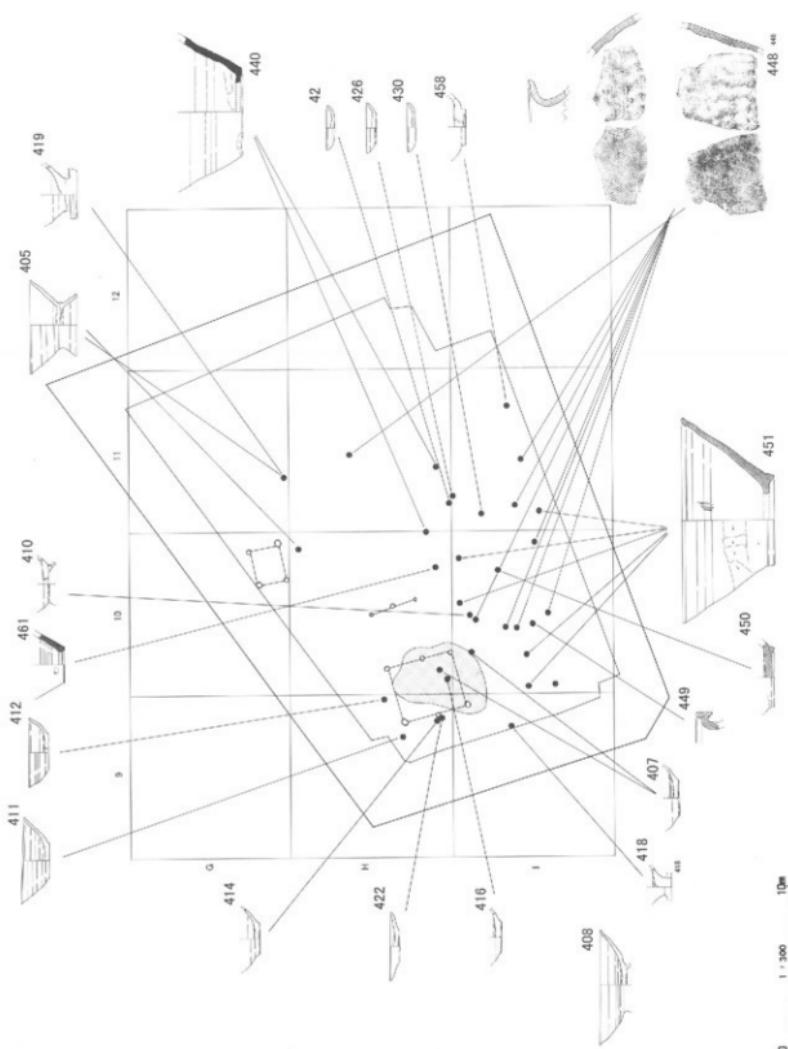
通則 番号	相場 番号	墓主名	性別	古墳 高さ(m)	墓位 番号	手 数(回)	口 径 (m)	底 径 (m)	深 度 (m)	形態・文様の特徴	調査	船内	色調	備考
483	53	132	中世 土等高 付山	G-14	5	8.2	5.7	3.8		内部は漆喰で仕切られ、漆 喰と白漆喰の接合部。	内：漆喰ナメ 外：白漆喰ナメ 船内：漆喰ナメ	内：漆喰の跡 外：白漆喰	内：黒内面(3.2YR 1/0) 外：白底黒(3.2YR 1/0)	
490	53	102	中世 土等高 付山	F-1	5		4.0			内：漆喰ナメ 外：白漆喰ナメ	内：漆喰の跡 外：白漆喰	内：熱い感じ(7.5YR 6/2) 外：同じ感じ(7.5YR 7/4)		
491	53	132	中世 土等高 付山	柱状 南側溝	7		5.1			漆喰剥離はあまり無く、漆 喰と白漆喰の接合部。	内：漆喰ナメ 外：白漆喰ナメ	内：漆喰の跡 外：白漆喰	内：漆喰(7.5YR 7/4) 外：同じ感じ(7.5YR 7/4)	
492	53	102	中世 土等高 付山	F-15	5		5.0			墓室部分は外方に大 きく張出する。	内：漆喰ナメ 外：白漆喰ナメ	内：漆喰の跡 外：白漆喰	内：黒内面(3.0YR 1/0) 外：白底黒(3.0YR 1/0) 船内：底(3.0YR 1/0)	
493	53	132	中世 土等高 付山	柱状 北側溝	G-15	5	(5.2)			右側壁面は外方に大 きく張出する。	内：漆喰ナメ 外：白漆喰ナメ	内：漆喰の跡 外：白漆喰	内：黒内面(3.0YR 1/0) 外：白底黒(3.0YR 1/0)	
494	53	102	中世 土等高 付山	F-15	5		5.4			底面内に中央突起。高 さは外方に大きく張 出する。	内：漆喰ナメ 外：白漆喰ナメ	内：漆喰の跡 外：白漆喰	内：底(3.0YR 1/0) 外：底(3.0YR 1/0)	
495	53	102	中世 土等高 付山	F-15	5	(6.3)				漆喰内に中央突起。高 さは外方に大きく張 出する。	内：漆喰ナメ 外：白漆喰ナメ	内：漆喰の跡 外：白漆喰	内：底(3.0YR 1/0) 外：底(3.0YR 1/0)	
496	53	102	中世 土等高 付山	G-14	5	6.6				底面内に中央突起。高 さは外方に大きく張 出する。	内：漆喰ナメ 外：白漆喰ナメ	内：漆喰の跡 外：白漆喰	内：底(3.0YR 1/0) 外：底(3.0YR 1/0)	
497	53	132	中世 土等高 付山	G-15	5	(6.6)				右側壁面は外方に大 きく張出する。	内：漆喰ナメ 外：白漆喰ナメ	内：漆喰の跡 外：白漆喰	内：底(3.0YR 1/0) 外：底(3.0YR 1/0)～灰 色(3.0YR 4/0)	
498	53	102	中世 土等高 付山	G-14	5	(7.6)				高さは低く、輪郭は外 方に張出する。	内：漆喰ナメ 外：白漆喰ナメ	内：漆喰の跡 外：白漆喰	内：底(3.0YR 1/0) 外：底(3.0YR 1/0)	
499	53	132	中世 土等高 付山	G-10	8		8.8			右側壁面は外方に大 きく張出する。	内：漆喰ナメ 外：白漆喰ナメ	内：漆喰の跡 外：白漆喰	内：底(3.0YR 1/0) 外：底(3.0YR 1/0)	
500	53	99+ 100	中世 土等高 付山	F-14	5					内：漆喰ナメ 外：白漆喰	内：漆喰ナメ 外：白漆喰	内：底(3.0YR 1/0) 外：底(3.0YR 1/0)		
501	53	99+ 100	中世 土等高 付山	G-16	5					内：漆喰ナメ 外：白漆喰	内：漆喰の跡 外：白漆喰	内：底(3.0YR 1/0) 外：底(3.0YR 1/0)		
502	54	99+ 100	中世 土等高 付山	P-16	5					内：漆喰ナメ 外：白漆喰	内：漆喰の跡 外：白漆喰	内：底(3.0YR 1/0) 外：底(3.0YR 1/0)		
503	54	99+ 100	中世 土等高 付山	F-15	5					内：漆喰ナメ 外：白漆喰	内：漆喰の跡 外：白漆喰	内：底(3.0YR 1/0) 外：底(3.0YR 1/0)		
504	54	99+ 100	中世 土等高 付山	H-15	5					内：漆喰ナメ 外：白漆喰	内：漆喰の跡 外：白漆喰	内：底(3.0YR 1/0) 外：底(3.0YR 1/0)～灰 色(3.0YR 4/0)		
505	54	99+ 100	中世 土等高 付山	漆 西側溝					「漆」は厚方、外側に 残る跡。	内：漆喰ナメ 外：白漆喰	内：漆喰の跡 外：白漆喰	内：底(3.0YR 1/0) 外：底(3.0YR 1/0)～灰 色(3.0YR 4/0)	漆喰は土 質	
506	54	99+ 100	中世 土等高 付山	P-14	5				口縁部は厚方、外側に 残る跡。漆喰は薄らぎ である。	内：漆喰ナメ 外：白漆喰	内：漆喰の跡 外：白漆喰	内：底(3.0YR 1/0) 外：底(3.0YR 1/0)	底面 底面	
507	34	99+ 100	中世 土等高 付山	P-5			(10.0)			内：漆喰ナメ 外：白漆喰	内：漆喰の跡 外：白漆喰	内：底(3.0YR 1/0) 外：底(3.0YR 1/0)		
508	54	99+ 100	中世 土等高 付山	P-16			(10.0)		内：漆喰ナメ 外：白漆喰	内：漆喰ナメ 外：白漆喰	内：漆喰の跡 外：白漆喰	II-1類		
509	54	101	白堀	P-14	5	(16.0)			口縁部は小さな不整を 持つ。	内：漆喰ナメ 外：白漆喰	内：漆喰の跡 外：白漆喰	内：底(3.0YR 1/0) 外：底(3.0YR 1/0)		
510	54	101	白堀	P-16	5	(16.0)			口縁部は小さな不整を 持つ。	内：漆喰ナメ 外：白漆喰	内：漆喰の跡 外：白漆喰	内：底(3.0YR 1/0) 外：底(3.0YR 1/0)	IV類	
511	61	105	白堀	漆 溝土中			(16.0)		内：漆喰ナメ 外：白漆喰	内：漆喰ナメ 外：白漆喰	内：漆喰の跡 外：白漆喰	IV類		
512	54	101	白堀	P-14	5		(7.4)		壁面内に段差がある 高さは厚方で高く持つ。	内：漆喰ナメ 外：白漆喰	内：漆喰の跡 外：白漆喰	内：底(3.0YR 1/0) 外：底(3.0YR 1/0)		
513	54	101	白堀	漆 溝 溝上中				7.8	底面内面に段差がある 高さは厚方で高く持つ。 「漆」は厚方で高く持つ。	内：漆喰ナメ 外：白漆喰	内：漆喰の跡 外：白漆喰	内：底(3.0YR 1/0) 外：底(3.0YR 1/0)	IV-1類	
514	54	101	白堀	P-16	5	(15.0)			内：漆喰ナメ 外：白漆喰	内：漆喰ナメ 外：白漆喰	内：漆喰の跡 外：白漆喰	内：底(3.0YR 1/0) 外：底(3.0YR 1/0)	V-2類	
515	54	101	白堀	P-15	5	(16.0)			口縁部などにあわら れがある。	内：漆喰ナメ 外：白漆喰	内：漆喰の跡 外：白漆喰	内：底(3.0YR 1/0) 外：底(3.0YR 1/0)	V-1類	
516	54	101	白堀	P-16	5	(6.0)			底面は薄い。	内：漆喰ナメ 外：白漆喰	内：漆喰の跡 外：白漆喰	内：底(3.0YR 1/0) 外：底(3.0YR 1/0)	V類	
517	54	101	白堀	P-16	5	(6.0)			底面は薄い。	内：漆喰ナメ 外：白漆喰	内：漆喰の跡 外：白漆喰	内：底(3.0YR 1/0) 外：底(3.0YR 1/0)	V類	

第50表 IA区出土平安時代後半～鎌倉時代の遺物観察表⑥

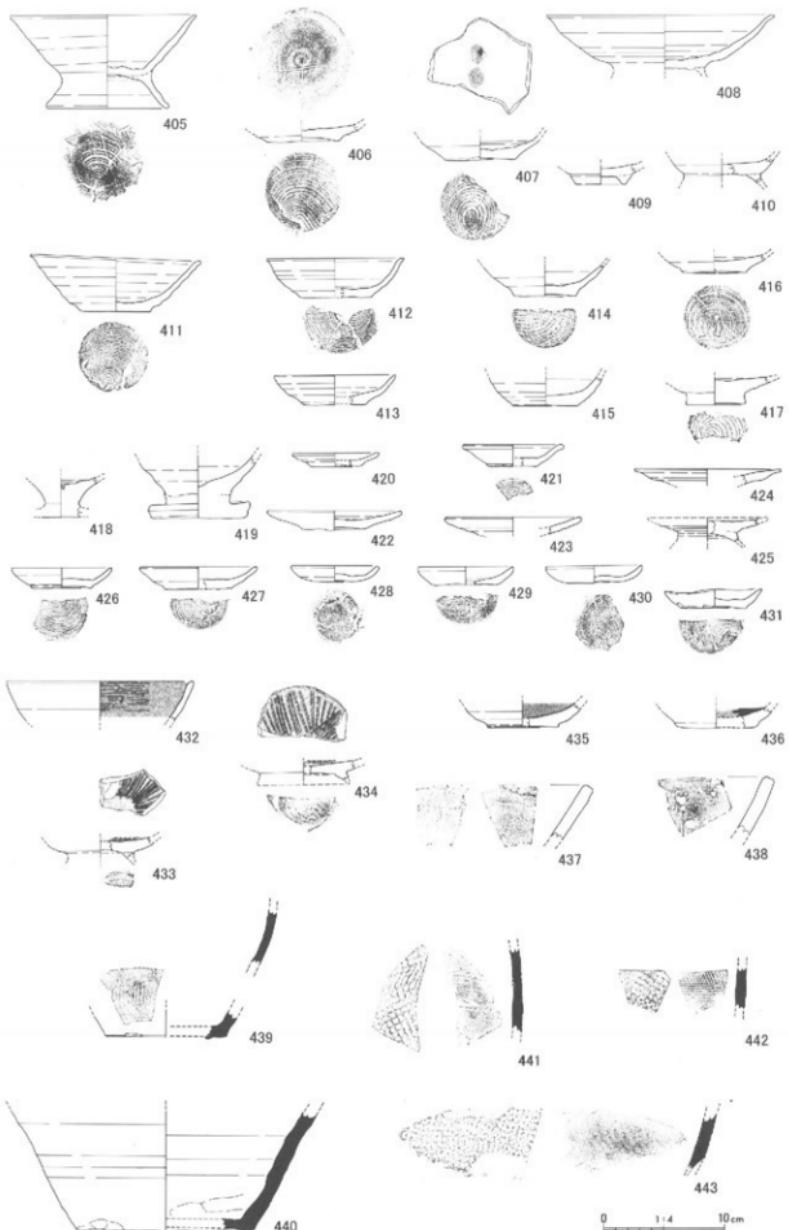
遺物番号	出土地名	基盤番号	種類	器種	寸法 G/セイ	寸法 G/セイ	寸法 G/セイ	形態・文様の特徴	調性	胎土	色調	備考
518	55	101	白磁	碗	E-16	5	(5.0)	内面に凸みの輪郭線 に溝がある	内：凹凸テクスチャ 外：凹凸テクスチャ	真紅色丁度紫 一輪朱(5.0×5.0×2)	黒釉	
519	54	101	白磁	碗	G-22	5	(6.8)	内底に込みの足を有し に溝がある	内：凹凸テクスチャ 外：凹凸テクスチャ	真紅色丁度紫 一輪朱(5.0×5.0×2)	黒釉	
520	54	101	白磁	碗	F-16	5	(7.8)	高台に高い	内：凹凸テクスチャ 外：凹凸テクスチャ	真紅色丁度紫 一輪朱(5.0×5.0×2)	X 3類	
521	54	101	白磁	皿	G-15	5	3.1	少し上に凹	内：凹凸テクスチャ 外：凹凸テクスチャ	真紅色丁度紫 一輪朱(5.0×5.0×2)	VII期	
522	54	101	白磁	皿	F-15	5	(4.4)	内底に込みのへき鉄斑 その他の斑文を有す	内：凹凸テクスチャ 外：凹凸テクスチャ	正白燒少紫 一輪朱(5.0×5.0×2)	III-1b類	
523	54	101	白磁	皿	P-16	5	(4.2)	内側に込みのハラ模様 その他の斑文を有す	内：凹凸テクスチャ 外：凹凸テクスチャ	一輪朱(5.0×5.0×2)	VIII-1c類	
524	54	101	白磁	皿	G-18	5	(6.6)	内面に短脚する	内：凹凸テクスチャ 外：凹凸テクスチャ	真紅色丁度紫 一輪朱(5.0×5.0×2)	VII期	
525	54	101	白磁	合子	G-35	5	(7.2)	口縁部外側に波を有す る。	内：凹凸テクスチャ 外：凹凸テクスチャ	进入焼(5.0×5.0×2) されない		
526	54	101	開窓模様 青磁	碗	E-15	5	(4.6)	内面に開窓文、内面に アラベスク状の模様が 施される	内：凹凸テクスチャ 外：凹凸テクスチャ	跳ね物(5.0×5.0×2) されない	I-1b類	
527	54	101	開窓模 青磁	碗	G-13	5	5.6	内面に開窓文が施さ れる	内：凹凸テクスチャ 外：凹凸テクスチャ	透入焼(5.0×5.0×2) されない	I-2-4型	
528	54	101	開窓模 青磁	碗	E-16	5	(6.2)	内面に開窓文が施さ れる	内：凹凸テクスチャ 外：凹凸テクスチャ	真紅色丁度紫 一輪朱(5.0×5.0×2)	I-2-4類	
529	54	101	四足焼 青磁	环	F-17	5	(13.0)	口縁部は常に短脚す る。	内：凹凸テクスチャ 外：凹凸テクスチャ	真紅色丁度紫 一輪朱(5.0×5.0×2)	III-4型	
530	54	101	四足青 磁	碗	G-14	5	4.8	内面に開窓文が施さ れる	内：凹凸テクスチャ 外：凹凸テクスチャ	正白燒少紫 一輪朱(5.0×5.0×2)	II-5類	



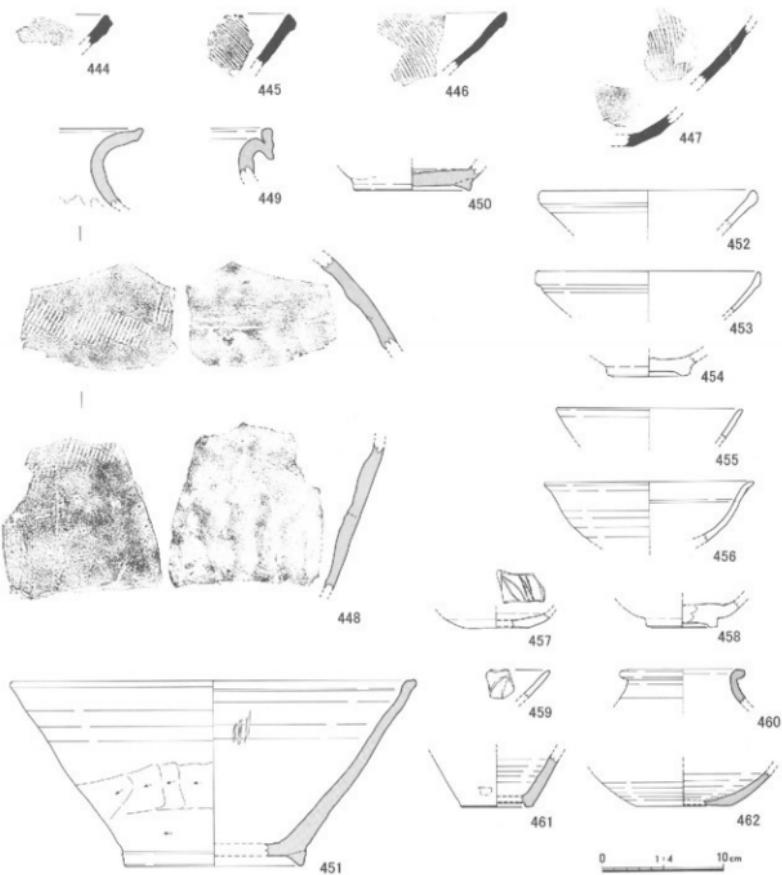
第49図 IA区 平安時代後半～鎌倉時代の遺物 (S=1/4)



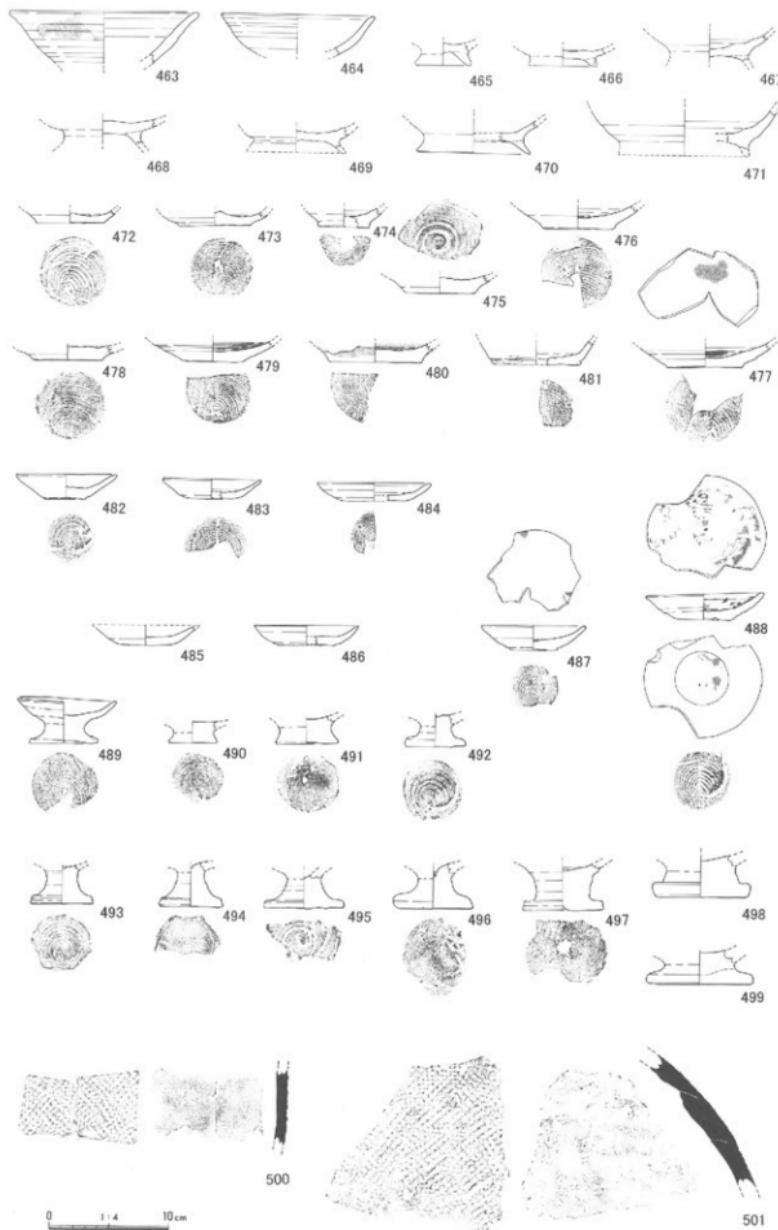
第50図 IB区 平安時代後半～鎌倉時代の遺物出土状況 (S=1/300)



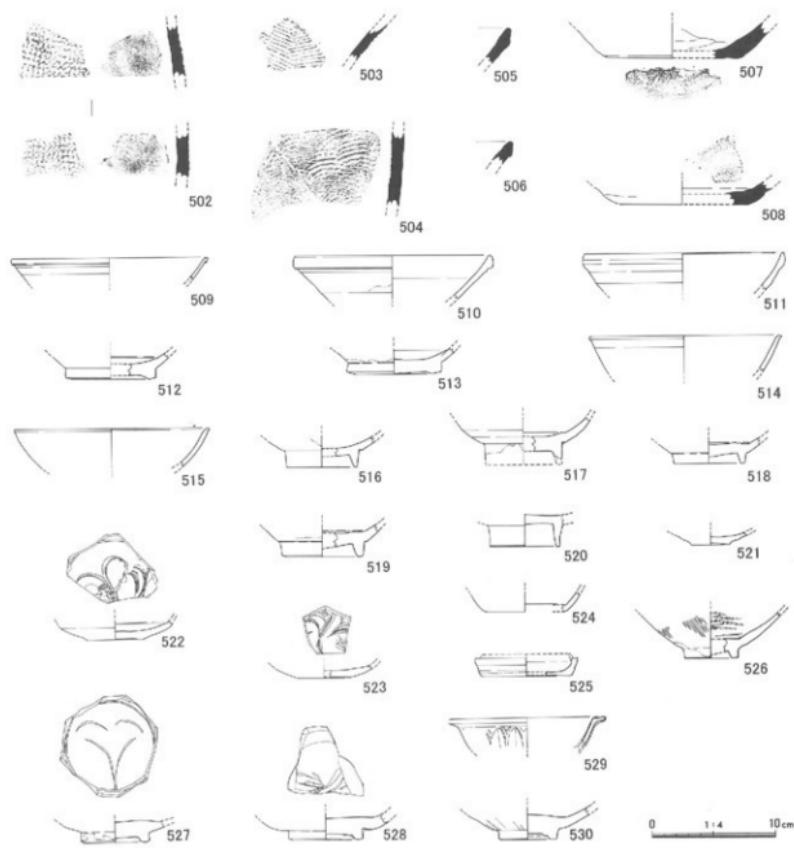
第51図 I B区 平安時代後半～鎌倉時代の遺物① (S=1/4)



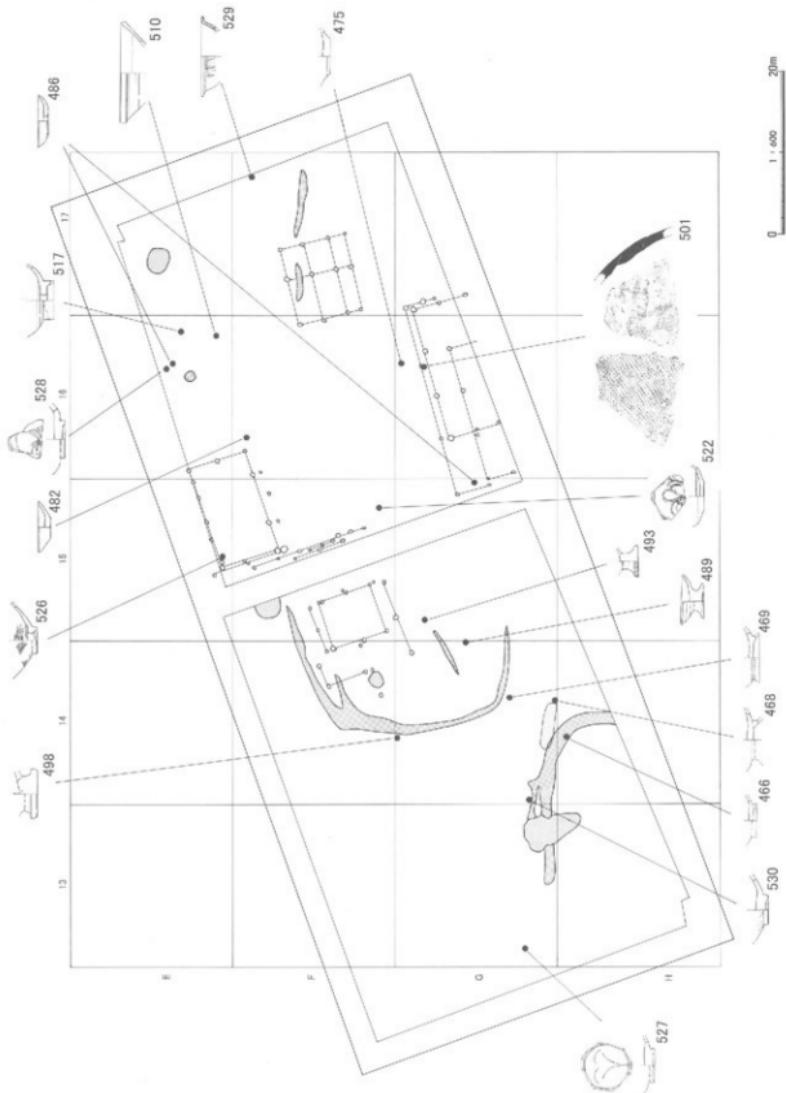
第52図 I B区 平安時代後半～鎌倉時代の遺物② (S=1/4)



第53図 I C区 平安時代後半～鎌倉時代の遺物① (S=1/4)



第54図 I C区 平安時代後半～鎌倉時代の遺物② (S=1/4)



第55図 IC区 平安時代後半～鎌倉時代の遺物出土状況 (S-1/300)

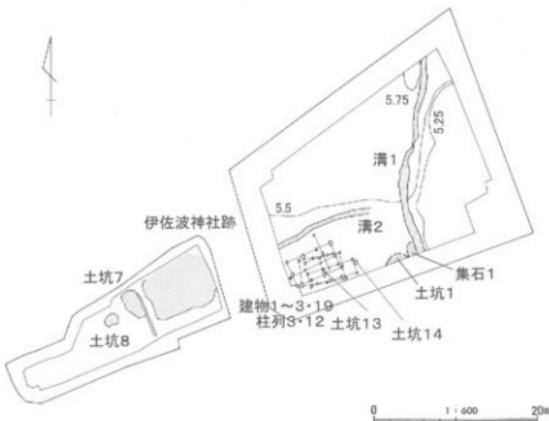
(6) 室町時代以降の遺構・遺物

室町時代以降の遺構はI A区とI B区で検出された。これらの遺構は基本的に5 a層の上面で検出しておらず、5 a層が検出されなかった溝1より東では明確にこの時期と判断される確認していない。溝1はII A区で続きを検出しており、昭和の圃場整備以前の図面にも表現されている。

遺物は溝1とその周辺を除けばI Bの南東に集中している。I C区では5 b層の上面がほぼ水平になっており、室町時代以降の遺物はほとんど出土しなかった。こうした状況から、室町時代以降には溝1の西側、溝2の南側が居住域で、溝1の東側は削平した後に耕作地として利用されていたと考えられる。

参考文献

- 21 島根県教育委員会 『富田川河床遺跡発掘調査報告書—III—』 1983
- 22 島根県教育委員会 『上久々茂土居跡・大峠遺跡』 1994
- 23 島根県教育委員会 『歳小路西遺跡』 1999
- 24 島根県教育委員会 『古志本郷遺跡I』 1999
- 25 間壁忠彦 「備前焼」『考古学ライブラリー60』 ニューサイエンス社 1991
- 26 小野正敏 『図解・日本の中世遺跡』 2001
- 27 日本貿易陶磁研究会 「中世後期における貿易陶磁器の様相」『日本貿易陶磁研究集会中国大会 資料集』 2002



第56図 I区 室町時代以降の遺構と遺物 (S=1/600)

建物1・柱列3（第57図、写真図版6・39・40）

I B区のI 10グリッドで検出した1間×3間の掘立柱建物で、5a層を5cm程度水平に掘削した後に検出した。建物の南側が調査区の南端に位置するので、調査区外にさらに建物が広がる可能性がある。建物1の北側では同じ軸の柱列3竪を検出した。柱穴の中心間の距離が建物1より短いことと、P30に対応する柱穴が検出されなかったことから建物1の一部としなかったが、関連する遺構と考えられる。遺物はP37の上層で瓷器系陶器448の胴部片が出上している。建物1の時期は、検出した面や周辺で出土した遺物の時期からおよそ14～15世紀頃と考えられる。重複する建物2・3・19との前後関係は不明である。

第51表 青木遺跡 建物1・柱列3 計測表

規 模	梁 行 き				柱 行 き			
	1 間		3 間		N - 71° - E			
主 軸	P5	P7	P24	P35	P30	P31	P49	P37
番 号								
平 面 規 模 (cm)	43×30	25×23	20×20	30×28	45×31	30×18	31×23	28×22
標 高 (m)	上面 上面	5.27	5.28	5.23	6.68	6.68	5.21	5.24
	下面	4.89	4.97	4.92	5.00	4.98	4.98	5.20
番 号	P15	P20	P51					
平 面 規 模 (cm)	41×28	29×28	28×27					
標 高 (m)	上面 上面	5.27	5.23	5.26				
	下面	4.98	4.89	4.95				
P7-P24	P24-P35	P35-P30	P30-P31	P31-P49	P37-P49	P5-P37	P5-P7	
195	195	194	166	190	195	204	164	
柱間距離(cm)	P15 P20	P20-P51						
	206	174						

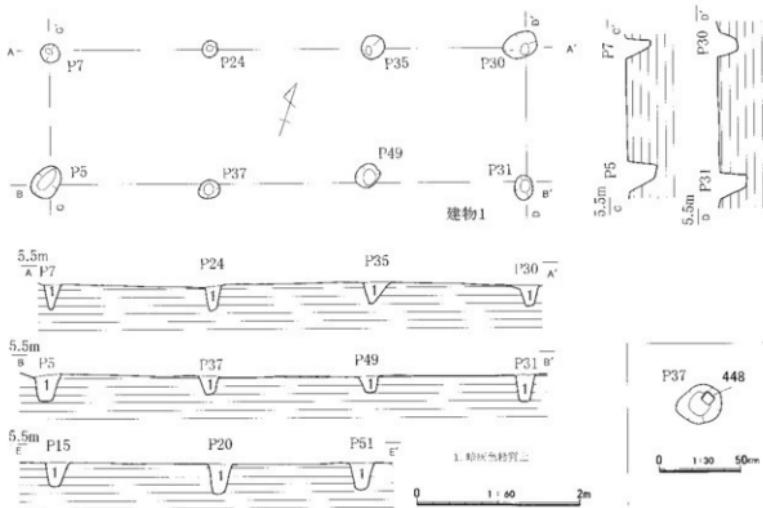
建物1・柱列3（第57図、写真図版6・39・40）

I B区のI 10グリッドで検出した2間×3間の掘立柱建物で、規模や検出した位置から建物2・3と立て替えの関係にあると考えられる。P76は柱根が残っていた。

第52表 青木遺跡 建物19 計測表

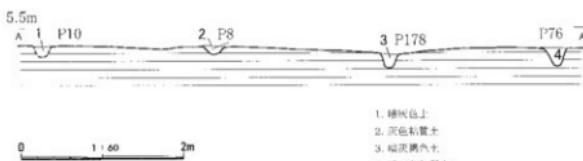
規 模	梁 行 き				柱 行 き			
	2 間		3 間		N - 63° - E			
主 軸	P10	P8	P178	P76	P53	P81		
番 号								
平 面 規 模 (cm)	28×21	29×28	21×20	32×28	50×37	67×27		
標 高 (m)	上面 上面	5.30	5.29	5.18	5.25	5.27	5.20	
	下面	5.00	5.18	5.01		4.72	4.88	
柱間距離(cm)	P10-P8	P8-P178	P178-P76	P76-P53	P53-P81			
	212	216	208	154	146			
柱 根	P10	76						
規 模 (cm)	長 幅							

柱列3
P15 P20 P51 ε



建物19

P010 P8 P178 ε P76



第57図 I区 建物1・19、柱列3 (S=1/60)

建物2（第58図、写真図版6・39・40）

IB区の19・10グリッドで検出した2間×3間の掘立柱建物で、建物1と同様な面で検出した。P50・52は柱根が残っていた。P50の柱根は大型の材を四分して使用し、断面は長方形に近い。先端は比較的平坦に加工している。遺物はP64で須恵器の鉢531が拳大の礫に混じって出土した。建物2の時期は建物を区画する溝や周辺の遺物の年代から、およそ14~15世紀頃と考えられる。

第53表 青木遺跡 建物2 計測表

規 模		梁 行き						桁 行き		
		2 間			3 間					
主 軸		N-66° - E								
穴	番 号	P13	P16	P52	P64	P53	P50	P36	P3	P11
	平面規模 (cm)	47×57	69×37	35×33	52×49	50×37	42×30	63×49	32×23	41×34
	標高 (m)	上部	5.29	5.26	5.21		5.27	5.24	5.26	5.27
柱間距離(cm)	上部	4.85	4.79			4.72	4.74	4.83	4.91	4.93
	下部	206	196	206	326	206	200	192	170	150
	P No.	50	52							
柱 根	長	42.6	41							
	根幅 (cm)	長12.8 短11.1	長14.1 短11.3							
	幅									

第54表 I区建物2出土遺物観察表

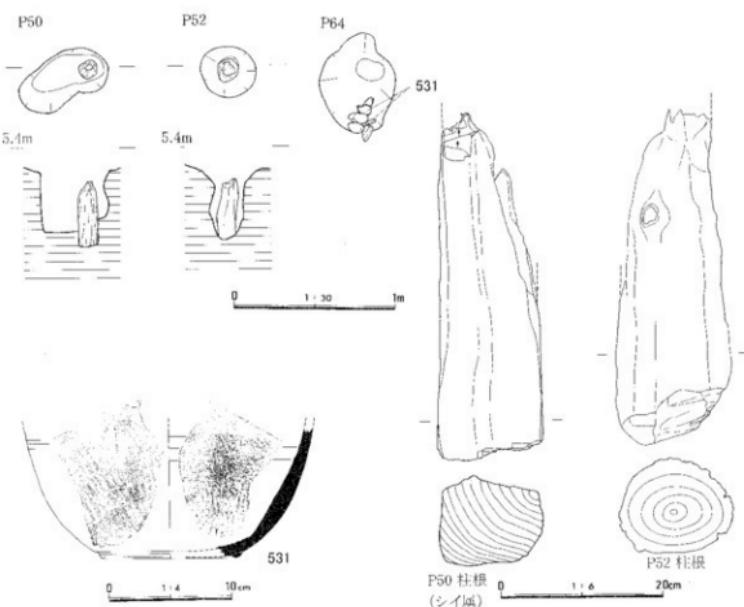
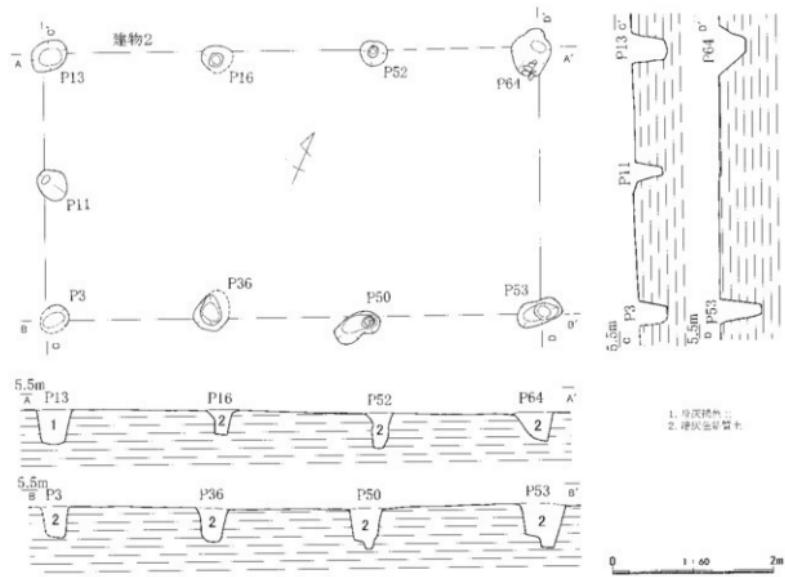
遺物 番号	種類 番号	写真 番号	種別	遺物 記号	立地 位置 Co.地図	寸法 (cm) 底厚 高さ	形態・文様の特徴	調査	出土	色調	備考
531	88	122	須恵器	鉢531 片付	P64 1.10	5 (1.0)	直面に高凸彫り有り 内:円孔2ヶ所 外:CH板 高:5.4cm, 幅17.7cm	延1.5mmの縁 内:灰褐色 外:灰褐色	P64, P11 P12	青:灰褐色 白:灰褐色	G1-Y186(3) G1-Y186(4)

建物3（第59図、写真図版6・39・40・41）

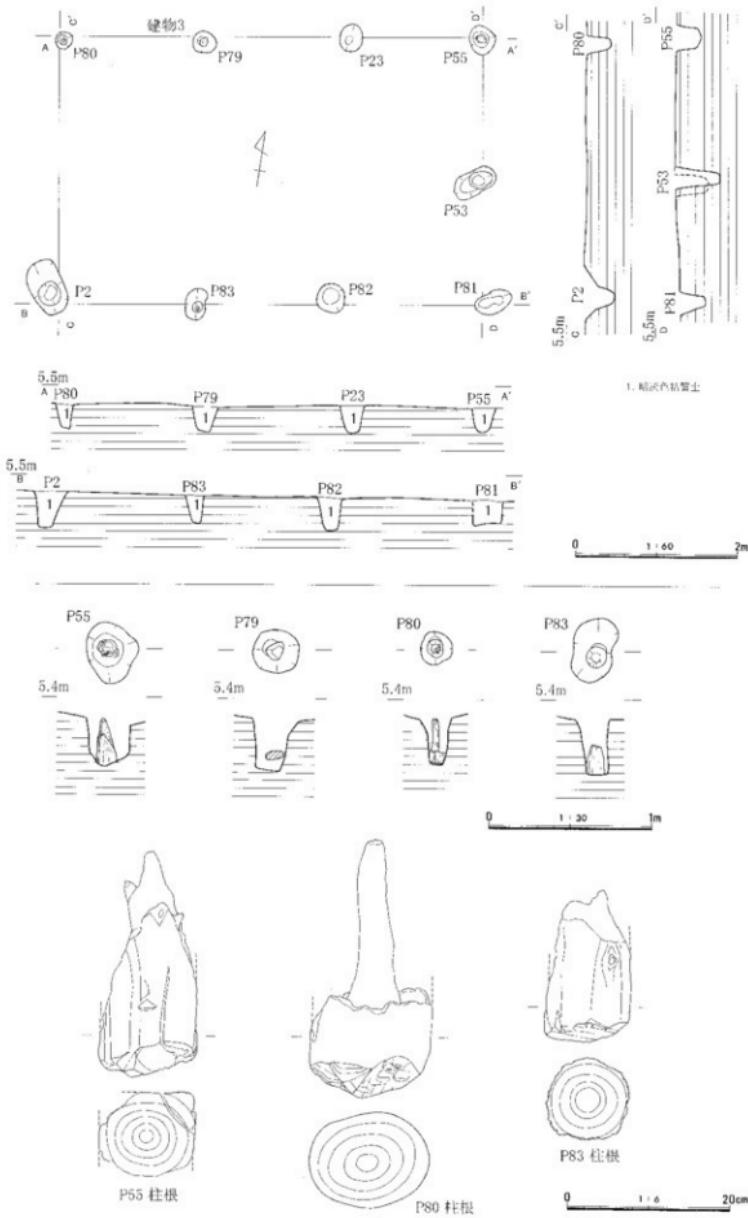
IB区のI10グリッドで検出した2間×3間の掘立柱建物で、P55・80・83には柱根が残っていた。規模や位置から建物2と近い時期の建物と考えられる。

第55表 青木遺跡 建物3 計測表

規 模		梁 行き				桁 行き			
		2 間		3 間					
主 軸		N-81° - E							
穴	番 号	P80	P79	P23	P55	P81	P82	P83	P2
	平面規模 (cm)	24×19	22×21	34×27	38×32	67×27	46×35	39×25	70×50
	標高 (m)	上部	5.26	5.47	5.34	5.24	5.20	5.22	5.26
柱 根	柱間距離(cm)	P80-P79 176	P79-P23 180	P23-P55 166	P55-P81 324	P81-P82 120	P82-P83 166	P83-P2 184	P2-P80 310
	P No.	55	80	83					
	長	27	31.6	18.5					
柱 根	根幅 (cm)	長12 短10.3	長14.7 短11.6	長10.7 短10.2					
	幅								



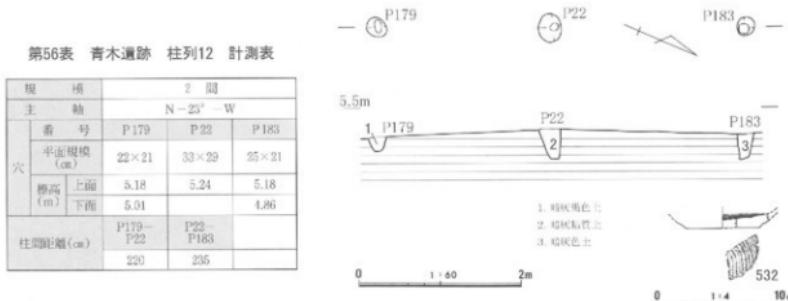
第58図 T区 建物2 (S=1/60)



第59図 T区 建物3 (S=1/60)

柱列12（第60図、写真図版41）

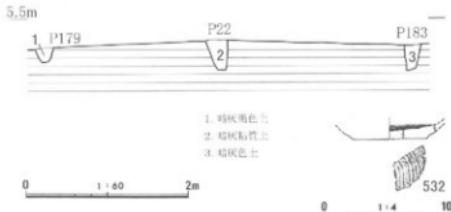
I B区のI 10グリッドで検出した。P22内で内面に炭素を吸着させた坏が出土した。溝2の南側に位置し、建物2と主軸が合うので14世紀以降の遺構と考えたが、くわしい時期は不明である。



第60図 I区 柱列12 (S=1/60)

第56表 青木遺跡 柱列12 計測表

規格		2間		
主軸番号	N-25° W			
		P179	P22	P183
六番号	平面規模 (cm)	22×21	33×29	25×21
		上面	5.18	5.24
標高 (m)	上面	5.18	5.18	5.18
	下面	5.01	4.86	4.86
柱間距離(cm)		P179-P22 P22-P183 220	P22-P183 256	



第61図 I区 柱列12出土遺物観察表

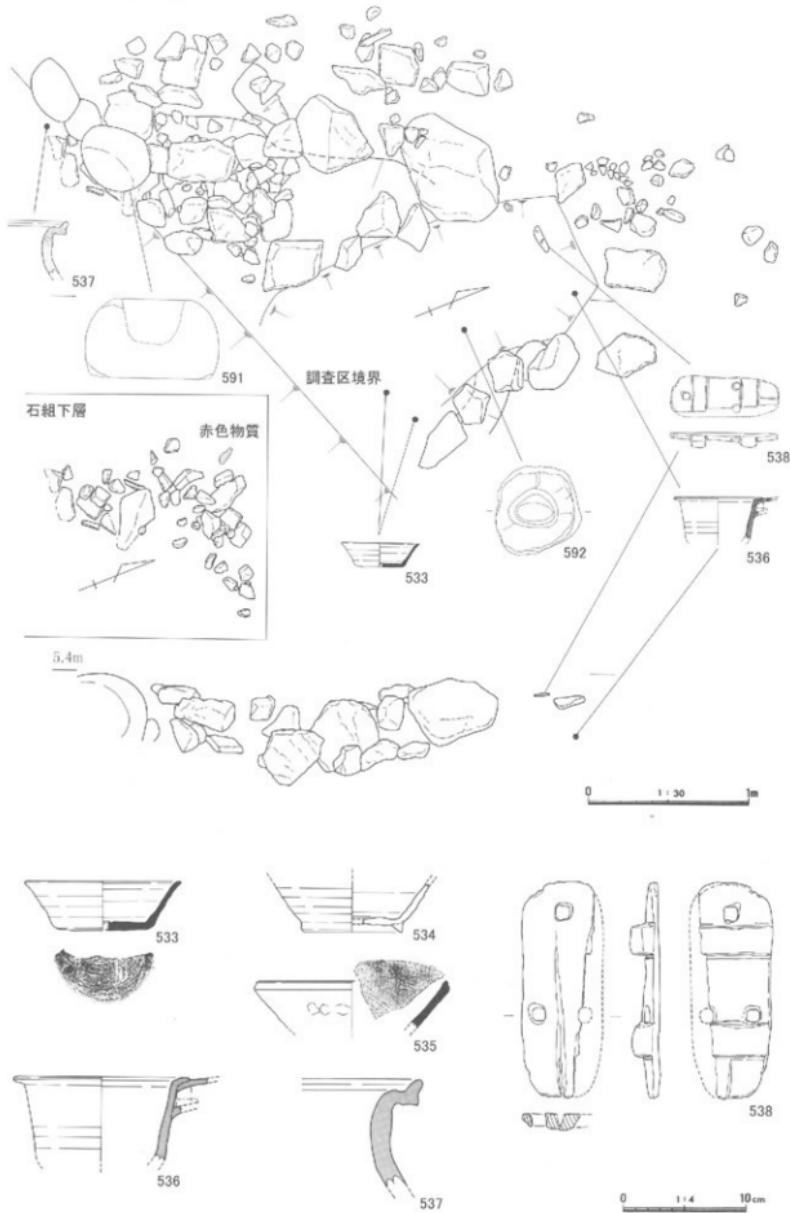
遺物番号	網目番号	寸法	形状	基盤	地質	層位	寸法(cm)	性状	特徴	測量	歴土	色調	備考
532 00 103	土瓶器 (赤褐色 土器)	横径 H5	P22			(8.0)				内:凹凸ナメ 外:凹凸ナメ、目立 てなめり	金剛寺層	内:赤褐色 (3.5YR 7/2) 外:赤褐色 (3.5YR 7/3)	

土坑1（第8・61・68・70図、写真図版42～44）

I B区 I 11グリッドで5a層掘削後に検出した。溝1・集石1の西側に位置する。規模は検出した範囲で長さ約2.3mだが、土坑の南側が調査区外に続いているので正確な規模は不明である。土坑内には上層に腐食層が、下層には粘質土が堆積していた。土坑の肩部には大型の石が並べられており、調査区南壁部分では五輪塔の水輪(591)を転用したもののが出土している。西側の石組みの下層では拳大前後の石のまとまりがあり、付近で赤色物質が出土した。土坑内で瀬戸の柄付鉢(536)と磨石(592)が出土し、集石と堀り方の間に瓷器系陶器537が出土していることから、土坑1の時期は15世紀以降と考えられる。床面で出土した坏533・534は土坑1下層で検出した集石2に伴う遺物の可能性が高い。土坑1の性格は、遺構の形状や埋土の様子から水溜めなどが想定される。

第58表 I区土坑1出土遺物観察表

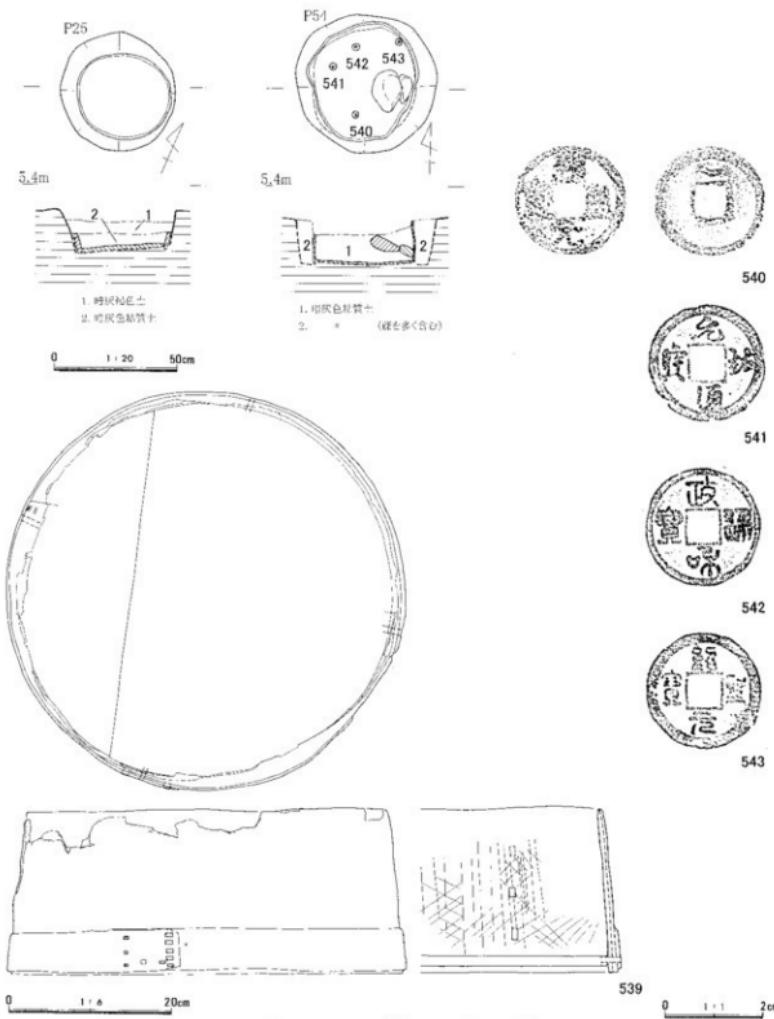
遺物番号	網目番号	寸法	形状	基盤	地質	層位	寸法(cm)	形態・文様の特徴	測量	歴土	色調	備考
533 61 103	集石器	球	土坑1	(32.6)	(7.2)	6.05	口縁部は強く凹出する	内:凸凹ナメ 外:凹凸ナメ、目立 てなめり	頂3.0mmの内 外:凹凸ナメ、目立 てなめり	内:褐色 (3.5YR 7/2) 外:赤褐色 (3.5YR 7/3)		
534 61 103	土瓶器	瓶 付耳	土坑1	7		(8.2)	底部に高台を有する付耳	内:凸凹ナメ 外:凹凸ナメ、目立 てなめり	底3.0mm以下 の内:凹凸ナメ	内:淡褐色 (3.5YR 8/2) 外:淡褐色 (3.5YR 8/3)		
535 61 103	瓦質 土器	球	土坑1	(38.6)			内面にシラエ工具によ る擦り目や擦り	内:凸凹ナメ 外:凹凸ナメ	底3.0mm以下 の内:凹凸ナメ	内:灰褐色 (5.0YR 6/2) 外:灰褐色 (5.0YR 6/3)		
536 61 103	瀬戸 片口	片口	土坑1	(14.4)			口縁部に土器の形成 した跡も貼り付け	内:凹凸ナメ 外:凹凸ナメ	底3.0mmの底面 内:凹凸ナメ (3.5YR 7/2)	内:淡褐色 (3.5YR 7/2) 外:淡褐色 (3.5YR 7/3)		
537 61 103	青磁 器	瓶	土坑1 石組下				口縁部は「X」字形 に削除する	内:凸凹ナメ 外:凸凹ナメ	底1mmの砂粒 内:青磁色 (3.5YR 6/1) 外:青磁色 (3.5YR 6/2)			
538 61 103	木製品	下駄	土坑1								ホオノキ	



第61図 IA区 土坑1 ($S = 1/30$)

土坑13・14（第8・62図、写真図版40・46）

I B区 I 10グリッドで 5 a 層を 5 cm程度水平に掘削した後に検出した。いずれも土坑内に曲げ物を据えていた。土坑14では古銭4枚と石が出土している。検出した層位と古銭が全て中世の渡来銭であることから室町時代以前の土坑と判断したが、詳しい時期や性格は不明である。



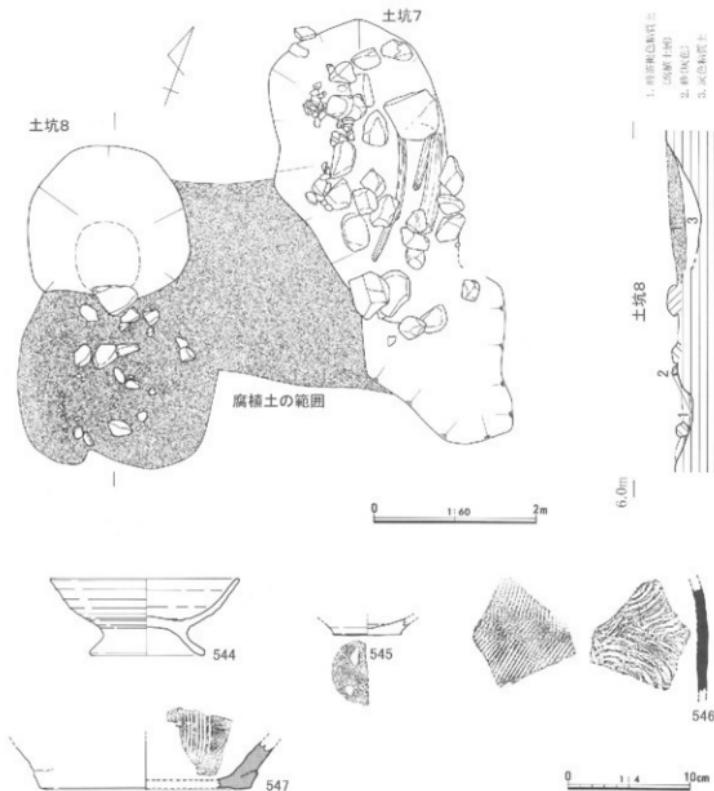
第62図 I区 土坑13・14 (S=1/30)

第59表 IC区土坑14出土遺物観察表

通号 番号	神社 番号	写真 番号	種別	遺物 記述 G/遺物	層位	寸法(cm)			形態・文様の特徴	備考
						長さ	幅	厚さ		
539	62	132	木製品	曲棒	土坑14					Xギ
540	62	132	古鉄		土坑14	2.41	2.38	0.08		開元通寶
541	62	132	古鉄		土坑14	2.41	2.35	0.11		天祐通寶
542	62	132	古鉄		土坑14	2.38	2.25	0.08		政和通寶
543	62	132	古鉄		土坑14	2.38	2.30	0.13		昭和三重

土坑7・8（第63図、写真図版46）

IA区のJ 7・8グリッドで検出した。土坑7は5a層上面から掘られており、東に隣接する伊佐波神社を調査した際に上坑上面の石が出土した。石は長方形に並び、石で囲まれた中に木材が埋まっていた。土坑7・8の上層と周辺では腐植層が堆積し、伊佐波神社の石列と近い軸の石列を上面で検出していることから、伊佐波神社に関連する水場の可能性が考えられる。



第60表 I区土坑7・8出土遺物観察表

遺物 番号	名前 番号	種別	石器	出土場所 地図 番号	層位 口幅 深さ 底面 状況	寸法 (cm)	形態・文様の特徴	基盤	地土	色調	備考
544	65	104	中世 土器	西面 土師7	(15.5)	9.5	6.3	板状に高台を造り上げ て、内側に斜め溝、底 部に凹部	I-A: 鋸歯テク N: 鋸歯テク、底 部に凹部	砂質土 内: 黄褐色 外: 深褐色	西: 黒褐色 (3SYR6/4) 東: 褐色 (3SYR6/1)
545	63	104	中世 土器	北 二段7		(5.6)					
546	65	101	須恵器 鉢	土器3							
547	63	101	須恵器 鉢	土器5 新第 鉢		(17.2)		内面にS字のうきはこ による突起を施す	I-A: 突起 N: 突起	10.5cm 内: 黄褐色 外: 黄褐色	内: 黄褐色 (3SYR6/4) 外: 黄褐色 (3SYR6/1)

溝2（第64図、写真図版47・48）

I B区のI 9・10グリッドで5a層精査時に検出した。検出した位置や溝の方向からI B区南西で検出した遺構群の北側の区画と考えられる。溝の西側は調査区外に続き、東側はI 10グリッドの東端で途切れていた。幅約60cm、床面は緩く西側に傾斜し、溝内には暗褐色の粘土質土が堆積していた。遺物は溝の東端で土師器の鉢550が天地逆に伏せた状態で出土した。口縁端部と内面に横方向のハケ調整が施され、その上からクシ彫きによる振り目を入れている。そのほかは土師器の壊の小片が出土している。溝の時期は550の形態からおよそ15世紀頃と考えられる。

第61表 I区土坑7・8出土遺物観察表

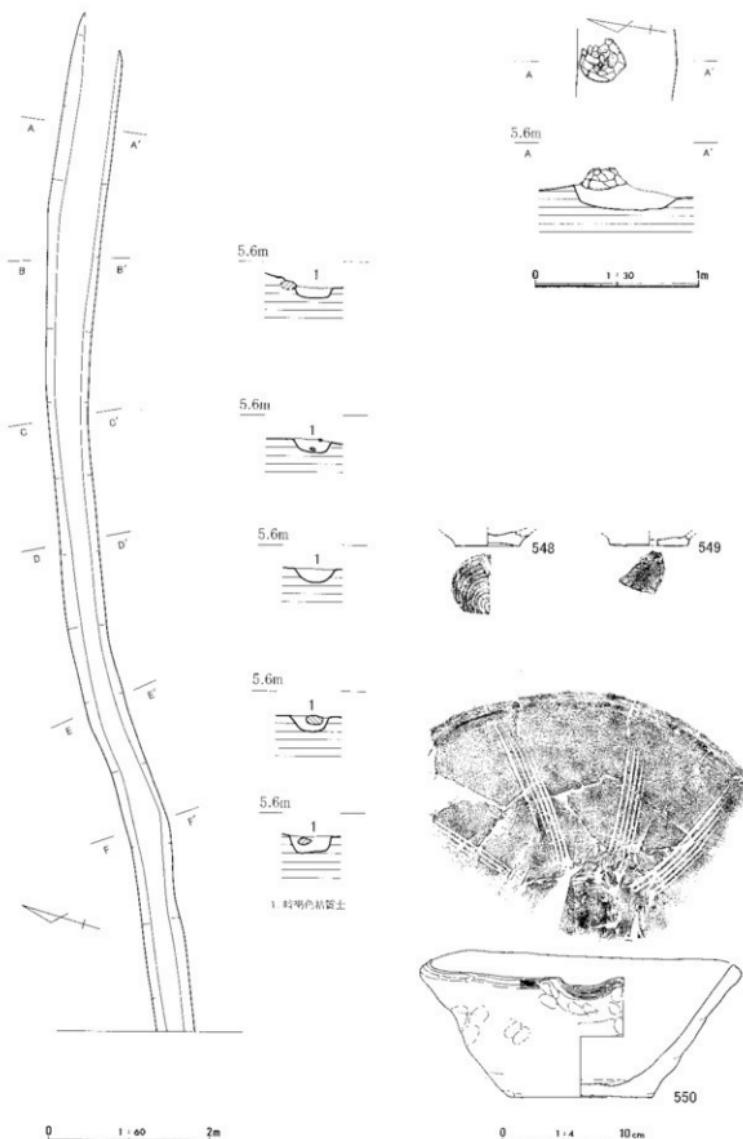
遺物 番号	地図 番号	名前 番号	種別	石器	出土場所 地図 番号	寸法 (cm)	形態・文様の特徴	基盤	地土	色調	備考
548	61	104	中世 土器	洋	酒2	1	(5.2)		I-A: 鋸歯 N: 鋸歯	10.5cm 内: 黄褐色 外: 深褐色	西: 黑褐色 (3SYR6/2) 東: 深褐色 (3SYR6/1)
549	64	101	中世 土器	洋	酒2	1			N: 鋸歯 I-A: 鋸歯		内: 黑褐色 (3SYR6/2) 外: 深褐色 (3SYR6/1)
550	64	104	中世 土器	鉢	酒2		26.5	11.6	12.0		内: 黑褐色 (3SYR6/2) 外: 黄褐色 (3SYR6/1)

溝1・集石1（第65・66図、写真図版49～53）

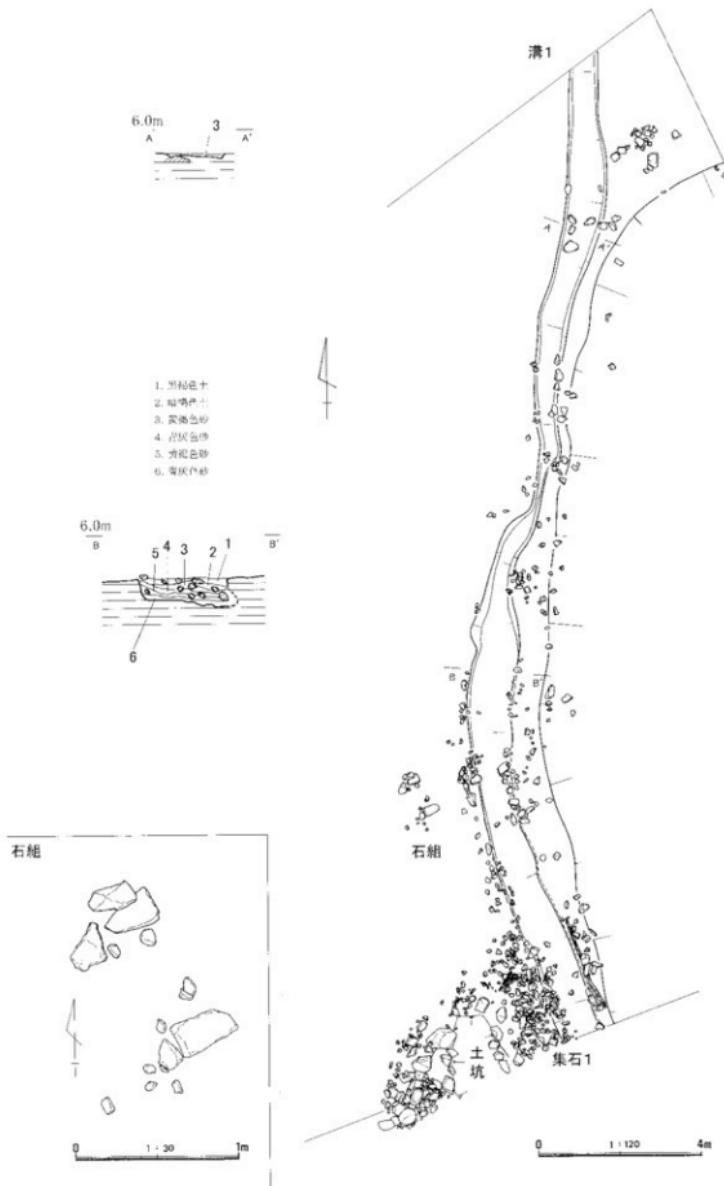
I B区のG11～I 11グリッドで3層掘削後に検出した。溝1内には黄色と黒色の砂が堆積していた。溝の東西で石が出土し、溝2東端の延長上で間の長さが約60cmの石組を検出した。南側の土坑1との間の部分では特に石が多く出土し集石1とした。溝1と集石1からは中世や近世初頭の陶磁器・金属器・木製品が出土し、集石1の北側では短い板がまとまって出土した。遺構の時期は、溝1の中や周辺で見込みに胎土と砂目のある肥前系陶器の皿が出土しているので17世紀初頭まで存続していたと考えられ、遺構の造られた時期は上坑1や溝2と同時期に遡る可能性が考えられる。

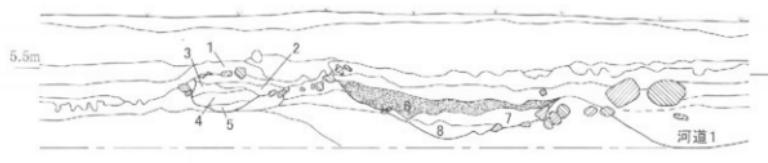
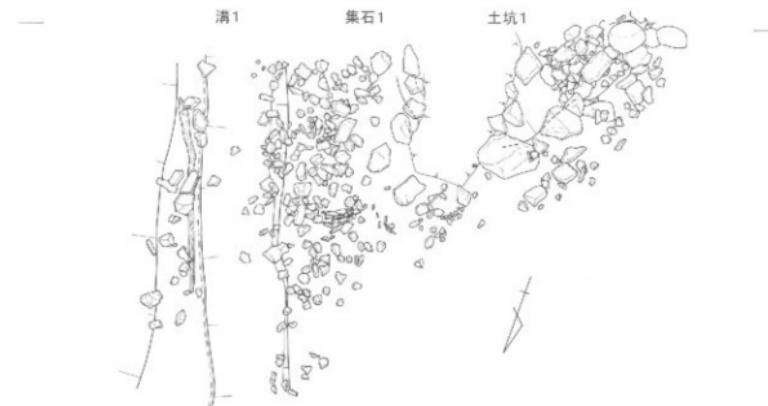
第62表 I区溝1出土遺物観察表

遺物 番号	地図 番号	G11	種別	石器	出土場所 地図 番号	寸法 (cm)	形態・文様の特徴	基盤	地土	色調	備考
551	68	105	古墳	瓶	G-11、 溝1	(7.2)	瓶の口に西面 溝1	内: 鋸歯テク 外: 鋸歯テク	10.5cm 内: 黄褐色 外: 黑褐色	内: 黑褐色 (3SYR6/2) 外: 黑褐色 (3SYR6/1)	鋏跡
552	68	105	古墳	瓶	G-11、 溝1	5		I-A: 鋸歯 N: 鋸歯	I-A: 鋸歯 N: 鋸歯	内: 黑褐色 (3SYR6/2) 外: 黑褐色 (3SYR6/1)	1.2m隔
553	68	105	古墳	鉢	G-11、 溝1		カクボンに西面おろし カクボン	内: 鋸歯テク 外: 鋸歯テク	内: 黑褐色 (3SYR6/2) 外: 黑褐色 (3SYR6/1)		
554	68	105	古墳	瓶	酒1	(4.6)	丸み立たせ方角 瓶	内: 鋸歯 外: 鋸歯	内: 黑褐色 (3SYR6/2) 外: 黑褐色 (3SYR6/1)	内: 黑褐色 (3SYR6/2) 外: 黑褐色 (3SYR6/1)	
555	68	105	古墳	瓶	酒2	(4.8)	丸み立たせ方角 瓶	内: 鋸歯 外: 鋸歯	内: 黑褐色 (3SYR6/2) 外: 黑褐色 (3SYR6/1)	内: 黑褐色 (3SYR6/2) 外: 黑褐色 (3SYR6/1)	
556	68	105	古墳	瓶	酒1		丸み立たせ方角 瓶	内: 鋸歯 外: 鋸歯	内: 黑褐色 (3SYR6/2) 外: 黑褐色 (3SYR6/1)	内: 黑褐色 (3SYR6/2) 外: 黑褐色 (3SYR6/1)	
557	68	105	古墳	瓶	I-11、 溝1	11.3	1.2				丸
558	68	101	大製品								ヒノキ

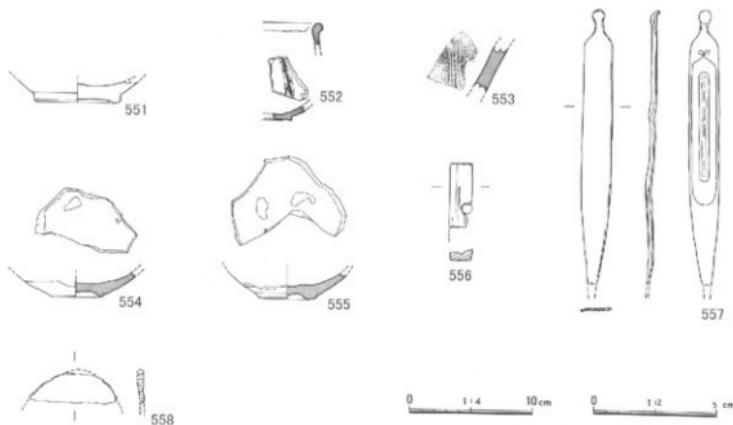


第64図 I区 溝7 (S=1/60)





0 1:60 2m



0 1:4 10 cm

0 1:2 5 cm

第66図 I区 溝1・集石1土層断面 (S=1/120)

伊佐波神社跡（第67・68図、写真図版54～57）

I A区の東側、I 8・J 8グリッドに位置する。調査前の聞き取りによって、現在国道431号線北側の都賀利神社に合祀されている。伊佐波神社の旧境内がこの位置だったと確認していた。始めにI A区東側の表上を除去した際、I・II区間の道路に直行する石列を検出した。石列から東側を精査したところ拳大以下の多数の石が約6.5×8.5mの範囲で検出された。石の分布には粗密があるが、人為的に敷かれたものと考えられる。また、石の中には建物などの礎石と思われるもの見られたが、建物の柱配置は復元できなかった。近世の伊佐波神社については『雲陽誌』に「伊佐波社、伊弉册尊なり、社三尺に四尺南向、祭礼十月十五日」という記載があり、小規模な社が建てられていたと考えられる。石敷きを掘り下げる下層で拳大から長さ50cmの石を検出した。西側で検出した石は上層の石列の約1.8m東側に平行して並んでいる。

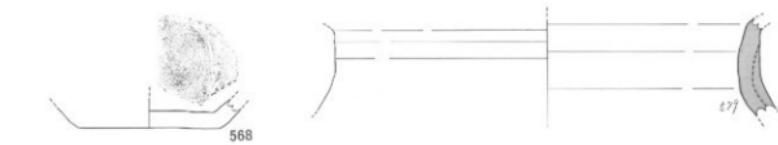
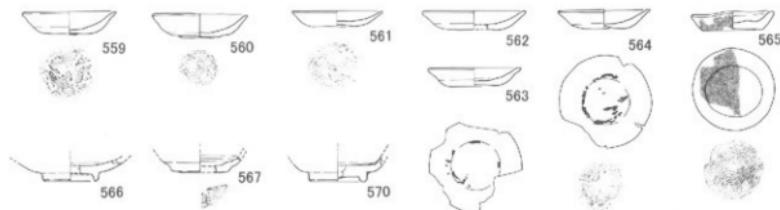
遺物は上層の石の間から土師器・須恵器・瓷器系陶器・陶磁器が出土した。土師器皿（559～565）は上層の造構に伴うもので、559・560と561・562はそれぞれ口縁を合わせるようにして出土した。563・564の底部には墨書があるが判読できなかった。瓷器系陶器の569は同一個体の破片がI B区の5a層でも出土している。また、図示していないが17世紀の陶磁器も若干出土している。のことから石敷きのある上層の造構は17世紀以降に造られたと考えられる。下層で検出した造構のくわしい時期は不明だが、石敷きの中で中世の遺物が出土していることから中世に遡る可能性も考えられる。

第63表 I区伊佐波神社跡出土遺物観察表

遺物 番号	種類 区分	分類 番号	埋別	品種	計測値 mm	寸法 （cm）	形態・文様の特徴	実物	出土 地點	説明	備考	
559	68	106	中 上層	壺	1.5× 1.5× 1.5	2 (7.5)	3.6 1.9	手縫は付ける 内側は内側である	内：縫合ナメ 外：縫合ナメ、ア ン、底板有り	3m×3m下の 内：底面(5YR6/4) 外：壁面(5YR7/4)		
560	68	105	中 上層	壺	1.5× 1.5× 1.5	2 (7.5)	7.7 5.0	内側は内側である	内：縫合ナメ 外：縫合ナメ、底板 有り	3m×3m下の 内：底面(5YR6/4) 外：壁面(5YR7/4)		
561	68	105	中 上層	壺	1.5× 1.5× 1.5	2×3 (7.5)	7.1 3.5	内側縫は内縫なし シ、縫ななくなり	内：縫合ナメ 外：縫合ナメ、底板 有り	3m×3m下の 内：底面(5YR6/4) 外：壁面(5YR7/4)		
562	68	105	中 上層	壺	1.5× 1.5× 1.5	2 (8.0)		内側縫は内縫なし シ、縫ななくなり	内：縫合ナメ 外：縫合ナメ、底板 有り	3m×3m下の 内：底面(5YR6/4) 外：壁面(5YR7/4)		
563	68	106	中 上層	壺	1.5× 1.5× 1.5	3 (7.5)	7.8 3.8	内側は縫く外反する。 底面に墨書き	内：縫合ナメ 外：縫合ナメ、底板 有り	3m×3m下の 内：底面(5YR6/4) 外：壁面(5YR7/4)		
564	68	105	中 上層	壺	1.5× 1.5× 1.5	3 (7.5)	7.6 3.8	内側は縫く外反する。 底面に墨書き	内：縫合ナメ 外：縫合ナメ、底板 有り	3m×3m下の 内：底面(5YR6/4) 外：壁面(5YR7/4)		
565	68	106	土 上層	壺	1.5× 1.5× 1.5	2 (7.5)	6.8 1.9	内側縫・縫は切 り	内：縫合ナメ 外：縫合ナメ、底板 有り	3m×3m下の 内：底面(5YR6/4) 外：壁面(5YR7/4)	灯明丸	
566	68	107	内 壺	壺	1.5× 1.5× 1.5	2 (4.0)						
567	68	106	中 土鍋型 壺	壺	1.5× 1.5× 1.5	2 (4.0)			内：縫合ナメ 外：縫合ナメ、底板 有り	3m×3m下の 内：底面(5YR6/4) 外：壁面(5YR7/4)	底邊付脚 底邊付脚 のものか。	
568	68	105	中 土鍋型 壺	壺	1.5× 1.5× 1.5	2 (4.0)			内：縫合ナメ 外：縫合ナメ	3m×3m下の 内：底面(5YR6/4) 外：壁面(5YR7/4)	底邊付脚 底邊付脚 のものか。	
569	68	107	瓷器系 壺	壺	1.5× 1.5× 1.5	2×5 7×16	15.3	縫等は平底	内：ナメ 外：ナメ、ナメ、ナメ 有り	3m×3m下の 内：底面(5YR6/4) 外：壁面(5YR7/4)		
570	68	107	瓷器系 壺	壺	1.5× 1.5× 1.5	1AK 表上	(4.0)			内：底面(5YR6/4) 外：壁面(5YR7/4)	内：底面(5YR6/4) 外：壁面(5YR7/4)	↑↑
571	68	107	瓷器系 壺	壺	1.5× 1.5× 1.5	1AK 表上	(31.0)	内面に厚く伸びかかる	内：ナメ 外：ナメ、ナメ 有り	内：底面(5YR6/4) 外：壁面(5YR7/4)		



第67図 IA区 伊佐波神社跡① (S=1/80)



0 1:60 2m

第68図 I区 伊佐波神社跡② (S=1/80)

遺構に伴わない遺物（第69～71図）

IA区では備前焼や肥前系陶器・磁器、貿易陶磁などが出土している。これらは5a層よりも上層で出土し、17世紀以降のものは基本的に伊佐波神社に伴う遺物と考えられる。

IB区では主に南側のグリッドで土師器・国産陶器・貿易陶磁が出土している。土師器の壺・皿類は、小片の場合14世紀以前のものと以降のものを明確に区別ができなかった。小型の壺（572・573）は3a層以下で出土しなかった器形なので、室町時代以降の遺物と判断した。574は古志本郷遺跡の皿C類と類似し、575は京都系の土師器皿である。瀬戸・美濃の碗（576・577）、瓶子579はいずれも灰釉で、ほかに岡田で示できなかった天日茶碗の小片が出土している。備前焼の擂鉢（580・581）はIV・V期のものが出土し、580はII A区北側の遺物と接合する。584は青磁の梅瓶である。585は壺類の底部と判断した陶器で、底部を除く外面には濃緑色の釉がかけられる。胎土や釉薬の特徴から中国窯の可能性が考えられる。

IC区では室町時代以降の遺物はほとんど出土しなかった。瀬戸・美濃の灰釉皿578は接合する破片が北側のID区で出土していることから、15世紀頃の遺構が検出されているID区から流れ込んだ遺物と考えられる。586～589は無文鏡で全てIC区東の5b層上面で出土した。なお、IA～IC区で出土した古鏡は近世以前のもので、寛永通寶は出土しなかった。

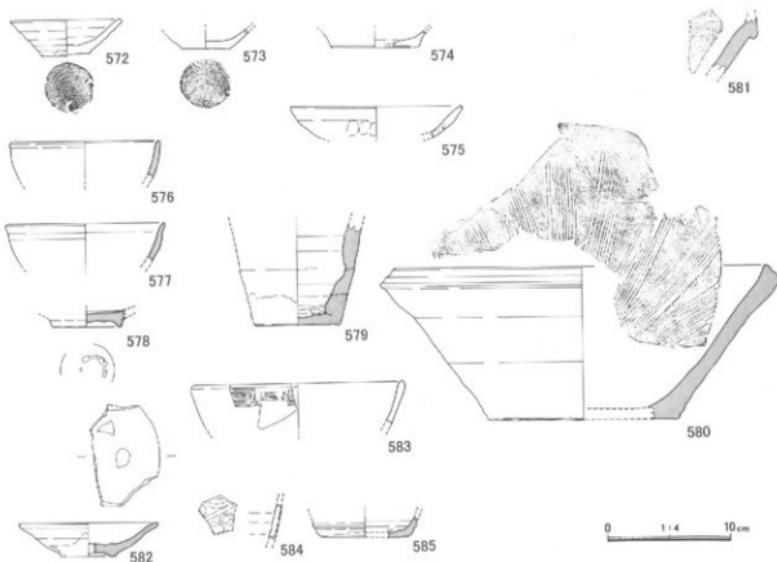
このほか五輪塔の部材が出土地で出土している。590はIA区で表採された未待石製の火輪で表面は角が取れ摩滅が著しい。591は十坑1の石組みに使用されていた白來待製の水輪で、不明石製品593も同じ石材で作られている。これらの石製品は基本的に遺跡周辺から持ち込まれたものと考えられる。

第64表 IC区室町時代以降の遺物観察表①

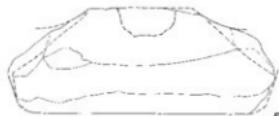
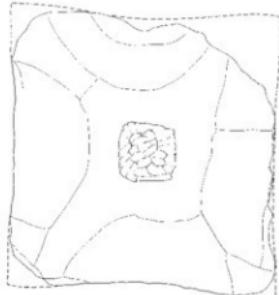
遺物 番号	地名 番号	古代 名	種別	沿岸	年代 GJ(西)	層位 口段 底段	寸法 (cm) 既述	形態・文様の特徴	調査	船上	文献	参考	
572	69	107	中世 土師器	壺	II-9	3	9.0 (3.0)	3.9 既述	透壁・内部は基盤から 断続的に剥離して底 部に付く	内: 灰褐色 外: 黒褐色・茶褐色 内: 灰褐色	高さ10cm 底径6cm 内: 灰褐色	内: 開口直縁型 外: 斜直縁型	内: 開口直縁型 (577/3) 外: 斜直縁型 (577/3)
573	69	107	中世 土師器	壺	I-9	16		4.0		内: 灰褐色 外: 黒褐色・茶褐色 内: 灰褐色	内: 灰褐色 外: 黒褐色	内: 灰褐色	内: 灰褐色 (577/3) 外: 黒褐色 (577/3)
574	69	107	中世 土師器	皿	I-10	15番 上平	7.0			内: 灰褐色 外: 黒褐色・茶褐色 内: 灰褐色	内: 灰褐色 外: 黒褐色	内: 灰褐色	内: 成形型 (577/3) 外: 灰褐色 (577/3)
575	69	107	中世 土師器	皿	G-11	8	(14.0)		手延から裏面にかけて ササケ色の付着がある	内: 灰褐色 外: 黒褐色・茶褐色 内: 灰褐色	内: 灰褐色 外: 黒褐色	内: 成形型 (577/3) 外: 灰褐色 (577/3)	
576	69	107	瀬戸	碗	K-11 H-11 G-11	3	(12.5)		口縁部に内側に凸起 がある	内: 灰褐色 外: 黒褐色	内: 灰褐色 外: 黒褐色	内: 成形型 (577/3) 外: 灰褐色 (577/3)	
577	69	107	瀬戸	碗	H-10	3	(13.0)		口縁部に内側に凸起 がある	内: 灰褐色 外: 黒褐色	内: 灰褐色 外: 黒褐色	内: 成形型 (577/3) 外: 灰褐色 (577/3)	
578	69	107	瀬戸	IT	G-15	b	(5.6)		既述外縁に円形の切 欠きがある	内: 灰褐色 外: 黒褐色	内: 灰褐色 外: 黒褐色	内: 成形型 (577/3) 外: 灰褐色 (577/3)	
579	69	107	瀬戸	瓶子	I-10	3.18 (7.2)			基盤に水平線で斜めかわ り有する	内: 灰褐色 外: 黒褐色・茶褐色 内: 灰褐色	内: 灰褐色 外: 黒褐色	内: 成形型 (577/3) 外: 灰褐色 (577/3)	
580	69	108	備前焼	擂鉢	H-2.1 I-1.5 J-1.5	1	(30.0) (15.6)	12.6	内面に5段の内折のシリ ヌスがあり内側に凹み がある	内: 灰褐色 外: 黒褐色・茶褐色 内: 灰褐色	内: 灰褐色 外: 黒褐色	内: 成形型 (577/3) 外: 灰褐色 (577/3)	
581	69	107	備前焼	擂鉢	G-11	5			内面にアシ崩れの 跡があり底部に	内: 灰褐色 外: 黒褐色・茶褐色 内: 灰褐色	内: 灰褐色 外: 黒褐色	内: 成形型 (577/3) 外: 灰褐色 (577/3)	
582	69	107	越前系 陶器	皿	G-11	3	(11.3) (4.4)	2.7	Pt付	内: 灰褐色 外: 黒褐色・茶褐色 内: 灰褐色	内: 灰褐色 外: 黒褐色	内: 成形型 (577/3) 外: 灰褐色 (577/3)	
583	69	107	新潟瓦 青磁	碗	I-10	16	(17.0)		口縁部に追加付され る	内: 灰褐色 外: 黒褐色	内: 灰褐色 外: 黒褐色	内: 成形型 (577/3) 外: 灰褐色 (577/3)	
584	69	107	青磁	擂鉢	H-11					内: 灰褐色 外: 黒褐色	内: 灰褐色 外: 黒褐色	内: 成形型 (577/3) 外: 灰褐色 (577/3)	
585	69	107	中世陶 器	皿	I-10	5	(6.8)		既述の裏面を剥離 させる	内: 灰褐色 外: 黒褐色	内: 灰褐色 外: 黒褐色	内: 成形型 (577/3) 外: 灰褐色 (577/3)	

第65表 I区室町時代以降の遺物観察表②

遺物 番号	絞目 番号	写真 番号	種別	器種	出土場所 Gr./遺物	測定	寸 法(㎝)	参考
							長さ 幅 厚さ	
586	00	128	古	鉢			1.79 1.82 0.06	新文様
587	00	128	古	鉢			1.57 1.55 0.04	新文様
588	00	128	古	鉢			1.57 1.55 0.03	新文様
589	00	106	古	鉢			1.58 1.58 0.04	新文様
590	70	109	石製品	玉端 大角				朱竹石質
591	70	108	石製品	玉端 小角				白朱竹石質
592	70	108	石製品	玉石				白朱竹石質
593	70	108	石製品	不明				白朱竹石質



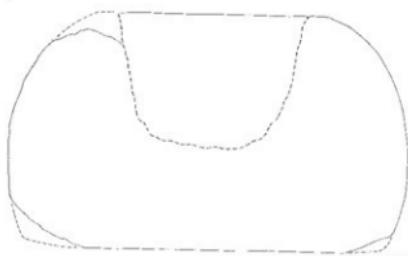
第69図 I B 区 室町時代以降の遺物① (S=1/4、586~589は1/1)



590

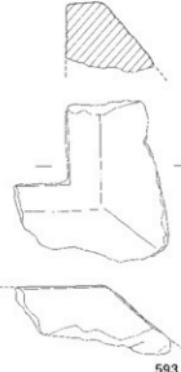


592



591

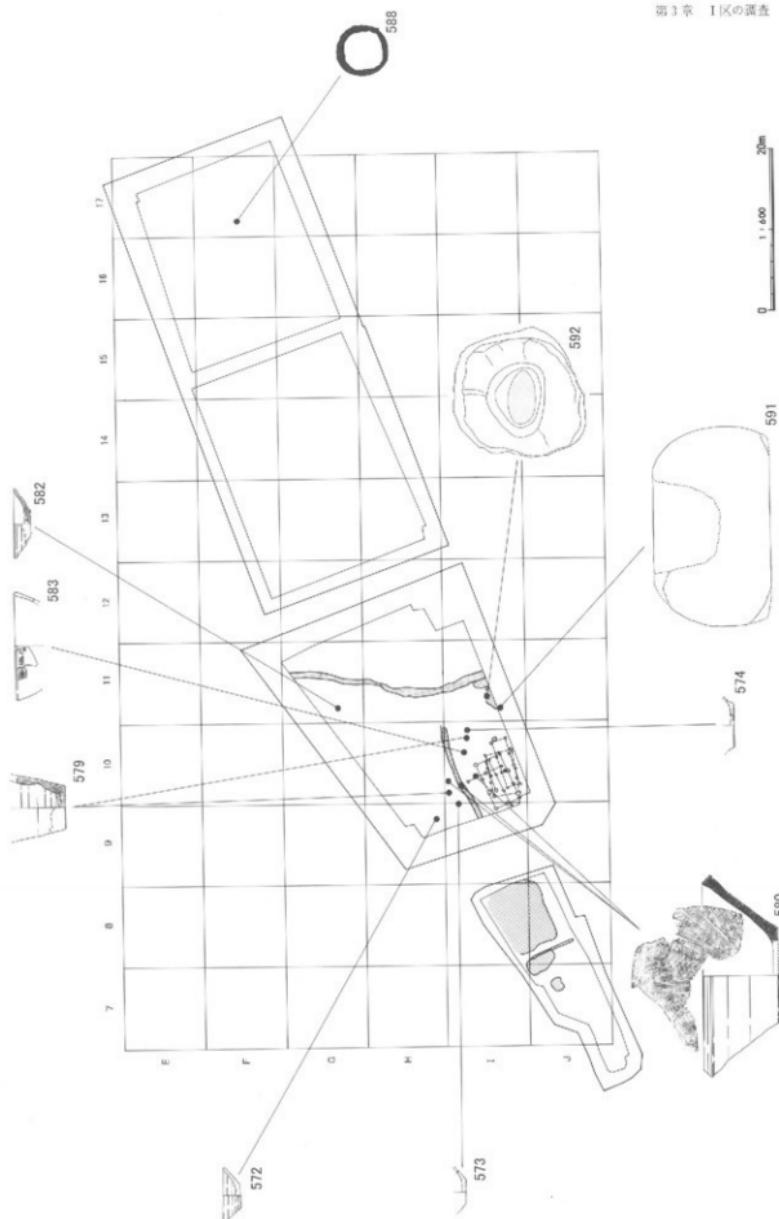
0 1:6 20cm



593

0 1:4 10cm

第70図 I B区 室町時代以降の遺物② (S=1/6)



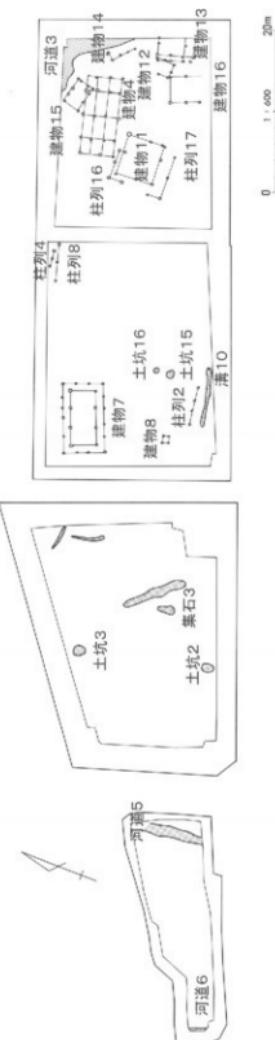
第71図 I区 室町時代以降の遺物出土状況 (S=1/600)

(7) その他の遺構・遺物

調査区内では柱穴や土坑・溝など多数の遺構を検出したが、時期を判断できなかったものも多い。特にはとんどの柱穴は時期を特定できる遺物が出土しておらず、復元した建物も切り合いでの前後関係を判断できなかった。しかし、検出した層位や周辺で出土した遺物の年代からおよそ平安時代の後半から室町時代までと考えられる。また、検出した建物・柱列と溝は主軸が方位に近いものと現在の地割に近いものが見られ、少なくとも2時期に分かれるようである。

このほか自然流路（河道3～6）を4か所で確認している。基本的に4層上面を検出した時点でプランを確認しており、平安時代以降のものと考えられる。調査区全体に堆積する疊層はこれらの流路が氾濫した際に遺跡北側から運ばれたもので、これによって地盤が周辺より高くなって安定し中世以降の建物群が広がったと考えられる^⑩。

また、IC区東では5b層上面で多数の柱穴を確認し、遺構面である5b層は厚く堆積している（写真図版19）。掘立柱建物の柱穴と考えられる柱穴が調査区の東端で検出されたことや5b層の堆積状況から、中世の遺構はIC区の東側にも広がっていると推測される。



第72図 IC区 時期不明の遺構 (S=1/600)

掘立柱建物

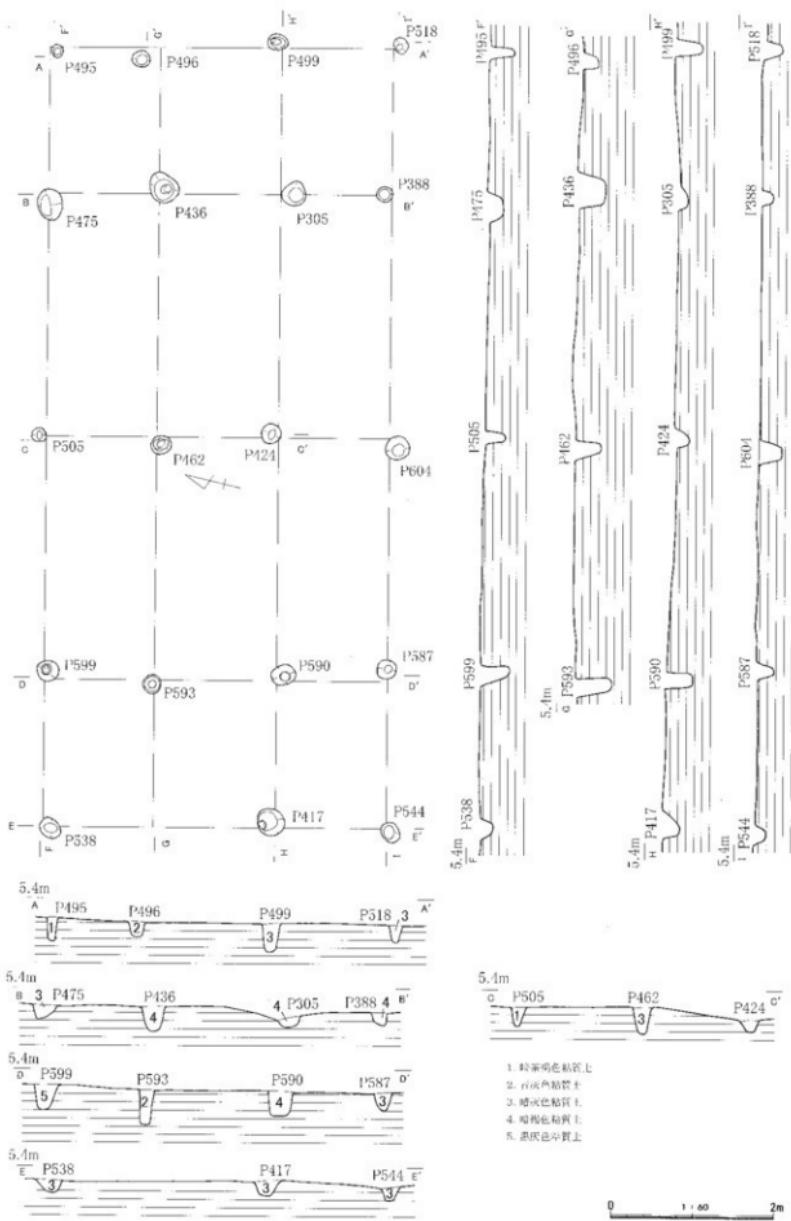
今回の調査では多数の柱穴を検出し、柱根の残っていた柱穴を重視して20棟以上の掘立柱建物を復元した。このうち、柱穴内で時期を判断できる遺物が出土した建物や、周辺での遺物の出土状況からおよその時期を判断できる建物については時期ごとに記述したが、時期を判断できなかつた掘立柱が9棟ある。これらは全てI C区で検出した建物で、I C区で出土した遺構外出土遺物の時期を参考にすると、時期の下限は室町時代以前の可能性が高いと考えられる。また、平成14年度以降にI C区とI D区の8層以下を調査し、そこで9世紀後半以降の遺物が出土していないので、建物の時期の上限は9世紀後半と推測される。

第66表 青木遺跡 建物4 計測表

規 模	梁 行 き 3 間					柱 行 き 4 間				
	N-77° - E					N-77° - E				
主 軸										
番 号	P 538	P 599	P 595	P 475	P 495	P 595	P 462	P 436	P 496	P 417
平面面積(cm)	30×25	16×11	19×18	35×32	16×10	30×25	28×26	43×40	21×19	15×10
標高(m)	上面	5.25	5.20	5.25	5.16	5.17	5.22	5.19	5.12	5.25
	下面	5.07	4.90	4.96	5.01	4.88	4.75	4.84	4.94	4.98
番 号	P 712	P 636	P 305	P 499	P 544	P 587	P 388	P 518		
平面面積(cm)	32×27	25×24	30×27	26×21	25×26	28×26	22×16	19×18		
標高(m)	上面	4.91	5.05	5.06	5.11	5.16	5.12	5.12	5.09	
	下面	4.83	4.77	4.92	4.76	4.99	4.97	4.97	4.87	
柱間距離(cm)	P 538-P 599-P 505	P 599-P 475	P 505-P 475	P 475-P 495	P 495-P 538	P 595-P 593	P 505-P 462	P 475-P 436	P 495-P 462	P 593-P 462
	199	296	256	192	266	152	150	140	106	300
	P 462-P 436-P 436	P 436-P 712	P 636-P 712	P 636-P 305	P 436-P 496	P 496-P 499	P 417-P 712	P 712-P 636	P 636-P 305	P 305-P 499
	316	158	166	140	120	168	184	296	298	190
	P 417-P 712-P 587	P 712-P 388	P 305-P 587	P 499-P 518	P 544-P 587	P 587-P 388	P 388-P 518			
柱	P Na	466	462	462-2	417	593	599			
根	規 様	長	22.8	11	24.5	27.8	18.7			
	(cm)	幅	長13.00(13.5)	長6.30(6.8)	長12.80(12.1)	長9.00(9.1)	長9.00(9.1)	長11.00(12.2)		

第67表 青木遺跡 建物7 計測表

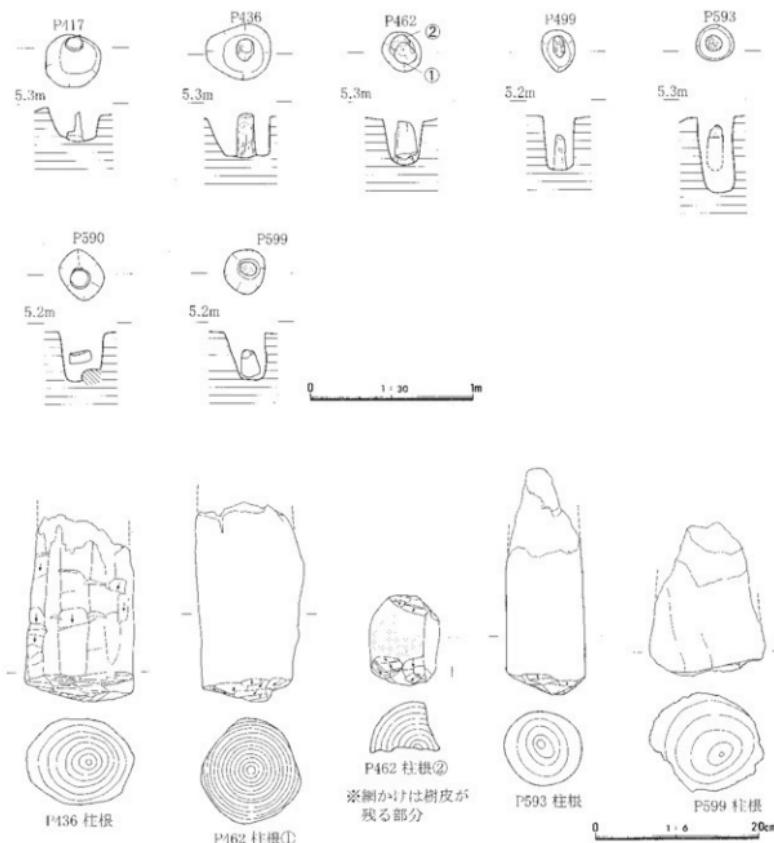
規 模	梁 行 3 1 間					柱 行 き 3 間				
	N-68° - E					N-68° - E				
主 軸										
番 号	P 738	P 730	P 732	P 733	P 739	P 740	P 737	P 743	P 744	P 742
平面面積(cm)	23×18	20×19	26×23	23×22	29×24	21×16	17×14	28×24	26×21	
標高(m)	上面	5.21	5.11	5.11	5.01	5.01			5.02	5.01
	下面									
番 号	P 725	P 724	P 723	P 722	P 721	P 720				
平面面積(cm)	22×20	35×21	25×22	23×22	27×22	21×21				
標高(m)	上面	5.14	5.15	5.14	5.13	5.14	5.19			
	下面									
番 号	P 729	P 734	P 735	P 736	P 741	P 726	P 727	P 728		
平面面積(cm)	44×35	29×22	29×26	35×27	26×25	41×30	30×28	35×30		
標高(m)	上面									
	下面									
柱間距離(cm)	P 738-P 730	P 730-P 732	P 732-P 733	P 733-P 739	P 739-P 740	P 740-P 737	P 737-P 743	P 743-P 744	P 725-P 724	P 724-P 723
	156	132	206	190	156	196	150	156	160	172
	P 744-P 742	P 742-P 725	P 723-P 722	P 722-P 721	P 721-P 720	P 720-P 738				
	176		132	116	200	206				
	P 729-P 734	P 734-P 735	P 735-P 736	P 736-P 741	P 741-P 726	P 726-P 727	P 727-P 728	P 728-P 729		
柱	P No	720	725	730	732	733	737	727		
根	規 様	長	44.5	18.7	22		36.8	58.2		
	(cm)	幅	長10.50(10.2)	長3.80(3.5)	長12.70(12.1)	長9.00(9.1)	長11.00(11.2)	長12.70(12.2)		



第73図 I区 建物4 (S=1/60)

建物4（第73・74図）

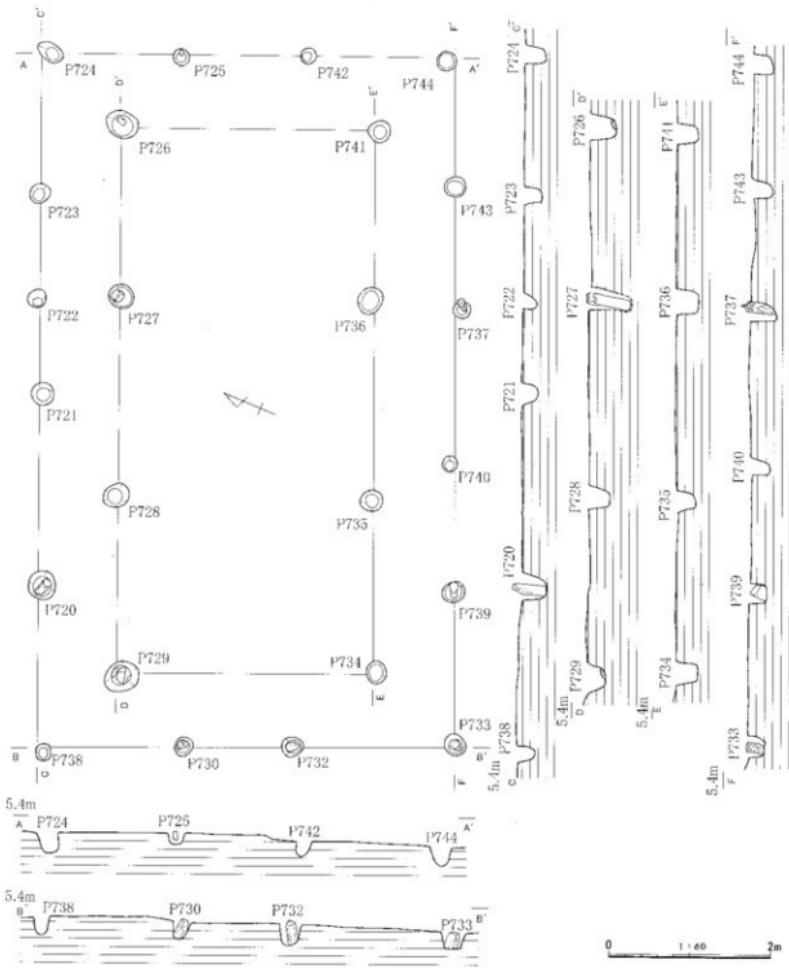
I C区東のE16・17～F16・17グリッドで検出した掘立柱建物で、柱の配置は3間×4間で復元した。東西の柱列は間隔が狭いので建物に作る柵列などの可能性もあるが、柱穴の配置から床を持つ建物と考えられる。6か所の柱穴で柱根が残存し、P462では柱根の下に柱を固定するための木片が置かれていた。建物4の詳しい時期は不明だが、建物の主軸や建物5・6、土坑9との位置関係から平安時代後半頃の建物の可能性も考えられる。



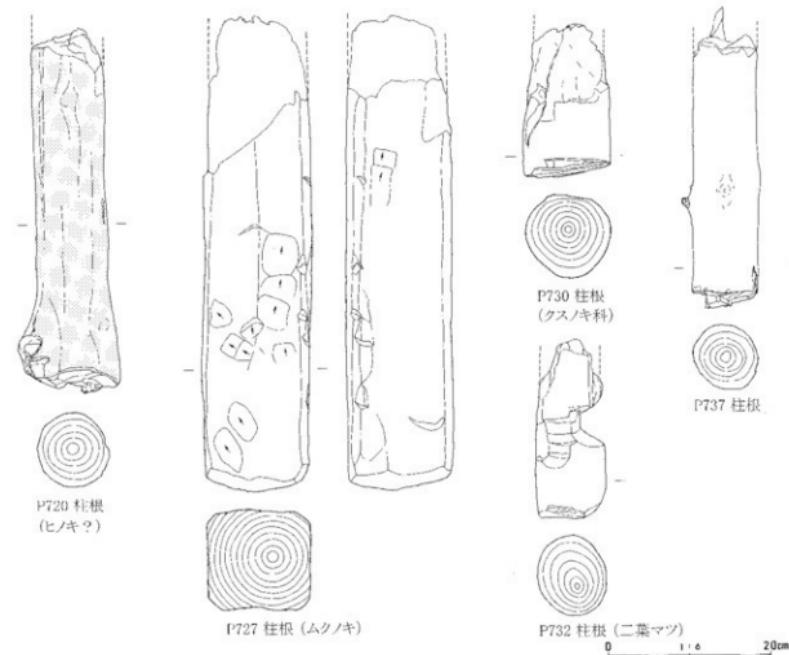
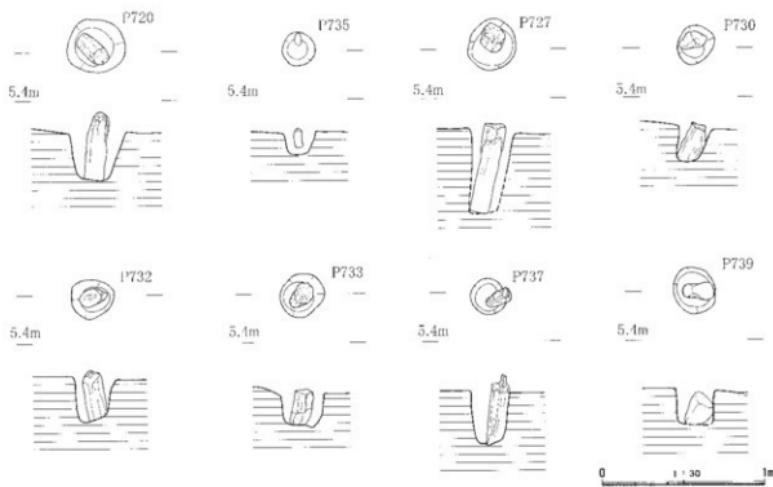
第74図 T区 建物4 柱根 (S=1/30)

建物 7 (第75・76図、写真図版58~60)

I C区西のF13・G13グリッドで検出した1間×3間の掘立柱建物で、周囲に柱列が残っている。周囲の柱は建東西の並びの柱間が対応しているのに対し、南北の並びはずP720とP721の間が広く、ズレがある。この部分が建物の入り口の可能性が考えられる。建物7は周辺でほとんど柱穴が検出されず、今回の調査で柱の配置を復元した建物の中では最も確実なものと思われ、柱穴の中から出土した柱根も一括性の高い資料と言える。建物の主柱穴P727の柱根は断面がほぼ正方形に加工され、四角は面取りされている。これに対し周囲の柱穴から出土した柱根は細く側面を加工しておらず、P720は樹皮が前面に残っていた。



第75図 1区 建物7 (S 1/60)



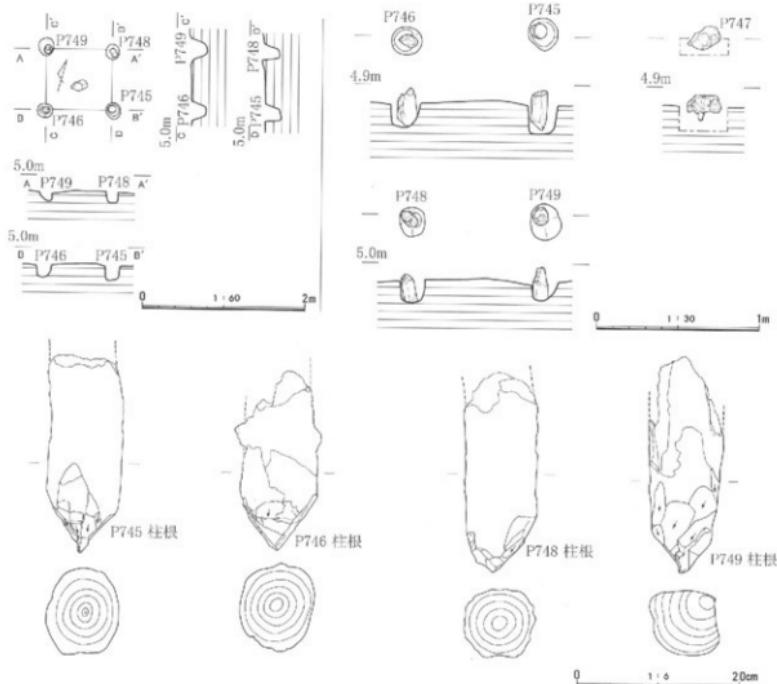
第76図 I区 建物7柱根 (S=1/30)

建物8（第77図、写真図版61）

IC区西のI13グリッドで検出した1間×1間の掘立柱建物で、建物の中央やや南よりに柱がある。中央のP747以外は円形の掘り方を持ち、柱根は先端を杭状に尖らせていた。P747は掘り方が検出されず、柱根は厚みのある板状のものだった。建物8の性格は、規模や中央で床を支えたと考えられる柱が検出されたことから、祭祀に関連した小型の建物の可能性が考えられる。

第68表 青木遺跡 建物8 計測表

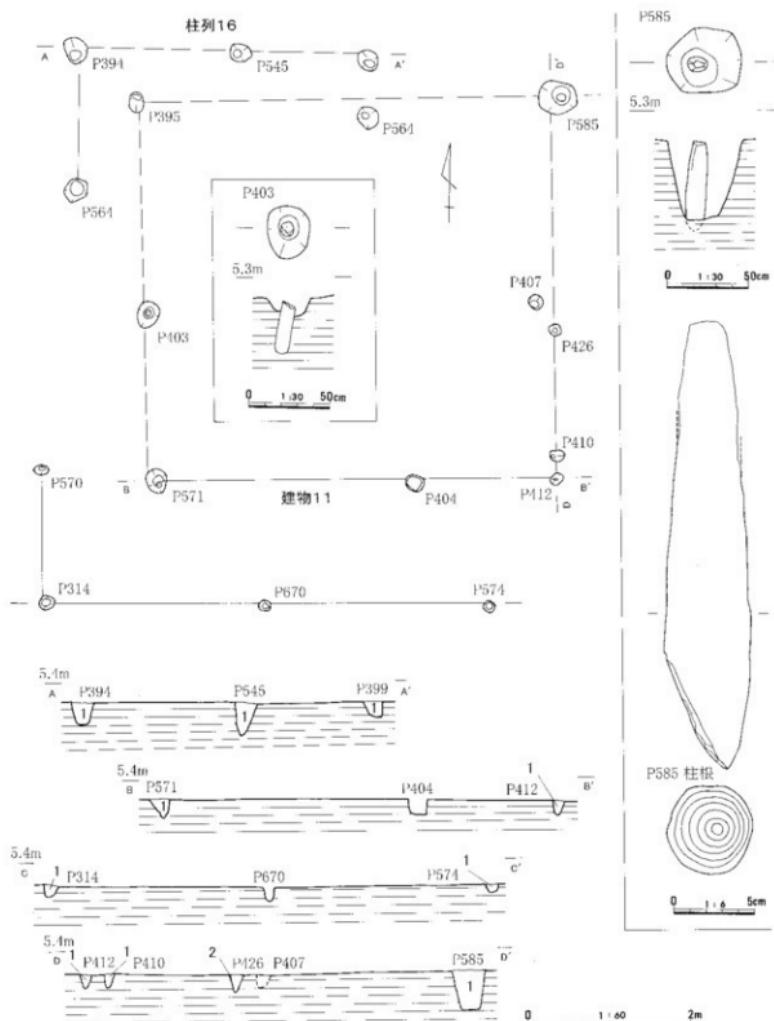
規 模	東 行 き		西 行 き	
	1 間		1 間	
主 軸 穴	N-73° - E			
	番 号	P749	P746	P745
	平面規模 (cm)	20×17	20×18	20×19
柱 根	標高 (cm) 上面 下 面			25×20
柱 間 距 離 (cm)	P749 - P746	P746 - P745	P745 - P748	P748 - P749
柱 根 規 模 (cm)	75	80	75	80
柱 根 長	P749 745	746	748	749
幅	24.2	22	24.5	26.6
長 さ	長11 幅8.9	長10.7 幅8.9	長9.9 幅8.3	長8.3 幅8.3



第77図 IA区 建物8 (S=1/60)

建物11（第78図）

I C区東のF16グリッドに位置する2間×2間の掘立柱建物で、建物の主軸は方位に近い。南北に柱列がある。建物の北東隅の柱P585では先端を斜めに加工した柱根が出土している。詳しい時期は不明だが、主軸の方向は方位に近く、鎌倉時代以前の建物の可能性が考えられる。検出した位置や主軸の方向から、建物12・15、柱列4は近い時期の遺構と考えられる。



第78図 I区 建物11 (S : 1/60)

第69表 青木遺跡 建物11 計測表

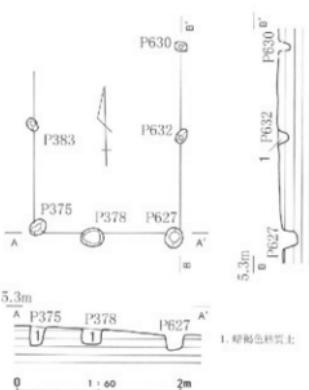
規 模		梁 行 き				桁 行 き		
主 軸		2 間				2 間		
穴	番 号	P395	P585	P426	P412	P404	P571	P403
	平面規模 (cm)	25×23	43×40	17×16	16×11	24×18	39×26	11×9
	標高 (m)	上面 5.18	5.13	5.09	5.12	5.15	5.17	
	下面	4.74	4.62	4.89	4.95	4.96	4.94	
	柱間距離(cm)	P395-P585 530	P585-P426 290	P426-P412 175	P412-P404 175	P404-P571 330	P571-P403 215	P403-P395 265
柱 根	P Na	403	585					
	規格 (cm)	長 32	42					
	軸	長8 短6	長11 短10					

建物12（第79図）

IC区東のF17グリッドで検出した2間×2間以上の掘立柱建物で、北側が溝5と切り合っている。

第70表 青木遺跡 建物12 計測表

規 模		梁 行 き			桁 行 き		
主 軸		2 間			2 間		
穴	番 号	P383	P375	P378	P627	P632	P650
	平面規模 (cm)	17×12	22×16	28×26	25×22	14×12	17×15
	標高 (m)	上面 5.01	5.04	5.02	4.93	4.97	4.95
	下面	4.79	4.79	4.82	4.74	4.88	4.84
	柱間距離(cm)	P383-P375 P375	P375-P378 P378	P378-P627 P627	P627-P632 P632	P632-P650 P650	
		130	79	100	120	115	



第79図 IC区 建物12 (S=1/60)

建物13（第80図）

IC区東のF17グリッドに位置し、P428・430・551・611・861が柱穴の2間×2間以上の掘立柱建物と判断した。南側に柱列を伴う建物と考えたが、P429・431・524・629が柱穴となる別の建物が切り合っている可能性もある。建物4と主軸が近く、位置関係から近い時期の建物と推測される。柱穴の検出状況や遺構検出面である5b層の堆積状況から、建物13は調査区外に続くと思われる。

第71表 青木遺跡 建物13 計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
		2 間				2 間			
主 軸		N-74° - E							
穴	番 号	P611	P524	P551	P525	P430	P428	P629	P431
	平面規模 (cm)	11×11	22×20	18×16	23×18	24×22	30×18	17×13	20×14
	標高 (m)	上面	4.63	5.01	4.97	4.96	4.99	4.94	4.92
		下面		4.86	4.79	4.85	4.77	4.74	4.75
	番 号	P429	P554	P861	P862	P863			
	平面規模 (cm)	21×18	17×16						
	標高 (m)	上面	4.85	4.85					
		下面	4.71	4.71					
	P611-P524	P524-P551	P551-P525	P611-P430	P430-P428	P428-P429	P524-P629	P629-P431	
	柱間距離(cm)	56	142	64	168	150	54	174	24
柱	P431-P429	P429-P554	P429-P861	P554-P862	P862-P863				
	柱間距離(cm)	114	134	150	134	26			
柱	P No.	611							
	規 模 (cm)	長 幅							

建物14（第80図）

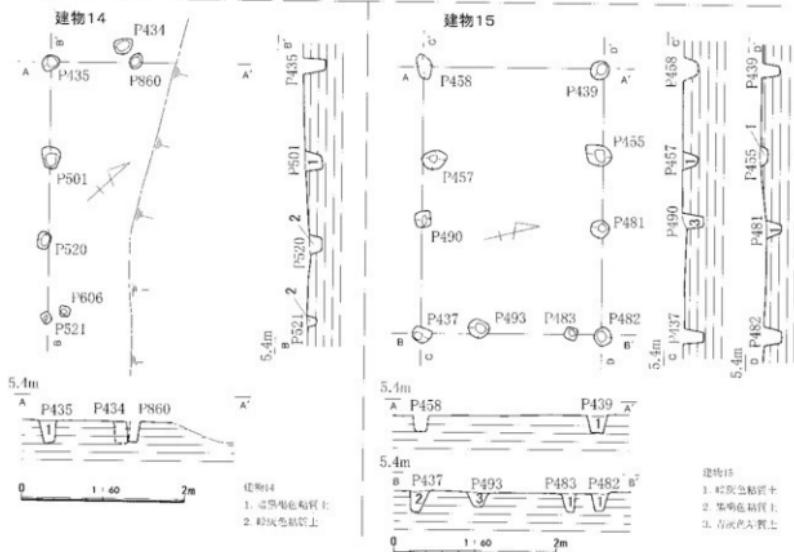
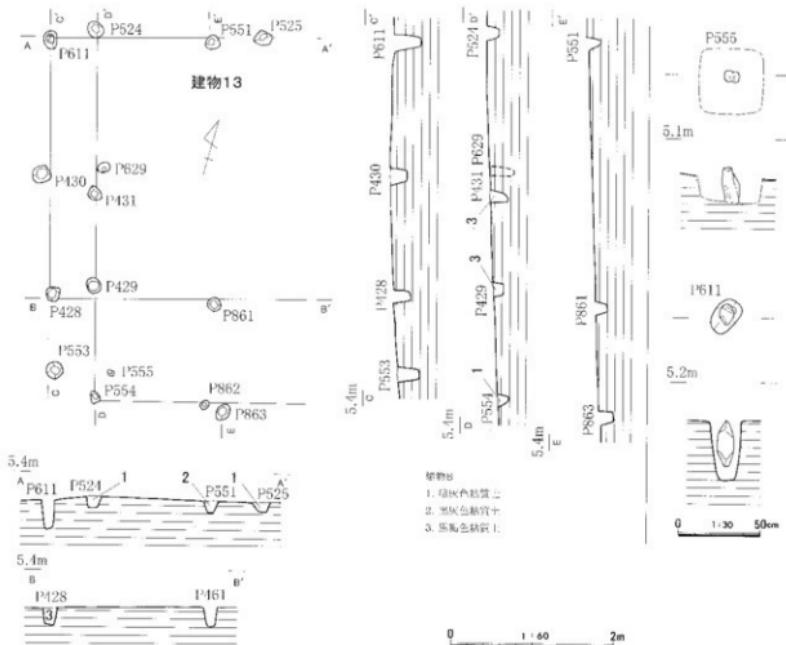
I C区東のF17グリッドで検出した1間×3間以上の掘立柱建物で、東側は建物14を検出する前に河道3を先に掘削したので、切り合いの前後関係を確認できなかった。建物14の詳しい時期は不明だが、河道に先行する建物であれば平安時代前半頃に遡る可能性がある。

第72表 青木遺跡 建物14 計測表

規 模		梁 行 き			桁 行 き	
		1 間			3 間	
主 軸		N-47° - W				
穴	番 号	P860	P435	P501	P520	P521
	平面規模 (cm)		20×20	30×28	23×22	15×15
	標高 (m)	上面	5.09	5.05	5.00	5.02
		下面	4.80	4.83	4.83	4.89
	柱間距離(cm)	P860-P435	P435-P501	P501-P520	P520-P521	
		100	122	100	95	

建物15（第80図）

I C区東のF17グリッドで検出した1間×3間以上の掘立柱建物である。桁行きの真ん中の柱間が狭く、東側はP483・493も建物15の柱になる可能性が考えられる。規模は建物14に近く、主軸の方向は建物11・12に近い。



第80図 T区 建物13~15 (S=1/60)

第73表 青木遺跡 建物15 計測表

規 模	梁 行 き						桁 行 き				
	1 間			N - 76° - W			2 間				
主 軸											
	番 号	P439	P455	P481	P482	P483	P493	P437	P490	P457	P458
穴	平面規模 (cm)	21×14	33×25	26×21	23×21	19×18	26×23	25×22	24×24	32×23	31×15
	標高 (m)	上底 5.23	5.25	5.16	5.18	5.18	5.17	5.19	5.21	5.22	5.21
	下底 5.01	5.15	4.97	4.95	4.95			4.91	4.94	5.01	
	柱間距離(cm)	P439-P455 P481-P482 108	P455-P481 P482-P483 88	P481-P482 P482-P483 130	P482-P483 P483-P493 34	P483-P493 P493-P457 112	P493-P457 P457-P490 76	P437-P490 P490-P457 144	P457-P458 P458-P439 80	P458-P457 P457-P439 112	P458-P439 220
柱 資 料	P Na	493									
	長	20.6									
	規 模 (cm)	長11.2 幅10.8									

建物16（第81図）

I C区東のF17グリッドで検出した1間×2間以上の掘立柱建物である。建物の南側は5 b層が削平されていたため確認できなかった。規模や方向が建物9と似ている。

第74表 青木遺跡 建物16 計測表

規 模	梁 行 き			桁 行 き		
	1 間			2 間		
主 軸						
	番 号	P354	P624	P361	P374	P623
穴	平面規模 (cm)	22×21	23×18	34×26	12×9	23×22
	標高 (m)	上底 5.23				
	下底 5.01					
	柱間距離(cm)	P354-P624 120	P624-P361 200	P361-P374 330	P374-P623 195	

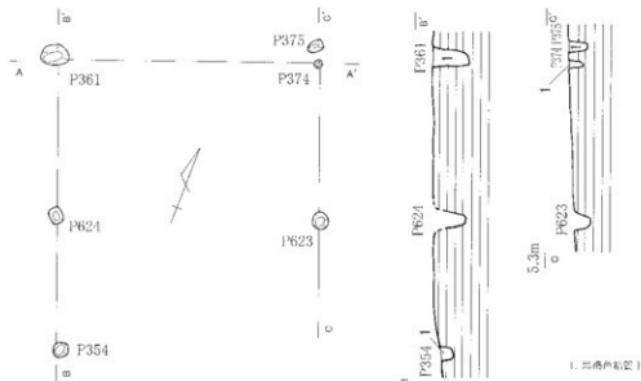
第75表 青木遺跡 柱列1 計測表

規 模	2 間			
	N - 17° - W			
主 軸	P68	P69	P70	
番 号				
穴	平面規模 (cm)	22×22	26×21	22×21
	標高 (m)	上底 5.37	5.45	5.47
	下底 5.12	5.08	5.30	
	柱間距離(cm)	P68-P69 180	P69-P70 190	

柱列1（第45・82図）

I C区のH10グリッドで検出した。建物20と土坑3の間に位置している。柱穴内から遺物が出土していないので詳しい時期は不明である。建物20と方向が似ているが、柱列1は5 a層を5 cm程度掘削した時点で検出しているので、建物1～3に近い時期の造構の可能性が高い。

建物16



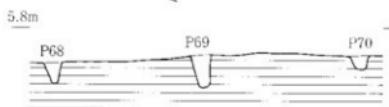
I. 建物16断面図上



第81図 I区 建物16 (S = 1/60)

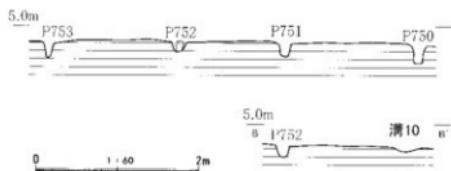
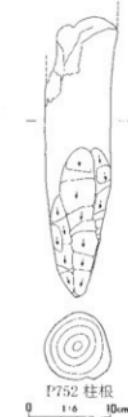
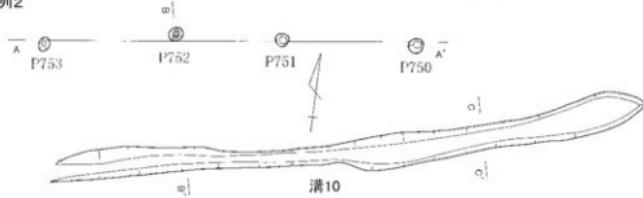
柱列1

P68 P69 P70



第82図 I区 柱列1 (S = 1/60)

柱列2



第83図 I区 柱列2、満10 (S = 1/60)

第76表 青木遺跡 柱列2 計測表

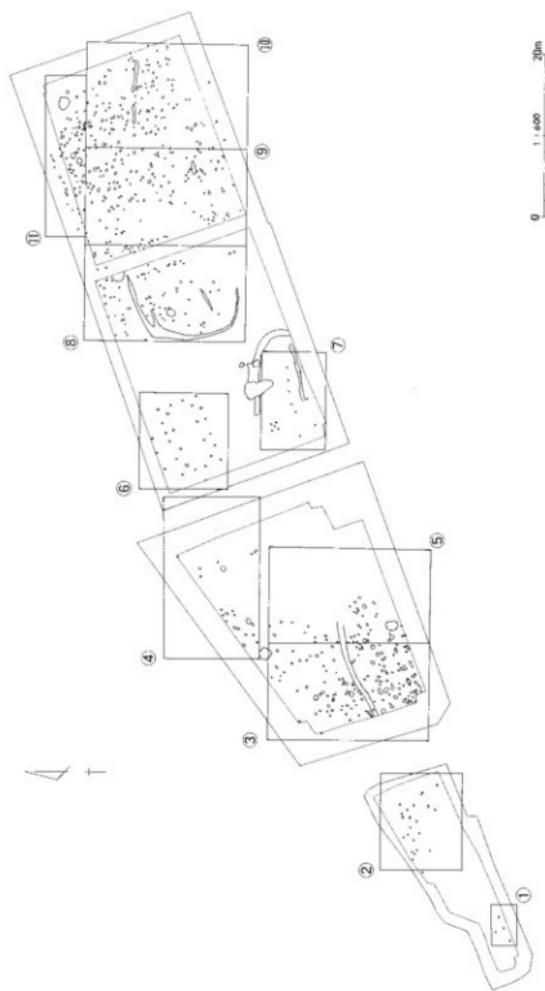
規 模		3 間			
主 軸		N - 83° - E			
穴	番 号	P753	P752	P751	P750
	平面規模 (cm)	18×15	15×14	18×15	20×17
	標高 (m) 上面	4.75	4.76	4.73	4.71
	下面				
柱間距離(cm)		P753-P752 165	P752-P751 130	P751-P750 165	
柱 底	PNa	752			
	規格 (cm)	31			
	幅	長10 短9			

その他の柱穴(第84~96図、写真図版62・63)

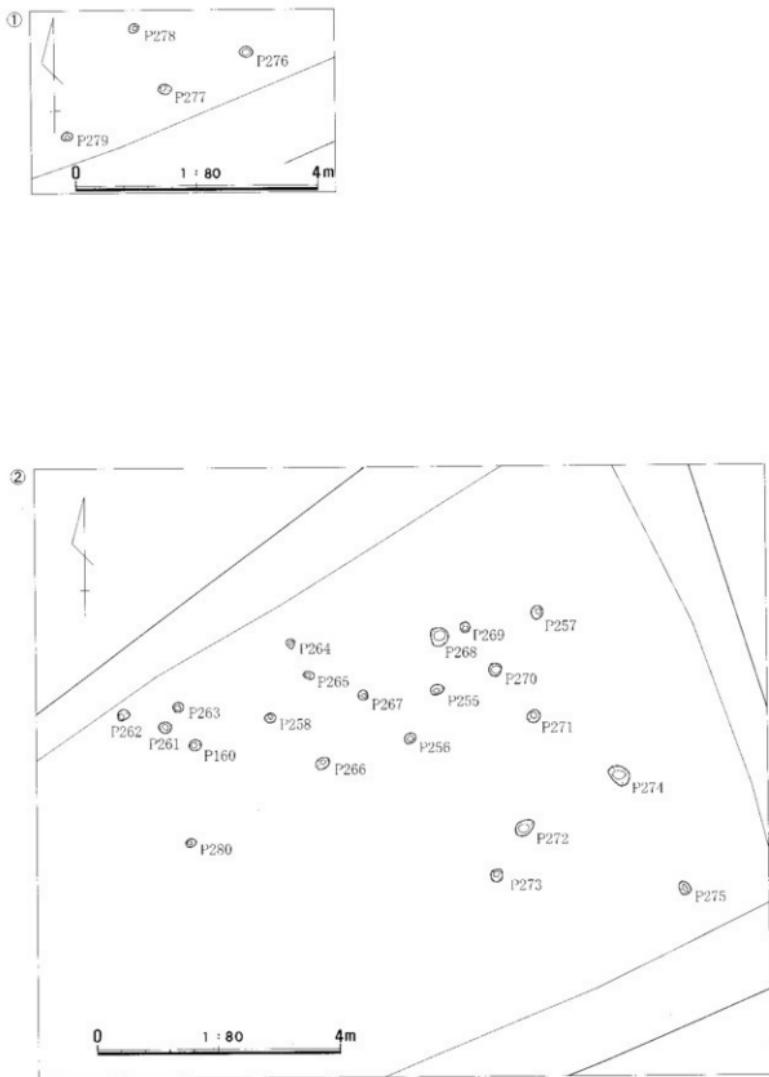
I A ~ I C 区の調査では約770のピットを検出した。分布の状況や遺物の出土状況、残っていた柱根の大きさから、これらのピットは基本的に掘立柱建物や付随する柱列の柱穴と考えられる。しかし、建物や柱列として復元できたものは僅かで、大半は不明柱穴のままである。また、柱根の残る柱穴を多数検出したが、I C 区では掘り方を確認できなかったものが多い。柱根の周りで検出した粘質土のプランは柱の先端に届いておらず、柱を切り取る際に掘り返した部分と推測される。このように I C 区では柱根や掘り返しを確認できなかった柱穴の検出が困難だったので、検出できなかった柱穴がさらに存在すると推測される。

第77表 I 区柱穴出土遺物観察表

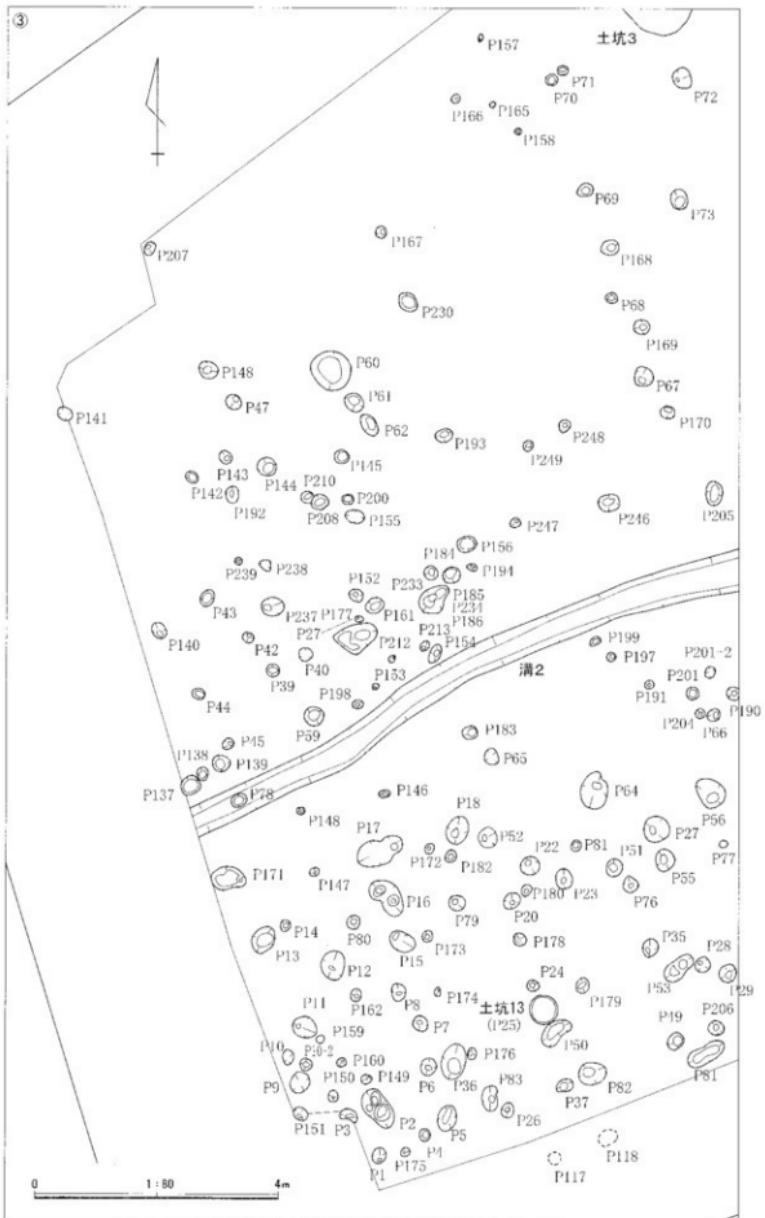
遺物 番号	発区 番号	分類	種別	器種	柱上部 位置	柱下部 位置	寸 法(cm)	形態・文様の特徴	調査	地土	色調	備考	
554	66	169	中 土器	环	I.A. P263	(9.5)	4.6	2.65		内：凹凸テラ 外：円形突起、凹凸 条状	柱上部の堆积 多量	内：黄褐色 (3YR7/4) 外：黄褐色 (3YR7/4) ～褐灰色 (3WY6/1)	
595	96	109	中 土器	环	P300	(9.2)	4.1	1.9		内：凹凸テラ 外：円形突起、斜止 条状	柱上部の堆积 多量	内：灰褐色 (2BY7/2) 外：灰褐色 (2BY7/2)	
596	96	130	土陶器	罐	P445					内：コロナリテラ ヘラステラ 外：ヨコテラ、タマハ タスヨコテラ	柱上部の堆积 多量	内：灰褐色 (3YR9/2) 外：灰褐色 (3YR9/2)	
597	96	139	土陶器	罐	P445		(8.0)			内：凹凸テラ 外：凹凸テラ、条状	柱上部の堆积 少量	内：灰褐色 (2BY7/1) 外：灰褐色 (2BY7/1)	
598	96	109	中 土器	环	P445		(5.0)			内：凹凸テラ 外：凹凸テラ、条状	柱上部の堆积 多量	内：灰褐色 (3YR6/2) 外：灰褐色 (3YR6/2)	
599	96	169	白 瓦	瓦	P457 E-17		(16.0)	口沿部は切妻的な瓦縫 (16.0)	内：凹凸テラ 外：凹凸テラ、条状	瓦の口縫 瓦の子口縫	内：灰褐色 (3YR7/2) 外：灰褐色 (3YR7/2)	IV c 類	
600	95	110	中 土陶器	柱 高台 付具	F-17 P511*	(6.4)	4.8	3.7	柱基部は直角的に大きく 外傾する	内：凹凸テラ 外：凹凸テラ、条状	柱基部の直角 柱基部の直角	内：灰褐色 (3YR7/4) 外：灰褐色 (3YR7/4) ～褐色 (2BY6/2)	
601	96	130	中 土器	环	P-17 P631	(9.1)	(4.4)	1.9	柱基部は直角的に外傾す る	内：凹凸テラ 外：凹凸テラ、条状	柱基部の直角 柱基部の直角	内：灰褐色 (3YR7/2) 外：灰褐色 (3YR7/2)	



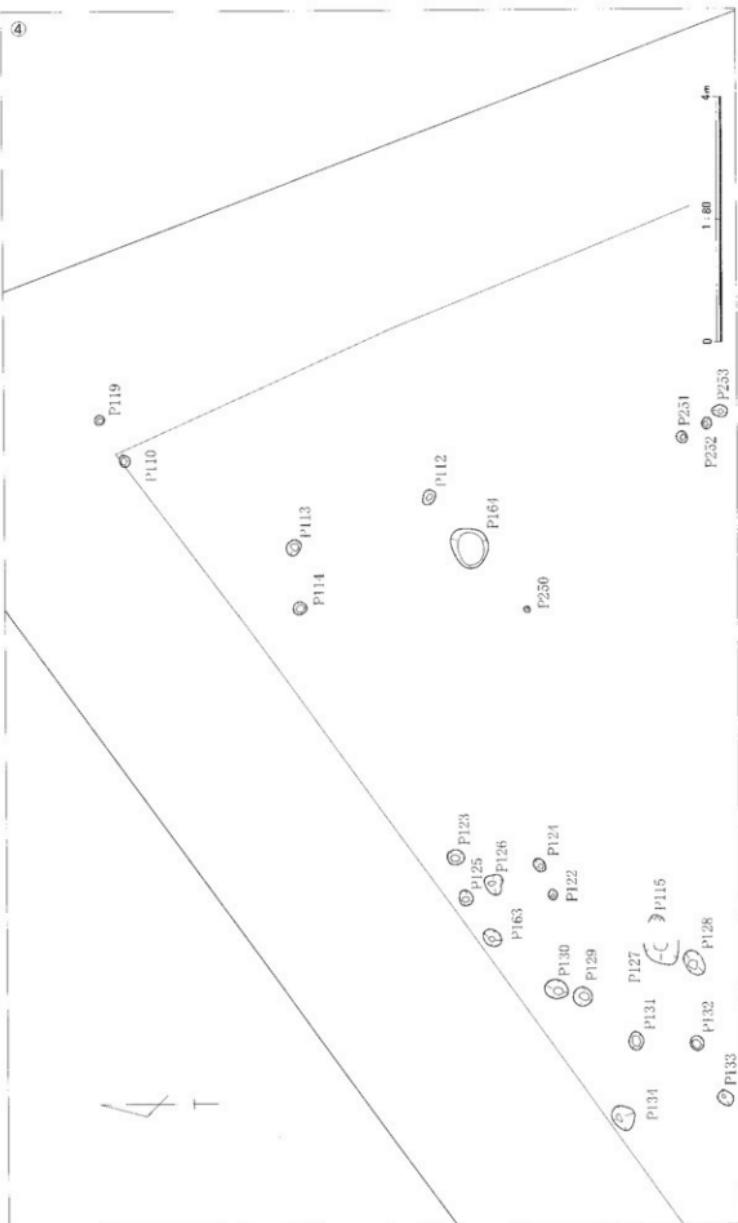
第84図 I区 柱穴配置図 ($S=1/600$)



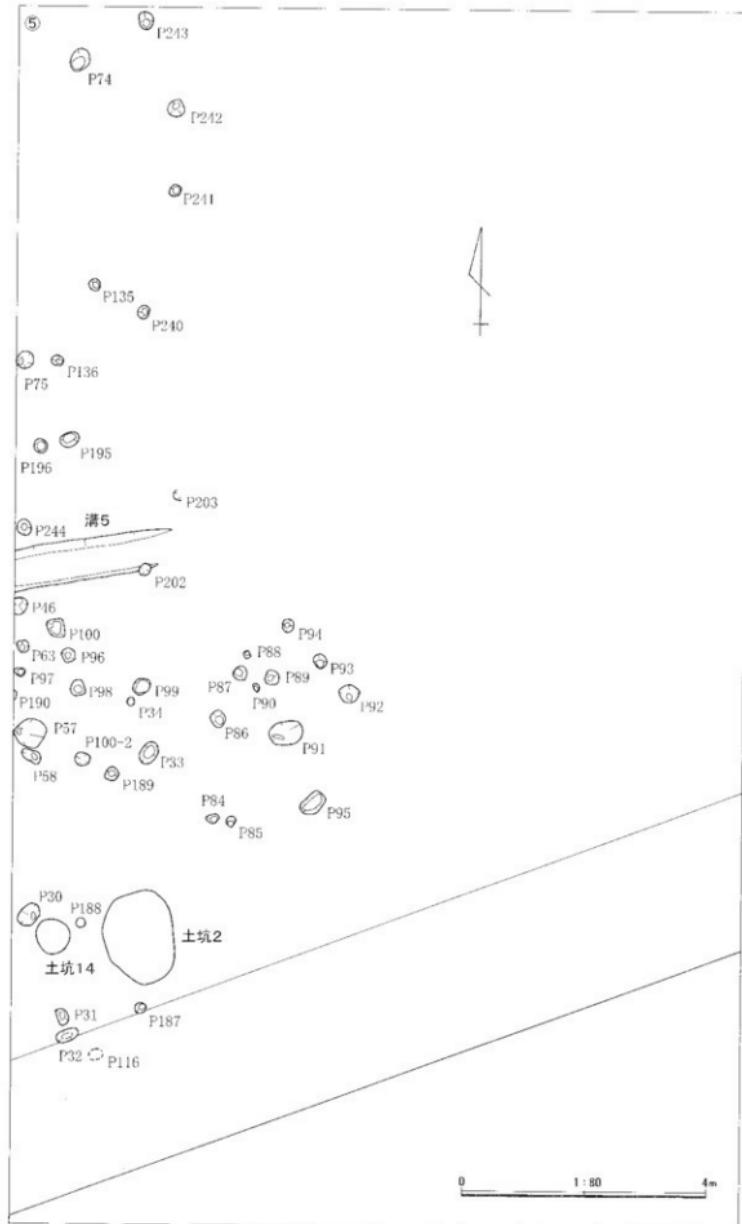
第85図 I区 柱穴配置図①・② (S -1/80)



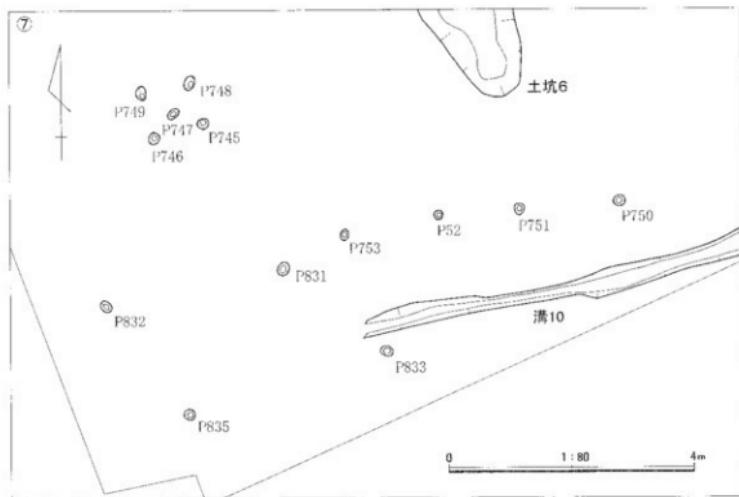
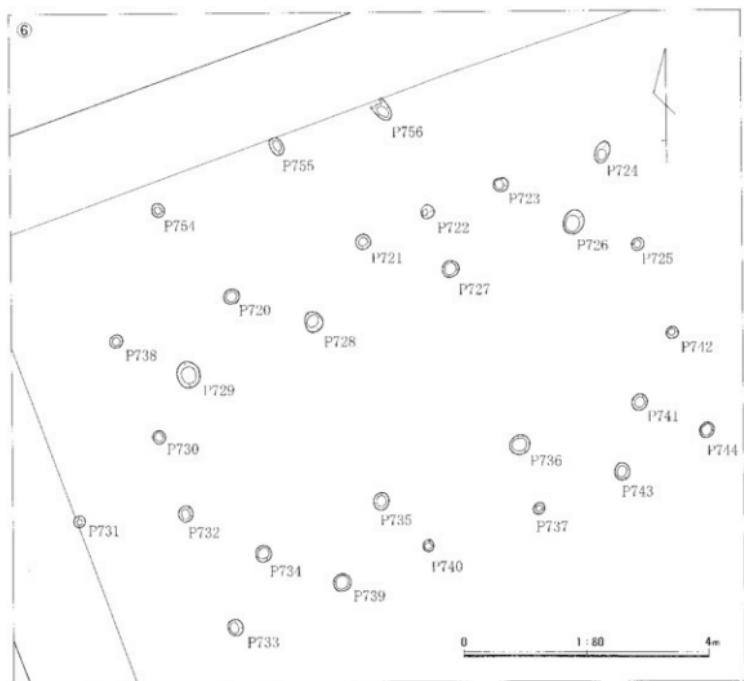
第86図 1区 柱穴配置図③ (S=1/80)



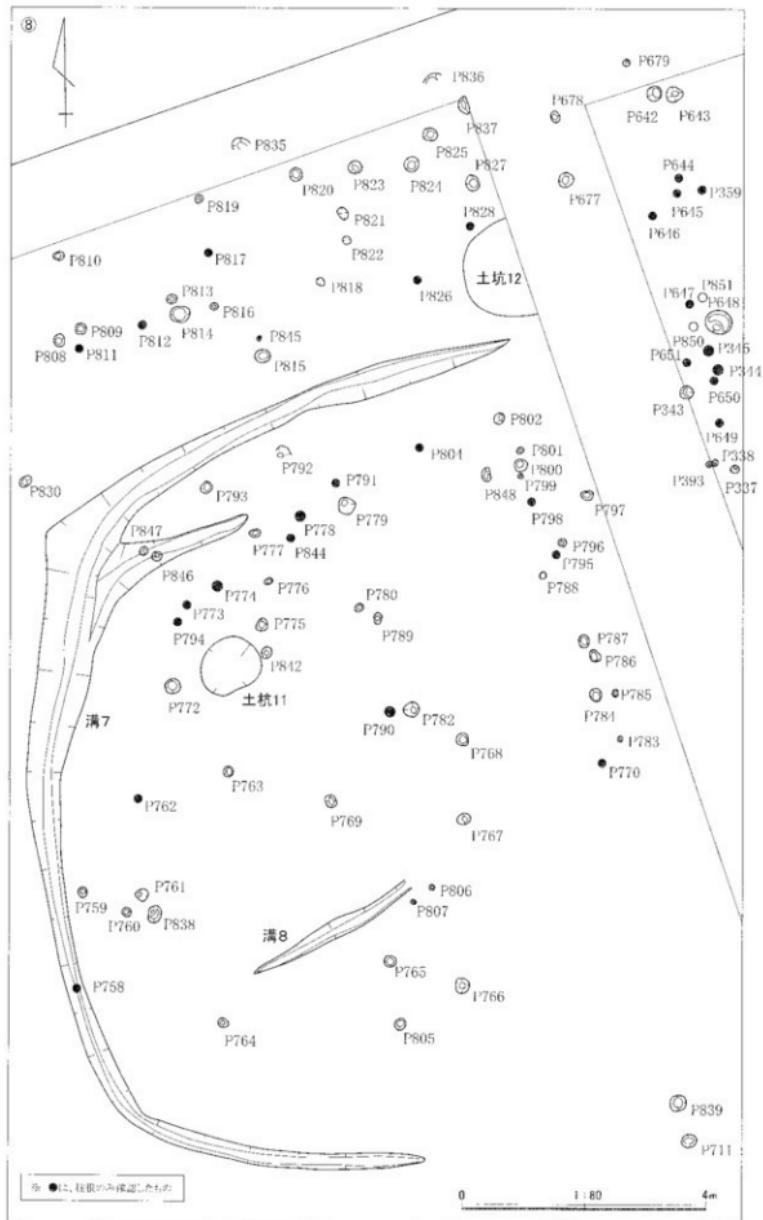
第87図 I区 柱穴配置図④ ($S = 1/80$)



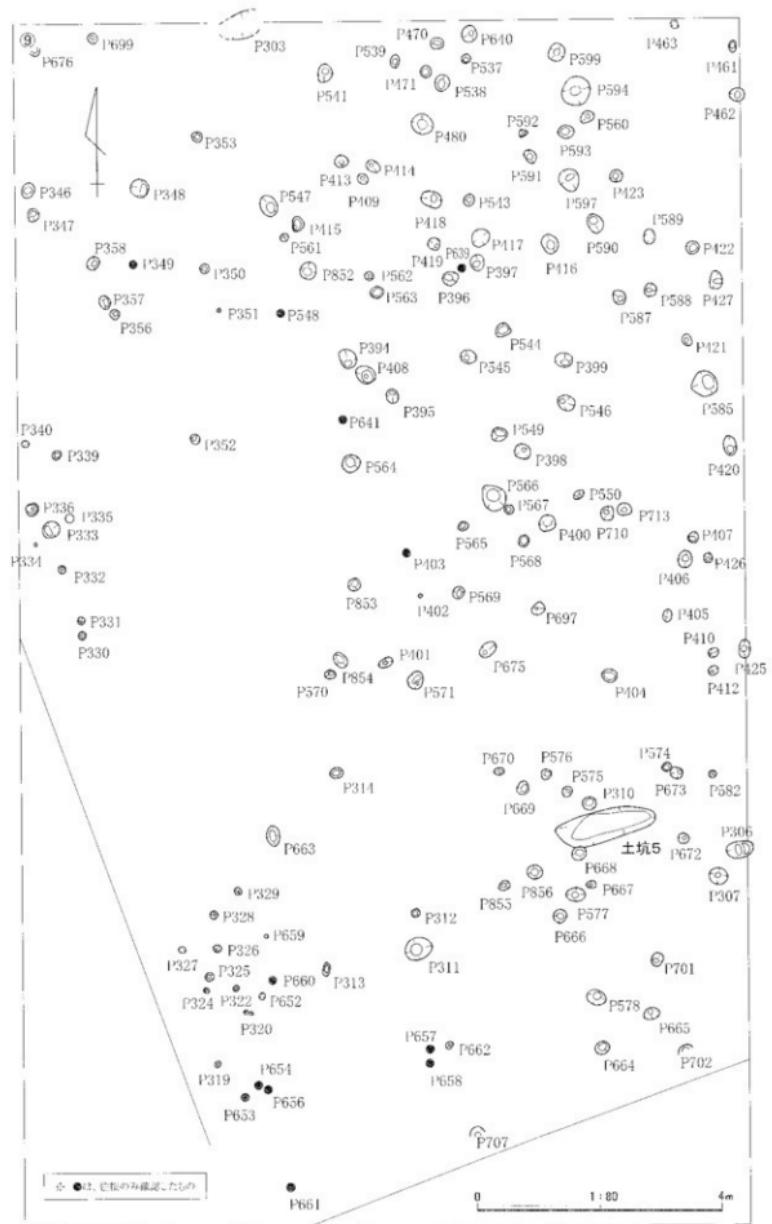
第88圖 1区 柱穴配置図5 (S 1/80)



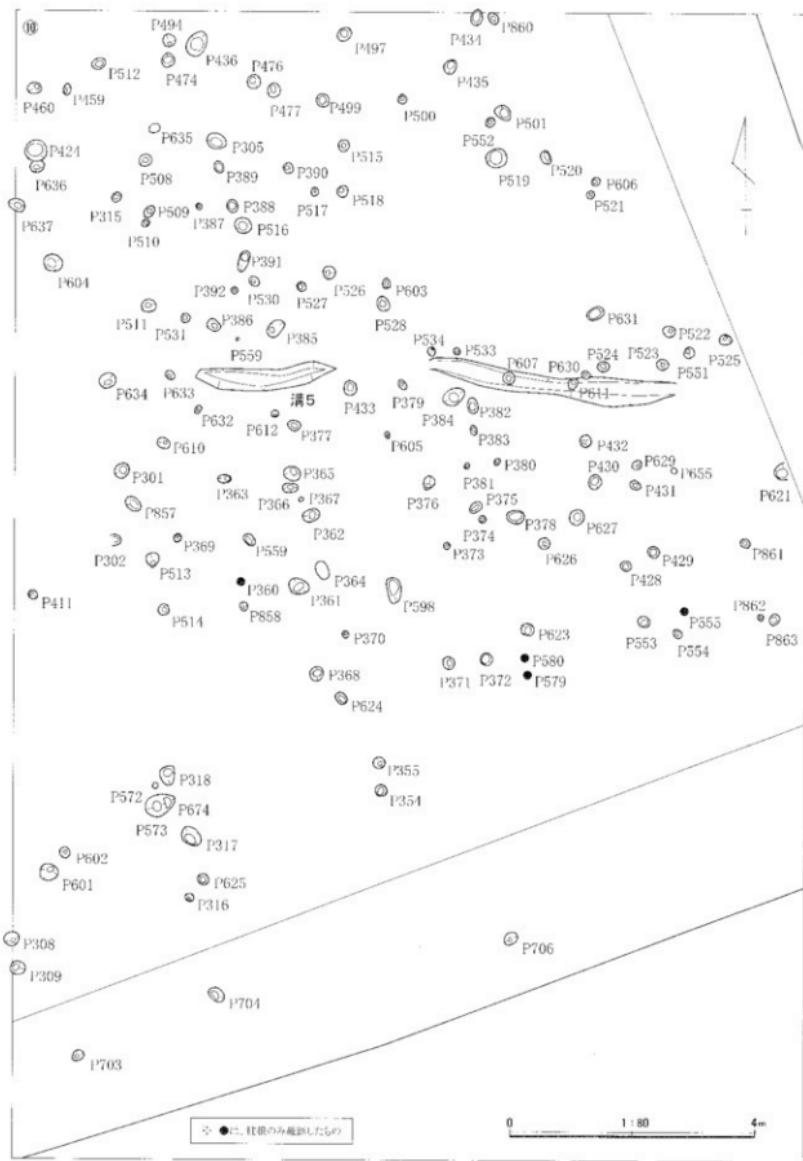
第89図 T区 柱穴配置図⑥・⑦ (S=1/80)



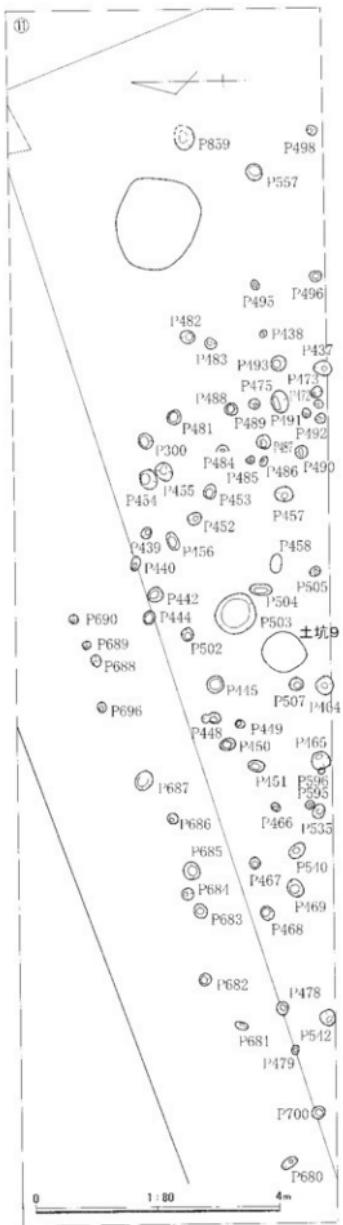
第90図 T区 柱穴配置図B (S=1/80)



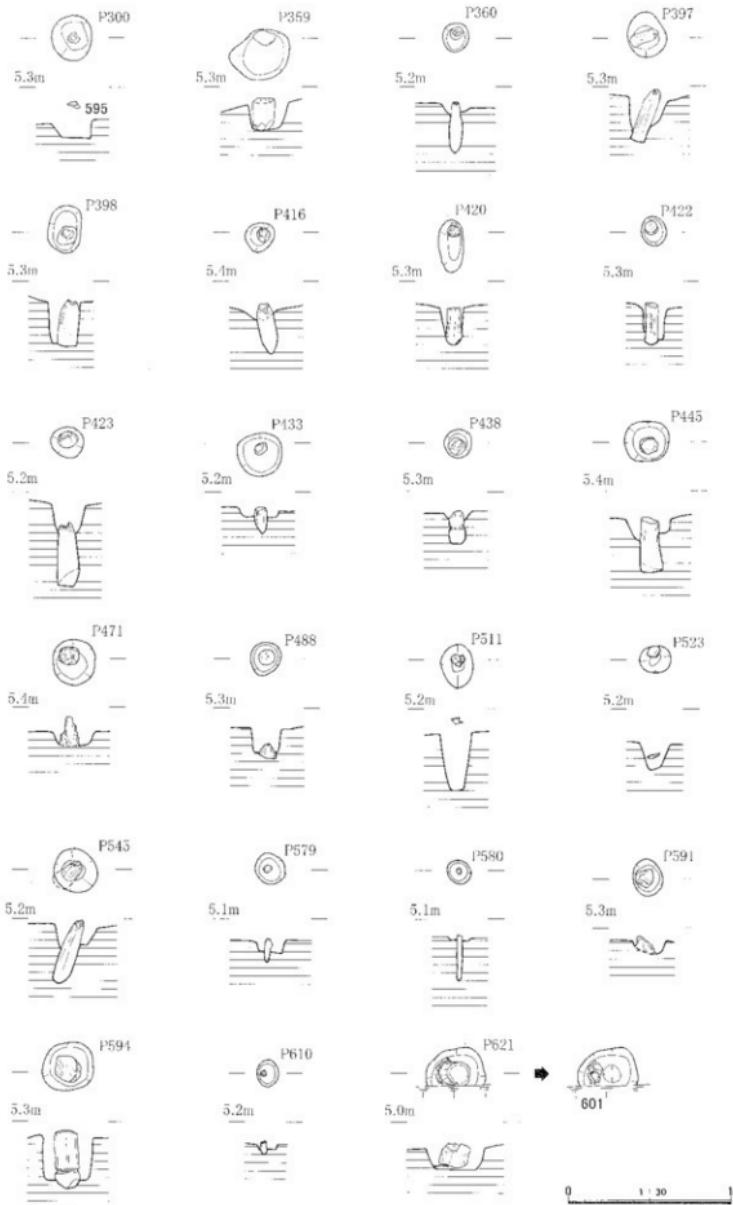
第91図 I区 柱穴配置図⑨ (S=1/80)



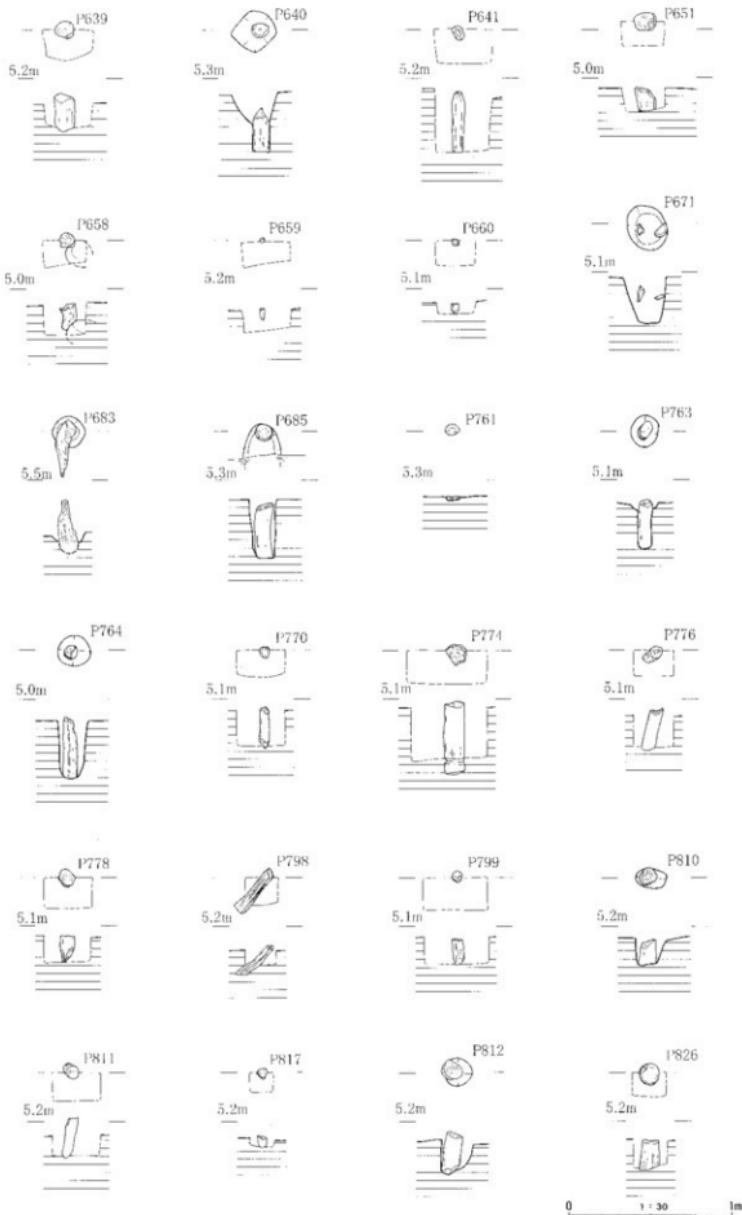
第92図 IA区 柱穴配置図(伸) (S 1/80)



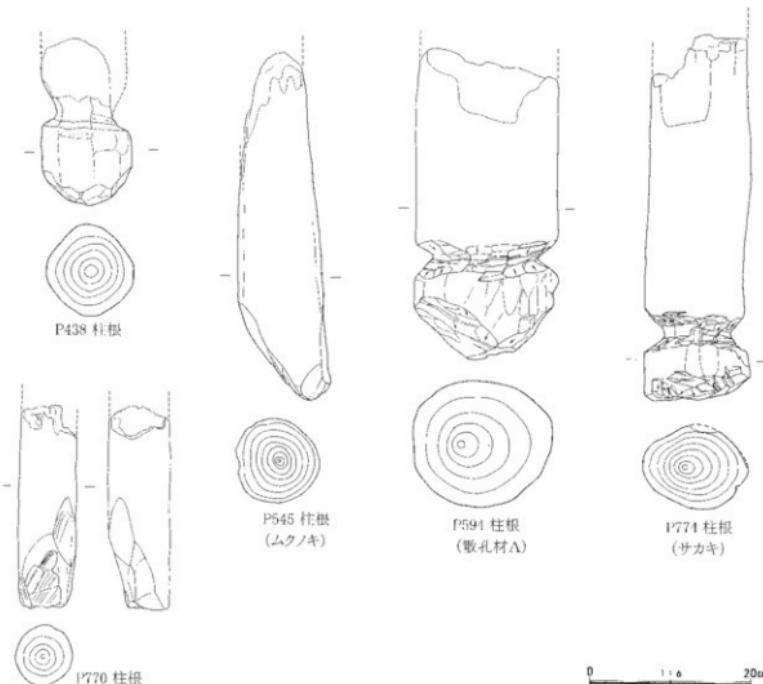
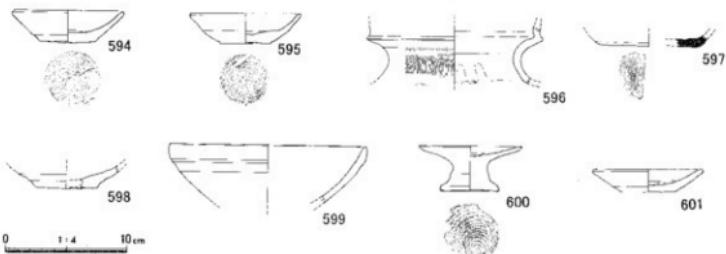
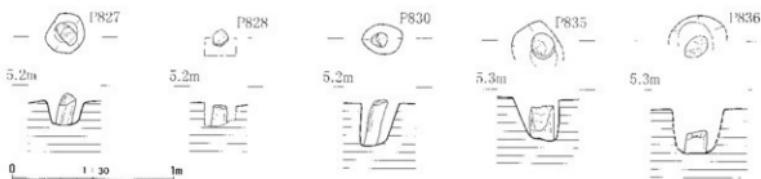
第93図 I区 柱穴配置図(S 1/80)



第94図 1区 その他の柱穴① (S - 1/30)



第95図 I区 その他の柱穴② (S=1/30)



第96図 1区 その他の柱穴③ ($S = 1/30$)、出土遺物 ($S = 1/4$ 、柱根は $1/6$)

第78表 1区ヒット網採集

漁獲名	配置図	寸法(cm)	網立付	上色	鉛	杭	編	参考	通過名	配置	寸法(cm)	網立付	上色	鉛	杭	編	参考
P001	①	25×24	深	33	縫3	鰐火色地黒青十 鰐火色地黒青十			P051	③	28×27	33	鰐2	鰐火色地黒青十 鰐火色地黒青十	○		
P002	②	70×50	47	縫3					P052	③	33×33						
P003	②	32×23	36	縫2					P053	③	33×37	55	鰐2	鰐火色地黒青十 鰐火色地黒青十	○		
P004	②	18×20	29	縫2					P055	③	33×32	29	鰐2	鰐火色地黒青十 鰐火色地黒青十	○		
P005	③	43×39	36	縫1					P056	③	53×42	33					
P006	③	30×27	37	縫1					P057	④	33×35	56×22	26				
P007	③	73×23	31	縫1					P058	④	59×49	8					
P008	③	29×28	11	縫19					P059	⑤	69×76	17					
P009	③	35×30	14	縫18					P060	⑤	69×66	17					
P010	③	23×21	30	縫2					P061	⑤	33×31	21					
P011	③	41×34	36	縫2					P062	⑤	37×23	14					
P012	③	48×42	44	縫2					P063	⑤	23×20	7					
P013	③	47×57	42	縫2					P064	⑤	63×49	35	鰐2	鰐火色地黒青十 鰐火色地黒青十	○		
P014	③	18×15	20	縫2					P065	⑤	27×21	36					
P015	③	41×26	29	縫3					P066	⑤	24×21	26					
P016	③	69×37	47	縫2					P067	⑥	34×50	35	鰐20				
P017	③	77×45	29	縫1					P068	⑥	22×22	25					
P018	③	47×34	31	縫1					P069	⑥	26×21	57					
P020	③	29×28	55	縫3					P070	⑥	23×21	17					
P021	③	33×29	53	縫3					P071	⑥	23×21	5					
P023	③	34×27	53	縫3					P072	⑥	33×32	18					
P024	③	29×20	31	縫1					P073	⑥	33×32	28					
P026	③	24×21	14	縫1					P074	⑤	35×31	26					
P027	③	39×35	38	縫1					P075	⑤	31×30	23					
P028	③	28×24	30	縫1					P076	⑤	33×28	23	鰐2				
P029	③	32×30	32	縫1					P077	⑤	15×13						
P030	③	15×31	170	縫1					P078	⑤	24×21	21					
P031	③	30×18	33	縫1					P079	⑤	31×34	19					
P032	③	37×30	35	縫1					P080	⑤	28×25	16					
P033	③	36×27	23	縫1					P081	⑤	67×27	32					
P034	③	17×13	7	縫1					P082	⑤	46×35	40					
P035	③	30×28	168	縫1					P083	⑤	39×25	23					
P036	③	63×40	48	縫2					P084	⑤	23×16	23					
P037	③	28×22	29	縫2					P085	⑤	20×11	14					
P039	③	22×30	34	縫1					P086	⑤	28×26	22					
P040	③	23×18	—						P087	⑤	25×25	16					
P042	③	21×19	19						P088	⑤	14×12	9					
P045	③	—							P089	⑤	28×25	22					
P044	③	22×15	37						P090	⑤	16×12	6					
P046	③	30×19	52						P091	⑤	63×47	29					
P047	③	30×27	57						P092	⑤	40×32	23					
P048	③	31×30	42	縫20					P093	⑤	26×22	14					
P049	③	31×23	25	縫2					P094	⑤	24×20	15					
P050	③	42×30	49	縫2					P095	⑤	46×30	14					
									P096	⑤	27×25	26					

番号	記述	寸法(cm)		基準色	+色	-色	長	幅	高	備考
		上面	下面							
P007	(3) 20×14 26	26								
P008	(3) 20×25 26									
P009	(5) 27×27									
P100	(5) 40×32 39									
P101	(3) 20×16 16									
P112	(3) 26×25 40									
P113	(3) 27×25 38									
P114	(3) 25×22 38									
P115	(3) X 48									
P116	(3) X X									
P117	(3) X X									
P118	(3) X X									
P119	(3) 17×15 2									
P122	(3) 10×15 35									
P123	(3) 26×25 19									
P124	(3) 23×20 22									
P125	(3) 26×22 25									
P126	(3) 34×30 30									
P127	(3) 32×47 47									
P128	(3) 45×30 30									
P129	(3) 30×30 12									
P130	(3) 41×34 17									
P131	(3) 29×22 13									
P132	(3) 24×20 20									
P133	(3) 28×23 12									
P134	(3) 45×35 14									
P135	(3) 17×17 19									
P136	(3) 16×16 16									
P137	(3) 22×15 27									
P138	(3) X 9									
P139	(3) 50×27 12									
P140	(3) 31×24 28									
P141	(3) X X									
P142	(3) 21×18 16									
P143	(3) 23×29 22									
P144	(3) 35×25 11									
P145	(3) 25×24 115									
P146	(3) 18×13 107									
P147	(3) 16×15 113									
P148	(3) 13×11 107									
P149	(3) 19×13 117									
P150	(3) 18×17 118									
P151	(3) 25×22 120									
P152	(3) 25×20 116									
P153	(3) 11×10 24									
P154	(3) 34×16 15									
P155	(3) 21×20 111									
P156	(3) 33×25 134									
P157	(3) 38×47 23									

番號名	形質圖	丁度法(cent)		測定法(cent)		十色		柱頭		枕		茎葉	
		上部	下部	上部	下部	上部	下部	上部	下部	上部	下部	上部	下部
P206	3	17	17	38×28	17	—	—	—	—	—	—	—	—
P206	3	27×23	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P207	3	21×20	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P208	3	30×25	17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P210	3	20×17	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P211	3	15×12	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P212	3	11×10	24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P213	3	17×15	26	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P210	3	33×25	23	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P209	3	36×22	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P233	3	36×22	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P234	3	36×25	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P235	3	22×18	20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P236	3	25×20	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P237	3	21×14	14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P238	3	19×17	14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P239	3	12×10	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P240	3	23×20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P241	3	22×11	22	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P242	3	25×25	16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P243	3	30×20	26	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P244	3	28×20	16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P245	3	30×22	19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P246	3	36×35	25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P247	3	17×17	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P248	3	20×18	19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P249	3	18×17	22	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P250	3	10×8	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P251	3	22×18	23	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P252	3	20×16	26	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P253	3	14×16	27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P254	3	25×22	31	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P255	3	21×17	27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P256	3	25×22	19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P258	3	16×11	31	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P261	3	20×19	27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P262	2	22×18	45	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P263	2	20×18	29	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P264	2	16×16	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P265	2	18×16	16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P266	2	25×20	16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P267	2	20×17	16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P268	2	32×31	14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P269	2	19×17	24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P270	2	25×24	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P271	2	23×18	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P272	2	35×25	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P273	2	24×23	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

番號名	形質圖	丁度法(cent)		測定法(cent)		十色		柱頭		枕		茎葉	
		上部	下部	上部	下部	上部	下部	上部	下部	上部	下部	上部	下部
P274	3	38×35	11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P275	3	22×30	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P276	3	20×18	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P277	3	20×20	32	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P278	3	14×14	24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P279	3	20×17	19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P280	3	19×18	20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P281	3	26×20	17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P282	3	25×23	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P283	3	21×20	18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P284	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P285	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P286	3	36×37	38	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P287	3	36×27	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P288	3	36×31	27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P289	3	26×23	95	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P290	3	24×21	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P291	3	21×20	24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P292	3	40×37	38	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P293	3	15×14	21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P294	3	20×11	17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P295	3	20×16	17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P296	3	17×16	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P297	3	18×14	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P298	3	13×12	21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P299	3	15×13	21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P300	3	7×5	21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P301	3	9×8	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P302	3	2×9	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P303	3	12×13	36	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P304	3	13×12	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P305	3	13×12	36	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P306	3	13×12	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P307	3	11×10	24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P308	3	12×11	24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P309	3	12×11	16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P310	3	13×12	25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P311	3	14×13	25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P312	3	32×34	16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P313	3	7×5	21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P314	3	6×5	21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P315	3	20×19	28	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P316	3	13×12	24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P317	3	11×10	24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P318	3	11×10	30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
P319	3	10×7	21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

測定名	寸法(cm)	基準	基準		上位	中位	下位	被検	参考	通路名	幅(既) (cm)	上(既) (cm)	下(既) (cm)	側壁	上位	中位	下位	被検	参考
			左	右															
F255	3	24×22	17																
F254	3	16×10																	
P255	3	16×13																	
F256	3	23×20	10																
P247	3	20×15	27																
F268	3	32×30	1																
P269	3	18×17	6																
P260	3	17×16	30																
V251	3	10×7	6																
P252	3	14×14	12																
F253	3	20×13	18																
F254	3	22×21	16																
F265	3	20×20	29																
F266	3	18×18	12																
P257	3	24×20	12																
F258	3	23×20	16																
F259	3	15×13																	
F260	3	10×7	7																
F261	3	5×6	47																
F262	3	30×22	41																
F264	3	33×19	16																
F265	3	26×25	16																
F266	3	35×16	22																
P267	3	10×10	18																
P268	3	22×20	15																
P269	3	12×8	12																
F270	3	13×10	17																
P271	3	22×20	37																
P272	3	22×18	23																
V273	3	11×10	24																
F274	3	12×9	19																
P275	3	22×16	24																
F276	3	22×19	52																
F277	3	19×17	38																
P278	3	28×17	20																
P279	3	17×25	19																
P280	3	9×6	23																
P281	3	8×5	22																
P282	3	31×14	27																
P283	3	17×12	22																
P284	3	39×25	21																
P285	3	27×20	18																
P286	3	10×9	20																
P287	3	22×16	16																
P288	3	20×17	12																
P289	3	18×15	32																
P290	3	33×20	102																

通稱名	配註圖	工法 (cm)	運送	上 烙	吐氣	氣	留水	留水	過濾器		過濾器 直徑 (cm)	過濾器 直徑 (cm)	上 滴	柱桿	桿
									過濾器 直徑 (cm)	過濾器 直徑 (cm)					
P440	⑤	11×15	—	16	—	—	留火色粘質土	—	P442	④	16×14	19	留火色粘質土	—	—
P442	④	27×15	—	16	—	—	留火色粘質土	—	P445	③	25×23	11	留15	留火色粘質土	—
P444	③	34×31	11	—	—	—	留火色粘質土	—	P446	②	25×20	36	留14	留火色粘質土	—
P445	③	38×27	30	—	—	—	留火色粘質土	—	P447	③	10×10	69	留14	留火色粘質土	—
P448	③	30×22	22	—	—	—	留火色粘質土	—	P449	③	21×19	16	留14	留火色粘質土	—
P449	③	9×9	22	—	—	—	留火色粘質土	—	P450	③	19×18	16	留14	留火色粘質土	—
P450	③	25×22	17	—	—	—	留火色粘質土	—	P451	③	25×21	35	留14	留火色粘質土	—
P451	③	22×21	27	—	—	—	留火色粘質土	—	P452	③	17×17	15	留14	留火色粘質土	—
P452	③	22×18	19	—	—	—	留火色粘質土	—	P453	③	30×28	23	留14	留火色粘質土	—
P453	③	25×25	17	—	—	—	留火色粘質土	—	P454	③	22×25	18	留14	留火色粘質土	—
P454	③	31×11	11	—	—	—	留火色粘質土	—	P455	③	66×63	66	留14	留火色粘質土	—
P455	③	33×25	10	—	—	—	留火色粘質土	—	P456	③	36×18	22	留14	留火色粘質土	—
P456	③	30×20	17	—	—	—	留火色粘質土	—	P457	③	14×15	30	留14	留火色粘質土	—
P457	③	32×23	20	—	鐵15	—	留火色粘質土	—	P458	③	14×22	23	留14	留火色粘質土	—
P458	③	31×18	18	—	—	—	留火色粘質土	—	P459	③	22×22	7	留14	留火色粘質土	—
P459	③	30×14	31	—	—	—	留火色粘質土	—	P460	③	22×20	15	留14	留火色粘質土	—
P460	③	25×20	20	—	—	—	留火色粘質土	—	P461	③	14×13	17	留14	留火色粘質土	—
P461	③	16×13	14	—	—	—	留火色粘質土	—	P462	③	24×22	36	留14	留火色粘質土	—
P462	③	28×25	22	鐵13	—	—	留火色粘質土	—	P463	③	24×21	14	留14	留火色粘質土	—
P463	③	15×12	23	—	—	—	留火色粘質土	—	P464	③	36×24	30	留14	留火色粘質土	—
P464	③	32×25	16	—	—	—	留火色粘質土	—	P465	③	18×18	21	留14	留火色粘質土	—
P465	③	30×26	26	—	—	—	留火色粘質土	—	P466	③	21×20	11	留14	留火色粘質土	—
P466	③	15×13	21	—	—	—	留火色粘質土	—	P467	③	28×26	23	留14	留火色粘質土	—
P467	③	18×17	21	—	—	—	留火色粘質土	—	P468	③	22×18	12	留14	留火色粘質土	—
P468	③	22×20	22	—	—	—	留火色粘質土	—	P469	③	19×18	21	留14	留火色粘質土	—
P469	③	20×20	18	—	—	—	留火色粘質土	—	P470	③	33×33	18	留14	留火色粘質土	—
P470	③	23×22	—	—	—	—	留火色粘質土	—	P471	③	23×22	17	留14	留火色粘質土	—
P472	③	21×21	16	—	—	—	留火色粘質土	—	P473	③	15×15	14	留14	留火色粘質土	—
P473	③	15×13	16	—	—	—	留火色粘質土	—	P474	③	21×21	19	留14	留火色粘質土	—
P474	③	19×17	18	—	—	—	留火色粘質土	—	P475	③	21×18	17	留14	留火色粘質土	—
P475	③	22×20	27	—	—	—	留火色粘質土	—	P476	③	23×20	11	留14	留火色粘質土	—
P476	③	35×32	19	—	—	—	留火色粘質土	—	P477	③	22×22	15	留14	留火色粘質土	—
P477	③	25×20	31	—	—	—	留火色粘質土	—	P478	③	33×33	18	留14	留火色粘質土	—
P478	③	22×22	28	鐵22	—	—	留火色粘質土	—	P479	③	16×13	24	留14	留火色粘質土	—
P479	③	15×15	16	—	—	—	留火色粘質土	—	P480	③	22×18	25	留14	留火色粘質土	—
P480	③	21×16	41	—	—	—	留火色粘質土	—	P481	③	18×16	—	—	留火色粘質土	—
P481	③	26×21	19	—	—	—	留火色粘質土	—	P482	③	11×13	9	留14	留火色粘質土	—
P482	③	23×21	25	—	—	—	留火色粘質土	—	P483	③	15×11	86	留14	留火色粘質土	—
P483	③	19×18	25	鐵15	—	—	留火色粘質土	—	P484	③	15×14	10	留14	留火色粘質土	—
P484	③	18×12	8	—	—	—	留火色粘質土	—	P485	③	25×25	28	留14	留火色粘質土	—
P485	③	19×12	15	—	—	—	留火色粘質土	—	P486	③	15×14	10	留14	留火色粘質土	—
P486	③	19×12	20	—	—	—	留火色粘質土	—	P487	③	30×17	17	留14	留火色粘質土	—
P487	③	27×23	47	—	—	—	留火色粘質土	—	P488	③	30×18	12	留14	留火色粘質土	—
P488	③	22×19	17	—	—	—	留火色粘質土	—	P489	③	32×22	13	留14	留火色粘質土	—
P489	③	19×17	14	—	—	—	留火色粘質土	—	P490	③	30×25	25	留14	留火色粘質土	—
P490	③	24×24	27	—	—	—	留火色粘質土	—	P491	③	30×18	18	留14	留火色粘質土	—
P491	③	16×14	18	—	—	—	留火色粘質土	—	P492	③	20×18	18	留14	留火色粘質土	—